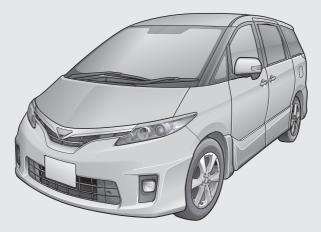
取 扱 書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

このたびは ESTIMA HYBRID をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は**エスティマハイブリッド**の取り扱いについてドライバーの動作にそって説明しています。
安全で快適にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。

・運転は交通ルール・マナーを守り、自然環境保護にも気をくばりましょう。

・メーカーオプションのナビゲーションシステムを装着された方は、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」も併せてお読みください。

・サイドリフトアップシートを装着された方は、別冊の「エスティマハイブリッド サイドリフトアップシート取扱書」も併せてお読みください。

・トヨタ販売店で取りつけられた装備（販売店装着オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

・装備については、販売店でカタログをご請求ください。

・ご不明な点は、担当営業スタッフにおたずねください。

●保証および点検整備については、「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

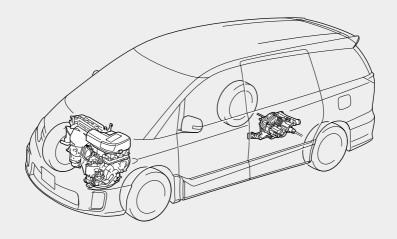
●トヨタ販売店の所在地および連絡先は、サービス網／お客様相談テレホン網として「メンテナンスノート」に記載しています。

●取扱書はいつでも見られるように、メンテナンスノートとともにお車に大切に保管してください。

●お車をゆずられるときは、次のユーザーのために、この取扱書およびメンテナンスノートをお車につけておいてください。

車の仕様などの変更により、本書の内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

ハイブリッドシステムについて

エスティマハイブリッドは、モーターとガソリンエンジンを組み合わせたトヨタ ハイブリッド システムⅡ（ＴＨＳⅡ）を採用しています。さらにモーターで後輪を駆動する電気式4WDシステム（Ｅ－Ｆｏｕｒ）を組み合わせることにより通常のガソリンエンジン4WD車と同等の発進・加速性能を実現しつつ、画期的な燃費向上と排出ガスのクリーン化を可能にしています。

エスティマハイブリッドを安全・快適にお使いいただくために本書をしっかりとお読みください。
ハイブリッド車特有の説明（通常のガソリン車とお取り扱い方法が異なる内容）がある箇所には HYBRID マークがつけてあります。また、P.644「ハイブリッドさくいん」も参考にしてください。

ハイブリッドシステムの無料チェックを1年に1回（5年間）実施いたします。
エスティマハイブリッド購入販売店をご利用ください。

本書の構成

本書は次の8章から構成されています。
とくに第1章の「安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと」は重要です。しっかりとお読みください。

第1章：安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと

「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」および「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されています。重要ですので、必ずお読みください。

第2章：基本操作早わかり

はじめてこの車にお乗りいただくかたのために、基本操作を簡単に説明しています。

第3章：運転装置の取り扱い

スマートエントリー ＆ スタートシステム、ドアの開閉、シート、シートベルト、ハイブリッドシステムの始動方法、シフトレバー、メーター、スイッチなどの取り扱いを説明しています。

第4章：室内装備の取り扱い

エアコン、ＥＴＣ、室内装備品（時計、小物入れなど）の取り扱いを説明しています。

第5章：安全・快適装備の解説と注意

ＳＲＳエアバッグ、ＡＢＳなど安全・快適装備についての機能説明と取り扱い上の注意を説明しています。

第6章：車との上手な付き合い方

季節による取り扱い、環境にやさしい経済的な運転方法などについて説明しています。

第7章：メンテナンス

車の手入れのしかたと日常点検について説明しています。

第8章：万一のとき

故障やパンクしたときなど、万一のときに必要な処置方法について説明しています。

表示について

安全に関する表示

「運転者やほかの人が傷害を受ける可能性のあること」や「車両の故障や破損につながるおそれがあること」と、その回避方法を下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、必ず読んで遵守してください。

 警告

記載事項をお守りいただかないと、重大な傷害や事故・車両火災におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあること。

 注意

記載事項をお守りいただかないと、傷害、車両の故障や破損につながるおそれがあること。

イラストのマークについて

してはならない行為を示すイラストには、下記のマークが記載されています。

してはならない行為。

その他の表示

「知っておくと便利なこと」・「知っておいていただきたいこと」を下記の表示で記載しています。

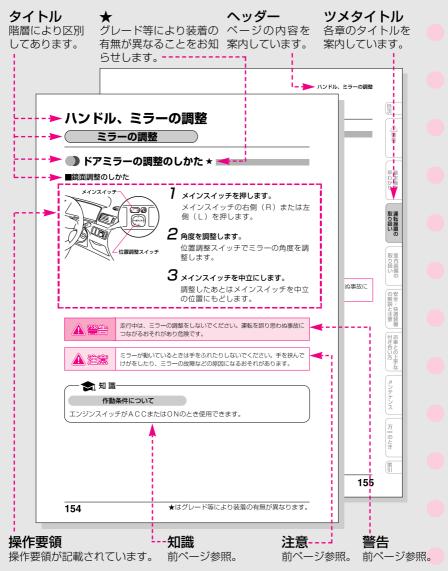
 知 識

知っておくと便利なこと。
知っておいていただきたいこと。

ハイブリッド特有の説明がある箇所には下記のマークが記載されています。

HYBRID ハイブリッド特有の説明があります。

操作説明（3～8章）の見方

操作説明（3～8章）の基本的な読み方について説明しています。

■本書では新計量法の施行に伴い、国際単位系（略称ＳＩ単位）を基本に記載し、従来単位を｛　｝内に記載してあります。

※ このページはサンプルですので、記載内容は実際の車とは異なります。

検索方法について

本書では、お客様が知りたいことを素早くお読みいただけるよう、次のような工夫がしてあります。

目　次

イラスト目次

インストルメントパネル

※装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

※ 装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

イラスト目次

室　　内

※ 装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

イラスト目次

車 両 外 観

※ 装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

1 安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと

「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」および「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されています。重要ですので必ずお読みください。

1. 点検整備実施のお願い

HYBRID

点検整備を必ず実施してください。
実施していただかないと、重大な車両故障につながるおそれがあり危険です。

①点検整備を必ず実施してください。

●日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。
日常点検（P.564参照）や定期点検など、点検整備の詳細については、「メンテナンスノート」をお読みください。
- 定期点検は、安全の確保・公害防止の観点から、定期的に実施する点検です。定期点検整備は、専用の整備機器、指定の油脂類、交換された部品・油脂類の適切な処理などが必要なため、トヨタ販売店にご相談ください。

●点検整備は自動車の健康診断です。
定期的な点検を行い、その結果必要となった整備や部品交換を実施することが、末永く車と付き合っていくうえで最も大切なことです。

●点検整備を実施しないと、例えばエンジンオイルの不足・劣化によりエンジン内部が焼きつきなどを起こすおそれがあります。また、ブレーキパッドやブレーキディスクなど、その役割を果たすと共に摩耗していく部品については、使用限度（摩耗限度）を越えての使用は故障を引き起こすばかりか、事故に結びつくおそれもあります。

●日常点検で異常があったり、車の調子が悪い場合には、トヨタ販売店にご相談ください。

HYBRID

②車検、点検する場合は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、感電など生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●車検、点検する場合は、整備モードに切り替える必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

お出かけ前に、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①窓ごしなど車外からのハイブリッドシステムの始動は絶対に行わないでください。

●思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。

②走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。

●ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。なお、いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていないときは、半ドア警告灯（P.326参照）が点灯します。

③フロントガラス前部の外気取り入れ口に雪、落ち葉などがついているときは取り除いてください。

●外気が導入できず、車内の換気が十分できなくなり、雨天時など車内の湿度が上がり、ガラスが曇ったりして視界が悪くなるおそれがあります。

④停車中にハンドル位置を調整したときは、確実に固定されていることを確認してください。

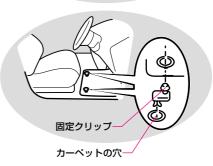
●ハンドルの固定が不十分だと、走行中にハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑤運転席足元、運転席下にものを置かないでください。

●空缶などがあると、ブレーキペダルやアクセルペダルに挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルがもどらなくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、シートの動きがさまたげられたり、シートが固定できず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥車に合わないフロアマットは使用しないでください。

●フロアマットは正しく敷いてください。フロアマットを裏返して敷いたり、他のフロアマットと重ねて敷くと、ブレーキペダルの操作のさまたげになったり、アクセルペダルのもどりが悪くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車に合ったものを正しく敷いてください。また、ずれないように固定クリップなどで必ず固定してください。カーペットの穴は、トヨタ純正フロアマットのずれを防止するために使用する固定クリップ取りつけ用です。

⑦助手席や後席に荷物を積み重ねたりしないでください。

●急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員に当たったり、荷物を損傷したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●荷物はラゲージルームに安定した状態（例えば、ラゲージルーム前方に均等に）で置いてください。必要に応じ、ラゲージルームのデッキフックを使用して、荷物をネットやロープなどで固定してください。（P.456参照）

⑧燃料が入った容器やスプレー缶などは積まないでください。

●万一のとき引火し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑨ボンネットを開けて作業などをしたときは、走行前にボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

●ロックせずに走行すると、ボンネットが開いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑩次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●いつもと違う音や臭いや振動がするとき。
●ハンドル操作に異常を感じたとき。
●ブレーキ液が不足しているとき。
●地面に油のもれたあとが残っているとき。
●メーター・表示灯・警告灯・ランプ類に異常があるとき。

⑪お酒を飲んでの運転は絶対にしないでください。

●飲酒運転は法律で禁止されています。
●飲酒運転は非常に危険で、ごく少量のアルコールでも判断力・視力・注意力に影響をおよぼし、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

⑫エンジンルーム内および車体床下に、ネコやネズミなどの小動物がいないことを確認してください。

●ハイブリッドシステム始動時、ファンやベルトに小動物が巻き込まれたりして、機能不具合の原因となるおそれがあります。

3. 燃料補給時の注意

燃料を補給するときは、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

①指定以外の燃料を使用しないでください。

●指定燃料は無鉛レギュラーガソリンです。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。
●指定以外の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使うとエンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。

②燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。

●ハイブリッドシステムは必ず停止してください。
●車のドア、ドアガラスは閉めてください。
●タバコなど火気を近づけないでください。

●フューエルリッド・フューエルキャップを開けるときなど給油操作を行う前に、車体などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。

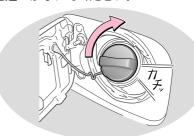
●フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミを持ち、ゆっくりと開けてください。
気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
フューエルキャップを少しゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、それ以上開けないでください。
その音が止まってからゆっくり開けてください。

ツマミ部分

●給油中、再び車内のシートにもどったり、帯電している人やものに触れないでください（再帯電のおそれがあります）。

●給油口には静電気除去を行った方以外の人を近づけないでください。

●給油するときは、給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。

●給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と一度音がするまで右にまわしてください。手を離すと若干もどります。

●車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。

●その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

③給油時に、気化した燃料を吸わないようにしてください。

●燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもありますので、注意してください。

4. 走行するときの注意

走行するときは、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①走行中は“パワー”スイッチにさわらないでください。

●走行中、誤って“パワー”スイッチを押し続け、ハイブリッドシステムが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

②走行中はハンドル位置やミラー・運転席シートの調整はしないでください。

●調整中に運転を誤ったり、シートが突然動くなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

③ドアミラーを倒したまま走行しないでください。

●ドアミラーによる後方確認ができず思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④ブレーキペダルに足をのせたり、パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。

●ブレーキパッドが早く摩耗したり、ブレーキが過熱しブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑤下り坂ではシフトポジションをⒷにしてください。

●ブレーキペダルを踏み続けると、過熱によりブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。

⑥車を少し移動させるときも、必ず READY （走行可能表示灯）が点灯した状態にしてください。

● READY が点灯した状態でないと、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
● READY が点灯していない状態で、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑦エンジンが停止している状態での走行には十分注意してください。

●エンジンが停止している状態から発進するとき、またはモーターだけで低速走行しているときは歩行者、自転車、付近の人や車に十分注意してください。
●エンジンが停止している状態での走行は、エンジン音がしないため歩行者、自転車、付近の人や車が車両の発進や接近に気づかない場合があります。

⑧ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●パワーステアリングモーターが過熱により損傷するおそれがあります。
●停車中や微低速走行時にハンドル操作を繰り返したり、ハンドルをいっぱいまでまわした状態を長く続けたときには、モーターやコンピューターが熱くなり過ぎることを防ぐため、ハンドル操作が重くなることがあります。
この場合、しばらくの間ハンドルを操作しないでおくと、ハンドル操作が正常に復帰します。

⑨ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者は運転中に使用しないでください。

●ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が運転中に使用することは、法律で禁止されています。
●電話をかけるときや、電話がかかってきたときに、注意が電話機に向いてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が使用するときは、安全な場所に停車してから使用してください。

⑩大きな段差がある場所では慎重に走行してください。

●次のような場所を走行するときは、バンパーを損傷するおそれがありますので、スピードをおとして慎重に走行してください。
- 駐車場の出入り口などの段差のある場所を通過するとき。
- 立体駐車場のスロープなど勾配が急な場所を走行するとき。
- 輪止めなどのある場所や、路肩に沿って駐停車するとき。
- 凹凸やわだちのある道を走行するとき。
- くぼみ（穴）などを通過するとき。
- 平坦な道から上り坂・下り坂に進入するとき、または上り坂・下り坂から平坦な道に進入するとき。

⑪ぬれた路面や積雪路・凍結路などのすべりやすい路面では、とくに慎重に走行してください。

●すべりやすい路面での急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車を制御できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●急激なエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●寒いとき、橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。
●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

⑫冠水した道路は走行しないでください。

●冠水した道路を走行すると、ハイブリッドシステムが停止するだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは、必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。
- ブレーキの効き具合。
- エンジン・ハイブリッド用トランスミッションなどのオイル量および質の変化。（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です。）
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良。

⑬湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。

●外気とウインドゥガラスの温度差でウインドゥガラス外側表面が曇り、視界をさまたげ思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑭スタック※したときは

※ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなった状態。

●スタックからの脱出をこころみるときは、必ず周囲の安全を十分に確認してください。脱出の勢いで、ものを損傷させたり、人身事故を引き起こすおそれがあり危険です。
●タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、駆動部品の異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●スタックからの脱出のために、やむを得ず前進・後退を繰り返すときは、ハイブリッド用トランスミッションなどに損傷を与えるおそれがあるため、次のことに注意してください。
- シフトレバーを🅓または🅡に確実に入れてから、アクセルペダルを軽く踏んでください。また、シフトレバー操作中は、絶対にアクセルペダルを踏まないでください。
- 過度の空ぶかしやタイヤの空転をさせないでください。
- 過度にタイヤが空転した場合には、エンジン回転が低くなってから徐々にブレーキ操作をしてください。
- 数回行っても脱出できないときは、本操作を中止してください。

●スタック脱出には、次の方法が有効です。
- タイヤ前後の土や雪を取り除く。
- タイヤの下に木や石などをあてがう。

●けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。無理にけん引せず、トヨタ販売店やＪＡＦなどに依頼してください。

⑮洗車後や水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。

●ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

⑯走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が飛ばされ、頭などを強く打ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑰窓や大型ムーンルーフのフロントガラスから手や顔を出さないでください。

●走行中、手や顔を出していると、車外のものなどに当たったり、急ブレーキ時に頭を窓枠にぶつけたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑱ドアガラス・大型ムーンルーフのサンシェードを閉めるときは、ほかの人の手や頭などを挟まないように注意してください。

●ドアガラスや大型ムーンルーフのサンシェードに挟まれると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑲グローブボックスや小物入れのフタを開けたまま走行しないでください。

●急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑳ウインドゥガラスにアクセサリーを取りつけたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上にものを置いたまま走行しないでください。

●運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行中に安全運転のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

㉑走行中はドアレバーを引かないでください。

●走行中はドアレバーを引かないでください。
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

㉒三角表示板収納スペースに三角表示板を収納したときは、三角表示板が確実に固定されていることを確認してください。

●確実に固定されていないと、急ブレーキをかけたときなどに三角表示板が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

5. 走行中、異常に気づいたら

HYBRID

**走行中、異常に気づいたら、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

①警告灯が点灯・点滅したら、安全な場所に停車し、ただちに処置してください。

●点灯・点滅したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、ハイブリッドシステムなどを損傷するおそれがあります。警告灯の内容を確認し、適切な処置をしてください。（P.312参照）

②ブレーキ警告灯（赤）が点灯したまま走行し続けないでください。

ブレーキ警告灯（赤）

●警告灯が次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車してトヨタ販売店へご連絡ください。

- READY（走行可能表示灯）点灯中にパーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき。
  この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。
- ブレーキ警告灯がＡＢＳ＆ブレーキアシスト警告灯、またはＡＢＳ警告灯と同時に点灯したままのとき。
  この場合、ＡＢＳ、またはブレーキアシストに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

③ハイブリッドシステムが停止したときは、落ち着いて操作してください。

●ハイブリッドシステムが停止したときは、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。この場合は、制動力などがなくなったわけではありませんので、通常より力を入れて操作し、周囲の安全を確かめ、路肩に寄せて停車してください。

④走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）しても、あわてず対応してください。

●ハンドルをしっかり持ち、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキや急ハンドルは車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●次のようなときはパンクやバーストが考えられます。

- ハンドルがとられるとき。
- 異常な振動があるとき。
- 車両が異常に傾いたとき。

●パンクしたまま走行しないでください。パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ・ディスクホイールやサスペンション・車体に損傷を与えるおそれがあります。ただちに応急修理（P.598参照）をしてください。また、販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車は、スペアタイヤに交換（P.612参照）してください。

HYBRID

⑤車体床下やタイヤ・ディスクホイールに強い衝撃を受けたら、ただちに安全な場所に車を止めて、下まわりを点検してください。

●ブレーキ液や燃料がもれ、漏電、サスペンション部品、タイヤ・ディスクホイール、駆動系部品などの変形や損傷の可能性があるため、そのままの状態で使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●もれや損傷が見つかった場合は、そのまま使用せずトヨタ販売店にご相談ください。

⑥走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（“キーキー”音）が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●警告音は、ブレーキパッドウェアインジケーターによるもので、走行中に警告音（“キーキー”という金属音）を発生させ、ブレーキパッドが使用限度に近づいたことを運転者に知らせます。
警告音が発生したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
●警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

HYBRID

⑦急加速を繰り返したり、長い時間加速を続けたりすると、一時的に加速が悪くなったように感じることがあります。

●急加速を繰り返したり、長い時間加速を続けると駆動用電池への充電が間に合わず、充電レベルの低下によって、モーターの駆動力が低下するため加速が悪くなったように感じることがあります。これは異常ではなく、しばらく加速を中止するなどして、駆動用電池が充電されるのを待てば、通常の加速にもどります。

6. 駐停車するときの注意

HYBRID

駐停車するときは、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

HYBRID

①車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをⓅにして必ずハイブリッドシステムを停止させ、ドアを施錠してください。

●車から離れるときは、必ずハイブリッドシステムを停止して、施錠することが法律で義務付けられています。また車両盗難や車内のものを盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。

●車から離れるとき、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、万一シフトレバーがⓅⓃ以外に入っていた場合、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだとき、急発進するおそれがあり危険です。
- パーキングブレーキをかける。
- シフトレバーをⓅにする。
- ハイブリッドシステムを停止する。
- ドアを施錠する。

●ハイブリッド車は走行できる状態（READY［走行可能表示灯］が点灯している状態）になっていてもエンジン音や振動がない場合があります。駐車時は必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをⓅに入れてください。

●“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたはＯＮ モードで放置すると、補機バッテリーがあがり、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。

②可燃物付近に車を止めたりしないでください。

●車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると、火災につながるおそれがあり危険です。
●木材、ベニヤ板などが車両後方にあるときは、車両後端を十分離して止めてください。すき間が少ないと、排気ガスによって変色や変形したり、火災につながるおそれがあり危険です。
●枯れ草や紙くずなど燃えやすいものの上を走行したり、車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると、火災につながるおそれがあり危険です。

③寒冷時、パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。(P.525参照)

●輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④停車中に空ぶかしをしないでください。

●排気管が過熱し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑤炎天下で駐車するときは、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置したままにしないでください。

●車内が大変高温になるため、ライターやスプレー缶のガスが自然にもれたり、破裂したりして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●炭酸飲料の缶が破裂したりして室内を汚したり、電気部品のショートの原因となるおそれがあります。
●車内が大変高温になるため、プラスチックレンズやプラスチック素材のメガネの変形・ひび割れを起こすことがあります。

⑥仮眠するときは、必ず“パワー”スイッチをＯＦＦにしてください。

● READY （走行可能表示灯）が点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車の急発進による事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気管が損傷していたり、風通しの悪い場所では、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

7. 排気ガスに対する注意

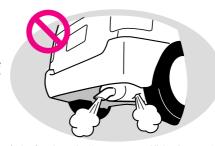
排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むとガス中毒になるおそれがあります。
ガス中毒を防ぐために、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①換気が悪い場所では、READY（走行可能表示灯）が点灯したままの状態にしないでください。

●車庫内など囲まれた場所では、ガソリンエンジンが始動したとき、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

②雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、READY（走行可能表示灯）が点灯したままの状態にしないでください。

● READY が点灯した状態で車のまわりに雪が積もると、ガソリンエンジンが始動したとき、まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や、死亡に至るおそれがあり危険です。

③排気管はときどき点検してください。

●排気管の腐食などによる穴やき裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は、必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●排気管は排気ガスにより高温になります。点検などで排気管に触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください

④バックドアを開けたまま走行しないでください。

●開けたまま走行すると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。走行する前に、必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

⑤車内に排気ガスが侵入してきたと感じたら、次の処置をしてください。

●すべての窓を全開にしてください。
●すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま放置すると、排気ガスにより、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

8. お子さまを乗せるときの注意

お子さまを乗せるときは、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①お子さまはリヤシートに座らせてください。

●助手席ではお子さまの動作が気になり、運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置に触れて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●お子さまをリヤシートに座らせたときは、チャイルドプロテクターを使用してください。お子さまが誤って車内からドアを開けることを防止できます。
チャイルドプロテクターの使用方法は、P.181を参照してください。

②お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。

●ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●リヤシートでも必ずシートベルトを着用してください。（P.258参照）

●シートベルトの肩部ベルトが首やあごに当たったり、腰部ベルトが腰骨にかからないような小さなお子さまには、お子さまの身体に合った子供専用シートを使用してください。子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。

③お子さまをシートベルトで絶対に遊ばせないでください。

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

④ドア・ドアガラス・大型ムーンルーフのサンシェードなどはお子さまに操作させないでください。

- ●お子さまが操作すると、閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●チャイルドプロテクター（P.181）やウインドゥロックスイッチ（P.195）を使用して、お子さまが誤って操作しないようにしてください。また、ドアガラスを開けるときや閉めるときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないように注意して操作してください。

⑤車から離れるときは、お子さまを車内に残さないでください。

- ●炎天下の車内は大変高温となり、お子さまを残しておくと、熱射病や脱水症状となり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●お子さまを残しておくと、マッチ・ライター・発炎筒の火遊びによる車両火災につながるおそれがあり危険です。
- ●“パワー”スイッチをＯＮ モードにしたまま車内にお子さまを残しておくと、パワーウインドゥやリヤサンシェードのスイッチを操作し、誤って手・頭・首などを挟み、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、運転装置を動かして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。絶対にスイッチをＯＮ モードにしたままお子さまを車内に残さないでください。

1. シートについての注意

シートについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①シートは正しい運転姿勢が取れるように位置を調整してください。

●正しい運転姿勢をとらないと、運転操作を誤り思わぬ事故につながるだけでなく、シートベルト・ＳＲＳエアバッグ・ヘッドレストなどの効果が発揮されず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
正しい運転姿勢については、P.211を参照してください。

②シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。（マニュアルシート装着車）

●固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③走行中はシートの操作をしないでください。

●ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

④背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。

●必要以上に背もたれを倒していると、衝突、または追突されたとき、腰部ベルトが腰骨からずれ、身体がシートベルトの下にもぐり込み、強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑤背もたれと背中の間にクッション（座布団）などを入れないでください。

●正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したときシートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑥ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。

●衝突したときなどに首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。フロントシートのヘッドレストの中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
●ヘッドレストは各列のシート専用です。取りつけるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。ヘッドレストを間違って取りつけると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑦フロントシートにはＳＲＳエアバッグが内蔵されていますので、取り扱いに注意してください。（ＳＲＳサイドエアバッグ装着車）

●不適切に扱うと正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（P.212の「シートの調整」の警告文を参照してください。）

⑧フロントシートを一番うしろにスライドさせているときは、セカンドシートに座った状態で、セカンドシートを一番前までスライドさせないでください

●フロントシートの背もたれとセカンドシートのクッション・オットマンの間で足などを挟みけがをするおそれがあり危険です。とくに、床面に足の届かないお子様がスライドレバーを引いたままスライド操作をした場合、自然にシートが動き出すおそれがあります。

⑨サードシートへの乗りおりについては、次のことをお守りください。

●サードシートへ乗りおりしたあとは、必ずセカンドシートを固定させてください。固定させていないと急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートが動き、乗員に当たるなどして生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑩シートアレンジをするときは、次のことをお守りください。

●シートアレンジをする、およびもとにもどすときは、必ず平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを🅟に入れてハイブリッドシステムを停止させてください。不整地や傾斜地では操作中に不意にシートが動き、手足などを挟まれ重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●走行中はシートアレンジ、およびもとにもどす操作をしないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑪倒した背もたれの上やラゲージルーム、またシートアレンジなどにより広げたスペースに人を乗せて走行しないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑫フラットシートにしたときは、次のことをお守りください。

●シートをフラットにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑬ラゲージスペースを作るとき、またはもどしたときは、次のことをお守りください。

●ラゲージスペースに人をのせて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートベルトが背もたれに挟まれていないことを確認してください。シートベルトが背もたれやシートクッションに挟まれていると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑭サードシートを格納するとき、またはもどすときは、次のことをお守りください。

●シートをもとにもどしたときは、シートを軽くゆさぶり、さらにシートクッション全体を軽くゆさぶり、シートが確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●手動格納式シートでシートを格納するときは必ずハンドルを持って操作してください。ハンドル以外の場所を持って格納すると、シートと床との間などに挟まりけがをするおそれがあり危険です。
●助手席側サードシートを格納したときのサードシートの乗車定員は1名です。中央席には絶対にすわらないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートを格納するとき、またはもとにもどすときはシートなどで手や足やほかの乗員の身体を挟まないように注意してください。けがをするおそれがあり危険です。
●シートを格納したあとで、背もたれのみを起こして座らないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑮走行中はオットマンの位置調整をしないでください。

●走行中はオットマンの位置調整をしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●オットマンの上には絶対に乗らないでください。オットマンが破損し、転倒などして生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●乗降時および使用しないときは、シートの下に格納してください。格納していないと、オットマンにつまずいて転倒するなど、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑯快適温熱シートを使用中、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがありますので、十分注意してください。

（快適温熱シート装着車）

●次に相当する方が使用される場合は、使用中、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがありますので、十分注意してください。
・乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
・皮膚の弱い方
・疲労の激しい方
・深酒やねむけをさそう薬（睡眠薬、かぜ薬など）を使用された方
●毛布や座ぶとんなど保温性の良いものをかけた状態で使用しないでください。シートが異常に過熱し、低温やけどやシートの故障につながるおそれがあり危険です。
●仮眠するときは使用しないでください。シートが異常過熱し、低温やけどをするおそれがあります。

2. 子供専用シートについての注意

**子供専用シートについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

①車のシートベルトが正しく着用できない小さなお子さまには、身体に合った子供専用シートに座らせてください。

●乳児は、頭や首を含め完全な安全保護サポート（ベビーシート）が必要です。乳児の首は安定していなくて、また頭はほかの部分に比べて極めて重いからです。乳児は、必ず適切なベビーシートに座らせてください。
●幼児の体形は、シートベルトの設計対象となっている大人とは異なっています。幼児の骨盤は小さく、通常のシートベルトでは骨盤の低い位置にとどまらず、腹部にかかってしまいます。衝突した場合に、シートベルトによって腹部に強い圧迫を受け重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。幼児は必ず適切な子供専用シートに座らせてください。

②子供専用シートを使用するときは、必ず商品に付属の取り扱い説明書をよくお読みのうえ、確実に取りつけ、使用方法を守ってご使用ください。

●使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、子供専用シートが正しく機能せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。
●子供専用シートによっては、取りつけができない、または取りつけが困難な場合があります。

③子供専用シートは確実に固定できるように取りつけてください。

子供専用シートは、取りつけ位置や取りつけ方向に注意をして確実に取りつけてください。取りつけが不適切な場合、急ブレーキや衝突したときなどに、子供専用シートが正しく機能せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■子供専用シートはセカンドシートに取りつけてください。

●運転席側セカンドシートで、運転席の位置により、安全に取りつけられる十分なスペースが確保できない場合は、子供専用シートを無理に取りつけず、助手席側に取りつけてください。

⚠ 警　告　　助手席SRSエアバッグ

このシートに、ベビーシートを取り付けたり
後向きのチャイルドシートを取り付けないでください。
また、絶対にお子さまを前席の前に立たせたり
膝の上に抱いたりしないでください。

エアバッグの衝撃により、死亡または重大な傷害に
至るおそれがあります。

■助手席には、子供専用シートをうしろ向きに絶対に取りつけないでください。

●うしろ向きに取りつけた場合、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。

●やむを得ず、助手席に前向きに子供専用シートを取りつける場合には、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの衝撃を少しでも緩和させるため、助手席シートの前後位置調整をいちばんうしろにして取りつけてください。
お守りいただかないと、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、お子さまに強い衝撃が加わり危険です。

■チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する子供専用シート（チャイルドシート・ベビーシート）を取りつけるときは、チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。

●異物やシートベルトなどをかみ込むと、子供専用シートが固定されず、衝突したときなどに飛ばされて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■子供専用シートを取りつけるときは、必ずテザーベルトがピンと張るまで張力を掛けてください。

●テザーベルトが正しく張っていないと、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。

●ヘッドレストの上に掛けると、子供専用シートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

④子供専用シートを車両に搭載するときは、以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取りつけてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。

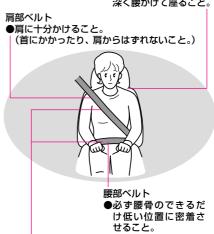
●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

3. シートベルトについての注意

シートベルトについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①車に乗るときは、全員がシートベルトを正しく着用してください。

●シートベルトを着用しなかったり、正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに身体がシートに保持されず、身体をぶつけたり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。また、車外に投げ出されたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトの着用は法律で義務づけられています。運転者は乗員全員が次の使用方法にしたがって、シートベルトを正しく着用しているかを確認してから走行してください。

〈正しい着用のしかた〉

■シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰かけた状態で着用してください。

●正しい姿勢については、P.258を参照してください。

■シートベルトの肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。

●シートベルトの肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるように着用してください。

●ベルトを通す位置が間違っていると、衝突時に、腹部などに強い圧迫を受け危険です。

■フロントシートでは、アジャスタブルシートベルトアンカーを確実に調整してください。（P.262参照）

●シートベルトが首に当たらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。

●調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

■セカンドシートのアームレストを使用するときは、必ず腰部ベルトをアームレストの下に通した状態で着用してください。

●アームレストにかかった状態で着用すると衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■シートベルトの腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。

●シートベルトの腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときに、腹部などに強い圧迫を受け危険です。

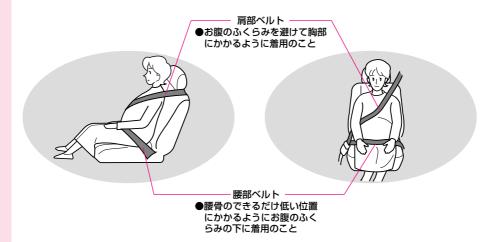
■シートベルトは必ず1人で1本のベルトを着用してください。

●2人以上で1本のシートベルトを着用すると、シートベルトが衝撃を分散できないばかりか、2人がぶつかり合うなどして危険です。

②妊娠中の女性も必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。

●妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。
また、肩部ベルトは確実に肩を通しお腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

●ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

③疾患のあるかたも必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。

④シートベルトは、ねじれやゆるみがなく確実にロックされた状態で着用してください。

正しい運転姿勢でもシートベルトがねじれていたり、ゆるんでいたり、確実にロックをしていない場合には、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじれていると、衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができず危険です。

●ベルトがねじれている場合は、正しく装着できるようほどいてください。ねじれがうまくほどけない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■洗濯ばさみやクリップなどでシートベルトにたるみをつけて使用しないでください。

●肩部ベルトがゆるすぎると、衝突の際、ベルトで身体が拘束されるまでの移動量が大きくなり、頭をハンドルにぶつけたり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

■プレートをバックルに差し込むときは、プレートとバックルが“カチッ”と音がして確実にかみ合っていることを確認してください。

●異物が入ると、プレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトがはずれて危険です。

⑤シートベルトを損傷させたり、損傷したシートベルトは使用しないでください。

損傷したシートベルトをそのまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトやプレートをシートやドアに挟まないようにしてください。挟まると傷がつくおそれがあり、そのまま使用すると危険です。

■ほつれ、すりきれができたり、正常に作動しなくなったシートベルトは、すぐに交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷ついたシートベルトは使用しないでください。衝突したときなどに本来の機能が十分発揮できなくなります。

●このまま使用すると、衝突のときなどにベルトが切れる可能性があります。また、正常に働かず、シートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。

●シートベルトが正常に機能しない場合は、すぐにトヨタ純正の新品と交換してください。

■シートベルトの改造や分解・取りつけ・取りはずしなどをしないでください。

●衝突したときなどにシートベルトが正常に作動しなくなります。シートベルトの取りつけ・取りはずし・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

■シートベルトの改造や分解・取りつけ・取りはずしなどはしないでください。

●シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがありますので、修理は必ずトヨタ販売店で行ってください。

■プリテンショナー付シートベルトは再使用しないでください。

●作動するとSRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。強度が低下します。

●シートベルトの性能が低下し、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。

●清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

ＳＲＳエアバッグについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

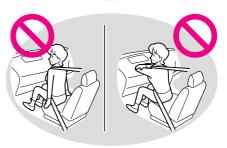
①ＳＲＳエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトに代わるものではありません。

正しい姿勢でシートに座り、シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときなどにＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させることができないだけでなく、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
シートベルトの正しい着用については、P.258を参照してください。

■シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢でシートに座ってください。

●ＳＲＳエアバッグの展開部に覆いかぶさったり、近づきすぎた姿勢で乗車していると、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

《運転者のかたは》
運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近づきすぎないようにして座ってください。

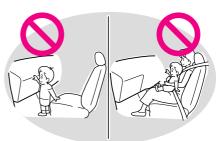
《助手席乗員のかたは》
助手席ＳＲＳエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。シート前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。
シートの調整・正しい姿勢については、P.211を参照してください。

■ひざの上にものをかかえるなど、乗員とＳＲＳエアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときにものが飛ばされ顔に当たったり、ＳＲＳエアバッグの正常な作動がさまたげられ危険です。

■ドアにもたれかかったり、フロントピラー・センターピラー・リヤピラーやルーフサイド部に近づかないようにしてください。（ＳＲＳサイドエアバッグ＆ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車）

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに頭部などに強い衝撃を受け危険です。とくにお子さまを乗せるときには、注意してください。

■お子さまを助手席ＳＲＳエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりした状態では走行しないでください。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

②車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取りつけ・分解・修理などをするときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。
不適切な作業を行うと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ危険です。

●ＳＲＳサイドエアバッグ装着車では、フロントシートの表皮の張り替えやフロントシートの取りはずし・取りつけ・分解・修理が必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造はしないでください。

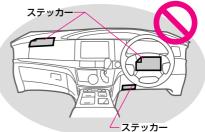
●ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車では、フロント・センター・リヤピラー、およびルーフサイド部や天井の取りはずし・取りつけなどＳＲＳエアバッグ格納部周辺を分解・修理しないでください。

●サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわると、ＳＲＳエアバッグが誤作動し危険です。

●車両前部、または車両客室部の修理をするときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。不適切な修理を行うと、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして危険です。

③カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

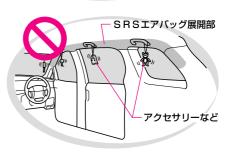
●ＳＲＳエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどで覆わないでください。
ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして危険です。

●インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などのものを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに飛ばされるなどして危険です。

●無線機の電波などは、ＳＲＳエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがあり、ＳＲＳエアバッグが誤作動するなどして危険です。無線機などを取りつけるときは、トヨタ販売店にご相談ください。

●インストルメントパネル下部のＳＲＳニーエアバッグ展開部周辺にアクセサリーなどを取りつけないでください。ＳＲＳニーエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

●フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取りつけないでください。
この車専用のトヨタ純正用品以外のものがＳＲＳサイドエアバッグ展開部をおおうと、ＳＲＳサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。
なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取りつけてください。

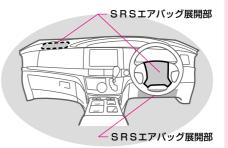
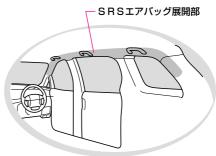
●フロントドアやその周辺にカップホルダーなどのカー用品を取りつけないでください。ＳＲＳサイドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

●フロントウインドゥガラス、サイドドアガラス、フロントピラー・センターピラー・リヤピラー、ルーフサイド部、アシストグリップなどＳＲＳカーテンシールドエアバッグ展開部周辺にアクセサリー、ハンズフリーマイクなどを取りつけないでください。前後席ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

●リヤ席アシストグリップ部のコートフックには、ハンガー・重いもの・とがったものをかけないでください。服をかけるときは、ハンガーを使用せずに直接コートフックにかけてください。ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

●車両前部にグリルガードやウインチなどを装着する場合は、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をすると、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが誤作動するなどして危険です。

④ＳＲＳエアバッグ展開部を強くたたかないでください。

●ステアリングパッド、インストルメントパネル、フロントピラー・センターピラー・リヤピラー、ルーフサイド部、フロントシート側面などのＳＲＳエアバッグ展開部を強くたたくなど、過度の力を加えないでください。ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑤ＳＲＳエアバッグがふくらんだ直後は、ＳＲＳエアバッグ構成部品に触れないでください

●構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

5. ＥＢＤ付ＡＢＳ・ブレーキアシストについての注意

ＥＢＤ付ＡＢＳ・ブレーキアシストについては、次の事項を必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①ＥＢＤ付ＡＢＳやブレーキアシストを過信しないでください。

●ＥＢＤ付ＡＢＳやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
ＥＢＤ付ＡＢＳやブレーキアシストを過信せず速度を抑え、車間距離を十分にとって安全運転に心がけてください。

- ＥＢＤ付ＡＢＳはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロプレーニング現象※が起こった場合は、効果を発揮できません。

※ 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

●ＥＢＤ付ＡＢＳは制動距離を短くするための装置ではありません。
次の場合などは、ＥＢＤ付ＡＢＳのついていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分にとってください。

- 砂利道、新雪路を走行しているとき。
- タイヤチェーンを装着しているとき。
- 道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき。
- 凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき。

●ブレーキアシストは、ブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。

6.TRC・VSC・VDIMについての注意

TRC・VSC・VDIMについては、次の事項を必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①TRCを過信しないでください。

●TRCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転を心がけ、スリップ表示灯（P.311参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

②VSCを過信しないでください。

●VSCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転を心がけ、VSC作動警告ブザー（断続音）が鳴ったり、スリップ表示灯（P.311参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

③VDIMを過信しないでください。

●VDIMが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転を心がけ、VSC作動警告ブザー（断続音）が鳴ったり、スリップ表示灯（P.311参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

7.プリクラッシュセーフティシステムについての注意

プリクラッシュセーフティシステムについては、次の事項を必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①プリクラッシュセーフティシステムを過信しないでください。

●運転するときは常に周囲の状況に注意し、進行方向の障害物などを認識して安全運転に心がけてください。

②衝突を避けられない状況でプリクラッシュセーフティシステムが作動状態のときでも、シートベルトを着用していないとプリクラッシュシートベルトは作動しません。また、ブレーキペダルを踏まないとプリクラッシュブレーキアシストは作動しません。

③プリクラッシュシートベルトの作動によりシートベルトが引き込まれた状態でロックした場合、すみやかに安全な場所に停車してシートベルトをはずし、再度装着してください。

●シートベルトをゆるませることができる場合は、少し巻き取らせることでロックを解除することができます。

1. オートマチック車についての注意

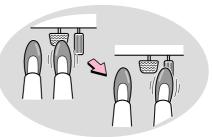
HYBRID

オートマチック車については、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①オートマチック車の特性

■クリープ現象

READY（走行可能表示灯）が点灯しているときは、シフトレバーがⓅ・Ⓝ以外にあると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象をクリープ現象といいます。

②運転するときは、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。

●アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●後退するときは、身体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

●車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

③ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。

●左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④ハイブリッドシステムを始動するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだまま、ハイブリッドシステムを始動してください。

●安全のためシフトレバーは車輪が固定されるⓅに入れ、ブレーキペダルをしっかり踏みハイブリッドシステムを始動してください。
●シフトレバーがⓅの位置以外では始動できません。

⑤発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだままシフトレバーを操作してください。

●レバー操作は絶対にアクセルペダルを踏み込んだまま行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥走行中はシフトレバーをⓃに入れないでください。

●Ⓝにすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●Ⓝにしたまま長時間走行すると、駆動系の故障の原因となるおそれがあります。

⑦走行中はシフトレバーをⓅに入れないでください。

●ハイブリッド用トランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧前進で走行中は、シフトレバーをⓇに入れないでください。

●車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、ハイブリッド用トランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。

⑨停車中はアクセルペダルを踏み込んだり、空ぶかしをしないでください。

●シフトレバーがⓅ・Ⓝ以外にあると、車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑩駐車するときは、シフトレバーをⓅに入れてください。

●シフトレバーがⓅ以外にある場合、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだとき急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑪シフトレバーをⒹ、ⓈまたはⒷに入れたまま惰性で後退することは絶対にしないでください。

●同様にシフトレバーをⓇに入れたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

HYBRID

⑫走行中に自動的に充電されますが、シフトレバーがⓃにあるときは充電がおこなわれません。

●車両停止時は、シフトレバーをⒹにしてブレーキをしっかり踏むか、Ⓟにしてください。

⑬そのほかにも以下の点に注意してください。

●少し後退したあとなどは、シフトレバーがⓇにあることを忘れてしまうことがあります。後退したあとはすぐⓃにもどすよう習慣づけましょう。
●切り返しなどでシフトレバーをⒹからⓇ、ⓇからⒹと何度もレバー操作をするときは、その都度、ブレーキペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。またシフトレバーの位置も忘れずに確認してください。

2. 4WD車についての注意

**4WD車については、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

①無理な運転は禁物です。

●この車の4WDは、オンロード専用です。
オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での走行安定性の確保を目的とした4WDですので、無理な運転はしないでください。
●砂地などタイヤが埋りやすい路面や、すべりやすい路面の急登坂では、一般のオンロード専用4WD車と同等の性能が発揮できない場合があります。
このような路面は避けて走行してください。

②すべりやすい路面での走行は慎重に行ってください。

●4WD車といっても万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転を心がけてください。

③脱輪やスタックなどにより、車輪が空転している場合は、むやみにアクセルペダルを踏まないでください。

●タイヤが空転中に急激なブレーキ操作をしないでください。

④渡河などの水中走行はしないでください。

●渡河などの水中走行をすると、ハイブリッドシステムが停止するだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。

●万一、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。

- ブレーキの効き具合。
- エンジン・ハイブリッド用トランスミッションなどのオイル量および質の変化。（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です。）
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良。

⑤タイヤはすべて、必ず指定サイズで同一種類のタイヤを装着してください。

〈混在使用の例〉

●タイヤはすべて、指定サイズで同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。
●タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるので、タイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
  - 4輪の空気圧の差が著しいとき。
  - 空気圧が指定値からはずれているとき。
●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（P.538参照）
●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.583参照）

3.レーダークルーズコントロール（ブレーキ制御付）についての注意

レーダークルーズコントロールについては、次の事項を必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

①レーダークルーズコントロールを使用しないときは、メインスイッチをＯＦＦにしてください。

●誤ってレーダークルーズコントロールを作動させてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

②車間制御モードを過信しないでください。車間距離制御には限界があります。運転するときは常に周囲の状況に注意し、状況によってはブレーキペダルを踏んで減速したり、アクセルペダルを踏んで加速するなどして、先行車や後続車との車間距離を確保し安全運転に心がけてください。

●車両を停止させるまで自動的にブレーキ操作を行うモードではありません。また、ブレーキ制御を行いますが減速には限界があり、先行車の減速度合いが大きい場合や自車の前へ他車が割り込んだ場合などは十分な減速ができず、先行車に接近することがあります。この場合、接近警報が作動して注意をうながします。（Ｐ.372参照）また、車速が約40km/h以下になると警告音が“ピッピッ”と鳴ると同時に制御は解除されます。（ブレーキ制御も解除されます。）
●わき見運転やぼんやり運転など前方不注意を補助するものではありません。

③次のような状況のときは、レーダークルーズコントロールを使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐のときなど）では、先行車との車間距離が正確に測定できない場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
なお、ワイパーを高速作動させるとレーダークルーズコントロールが自動的に解除され、セット待機状態になります。（低速作動もしくは間欠作動では解除されません。）
●レーダーセンサー前部に雨滴、雪などが付着している場合では、先行車との車間距離が正確に測定できない場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●交通量の多い道や急カーブのある道では、道路の状況に合った速度で走行できないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●凍結路や積雪路などのすべりやすい路面では、タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあり危険です。
●急な下り坂では、エンジンブレーキが十分効かないため、セットした速度をこえてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●頻繁に加速・減速を繰り返すような交通状況では、道路の状況に合った速度で走行できないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●急な上り坂、下り坂が繰り返される道路では、先行車を検知できず、先行車に接近しすぎるおそれがあるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●高速道路などで、自車のセット車速よりも遅い車に追従走行中に、インターチェンジ・サービスエリア・パーキングエリアなどへ進入する（本線から出る）ときは、自車が本線から出ることにより先行車がいなくなり、セット車速まで加速してしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●停車中の車両や自車速より極端に遅い車両に対しては、レーダークルーズコントロールの制御も接近警報も行わないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。料金所や渋滞の最後尾で停車中や極端に車速の遅い車両などには十分注意してください。
●近距離ではレーダーセンサーの検知エリアが狭いため、間近で割り込んでくる先行車の検知が遅れたり、自車線の端を走行する二輪車を検知できないため、車間距離が適切に保てずに、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●このシステムでは、先行車の後端面の反射電波を主に検知して制御を行っていますので、次の場合は、先行車を正確に検知できないため、車間距離が適切に保てずに、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 先行車や他車線の車両が路上の水や雪などをまき上げて走行しているとき。
- 先行車が空荷のトレーラーなど極端に車両後端面積が少ないとき。
- ラゲージルームや後席に荷物などを積んで、車が傾いているとき。

●やむを得ず他車をけん引する場合（P.630参照）は、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。レーダークルーズコントロールの機能を損なう可能性があり、制御性能の低下や、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●レーダーセンサーはセンサーの窓部の汚れを自動で判定し、お知らせする機能を備えていますが万能ではありません。
状況によってはカバー前面が汚れていても判定できない場合があります。また、ビニール袋（金属コーティングされたものなど）が密着した場合や氷、つららなどが付着した場合も判定できない場合があります。このような状況では、車間距離が適切に保てずに、思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、常に前方に注意して走行してください。なお、汚れを判定した場合、制御は自動的に解除されます。
また、カバー前面はいつもきれいにしておいてください。（P.374参照）
●道路形状（カーブ路、左右カーブの連続している道路、カーブの出入口、工事中や車線規制などで車線幅が狭い道路など）や自車の状況（ハンドル操作や車線内の位置、事故や故障で走行が不安定な状況など）によっては、一時的に隣の車線の車両や周辺のものを検知して、制御・接近警報が作動したり、一時的に先行車を検知できず、先行車に接近して、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④接近警報が頻繁に作動するような状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。

●短い車間距離でも、次の場合には警報が作動しないことがあります。
- 先行車との相対速度が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）。
- 先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れていくとき）。
- セット操作をした直後。
- アクセルペダルを踏んでいるとき、およびアクセルペダルを離した直後。

●料金所や渋滞の最後尾で停車中や極端に車速の遅い車両などに対しては警報が作動しません。
●道路形状（カーブなど）や自車の状況（ハンドル操作や車線内の位置）によっては、一時的に隣の車線の車両や周辺の物を検知して、接近警報が作動する場合があります。

⑤レーダークルーズコントロールを定速制御モードで使用するときは、次のことに注意してください。

●定速制御モード中は、車間制御モード中のように、先行車の有無・先行車との車間距離を判定していないため、接近警報が作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。先行車との車間距離に十分注意してください。
●次のような状況のときは、レーダークルーズコントロール（定速制御モード）を使用しないでください。使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 交通量の多い道や急カーブのある道では、道路の状況に合った速度で走行できないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 凍結路や積雪路などのすべりやすい路面では、タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあり危険です。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキが十分効かないため、セットした速度をこえてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

4.クルーズコントロールについての注意

クルーズコントロールについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

①クルーズコントロールを使用しないときは、メインスイッチをＯＦＦにしてください。

●誤ってクルーズコントロールを作動させてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

②次のような状況のときは、クルーズコントロールを使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●交通量の多い道や急カーブのある道では、道路の状況に合った速度で走行できないため、事故につながるおそれがあり危険です。
●凍結路や積雪路などのすべりやすい路面では、タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあり危険です。
●急な下り坂では、エンジンブレーキが十分効かないため、セットした速度をこえてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●やむを得ず他車をけん引する場合（P.630参照）は、クルーズコントロールを使用しないでください。クルーズコントロールの機能を損なう可能性があり、制御性能の低下や、思わぬ事故につながるおそれがあります。

5.レーンキーピングアシストについての注意

**レーンキーピングアシストについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。**

①レーンキーピングアシストを過信しないでください。

●車線逸脱を警報したり、車線内走行を支援したりするシステムで、手放し運転や脇見運転など前方不注意を補助するものではありません。常に自らハンドル操作をして進路を修正し、安全運転に心がけてください。

②次のような状況のときにレーンキーピングアシストを使用すると、システムが正しく機能できない場合があり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。システムをＯＦＦにして走行してください。

●白（黄）線がかすれたり汚れたりして見えにくいとき。
●雨、雪、霧、逆光などで、白（黄）線が見えにくいとき。
●ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき。
●検札所や料金所など、白（黄）線が途切れるとき。
●急激な明るさの変化が連続するとき。
●道路補修の消し残り線・影・残雪・雨のたまった轍など、白（黄）線と紛らわしい線が見えるとき。
●高速道路等の本線（走行車線、追い越し車線）以外の車線を走行するとき。
●工事による車線規制や仮設の車線を走行するとき。
●車線の幅が極端に狭いときや広いとき。
●前車との車間距離が極端に短くなったとき。
●重い荷物の積載やタイヤ空気圧の調整不良などで、車両が著しく傾いているとき。
●うねった道路や荒れた道路を走行するとき。
●雨天時や積雪・凍結などですべりやすい道路を走行しているとき。

③車線逸脱警報機能は、車線逸脱を自動的に防止するものではありません。

●車線逸脱警報機能は、走行中の車線を逸脱するとシステムが判断した場合に、警報によって運転者のハンドル操作による進路修正を促す機能で、車線逸脱を自動的に防止するものではありません。常に自らのハンドル操作で進路を修正し、安全運転に心がけてください。
●走行条件や道路条件により、車線逸脱警報が早く作動したり作動しなかったりすることがあります。常に進路の確認を行い、安全運転に心がけてください。

④車線維持支援機能は、運転を自動的に行うものではありません。

●車線維持支援機能は、運転者のハンドル操作力を補助し、運転を支援する機能で、自動的に車線の中央を走行するものではありません。常に自らのハンドル操作で進路を修正し、安全運転に心がけてください。

6.スマートエントリー&スタートシステムについての注意

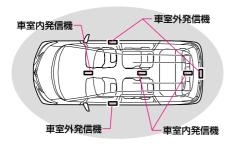
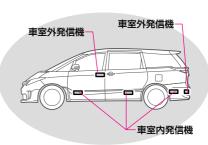
スマートエントリー&スタートシステムについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

①植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されているかたは、車室内発信器・車室外発信器から約22ｃｍ以内に植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器が近づかないようにしてください。

●電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植え込み型心臓ペースメーカーおよび、植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

●スマートエントリー & スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

1. 点検・手入れ時の注意

HYBRID

点検・手入れ時は、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
点検整備の詳細については「メンテナンスノート」をお読みください。

HYBRID

①エンジンルームを点検するときは、必ずハイブリッドシステムを停止してください。また、火気を近づけないでください。

●ハイブリッド車は、ガソリンエンジンが自動的に動き出すことがあります。ガソリンエンジン回転中にファンなどの回転部分に触れたり近づいたりすると、手や衣服、工具などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、ガソリンエンジンが止まっていても、冷却水温が高いときは、冷却ファンが急にまわり出すことがありますので注意してください。
●火気をハイブリッドシステムや燃料配管に近づけないでください。爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

②ハイブリッドシステム停止直後はエンジン・排気管・ラジエーターなど高温部には触れないでください。

●やけどをするおそれがあります。なお、オイルやその他の液体も高温になっていることがありますので注意してください。

HYBRID

③エンジンルーム内に水をかけないでください。

●エンジンルーム内に水をかけると、ハイブリッドシステムや他の電装品がショートしたりして、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

HYBRID

④車の清掃をするときは、車内（とくにコンソールボックス下部の駆動用電池周辺）に水をかけないでください。

●駆動用電池等に悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。
●オーディオやフロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑤洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。

●ブレーキ装置内に水が入ると、凍結してブレーキの効きが悪くなったり、錆びてブレーキの固着につながるおそれがあり、走行できなくなる場合があります。

⑥ヒューズを交換するときは、規定容量以外のヒューズを使用しないでください。

●配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあり危険です。

⑦電球を交換するときは、電球が冷えてから交換してください。

●電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあります。

HYBRID

⑧ハイブリッドシステムが熱いときや READY （走行可能表示灯）が点灯した状態のときは、ウォッシャー液を補給しないでください。

●ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⑨エンジンルームを点検したあとは、エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。

●点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

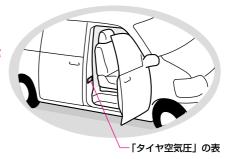
2. タイヤについての注意

**タイヤについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

①日常点検として、必ずタイヤの点検を行ってください。

●タイヤの点検は、法律で義務付けられています。
●タイヤは以下の点について点検してください。
- タイヤの空気圧。
- タイヤのき裂・損傷の有無。
- タイヤの溝の深さ。
- タイヤの異常な摩耗。（極端にタイヤの片側のみが摩耗している・摩耗程度がほかのタイヤと著しく異なるなど。）

タイヤの点検方法は、「メンテナンスノート」をお読みください。

②タイヤ空気圧は、必ずタイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整してください。

「タイヤ空気圧」の表

●指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはP.583で正しい空気圧を確認のうえ、調整してください。
指定空気圧より低いと、車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。日常点検で、スペアタイヤ（販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車）も含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。
※ 高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

③タイヤはすべて、必ず指定サイズで同一種類のタイヤを装着してください。

●タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。左右タイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるのでタイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
- 4輪の空気圧の差が著しいとき。
- 空気圧が指定値からはずれているとき。

●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（P.538参照）

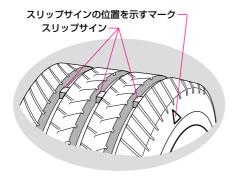
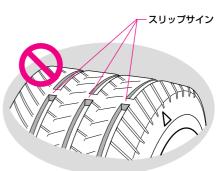
●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.583参照）

〈混在使用の例〉

●指定以外のタイヤおよび4輪とも同一でないタイヤを装着すると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、前後左右のタイヤに回転差が発生するなどして、正確な車両速度が検出できなくなる場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ＡＢＳ
- ブレーキアシスト
- ＴＲＣ・ＶＳＣ
- ＶＤＩＭ
- バックガイドモニター
- インテリジェントパーキングアシスト
- ＧＰＳボイスナビゲーション
- ワイドビューフロント＆サイドモニター
- レーダークルーズコントロール
- クルーズコントロール
- プリクラッシュセーフティシステム
- インテリジェントＡＦＳ
- レーンキーピングアシスト

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。
- 電気式4WDシステム

④摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。

●タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象※1により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

〈例：スリップサインが出ていない状態〉※2

〈例：スリップサインが出ている状態〉※2

※1 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。
※2 イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

⑤タイヤの側面などに傷やき裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。

●異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルがとられたり、異常な振動を感じることがあります。
また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
●異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

⑥冬用タイヤ装着時は以下の点をお守りください。

●指定サイズのタイヤを使用してください。
●指定空気圧に調整してください。
●お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないでください。

⑦タイヤチェーン装着時は、速度を控えて慎重に運転してください。

●タイヤチェーン装着時は、約30km/h、またはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。また、走行性に影響を与えるため必ず慎重に走行してください。
●タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあり危険です。
また、ＡＢＳ作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので、慎重に運転してください。

⑧タイヤを交換したときは、ディスクホイール取りつけナットが確実に締まっていることを確認してください。

●確実に締まっていないと、ディスクホイール取りつけボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。タイヤ交換後はトヨタ販売店で、できるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。
締めつけトルク：約105N・m ｛1050kgf・cm｝
●タイヤを取りつけるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締めつけられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にタイヤがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑨ディスクホイール取りつけボルト、ナットのネジ部や、ディスクホイールのボルト穴につぶれやき裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店などで点検を受けてください。

●つぶれやき裂などの異常があると、ナットを締めつけても十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑩段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

●段差や凹凸のある路面を通過するときの衝撃により、タイヤ・ディスクホイールが損傷する場合があります。

⑪歩道の縁石などにタイヤが当たらないように注意してください。

●タイヤ・ディスクホイールが損傷する場合があります。

⑫応急用タイヤについては以下の点に注意してください。（販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車）

●応急用タイヤは標準タイヤがパンクしたときに、一時的に使用するタイヤです。できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
●応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。空気圧が不足している状態で走行すると、タイヤの径の違いがさらに大きくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。応急用タイヤの空気圧については、P.583をご覧ください。
●車に搭載されている応急用タイヤは、お客様の車専用です。ほかのタイヤやディスクホイールと組み合わせたり、ほかの車に使用したり、ほかの車の応急用タイヤをお客様の車に使用しないでください。走行に悪影響が出て思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑬走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。

●走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっています。タイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

⑭装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着しないでください。

●装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着すると、車の性能（車両の方向安定性など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

3. バッテリーについての注意

HYBRID

バッテリーについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

HYBRID

①補機バッテリーあがりを起こすと、ハイブリッドシステムの始動ができなくなる場合がありますので、注意してください。

●駆動用電池の残量はハイブリッドシステムが自動管理しており、残量が低下すると自動的に充電します。
ただし、長い時間ご使用にならないと、自動的に充電できないため、駆動用電池がバッテリーあがりを起こすことがあります。

HYBRID

②駆動用電池または補機バッテリーがあがったときは、押しがけによる始動や、けん引による充電はできません。

●ハイブリッドシステムに悪影響をおよぼし、システムが損傷するおそれがありますのでやめてください。
駆動用電池があがったときは、トヨタ販売店へご連絡ください。補機バッテリーがあがったときは、エンジンルーム内の救援用端子を使用して、ハイブリッドシステムを始動してください。(P.620参照)

HYBRID

③補機バッテリーあがりで、ブースターケーブルをつなぐときは、補機バッテリーの端子につながず、エンジンルーム内の救援用端子を使用してください。(P.620参照)

●補機バッテリーに直接つなぐと、火花が発生して補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●救援用端子を使用して、補機バッテリーの充電をしないでください。

HYBRID

④急速充電器は使用しないでください。

●補機バッテリーが爆発するおそれがあり危険です。

HYBRID

⑤充電中は補機バッテリーに近づかないでください。

●充電中は補機バッテリーから有毒で、腐食性の高い希硫酸を含んだバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると、失明など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
万一、付着した場合は、すぐに衣服を脱ぎ、液が付着した体の部分を多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。

HYBRID

⑥火気を補機バッテリーに近づけないでください。

●補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

4. ジャッキアップについての注意

ジャッキアップについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。また、パーキングブレーキをしっかりかけてください。

- 車が動きジャッキがはずれ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。なお、輪止めはトヨタ販売店で購入できますのでトヨタ販売店にご相談ください。
- 輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

②ジャッキアップした車の下には、絶対にもぐらないでください。

- 万一、ジャッキがはずれると、身体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車載工具のジャッキは、タイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外は使用しないでください。

③ジャッキアップするときは、次の点に注意しないと、車体が損傷したり、ジャッキがはずれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●人を乗せたままジャッキアップをしないでください。
●ジャッキアップするときは、ジャッキの上や下にものを挟まないでください。
●ジャッキアップするときは、ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置（P.613参照）にかかっていることを必ず確認してください。
●車体は、タイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。
●ジャッキアップしているときは、ハイブリッドシステムを始動しないでください。
●ジャッキアップした車体をおろすときは、周囲を確認し、十分注意しながら作業してください。

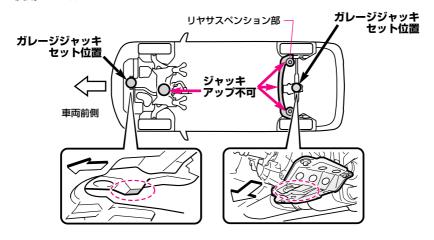
④車に搭載されているジャッキは、お客様の車専用です。

●ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑤工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。

●室内などに放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、次のことをお守りください。

●車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、特別な工具が必要になったり、取り扱いに特別な注意が必要になるため、誤って使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、リヤサスペンション部などでジャッキアップすると、車両を損傷することがあります。
車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用する必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。また、ガレージジャッキを使用するときは、必ずしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。下図のガレージジャッキセット位置に当ててください。ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキに付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用してください。

1. オーバーヒートについての注意

オーバーヒートについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

①オーバーヒートし、ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。

●エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気が出ていない場合でも、高温になっている部分がありますので、ボンネットを開けるときは十分注意してください。

②ラジエーターや補助タンクが熱いときはラジエーター補助タンクのキャップを開けないでください。

●蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●キャップを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包み、ゆっくりと開けてください。

2. 万一の事故のときの注意

HYBRID

**次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。**

HYBRID

①万一事故が発生したときは次の点に注意してください。

●エスティマハイブリッドは、駆動用電池などの高電圧システムを使用しています。事故により、高電圧部位（駆動用電池、高電圧配線など）が大きく破損した場合は、不用意に触ると、感電など生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●他の交通のさまたげにならないような安全な場所に車を移動し、続発事故防止を図ってください。

●高電圧が各部位にかからないようにするため、車両の状態を次のようにしてください。
- ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかける。
- シフトレバーを🅟にする。
- “パワー”スイッチをＯＦＦにする。

●駆動用電池、高電圧配線（オレンジ色）などの高電圧部位には、絶対に触らないでください。感電のおそれがあり危険です。

●車内および車外にはみ出している電気配線にも、絶対に触らないでください。
漏電による感電のおそれがあり危険です。

●車両に液体の付着や漏れがある場合、絶対に触らないでください。
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が、目や皮膚に触れると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合、ただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診断を受けてください。

●万一、車両火災が発生したときは、ＡＢＣ消火器を使用して消火してください。
水をかける場合には、消火栓などから水を大量にかけてください。

HYBRID

②この車は、原則としてけん引することができません。けん引は、やむを得ない場合に限って行ってください。

●けん引は、できるだけトヨタ販売店またはＪＡＦなどに依頼してください。
とくに次の場合は、駆動系の故障が考えられますので、けん引する前にまずトヨタ販売店へご連絡ください。

- READY（走行可能表示灯）が点灯しているのに車が動かない。
- 異常な音がする。

●車両が自走できない場合は、必ず4輪とも持ち上げて運搬してください。いずれかのタイヤが接地した状態では、けん引しないでください。いずれかのタイヤが接地した状態でけん引すると、モーターから電気が発電され、破損の状態によっては漏電による火災のおそれがあり危険です。

●ハイブリッドシステムを始動せずにけん引される場合は、ハンドルやブレーキ操作に十分注意してください。READY（走行可能表示灯）が点灯した状態になっていないと、パワーステアリングやブレーキの倍力装置が働かないため、操作力が非常に重くなります。
けん引される車の運転は、十分注意して行ってください。

●けん引中に、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。けん引フックやロープが破損し、それが周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

●けん引中に“パワー”スイッチをＯＦＦにしないでください。

③発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。また、発炎筒を使用中は、顔や身体に向けたり、近づけたりしないでください。

●可燃物の近くで使用すると引火するおそれがあり危険です。また、使用中に顔や身体に向けると、炎でやけどするなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

④事故後、ハイブリッドシステムを始動する前に燃料がもれていないか確認してください。

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかれば、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火し、重大な事故につながるおそれがあり危険ですので、ハイブリッドシステムを始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

HYBRID

エスティマハイブリッドをご使用するにあたって、次の事項を必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

HYBRID

①高電圧・高温に注意してください。

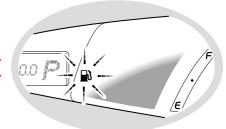
●高電圧部位、高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし、分解などは、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険ですので、絶対に行わないでください。
これらの部位には取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示にしたがって正しい取り扱いをしてください。（P.468参照）
修理・交換の際は、必ずエスティマハイブリッド取り扱いトヨタ販売店にご相談ください。

HYBRID

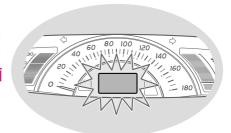
②サービスプラグには触らないでください。

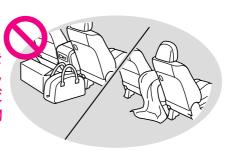
●サービスプラグがコンソールボックス下部に設置してあります。サービスプラグは、トヨタ販売店にて、車両の修理時などに駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。
取り扱いを誤ると感電し、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険ですので、絶対に触らないでください。

HYBRID

③燃料残量警告灯が点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。

●ハイブリッド車といっても、燃料がないと走行できません。通常のガソリンエンジン車と同様に、燃料残量警告灯が点灯したら、すみやかに燃料を補給してください。

HYBRID

④ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは、画面の指示にしたがってください。

HYBRID

⑤駆動用電池の周りに荷物などを置いたり、布などで覆ったりして、吸入口をふさがないでください。また、吸入口に水や異物を入れないでください。

●コンソールボックス下部には駆動用電池が搭載されています。ここには、駆動用電池を冷却するための空気の吸入口があります。この吸入口をふさがれると冷却が行われずに駆動用電池が過熱して、ハイブリッドシステムの出力低下につながるおそれがあります。駆動用電池の周りに荷物などを置いたり、布などで覆ったりして吸入口をふさがないでください。
セカンドシートを前方に移動させるときなどは、とくに注意してください。
また、吸入口が目詰まりしないように定期的に掃除機などで掃除することをおすすめします。

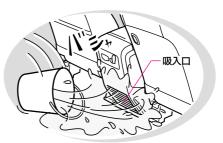
●吸入口に水や異物を入れないでください。駆動用電池などに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。吸入口に大量の水や異物を入れてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

HYBRID

⑥吸入口に重いものや突起物をぶつけないでください。

●吸入口に重いものや突起物をぶつけたりすると、吸入口が破損するおそれがあります。

HYBRID

⑦コンソールボックスやカップホルダー、コンソールボックス下部の駆動用電池周辺に大量の水をこぼさないように注意してください。

●誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

HYBRID

⑧吸入口は絶対にはずさないでください。

●吸入口の奥には高圧電池があるため、手などを入れると、感電など生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあります。吸入口に物を落としたときなど、吸入口をはずす必要があるときは、トヨタ販売店にご相談ください。

HYBRID

⑨修理する場合は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、感電など生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

HYBRID

⑩廃車する場合は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●駆動用電池は、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、回収にご協力ください。
適切に廃車されず、不法に投棄または放置されると、第三者が駆動用電池などの高電圧部位に触れた場合に、感電事故などが発生するおそれがあり危険です。

HYBRID

⑪シフトレバーをⓃに入れたままのときは充電がおこなわれないため、駆動用電池がバッテリーあがりを起こすことがあります。

●駆動用電池の残量が低下すると、“ポーン”という断続音とともにマスターウォーニングが点滅し、警告内容が表示されますので、表示にしたがってください。

次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①違法改造は絶対にしないでください。

●トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
●車高を落としたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
●ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- タイヤ・ディスクホイール・ディスクホイール取りつけナットの交換。
  異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
- 電装品・無線機などの取りつけ、取りはずし。
  電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

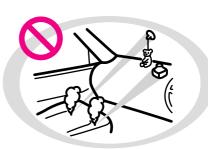
●フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界を妨げるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

②灰皿を使用したあとは、マッチ・タバコの火を確実に消し、必ず閉めておいてください。

●開けたまま放置すると、車両火災につながるおそれがあり危険です。また、灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

③カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。

●カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタをしてください。
●急ブレーキをかけたときや衝突時に、カップホルダーに身体が当たるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。カップホルダーを使用しないときはフタを閉めておいてください。

④ウインドゥガラスなどには吸盤をつけないでください。

●ウインドゥガラスにアクセサリーの吸盤を取りつけたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置くと、吸盤や容器がレンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

⑤ラゲージルームには人を絶対に乗せないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が飛ばされ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑥バックドアを閉めるときは、ほかの人の手などを挟まないように注意してください。また、お子さまにはバックドアの操作をさせないでください。

●お子さまが操作すると、閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●イージークローザー装着車では、半ドア状態のときイージークローザーが働きバックドアが自動的に閉まるため、指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●イージークローザーは、パワーバックドアのメインスイッチがOFFのときにも作動します。
●バックドアは、必ず外から押して閉めてください。バックドアグリップで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●バックドアは必ず全開にして使用してください。半開状態で使用するとバックドアが落ち、けがをするおそれがあります。
●バックドアステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがらないでください。手を挟んだり、ダンパーステーが破損してはずれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑦走行前にバックドアを軽くゆさぶり、確実にロックされていることを確認してください。

●バックドアが確実に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●バックドアを開けたまま走行しないでください。開けたまま走行すると、バックドアが車外のものなどに当たり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧パワーバックドア装着車では、次のことをお守りください。お守りいただかないとバックドアで指や手などを挟んだり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●パワーバックドアの操作時は、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身の回りの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- バックドアが自動で開いている途中でパワーバックドアスイッチを押すと、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
- 自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切り替わる場合があります。この場合、坂道などの傾斜地ではバックドアが不意に動き出すおそれがあるので十分注意してください。
- 傾斜した場所では、自動で開いたあとにバックドアが落ちる場合があります。バックドアは必ず全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にバックドアが落ちるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
  - ・自動作動中、障害物に干渉したとき
  - ・エンジン停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、“パワー”スイッチをONモードにしたりハイブリッドシステムを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取りつけないでください。自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとに落ちるおそれがあります。
- タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアメインスイッチをOFFにしてください。OFFにしないと、いたずらや誤ってスイッチにふれたときにパワーバックドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

●挟み込み防止機能作動中は以下のことに注意してください。注意していただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⑨ディスチャージヘッドランプを交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●電球ソケットに触れた状態で点灯操作をすると、瞬間的に20,000Vの高電圧が発生し、感電して生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑩熱線式ウインドシールドデアイサーの作動中は、フロントウインドゥガラス下部、および運転席フロントピラー部の表面が熱くなりますので、手を触れないでください。（熱線式ウインドシールドデアイサー装着車）

●やけどをするおそれがあり危険です。

⑪ミラーヒーター作動中はドアミラーの表面が熱くなりますので、手を触れないでください。（ミラーヒーター装着車）

●やけどをするおそれがあり危険です。

⑫プラズマクラスター発生器は高電圧を利用しています。（プラズマクラスター装着車）

●危険ですので、修理などは必ずトヨタ販売店にご相談ください。

⑬電子キーの電池交換時に、取りはずした電池や部品を（とくにお子さまが）飲み込まないようにご注意ください。

●飲み込むと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑭アルミボディには、磁石で固定するアクセサリーを取りつけることはできません。

●磁石はアルミにつかないため、磁石式の初心者運転標識や高齢運転者標識などは取りつけることはできません。

! その他の注意

⑮スライドドアを開閉するときは、ほかの人の手などを挟まないように注意してください。また、お子さまにはスライドドアの操作をさせないでください。

●走行中は以下のことをお守りください。お守りいただかないと思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトを必ず着用してください。
- 全てのドアを施錠してください。
- 全てのドアを確実に閉めてください。
- 走行中はドア内側のドアハンドルを操作しないでください。
- お子さまを乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用してドアが開かないようにしてください。

●お子さまを乗せているときは以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- お子さまを車内に残さないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。不意にスライドドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

●スライドドアの操作にあたっては、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・足・頭などを出さないでください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 半開状態ではスライドドアが静止しないため、必ず全開にしてください。傾斜地での停車時にドアが開いていると、突然動き出すおそれがあります。
- 坂道ではスライドドアの開閉スピードが早くなります。ドアが体に当たったり挟んだりしないよう、注意してください。
- 下り坂での停車時に乗りおりするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。ドアが突然動き出すおそれがあります。
- スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

⑯パワースライドドア装着車では、次のことをお守りください。お守りいただかないとスライドドアで指や手などを挟んだり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

パワースライドドアの操作時は、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身の回りの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- スライドドアが自動で開いている途中でパワースライドドアスイッチを押すと、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。ドアは必ず全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にスライドドアが閉まるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
  - ・自動作動中、障害物に干渉したとき
  - ・エンジン停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、“パワー”スイッチをONモードにしたりハイブリッドシステムを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- タイヤ交換などをする際は、パワースライドドアメインスイッチをOFFにしてください。OFFにしないと、いたずらや誤ってスイッチに触れたときにスライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。
- チャイルドプロテクターを施錠側にしているときは、パワースライドドアの誤操作防止のため、パワースライドドアメインスイッチをOFFにしてください。

●挟み込み防止機能作動中は以下のことに注意してください。注意していただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⑰車内のスイッチなどに飲み物をこぼさないよう注意してください。

●インストルメントパネル、ドアなどにあるスイッチなどに飲み物がかかると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。万一、スイッチに飲み物がかかった場合は、すみやかにトヨタ販売店にご相談ください。

⑱ READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後、マフラーに触れないように注意してください。

● READY が点灯しているときやハイブリッドシステム停止直後のマフラーは高温になっています。荷物の積みおろし時などに手や足が触れると、やけどをするおそれがあります。点検などで排気管に触れる場合は、十分に冷めてからにしてください。

⑲タイヤパンク応急修理キットを使用してパンク修理したときは、速度制限ラベルを下記の位置に貼らないでください。

●メーターやドアガラスなど、運転に支障をきたすところ
思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●ステアリングホイールパッド部などのＳＲＳエアバッグ展開部
ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑳ＥＴＣシステムを利用する際には、安全のため、運転者は走行中にＥＴＣカードの抜き差し、およびＥＴＣユニットの操作を極力しないでください。（ＥＴＣシステム装着車）

●走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車を停車させてから操作をしてください。

㉑シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドゥを開けたまま放置しないでください。

●ドアやウインドゥを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

㉒ライターを車内に放置したままにしないでください。

●ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしないでください。荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

㉓アクセサリーコンセントを使用するときには、次のことをお守りください。守らないと思わぬ事故の原因となって重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●走行中、次のような場合は、絶対に電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 脇見運転など安全運転のさまたげになる場合。（テレビ、ビデオ、ＤＶＤなど）
- 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒、落下による事故や、発熱により火災、やけどなどのおそれがある場合。（トースター、電子レンジ、電熱器、ポット、コーヒーメーカーなど）
- ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合。（ドライヤー、ＡＣアダプター、マウスなど）

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなど、思わぬ事故の原因となって重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
また、他の電装品に悪影響を与えるおそれがあります。やむを得ず使用するときは、窓を開けて使用してください。

●電気製品を使用中に READY （走行可能表示灯）が点灯した状態のまま、車両から離れないでください。
車両の盗難や、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

●暖房機具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。
思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

●故障した電気製品は使用しないでください。アクセサリーコンセントが使用できなくなったり、感電するおそれがあります。

●濡れた手で電気製品のプラグを抜き差ししたり、ピンなどをアクセサリーコンセントに差したりしないでください。感電するおそれがあり危険です。
また、コンセントに雨水、飲料水などや雪が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。

●アクセサリーコンセントの改造や分解、修理などは絶対にしないでください。
また、絶対に車両搭載のＡＣ100Ｖインバーターを市販のＡＣインバーターに組み替えないでください。
思わぬ故障や事故の原因となって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
修理については、トヨタ販売店にご相談ください。

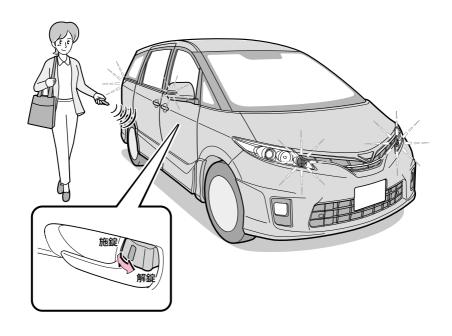
●使用する電気製品に付属の取扱書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

㉔内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。

●インストルメントパネルがフロントウィンドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

2 基本操作早わかり

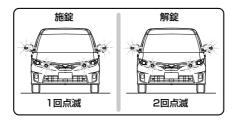
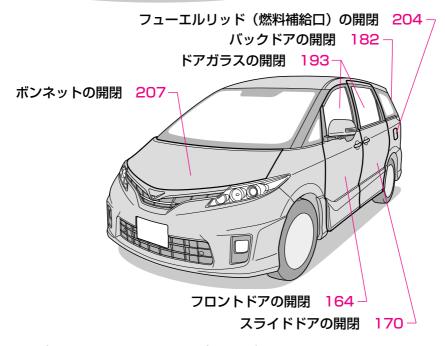
（はじめてこの車にお乗りになるかたへ）

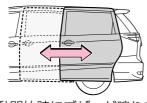
この章では、はじめて車を購入されたかたやトヨタ車にはじめてお乗りになるかたのために、この車の基本的な運転装置および装備品を簡単に説明しています。
詳しい取り扱い説明や注意事項は各章をしっかりお読みください。

ドアの施錠と解錠

リモコンスイッチで

スマートエントリー ＆ スタートシステムで

フロントドア　　バックドア

施錠　解錠　施錠　解錠

各部の開閉に関する詳しい紹介は

パワースライドドア・パワーバックドアの開閉

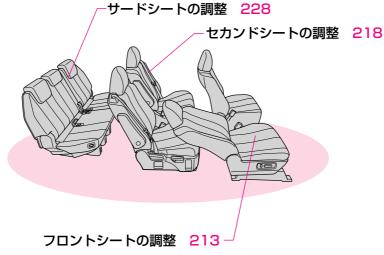
●作動開始時にブザーが鳴ります。
●閉作動中は断続ブザーが鳴ります。

リモコンスイッチ

スイッチを1秒以上押します。

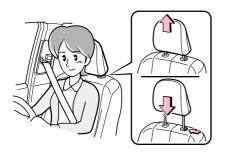
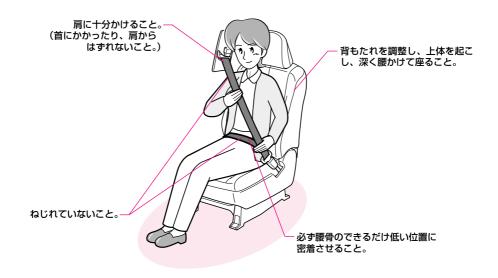
●作動開始時にブザーが鳴ります。
●開閉作動中は断続ブザーが鳴ります。

運転席の調整機能

前後位置	背もたれの角度	クッション前端の上げ下げ	シート全体の上げ下げ
マニュアルシート			
パワーシート			

シートに関する詳しい紹介は

●シートアレンジについてはP.230を参照してください。

運転席の調整機能

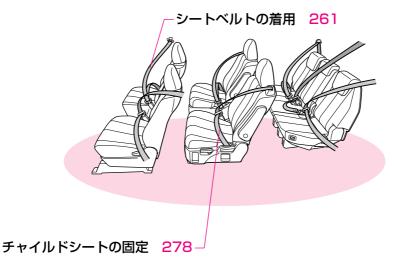
ヘッドレスト

着用のしかた

1 ベルトを引き出します。

2 プレートをバックルに差し込みます。

❶“カチッ”という音がするまで差し込みます。

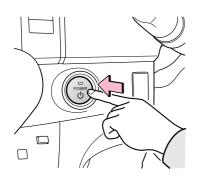
❷アンカーの高さを調整します。

シートベルトに関する詳しい紹介は

はずし方

❶バックルのボタンを押します。

❷ベルトを巻き取らせます。

“パワー”スイッチの状態	作動表示灯の色	ハイブリッドシステムの状態	各状態の働き
OFF	消灯	停止	電装品が停止している状態です。
アクセサリーモード	橙色	停止	オーディオなどの電装品が使用できます。
ＯＮモード	橙色	停止	すべての電装品が使用できます。
	消灯	作動中	すべての電装品が使用できます。 通常運転中の状態です。

“パワー”スイッチの切り替え方

1 電子キーを携帯して運転席に座ります。

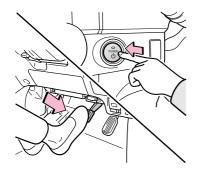
2 “パワー”スイッチを押します。
スイッチを押すごとにスイッチが、
ＯＦＦ⇒アクセサリーモード⇒ＯＮモード⇒ＯＦＦ…
の順に切り替わります。
- ●アクセサリーモードまたはＯＮ モードのときは作動表示灯が橙色に点灯します。
- ●シフトレバーがⓅ以外のときはＯＦＦになりません。

ハイブリッドシステム始動のしかた

1 電子キーを携帯して運転席に座り、ブレーキペダルをしっかり踏みます。

パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
● "パワー"スイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。

2 シフトレバーの位置がⓅになっていることを確認します。

3 ブレーキペダルをしっかり踏んだ状態で、"パワー"スイッチを押します。

ゆっくり確実に押してください。
●ハイブリッドシステムが始動すると作動表示灯が消灯します。

4 READY が点滅後、点灯状態になれば発進できます。

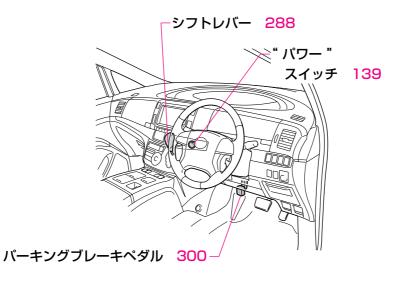
READY が点灯していれば、ガソリンエンジンが始動していなくても走行できます。
車両の状態に応じてガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。

シフトレバーの動かし方（発進時の場合）

1 ブレーキペダルをしっかり踏み込みます。

●パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

2 シフトレバーをⓅから操作します。

運転装置に関する詳しい紹介は

パーキングブレーキの使い方

解除のしかた

❶右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、

❷左足でパーキングブレーキペダルを“カチッ”と音がするまで踏み込み、ゆっくり離します。

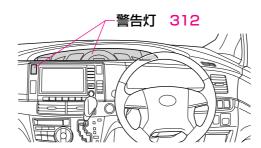
かけ方

❶右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、

❷左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。

警告灯が点灯、または点滅したままのときは

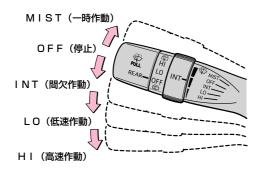
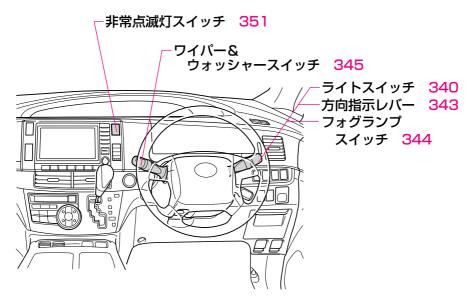
警告灯		警告理由
(ABS)	ＡＢＳ ＆ ブレーキアシスト警告灯	ＡＢＳ、またはブレーキアシストシステムの異常です。
	ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯	ＳＲＳエアバッグシステム、またはプリテンショナー付シートベルトシステムの異常です。
	エンジン警告灯	エンジン電子制御システムなどの異常です。
	水温警告灯	エンジン冷却水の温度やモーターの温度が上昇しています。
− ＋	充電警告灯	充電系統の異常です。
(!)	ブレーキ警告灯(赤)	●パーキングブレーキがかかっています。 ●ブレーキシステムの異常です。 ●パーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、ブレーキ液量の不足です。
(!)	電子制御ブレーキ警告灯（黄）	ブレーキシステムの異常です。

警告灯に関する詳しい紹介は

警告灯が点灯、または点滅したままのときは

警告灯		警告理由
	油圧警告灯	エンジンオイルの圧力異常です。
	パワーステアリング警告灯	パワーステアリング制御システムの異常です。
PCS	プリクラッシュセーフティシステム警告灯	プリクラッシュセーフティシステムの異常です。
	燃料残量警告灯	燃料切れが近づいています。（約10L以下で点灯）
	半ドア警告灯	いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていません。
	スマートエントリー＆スタートシステム警告灯	電子キーが車室内発信機の検知エリア内にありません。
	運転席シートベルト非着用警告灯	運転者がシートベルトを着用していません。
PASSENGER	助手席シートベルト非着用警告灯	助手席の乗員がシートベルトを着用していません。
	マスターウォーニング	マルチインフォメーションディスプレイに警告内容などが表示されています。

※この他にも、表示灯の点灯または点滅により異常を知らせる場合があります。
　詳しくは、P.306を参照してください。

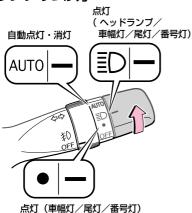
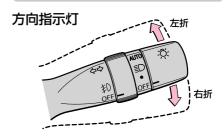
夜間や雨天時などの走行

フロントワイパーの使い方

スイッチに関する詳しい紹介は

夜間や雨天時などの走行

ランプのつけ方

他車への合図

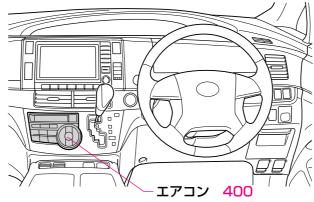
方向指示灯

非常点滅灯

オートエアコンの使い方

1 ＡＵＴＯスイッチを押します。

2 希望温度に合わせます。

運転席・助手席でそれぞれの温度に設定するときはＤＵＡＬスイッチを押してから、運転席側スイッチ、助手席側スイッチを押し希望温度に合わせます。

エアコンに関する詳しい紹介は

オートエアコンの使い方

3 エアコンが作動していないときは、エアコンスイッチを押します。

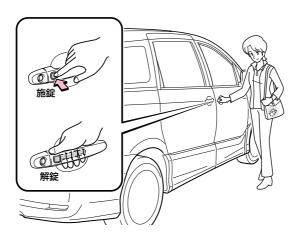
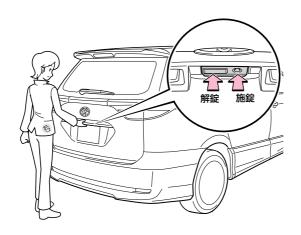
4 作動を停止したいときは、ＯＦＦスイッチを押します。

3 運転装置の取り扱い

スマートエントリー ＆ スタートシステム

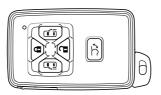
スマートエントリー ＆ スタートシステムについて

スマートエントリー ＆ スタートシステムは電子キーを携帯しているだけで、ドアの施錠・解錠、“ パワー ” スイッチの切り替え、ハイブリッドシステムの始動・停止をすることができます。

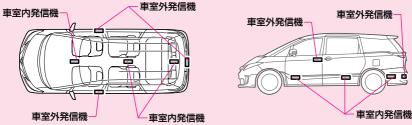
ドアの施錠・解錠（P.132参照）

バックドアの施錠・解錠（P.136参照）

“ パワー ” スイッチの切り替え（P.139参照）

ハイブリッドシステムの始動・停止（P.142参照）

電子キー

電子キーと車両が通信を行い、スマートエントリー ＆ スタートシステムが作動します。

電子キーは運転者が必ず携帯してください。

植え込み型心臓ペースメーカーを装着されているかたは、車室内発信機・車室外発信機から約22ｃｍ以内に植え込み型心臓ペースメーカーが近づかないようにしてください。

●植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器を装着されている方は、車室内発信機・車室外発信機から約22ｃｍ以内に近づかないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

●スマートエントリー ＆ スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

電子キーは信号発信機を内蔵している電子部品です。故障の原因となりますので、以下のことをお守りください。

●ダッシュボードの上など高温になる所に置かないでください。
●分解しないでください。
●無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えないでください。
●水にぬらさないでください。
●磁気を帯びたキーホルダーなどをつけないでください。
●電子キーの表面にシールなどを貼らないでください。
●テレビ、オーディオなどの磁気を帯びた機器、または低周波治療器などの医療電気機器の近くに置かないでください。
●超音波洗浄機などで洗浄しないでください。
●電子キーにガソリンなどの燃料やツヤ出し剤、油脂類が付着すると、電子キーが変形したり、ひび割れたりすることがあります。
●車から離れるときは、
1.パーキングブレーキをかけ、
2.シフトレバーを🅟にし、
3.“パワー”スイッチをＯＦＦにして、
必ず電子キーを携帯していることを確認してからドアを施錠してください。
●スマートエントリー ＆ スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー ＆ スタートシステム、ワイヤレスドアロックリモコンが正常に作動しない場合があります。その場合は、P.160の「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。
- 電子キーのバッテリー（電池）が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど強い電波やノイズを発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を一緒に携帯しているとき
- 電子キーが金属性のものに接したり、覆われたりしているとき
- 複数の電子キーが近くにあるとき
- 他の車の電子キー、電波式ワイヤレスキー、パソコン、市販の電機製品などの電波を発信するような製品を同時に携帯または使用しているとき
- リヤガラスに金属を含むフィルムが貼ってあるとき

知識

電子キーについて

●電子キーは2個あります。
●電子キーはドアの施錠・解錠の他、ハイブリッドシステムの始動・停止などに使います。
●ワイヤレスドアロックリモコンの操作についてはＰ.200を参照してください。
●電子キーを紛失しないように十分注意してください。電子キーを紛失した場合は、電子キーの作製にコンピューターの交換が必要となるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。
●電子キーの作製には特殊な加工が必要になりますので、トヨタ販売店以外では購入できません。
●スマートエントリー ＆ スタートシステムの故障等でトヨタ販売店に車両を持っていく場合は、車両に装備されている電子キーをすべてお持ちください。
●盗難防止システムについてはＰ.501を参照してください。

電子キーのバッテリーについて

●電子キーのバッテリー（電池）は常に消耗しています。
電子キーは車両との通信のために常時受信動作をしており、電子キーに内蔵されたバッテリーを消費しています。電池の寿命は使用状況によりますが約1～2年程度です。（まったく使用しなくても電池は消耗します。）バッテリー電圧が低下した場合、新しい電池と交換してください。電池交換は、お客さまご自身で交換することができますが（Ｐ.539参照）、交換の際に破損などのおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。
●電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（Ｐ.153参照）
●“パワー”スイッチをＯＮ モードにしてから約20分以上経過し、その後スイッチをＯＦＦにしたとき、電子キーのバッテリーが低下していると、キーバッテリー低下警告が表示されます。（Ｐ.153参照）

知 識

航空機内へのキーの持ち込みについて

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

電子キーの保管について

電子キーを家電製品の近くに保管しないでください。家電製品の電磁波により、電子キーが誤作動したり、常時通信状態となり電池が著しく消耗する場合があります。
影響のある主な電化製品（常時約1m以上離すのが望ましいものの例）
テレビ、パソコン、電磁調理器、電気スタンド、充電中のコードレス電話器および携帯電話

電子キーの使用数について

同じ車両で使用できる電子キーの数を変更することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

キーナンバープレートについて

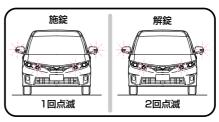
お客様以外にキーナンバーがわからないように、電子キーではなくプレートにキーナンバーを打刻しました。

●キーナンバープレートは車両以外の場所に大切に保管してください。
●万一、電子キーを紛失した場合、キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りの電子キーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しい電子キーをつくることができます。
●万一、電子キーを1個でも紛失した場合、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

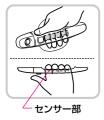
スマートエントリー ＆ スタートシステムの解除について

スマートエントリー ＆ スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

ドアの施錠・解錠のしかた

施錠・解錠のしかた

■施錠するときは

電子キーを携帯し、すべてのドア（バックドアを含む）が閉まっている状態で、フロントドアハンドルのロックスイッチを押します。

●すべてのドア（バックドアを含む）の施錠ができます。
●施錠したときは、非常点滅灯が1回点滅し、ブザーが1回鳴ります。
●必ず施錠されたことを確認してください。

■解錠するときは

電子キーを携帯し、フロントドアハンドル裏側のセンサー部に触れるようにドアハンドルを握ります。

●すべてのドア（バックドアを含む）の解錠ができます。
●解錠したときは、非常点滅灯が2回点滅し、ブザーが2回鳴ります。

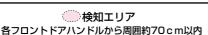
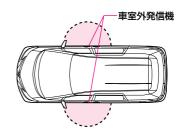
目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

車内に電子キーがある場合は、ロックスイッチを押さないでください。

- 車内に電子キーがある場合は、ロックスイッチを押さないでください。電子キーが車内に閉じ込められる可能性があります。
- ドア施錠時に、車室外発信機の検知エリア内に電子キーがある場合は、電子キーと車両は定期的に通信を行うため、長時間その状態で放置すると、電子キーおよび車両の補機バッテリーがあがるおそれがあります。車両を使用しないときは、電子キーを車両付近（約2m以内）に置かないでください。

作動範囲について

車室外発信機の検知エリア内（各フロントドアから周囲約70cm以内）

- ドアガラスやドアハンドルに近づきすぎた場合などは作動しないことがあります。

作動条件について

- 車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内に電子キーを携帯して入ると、自動的にIDコードの照合を行い、照合が一致したときのみドアが解錠されます。降車後、すべてのドアが閉まっている状態でロックスイッチを押すと、車室内外でIDコードの照合を行い、車内に電子キーがなく、車外に電子キーがあると判断されると施錠されます。
  - 電子キーを検知しているドアハンドルでのみ、ドアの施錠・解錠を行うことができます。
  - 車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内に入っていても、電子キーが地面の近くや高い場所にあるときやドアガラスやドアハンドルに近づきすぎたときは正常に作動しない場合があります。
  - 電子キーが車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。
  - 電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。
  - 車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。
- 電波の状況が悪いときや電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー ＆ スタートシステムやワイヤレスドアロックリモコンでのドアの施錠・解錠はできません。この場合は、P.160の「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。

知 識

施錠・解錠について

●ロックスイッチを早押しした場合、施錠されないことがあります。
●施錠後、約3秒間はスマートエントリー & スタートシステムで解錠することはできません。
●次のようなときは、ロックスイッチを押さないでください。ロックスイッチを押してもドアは施錠されず、半ドア警報（P.149参照）が鳴ります。
 • いずれかのドア（バックドアを含む）が開いているとき
 • ドアの開閉中
●解錠するときは、フロントドアハンドル裏側のセンサー部を確実に握り、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
 • ドアハンドル裏側のセンサー部以外に触れても解錠されません。
 • 皮手袋、スキー手袋などを手に装着してドアハンドル裏側のセンサー部に触れた場合は、解錠が遅れたり、解錠されないことがあります。

 • 他の車の電子キーや、電波を発信するような製品などを同時に携帯した場合、作動時間が通常よりも長くなることがあります。
●確実に解錠させるためには、電子キーが車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内に入ってから約3秒以内にドアハンドルを握ってください。約3秒を経過すると、作動しない場合があります。
●急な車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内への接近や急なドアハンドル操作では、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
●電子キーが車室内発信機の検知エリア内（車両室内）にある場合でも、ワイヤレスドアロックリモコン（P.200参照）、メカニカルキー（P.160参照）、ドアロックスイッチ（P.164参照）での施錠はできますが、その後スマートエントリー & スタートシステムでの解錠はできません。
●解錠後、ドアの開閉操作がなければ、約30秒後に自動的に施錠されます。
●電子キーが車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内にあるとき、洗車や大雨などでフロントドアハンドルに多量の水がかかるとスマートエントリー & スタートシステムが働き、ドアが解錠することがありますが、ドアの開閉操作がなければ、約30秒後に自動的に施錠されます。

便利機能について

イルミネーテッドエントリーシステム

ドアの開閉、解錠・施錠、“ パワー ” スイッチの状態、電子キーを携帯した状態での検知エリア内への進入と連動して、ルームランプ一体フロントパーソナルランプとリヤパーソナルランプ（スイッチがＤＯＯＲの位置のとき）、“ パワー ” スイッチ照明が点灯・消灯します。

●電子キーを携帯し、車室外発信機（フロントドア）の検知エリア外から検知エリア内に入ると点灯し、約15秒後に消灯します。ただし、検知エリア内から検知エリア外へ出て、約3秒以内に検知エリア内にもどった場合や、検知エリア内に留まっている場合は作動しません。※

●いずれかのドア（バックドアを除く）を開けると点灯し、すべてのドアを閉めると約15秒後に消灯します。※

●“ パワー ” スイッチをＯＦＦにすると点灯し、約15秒後に消灯します。※

●“ パワー ” スイッチがＯＦＦのとき、いずれかのドアを解錠すると点灯し、約15秒後に消灯します。※

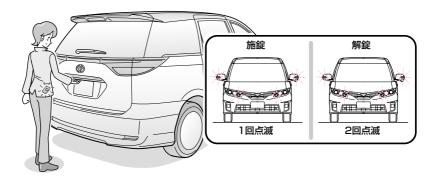
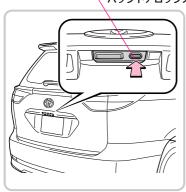
●次のような場合は、ただちに消灯します。
- すべてのドアを閉め、“ パワー ” スイッチをアクセサリーモードまたはＯＮ モードにしたとき。
- “ パワー ” スイッチをアクセサリーモードまたはＯＮ モードにして、すべてのドアを閉めたとき。
- すべてのドアを閉め施錠したとき。

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.584の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

バッテリーあがり防止機能

いずれかのドア（バックドアを除く）が開いた状態で、ルームランプ一体フロントパーソナルランプとリヤパーソナルランプ（スイッチがＤＯＯＲの位置のとき）、“ パワー ” スイッチ照明が約20分以上点灯し続けると、バッテリーあがり防止機能が働き自動的に消灯します。

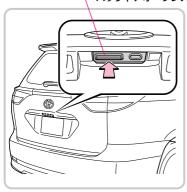
バックドアの施錠・解錠のしかた

施錠・解錠のしかた

■施錠するときは

電子キーを携帯し、すべてのドア（バックドアを含む）が閉まっている状態で、バックドアロックスイッチを押します。

●すべてのドアの施錠ができます。

●施錠したときは、非常点滅灯が1回点滅し、ブザーが1回鳴ります。

●必ず施錠作動したことを確認してください。

■解錠するときは

電子キーを携帯し、バックドアオープンスイッチを押します。

●すべてのドアの解錠ができます。

●解錠したときは、非常点滅灯が2回点滅し、ブザーが2回鳴ります。

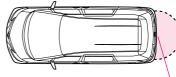
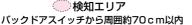
●バックドアの開閉については、P.182の「バックドアの開閉」を参照してください。

車内に電子キーがある場合は、ロックスイッチを押さないでください。

●車内に電子キーがある場合は、ロックスイッチを押さないでください。電子キーが車内に閉じ込められる可能性があります。
●ドア施錠時に、車室外発信機の検知エリア内に電子キーがある場合は、電子キーと車両は定期的に通信を行うため、長時間その状態で放置すると、電子キーおよび車両の補機バッテリーがあがるおそれがあります。車両を使用しないときは、電子キーを車両付近（約2m以内）に置かないでください。

知 識

作動範囲について

車室外発信機の検知エリア内（バックドアスイッチから周囲約70cm以内）
●ドアガラスやバックドアスイッチに近づきすぎた場合などは作動しないことがあります。

作動条件について

●車室外発信機（バックドア）の検知エリア内に電子キーを携帯して入り、バックドアオープンスイッチを押すと、ＩＤコードの照合を行い、照合が一致したときのみドアが解錠されます。降車後、すべてのドアが閉まっている状態でバックドアロックスイッチを押すと、車室内外でIDコードの照合を行い、車内に電子キーがなく、車外に電子キーがあると判断されると、施錠されます。
- 車室外発信機（バックドア）の検知エリア内に入っていても、電子キーが地面の近くや高い場所にあるとき、バックドアガラスやリヤバンパーに近づけ過ぎたときは正常に作動しない場合があります。
- 電子キーが車室外発信機（バックドア）の検知エリア内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。
- 電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。
- 車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。

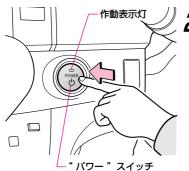
●電波の状況が悪いときや電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー ＆ スタートシステムやワイヤレスドアロックリモコンでのバックドアの施錠・解錠はできません。この場合は、P.160の「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。

知識

施錠・解錠について

●バックドアロックスイッチを早押しした場合、施錠されないことがあります。
●施錠後、約3秒間はスマートエントリー & スタートシステムで解錠することはできません。
●次のようなときは、バックドアロックスイッチを押さないでください。バックドアロックスイッチを押してもドアは施錠されず、半ドア警報（P.149参照）が鳴ります。
- いずれかのドア（バックドアを含む）が開いているとき
- ドアの開閉中

●急な車室外発信機（バックドア）の検知エリア内への接近や急なバックドアロックスイッチおよびバックドアオープンスイッチの操作では、施錠・解錠されない場合があります。その場合は、もう一度ゆっくりと操作してください。

“パワー”（イグニッション）スイッチの切り替え方

1 電子キーを携帯し、運転席に座ります。

2 ブレーキペダルを踏まずに“パワー”スイッチを押します。

“パワー”スイッチを押すごとに、スイッチが

ＯＦＦ⇒アクセサリーモード⇒ＯＮ モード⇒ＯＦＦ…

の順に切り替わります。

●アクセサリーモード、ＯＮ モードのときは作動表示灯が橙色に点灯します。

●ＯＮ モード⇒ＯＦＦは車両が停止しているときに切り替わります。

●“パワー”スイッチを早く押すと、切り替わらないことがあります。目的のスイッチの状態になるまで、１回ごとに確実に押してください。

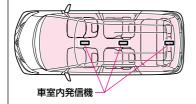
●シフトレバーがⓅ以外のときはＯＦＦになりません。

“パワー”スイッチの状態	作動表示灯の色	ハイブリッドシステムの状態	各状態の働き
OFF	消灯	停止	電装品が停止している状態です。
アクセサリーモード	橙色	停止	オーディオなどの電装品が使用できます。
ＯＮ モード	橙色	停止	すべての電装品が使用できます。
	消灯	作動中	すべての電装品が使用できます。 通常運転中の状態です。

“ パワー ” スイッチがＯＮ モードまたはアクセサリーモードのまま長時間放置しないでください。

●“ パワー ” スイッチがＯＮ モードまたはアクセサリーモードのまま長時間放置すると、補機バッテリーあがりの原因となります。
●“ パワー ” スイッチに引っ掛かりがあるときは、スイッチを操作せず、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
●“ パワー ” スイッチを油などのついた手でさわらないようにしてください。
●“ パワー ” スイッチに飲料水などをこぼさないよう注意してください。万一、こぼしたあと異常を感じたら、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
●炎天下で長時間車両を放置すると、“ パワー ” スイッチの表面が熱くなっている場合があります。やけどをしないよう気をつけてください。
●車幅灯が点灯しても、“ パワー ” スイッチ照明が点灯しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

作動範囲について

車室内発信機の検知エリア内（車両室内）
●車外でもドアガラスに近づきすぎた場合などは“ パワー ” スイッチの切り替えが可能となることがあります。

検知エリア
車両室内

作動条件について

●車室内発信機の検知エリア内（車両室内）に電子キーがないと判断すると、“ パワー ” スイッチを切り替えることができません。この場合、スイッチを押すと、キーなし警告が鳴ります。(P.151参照)
●電子キーをインストルメントパネル上、フロア上、収納スペース内（P.448参照）、フロントカップホルダー内（P.454参照）などに置かないでください。“ パワー ” スイッチが切り替わらないことや、キーなし警告が鳴ることがあります。
●電波の状況が悪いときや電池が切れたときは、スマートエントリー ＆ スタートシステムで “ パワー ” スイッチを切り替えることはできません。この場合は、P.160の「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。
●電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。
●車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。
●“ パワー ” スイッチを操作するときは、奥まで確実に押してください。
●“ パワー ” スイッチを早押しした場合、スイッチが切り替わらないことがあります。

知識

盗難防止システムについて

盗難防止システムにより“パワー”スイッチが切り替わらないことがあります。（P.501参照）

便利機能について

オートＯＦＦ機能

シフトレバーがⓅにあるとき“パワー”スイッチをアクセサリーモードにした状態で約1時間放置すると、補機バッテリーあがり防止のために、自動的にスイッチがＯＦＦになります。

補機バッテリー脱着時について

車両は常に“パワー”スイッチの状態（アクセサリーモードまたはＯＮ モード）を記憶しているため、補機バッテリーを再接続したときは、補機バッテリーをはずす前のスイッチの状態に復帰します。修理などで補機バッテリーをはずすときは、必ずスイッチをＯＦＦにしてから行ってください。

補機バッテリーあがり時に、補機バッテリーがあがる前のスイッチの状態がわからないときは、とくに注意してください。

ハイブリッドシステム始動のしかた

1 **電子キーを携帯し、運転席に座ります。**

2 **ペダルの位置を確認します。**

正しい運転姿勢（P.211参照）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。

ブレーキペダル

3 **ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキがかかっていることを確認します。**

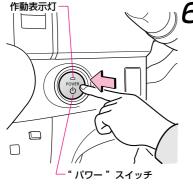
4 **シフトレバーの位置を確認します。**

シフトレバーが🅟にあることを確認します。

5 **ブレーキペダルをしっかり踏みます。**

“ パワー ” スイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。

●作動表示灯が点灯するまで強く踏んでください。

●作動表示灯が緑色に点灯していないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

6 ブレーキペダルを踏みながら“パワー”スイッチを押して、ハイブリッドシステムを始動します。

ハイブリッドシステムが始動すると、作動表示灯は消灯します。

●ハイブリッドシステムが正常に作動するまで、ブレーキペダルを踏み続けてください。

- メーター内の READY （走行可能表示灯）が点滅し、間もなく点灯に変わると同時に、“ピッ”と音がすれば、ハイブリッドシステムは正常に作動しています。

●ブレーキペダルを踏みながら“パワー”スイッチを押せば、どのスイッチの状態からでもハイブリッドシステムを始動することができます。

● READY が点灯していれば、ガソリンエンジンが始動していなくても走行できます。

●車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。

●ハイブリッドシステムが始動しない場合は、ブレーキペダルを踏まずに“パワー”スイッチを押して、一度スイッチをＯＦＦにしたあと、ブレーキペダルをさらに強く踏みながらもう一度スイッチを押してください。

ハイブリッドシステム停止のしかた

車両を完全に停止させ、シフトレバーをⓅに入れて“パワー”スイッチを押します。スイッチがＯＦＦになり、ハイブリッドシステムが停止します。

●シフトレバーがⓅ以外でハイブリッドシステムを停止しないでください。万一、シフトレバーがⓅ以外でハイブリッドシステムを停止した場合、“パワー”スイッチがアクセサリーモードになります。そのときは、シフトレバーをⓅに入れスイッチを2回押して、スイッチをＯＦＦにします。（確実にスイッチがＯＦＦになっていることを確認してください。）

車外からのハイブリッドシステムの始動は絶対に行わないでください。

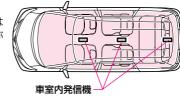
●車外からのハイブリッドシステムの始動は絶対に行わないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。
●走行中は、“ パワー ”スイッチにさわらないでください。誤ってスイッチを押し続け、ハイブリッドシステムが停止すると、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●車を少し移動させるときも、必ずハイブリッドシステムを始動してください。ハイブリッドシステムをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●ハイブリッドシステムの始動操作をしたときに、“ パワー ”スイッチの作動表示灯が緑色に点滅したときは、絶対に車両を走行させないでください。ステアリングロックが解除されていないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

“ パワー ”スイッチの作動表示灯が橙色に点滅しているときは、システムの異常が考えられます。

●“ パワー ”スイッチの作動表示灯が橙色に点滅しているときは、システムの異常が考えられます。いったんスイッチをＯＦＦにすると、ハイブリッドシステムを再始動できなくなることがありますので、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
●走行中、ハイブリッドシステムの停止などで車両が滑走状態になったときは、安全な状態で車両が停止するまで、ドアを開けたりしないでください。ステアリングロックが作動する可能性があり危険です。安全な場所に停車させたあと、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
●“ パワー ”スイッチに引っ掛かりがあるときは、スイッチを操作せず、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
●“ パワー ”スイッチを油などのついた手でさわらないようにしてください。
●“ パワー ”スイッチに飲料水などをこぼさないよう注意してください。万一、こぼしたあと異常を感じたら、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
●炎天下で長時間車両を放置すると、“ パワー ”スイッチの表面が熱くなっている場合があります。やけどをしないよう気をつけてください。
●車幅灯が点灯しても、“ パワー ”スイッチ照明が点灯しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

作動範囲について

車室内発信機の検知エリア内（車両室内）
- 車外でもドアガラスに近づきすぎた場合などはハイブリッドシステムの始動が可能となることがあります。

ハイブリッドシステムについて

- 外気温が低いときには、ハイブリッドシステム始動時に READY （走行可能表示灯）の点滅時間が長くなることがあります。 READY が点灯すれば走行可能になりますので、点灯するまでそのままお待ちください。
- 補機バッテリーを再接続したときなどに、“ パワー ” スイッチを一度押すだけではハイブリッドシステムが始動しないことがあります。その場合は、再度スイッチを押してください。

ハイブリッドシステムの緊急停止について

走行中、“ パワー ” スイッチを約3秒以上押し続けると、ハイブリッドシステムを停止することができます。緊急時以外は走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。
- “ パワー ” スイッチはアクセサリーモードになります。
- この状態ではオートＯＦＦ機能は作動しません。（P.141参照）

ハイブリッドシステムの緊急始動について

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、シフトレバーをⓅにしてから、“ パワー ” スイッチの状態をアクセサリーモードにしてブレーキを踏み、スイッチを約15秒以上押し続けると、ハイブリッドシステムが始動する場合があります。
- 緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

高電圧リレーの音について

ハイブリッドシステム始動時および停止時に、駆動用電池付近から“コトン”、“カチッ”などの音が聞こえることがあります。これは、高電圧リレーの音で、異常ではありません。

作動条件について

- 車室内発信機の検知エリア内（車両室内）に電子キーがないと判断すると、ハイブリッドシステムを始動することはできません。この場合、“ パワー ” スイッチを押すと、キーなし警告が鳴ります。（P.151参照）
- 電子キーをインストルメントパネル上、フロア上、収納スペース内（P.448参照）、フロントカップホルダー内（P.454参照）などに置かないでください。ハイブリッドシステムが始動しないことがあります。また、始動していてもキーなし警告（P.151参照）が鳴ることがあります。その場合は、電子キーの所在を確認してください。

知 識

作動条件について

●電波の状況が悪いときや電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー ＆ スタートシステムでハイブリッドシステムを始動することはできません。この場合は、Ｐ.160の「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。

●ハイブリッドシステム始動操作をしたときに、ハイブリッドシステムが始動せず、“ パワー ”スイッチの作動表示灯が緑色に点滅しているときは、ハンドルの負荷により、ステアリングロックが解除されていません。ハンドルを左右に動かしながら、ブレーキペダルを踏み、スイッチを押し直してください。

●ハイブリッドシステムの始動と停止を短い間隔で繰り返した直後は、ハイブリッドシステムを始動できない場合があります。この場合は約10秒以上待ってから再びハイブリッドシステムの始動操作をしてください。

●車両の補機バッテリーがあがっている場合はステアリングロックが作動しないので注意してください。

●電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。

●車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。

●“ パワー ”スイッチを操作するときは、奥まで確実に押してください。

●“ パワー ”スイッチを早押しした場合、ハイブリッドシステムが始動・停止しないことがあります。

盗難防止システムについて

盗難防止システムにより、ハイブリッドシステムが始動しないことがあります。（P.501参照）

節電機能

車室外発信機の検知エリア内（フロントドア、バックドア）に長時間電子キーを放置していると、電子キーと車両が定期的に通信を行うため、電子キーおよび車両の補機バッテリーがあがるおそれがあります。
そのため、電子キーおよび車両の補機バッテリーあがりを防止するため、次のときはスマートエントリー ＆ スタートシステムが自動で停止します。

●14日以上、電子キーから応答がないとき
●10分以上、車室外発信機の検知エリア内に電子キーがあるとき

スマートエントリー ＆ スタートシステムを復帰させるには、次のいずれかの操作を行ってください。

●車両に近づいて電子キーのワイヤレスドアロックリモコンスイッチを押す。
●フロントドアハンドル、またはバックドアのロックスイッチを押し、施錠操作をする。

警報・防止機能および警告表示

スマートエントリー ＆ スタートシステムでは、予期せぬ車両の動き出し、車両盗難などをふせぐため、警報音を鳴らしたり、マルチインフォメーションディスプレイへの警告表示、スマートエントリー＆スタートシステム警告灯の点灯、“ パワー ” スイッチの作動表示灯の点滅で注意をうながします。
警報音が鳴ったり、警告の表示が点灯したときは、必ず車両および電子キーの確認を行ってください。

警報音による防止機能

■電源切り忘れ防止機能

車内警報音
ピー、ピー・・・（断続吹鳴）

“ パワー ” スイッチの切り忘れをお知らせしています。

“ パワー ” スイッチがアクセサリーモードのとき、シフトレバーが🅿で運転席ドアを開けると、スイッチの切り忘れを警告する車内警報音が “ピー、ピー…” と鳴ります。ただし、スイッチがＯＮ モードのときは鳴りません。
また、スイッチがＯＦＦのときにステアリングがロックされていないときにも車内警報音が鳴ります。
警報が鳴ったら、スイッチをＯＦＦにして運転席ドアを閉めてください。

車内警報音
ピー（連続吹鳴）

“ パワー ” スイッチの切り忘れをお知らせしています。

“ パワー ” スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーが🅿以外のとき運転席ドアを開けると、スイッチの切り忘れを警告する車内警報音が “ピー” と鳴ります。
警報が鳴ったら、シフトレバーを🅿に入れてください。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

車外警報音 ピー（約60秒間連続吹鳴）	“ パワー ” スイッチの切り忘れをお知らせしています。

“ パワー ” スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅのときすべてのドアを閉め、スマートエントリー&スタートシステムを使ってフロントドアハンドル、またはバックドアのロックスイッチを押して施錠しようとするとスイッチの切り忘れを警告する車外警報音が“ピー”と約60秒間鳴り、施錠することができません。
警報が鳴ったら、スイッチをＯＦＦにしてください。

■半ドア警報

車外警報音 ピー（約10秒間連続吹鳴）	いずれかのドアが開いていることをお知らせしています。

“ パワー ” スイッチがＯＦＦのとき、いずれかのドア（バックドアを含む）が開いている状態で、スマートエントリー&スタートシステムを使ってフロントドアハンドル、またはバックドアのロックスイッチを押すと、車外警報音が“ピー”と約10秒間連続して鳴ります。次のいずれかの方法で警報音が止まります。
●すべてのドアを閉めます。
●電子キーの🔓スイッチを押します。
警報が鳴ったら、すべてのドアを閉めてから、もう一度ドアロック操作をしてください。

知識

半ドア警報について

ドア（バックドアを含む）を開閉するときにロックスイッチに触れると、半ドア警報が作動します。ドアを開閉するときはロックスイッチに触れないでください。

■キー閉じ込み防止機能

車外警報音
ピー（約2秒間連続吹鳴）

“ パワー ”スイッチがＯＦＦのとき、車内に電子キーを置いたまま、すべてのドアを閉め、スマートエントリー＆スタートシステムを使ってフロントドアハンドル、またはバックドアのロックスイッチを押して施錠しようとしても車外警報音が“ピー”と約2秒間鳴り、施錠することができません。
警報が鳴ったら、車内にある電子キーを携帯して、もう一度ドアロック操作をしてください。

知 識

キー閉じ込み防止機能について

●電子キーをインストルメントパネル上、フロア上、収納スペース内（P.448参照）、フロントカップホルダー内（P.454参照）などに置いた場合、キー閉じ込み防止機能が作動しないことがあります。
●電子キーが車外にあっても、ドアガラスやドアハンドルに近づけすぎた場合、キー閉じ込み防止機能が作動することがあります。

警告灯・警報音・警告表示による防止機能

スマートエントリー＆スタートシステム警告灯
マスターウォーニング※
マルチインフォメーションディスプレイ

車内に電子キーがないときなど、以下の状態のときに警報音が鳴り、スマートエントリー＆スタートシステム警告灯が点灯し、同時にマルチインフォメーションディスプレイに警告内容が表示され⚠（マスターウォーニング）が点滅ます。

●車内にキーがないとき（キーなし警告）。
●“パワー”スイッチがＯＦＦ以外でシフトレバーがⓅ以外で運転席ドアを開けたとき（シフトレバー位置警告）。
●キーのバッテリーが低下していると判断したとき（キーバッテリー低下警告※）。

※　キーバッテリー低下警告はスマートエントリー＆スタートシステム警告灯は点灯しません。

■キーなし警告

キーが
見つかりません

左記の表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

以下のとき、車内に電子キーがないことをお知らせします。

●“パワー”スイッチを押して、車室内でのＩＤコードの照合により電子キーが車内にないと判断したとき。
- スマートエントリー＆スタートシステム警告灯・警告表示が最大約8秒間点灯・表示します。
- 車内警報音 “ピー（1回吹鳴）”も同時に鳴ります。

● “ パワー ” スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅにあるときに運転席ドアが開閉され、車室内でのＩＤコードの照合により、電子キーが車内にないと判断したとき。

- 車内警報音 “ピー（1回吹鳴）”、車外警報音 “ピッ、ピッ、ピッ（3回吹鳴）” も同時に鳴ります。

次のいずれかの方法で警報音が止まります。

- 電子キーを車内に入れる。（車室内でのＩＤコードが照合され、電子キーが車内にあると判断したとき）
- “ パワー ” スイッチをＯＦＦにする。

● “ パワー ” スイッチがＯＦＦ以外で、運転席ドア以外のドアが開閉され、車室内でのＩＤコードの照合により、電子キーが車内にないと判断したとき。

- 車内警報音 “ピー（1回吹鳴）”、車外警報音 “ピッ、ピッ、ピッ（3回吹鳴）” も同時に鳴ります。

次のいずれかの方法で警報音が止まります。

- 電子キーを車内に入れる。（車室内でのＩＤコードが照合され、電子キーが車内にあると判断したとき）
- “ パワー ” スイッチをＯＦＦにする。

● “ パワー ” スイッチがＯＦＦ以外でシフトレバーがⓅ以外で、運転席ドアが開閉され、車室内でのＩＤコードの照合により、電子キーが車内にないと判断したとき。

- 車内警報音 “ピー（連続吹鳴）”、車外警報音 “ピー（連続吹鳴）” も同時に連続して鳴ります。
- Pレンジに入れてください も交互に表示されます。

次のいずれかの方法で警報音が止まります。

- 電子キーを車内に入れる。（車室内でのＩＤコードが照合され、電子キーが車内にあると判断したとき）
- シフトレバーをⓅにして、“ パワー ” スイッチをＯＦＦにする。

■シフトレバー位置警告

Pレンジに
入れて下さい

左記の表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

“ パワー ” スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅ以外で、運転席ドアを開けると表示されます。

● 車内警報音 “ピー（連続吹鳴）”も同時に連続して鳴ります。
このとき、キーを持って車外に出てドアを閉めると 車外警報音 “ピー（連続吹鳴）”が連続して鳴ります。
- キーが見つかりません も交互に表示されます。

次のいずれかの方法で警報音が止まります。
- 電子キーを車内に入れる。（車室内でのＩＤコードが照合され、電子キーが車内にあると判断したとき）
- シフトレバーをⓅにして、“ パワー ” スイッチをＯＦＦにする。

知 識

車内警報音について

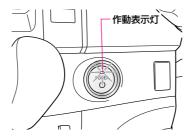
走行開始までに車室内でのＩＤコードの照合により、車内に電子キーがないと判断したときは、走行開始時に再度警報音が鳴ります。

■キーバッテリー低下警告

キーバッテリー
残りわずか

左記の表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

“ パワー ” スイッチをＯＮ モードにしてから約20分以上経過し、その後スイッチをＯＦＦにしたときに、電子キーのバッテリー電圧が低下していると判断したときにお知らせしています。
- 警告表示は、約5秒間表示されます。
- 車内警報音 “ピー（1回吹鳴）”が鳴ります。
- スマートエントリー＆スタートシステム警告灯は点灯しません。
- 警報音が鳴った、または警告が表示されたら、電子キーのバッテリー（電池）を交換してください。（P.539参照）

作動表示灯による防止機能

■電源システム異常警告

“パワー”スイッチシステムの異常を検知すると、スイッチの作動表示灯が橙色に点滅します。

作動表示灯が点滅したときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ステアリングロック未解除警告

ハイブリッドシステム始動操作時、ステアリングロックが解除されず、ハイブリッドシステムが始動しなかったときは、“パワー”スイッチの作動表示灯が15秒間緑色に点滅します。

ステアリング
ロック
未解除

左記の表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

警告表示について

●スマートエントリー＆スタートシステムが作動しない状態でも異常があれば表示されます。

●“パワー”スイッチを押してハイブリッドシステムを始動したときに表示が消えます。ハイブリッドシステムが始動しないときは、ハンドルを軽く左右にまわしながら、ブレーキペダルを踏み、スイッチを押しなおします。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

■ステアリングロックシステム確認警告

ステアリングロックのシステムに異常を検知すると、“ パワー ” スイッチの作動表示灯が橙色に点滅します。

左記の表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

作動表示灯が点滅し、警告表示がでたときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

警告表示について

スマートエントリー&スタートシステムが作動しない状態でも異常があれば表示されます。

警報音・警告灯・警告表示・作動表示灯の作動一覧表

■警報音・警告灯・警告表示の作動一覧表

<table>
<tr><th rowspan="2">車内警報音</th><th rowspan="2">車外警報音</th><th>警告表示</th><th rowspan="2">状　況</th></tr>
<tr><th>警告灯</th></tr>
<tr><td>ピー、
ピー…
（断続吹鳴）</td><td>—</td><td>—</td><td>■電源切り忘れ防止機能（P.148参照）
“パワー”スイッチがアクセサリーモードで、シフトレバーがⓅのとき、運転席ドアを開けた。</td></tr>
<tr><td>—</td><td>ピー
（約2秒間吹鳴）</td><td>—</td><td>■キー閉じ込み防止機能（P.150参照）
“パワー”スイッチがＯＦＦのとき、電子キーを車内に置き忘れた状態でロックスイッチを押した。</td></tr>
<tr><td>—</td><td>ピー
（約60秒間吹鳴）</td><td>—</td><td>■電源切り忘れ防止機能（P.149参照）
“パワー”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅのとき、ロックスイッチを押した。</td></tr>
<tr><td>ピー
（連続吹鳴）</td><td>—</td><td>—</td><td>■電源切り忘れ防止機能（P.148参照）
“パワー”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅ以外のとき、運転席ドアを開けた。</td></tr>
<tr><td>—</td><td>ピー
（約10秒間吹鳴）</td><td>—</td><td>■半ドア警報（P.149参照）
“パワー”スイッチがＯＦＦのとき、いずれかのドアが半ドアの状態または、ドアを開閉中にロックスイッチを押した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ピー
（1回吹鳴）</td><td rowspan="2">—</td><td>表示</td><td rowspan="2">■キーバッテリー低下警告（P.153参照）
電子キーのバッテリー電圧が低下した。</td></tr>
<tr><td>—</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ピー
（連続吹鳴）</td><td rowspan="2">ピー
（連続吹鳴）</td><td>表示</td><td rowspan="2">■キーなし警告（P.151参照）
■シフトレバー位置警告（P.153参照）
“パワー”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅ以外のとき、運転席ドアを開けて電子キーを車外に持ち出した。</td></tr>
<tr><td>点灯</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ピー
（1回吹鳴）</td><td rowspan="2">—</td><td>表示（最大約8秒間）</td><td rowspan="2">■キーなし警告（P.151参照）
“パワー”スイッチを押したとき、車室内のＩＤコード照合で、電子キーがないと判断した。</td></tr>
<tr><td>点灯（最大約8秒間）</td></tr>
</table>

■警報音・警告灯・警告表示の作動一覧表

車内警報音	車外警報音	警告表示 警告灯	状　況
ピー （1回吹鳴）	ピッ、ピッ、ピッ （3回吹鳴）	表示 点灯	**■キーなし警告（P.152参照）** “パワー”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅのとき、運転席ドアを開けて電子キーを車外に持ち出した（ドアを閉めた）。
ピー （1回吹鳴）	ピッ、ピッ、ピッ （3回吹鳴）	表示 点灯	**■キーなし警告（P.152参照）** “パワー”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅのとき、運転席以外のドアを開けて電子キーを車外に持ち出した（ドアを閉めた）。

■作動表示灯・警告表示の作動一覧表

“パワー”スイッチ 作動表示灯	警告表示	状況
緑色に点滅 （約15秒間）	表示	**■ステアリングロック未解除警告（P.154参照）** ハイブリッドシステム始動操作時にステアリングロックが解除されず、ハイブリッドシステムが始動しなかった。
橙色に点滅	表示	**■ステアリングロックシステム確認警告（P.155参照）** ステアリングロックシステムの異常を検知した。
橙色に点滅	－	**■電源システム異常警告（P.154参照）** 電源システムの異常を検知した。

こんなときは

ここでは、様々な「こんなときは」の場面を想定して、操作および対処方法の例を記載しています。スマートエントリー ＆ スタートシステムを扱ううえでの参考にしてください。

警報音が鳴っているときは／警告灯が点灯しているときは

P.148の「警報・防止機能および警告表示」を参照して該当する指示にしたがってください。

スマートエントリー ＆ スタートシステムが作動しないときは

以下のことを確認してください。

●電子キーが通信できない状況にある。（P.129参照）

●電子キーのバッテリー（電池）がない。

●節電機能が働いている。（P.147参照）

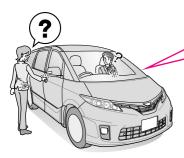
ガソリンスタンドやお店などで車から離れるときは

“ パワー ” スイッチをＯＦＦにして、電子キーを携帯し、ドアを施錠してください。

●必ず施錠されていることを確認してください。

正規の別の電子キーを携帯した人が乗車するときは

スマートエントリー ＆ スタートシステムでの解錠ができないときは、ワイヤレスドアロックリモコン（P.200参照）またはメカニカルキー（P.160参照）を使って解錠してください。

正規の別の電子キーを携帯した人が乗車しているときは

スマートエントリー ＆ スタートシステムでの施錠ができません。
車外から施錠するときは、ワイヤレスドアロックリモコン（P.200参照）またはメカニカルキー（P.160参照）を使って施錠してください。

ハイブリッドシステム始動操作後に作動表示灯が緑色に点滅しているときは

ハイブリッドシステム始動操作をしたときに、ハイブリッドシステムが始動せず“パワー”スイッチの作動表示灯が緑色に点滅しているときは、ハンドルの負荷によりステアリングロックが解除されていません。
ハンドルを軽く左右にまわしながら、ハイブリッドシステム始動操作をしてください。

電子キーが正常に作動しないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（P.129参照）、電子キーのバッテリーが切れたときは、スマートエントリー ＆ スタートシステム、ワイヤレスドアロックリモコンが使用できなくなります。

運転席ドアの施錠・解錠のしかた

電子キーに内蔵されているメカニカルキーを使用して、運転席ドアを施錠・解錠します。

■メカニカルキーの取り出し方

ノブのキーマークのある側を押しながら、メカニカルキーを取り出します。

■メカニカルキーの格納のしかた

メカニカルキーを図のように差し込みます。

■メカニカルキーでの施錠・解錠のしかた

前にまわすと施錠、うしろにまわすと解錠されます。

●すべてのドア（バックドアを含む）の施錠、解錠が同時にできます。

知 識

メカニカルキーについて

●メカニカルキーを使用したときは、必ず電子キーに格納しておいてください。電子キーの電池が切れたときや、スマートエントリー ＆ スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。

●メカニカルキーを使用する方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（P.539参照）

“ パワー ” スイッチの切り替え方

“ パワー ” スイッチに電子キーの㊉（トヨタマーク）のある面で触れることで、スイッチの切り替えが可能になります。
P.139の「“ パワー ” スイッチの切り替え方」を併せてお読みください。

1 **ブレーキペダルを踏みます。**

2 **電子キーの㊉（トヨタマーク）のある面で“ パワー ” スイッチに触れます。**

電子キーを認識すると、ブザー音が鳴り、作動表示灯が緑色に点灯します。

3 **電子キー認識後、約5秒以内にすべてのペダルから足を離して、“ パワー ” スイッチを押します。**

“ パワー ” スイッチを押すごとに、スイッチが

アクセサリーモード⇒ＯＮ モード⇒ＯＦＦ

の順に切り替わります。

知 識

“ パワー ” スイッチの切り替えについて

●いったん “ パワー ” スイッチをＯＦＦにすると、スイッチを押してもスイッチの切り替えができません。もう一度はじめから操作してください。
●電子キー認識後、約5秒以上たってから “ パワー ” スイッチを押しても、スイッチは切り替わりません。もう一度はじめから操作してください。
● “ パワー ” スイッチに触れるスイッチの切り替え方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（P.539参照）

“ パワー ” スイッチ切り替え時の警報について

“ パワー ” スイッチ切り替え時に、いずれかのドアを開閉すると、警報が鳴りますが異常ではありません。

ハイブリッドシステム始動のしかた

“パワー”スイッチに電子キーの🅣（トヨタマーク）のある面で触れることで、ハイブリッドシステムの始動が可能になります。
P.142「ハイブリッドシステム始動・停止のしかた」を併せてお読みください。

1 **ブレーキペダルを踏みながら、電子キーの🅣（トヨタマーク）のある面で“パワー”スイッチに触れます。**

電子キーを認識すると、ブザー音が鳴り、作動表示灯が緑色に点灯します。

2 **電子キー認識後、約5秒以内にブレーキペダルを踏んだまま“パワー”スイッチを押します。**

- ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込まないと、ハイブリッドシステムが始動しないようになっています。
- ハイブリッドシステムが始動すると、作動表示灯は消灯します。
- ハイブリッドシステムが始動しない場合は、ブレーキペダルを踏まずに“パワー”スイッチを押して、一度スイッチをＯＦＦにしたあと、ブレーキペダルをさらに強く踏みながら、もう一度手順***1***からやりなおしてください。

■ハイブリッドシステム停止のしかた

通常のハイブリッドシステムの停止のしかたと同様です。（P.143参照）

知識

ハイブリッドシステムの始動について

- 電子キー認識後、約5秒以上たってから“ パワー ”スイッチを押しても、ハイブリッドシステムは始動しません。もう一度はじめから操作してください。
- “ パワー ”スイッチに触れるハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。

ハイブリッドシステム始動時の警報について

ハイブリッドシステム始動時に、いずれかのドアを開閉すると、警報が鳴りますが異常ではありません。

ドア・ドアガラスなどの開閉

フロントドアの開閉

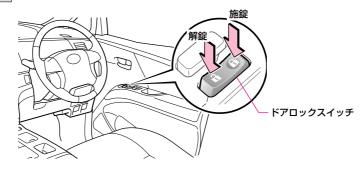
スマート機能を使った施錠・解錠のしかた

P.132の「スマートエントリー&スタートシステム」の「ドアの施錠・解錠のしかた」を参照してください。

メカニカルキーでの施錠・解錠のしかた

P.160の「電子キーが正常に作動しないときは」の「運転席ドアの施錠・解錠のしかた」を参照してください。

ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた

運転席ドア

スイッチの右側を押すと施錠、左側を押すと解錠されます。
●すべてのドア（バックドアを含む）の施錠・解錠が同時にできます。

知識

作動条件について

●“パワー”スイッチの状態に関係なく使用できます。
●ドアロックスイッチを押し続けると、作動しないことがあります。いったんスイッチから指を離し、押しなおしてください。

セキュリティ機能について

車両盗難などを防ぐため、ドアロックスイッチでの解錠作動を停止する機能です。
（窓枠とドアガラスのすき間からドアロックスイッチを押して解錠されるのを防止します。）
以下の方法で施錠したとき自動的に機能します。
●ドアにキーを差し込んでの施錠（P.160参照）
●ワイヤレスドアロックリモコンを使っての施錠（P.200参照）
●ワイヤレスドアロックリモコンで解錠したあとドアを開けなかったときの約30秒後の自動施錠（P.203参照）
●スマート機能による施錠（P.132参照）
●スマート機能で解錠したあとドアを開けなかったときの約30秒後の自動施錠（P.134参照）
●ロックレバーを使っての施錠（P.167参照）

便利機能について

車速感応オートドアロック
車速が約20㎞/ｈ以上になると、すべてのドアが自動的に施錠されます。
●この機能を解除することもできます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

衝撃感知ドアロック解除システム
車両が前後左右から強い衝撃を受けると、自動的にすべてのドアのロックが解除されます。
●ＳＲＳエアバッグが作動しないような弱い衝撃のときや、事故の形態によっては作動しないことがあります。

知識

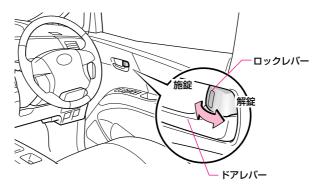
ユーザーカスタマイズについて

ドアロックスイッチの各機能の設定をお客様のご希望により変更することができます。
すべてのドアを閉め、“ パワー ”スイッチをＯＦＦまたはアクセサリーモードからＯＮ モードにして、約10秒以内に下表の変更方法にしたがってシフトレバーとドアロックスイッチを操作してください。

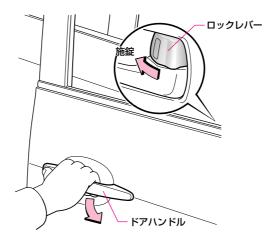
●下表の変更方法にしたがって操作するたびに、各機能の設定が有効・無効に切り替わります。（現状の各機能の設定が有効ならば無効に、無効ならば有効に切り替わります。）
●変更操作が完了すると、施錠・解錠動作が1回繰り返されます。

機能	内容	変更方法	
		シフトレバー位置	ドアロックスイッチ
シフト連動 オートロック※	READY（走行可能表示灯）点灯中で、すべてのドアが閉まっているとき、シフトレバーをⓅからⓅ以外にすると、すべてのドアを施錠する。	Ⓟの位置	スイッチの施錠側を約5秒押して離す。
シフト連動 オートアンロック	“ パワー ”スイッチがＯＮ モードで、シフトレバーをⓅ以外からⓅにすると、すべてのドアを解錠する。		スイッチの解錠側を約5秒押して離す。
車速感応 オートドアロック	車速が約20㎞/h以上になるとすべてのドアを施錠する。	Ⓟ以外の位置	スイッチの施錠側を約5秒押して離す。

※の機能は、初期設定（工場出荷時）では無効に設定されています。

ロックレバーでの施錠・解錠のしかた

■車内での施錠・解錠

ロックレバーを前方に押し込むと施錠、後方に引き出すと解錠されます。

■車外からの施錠のしかた

ロックレバーを施錠側にして、ドアハンドルを引いたままドアを閉めます。

 知 識

便利機能について

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと、ドアが開きます。

ワイヤレスドアロックリモコンでの施錠・解錠のしかた

P.200の「ワイヤレスドアロックリモコンの使い方」を参照してください。

警告　走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。

- ●走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●走行中はドアレバーを引かないでください。
  ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- ●お子さまにドアの操作をさせないでください。
  - •閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - •走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

知識

便利機能について

イルミネーテッドエントリーシステム（P.446参照）
ドアの状態や“パワー”スイッチ、シフトレバーの位置によって各部の照明が点灯・消灯します。

乗車中の施錠・解錠の効果について

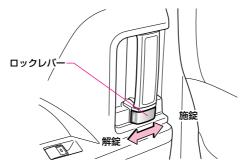
乗車中の施錠、解錠についてはそれぞれ次のような効果がありますので、選択してください。

〈乗車中、施錠している場合〉
●同乗者が誤ってドアを開けることを防ぎます。
●車外からの不意の侵入者を防ぎます。
●シートベルトの着用と併せて、事故時に車外に投げ出される可能性が少なくなります。

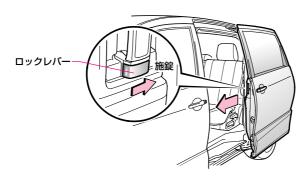
〈乗車中、解錠している場合〉
●万一の場合に車外からの救援活動が受けやすくなります。

車から離れるときは必ずハイブリッドシステムを停止し、施錠することが法律で義務づけられています。また車両盗難や車内の物を盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。

スライドドアの開閉

ロックレバーでの施錠・解錠のしかた

■車内での施錠・解錠

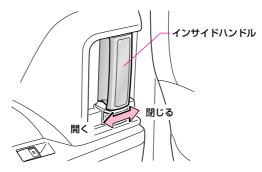
ロックレバーを前方に押すと施錠、後方に引くと解錠されます。

■車外からの施錠

ロックレバーを施錠側にして、ドアを閉めます。

施錠・解錠について

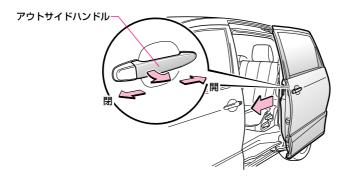
ワイヤレスドアロックリモコンスイッチや運転席ドアにあるキーシリンダー、ドアロックスイッチ、スマートエントリー＆スタートシステムにより、全ドアの施錠・解錠を行うことができます。P.200の「ワイヤレスドアロックリモコンの使い方」、P.160の「メカニカルキーでの施錠・解錠のしかた」、P.164の「ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた」、P.132の「ドアの施錠・解錠のしかた」を参照してください。

開閉のしかた

■車内からの開閉

スライドドアを動かしたい方向にインサイドハンドルを操作します。

●ロックレバーが施錠側のときは（前ページ参照）スライドドアは開けられません。

●チャイルドプロテクターレバーが施錠側のときは（P.181参照）スライドドアは開けられません。

■車外からの開閉

開けるときは、アウトサイドハンドルを引いてスライドドアを車両後方に操作します。

閉めるときは、アウトサイドハンドルを引いてストッパーを解除させてから、スライドドアを車両前方に操作します。

●ロックレバーが施錠側のときは（前ページ参照）スライドドアは開けられません。

スライドドアを開閉するときは、次のことをお守りください。

●走行中は以下のことをお守りください。お守りいただかないと思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトを必ず着用してください。
- 全てのドアを施錠してください。
- 全てのドアを確実に閉めてください。
- 走行中はドア内側のドアハンドルを操作しないでください。
- お子さまを乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用してドアが開かないようにしてください。

●お子さまを乗せているときは以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- お子さまを車内に残さないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。不意にスライドドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

●スライドドアの操作にあたっては、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・足・頭などを出さないでください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 半開状態ではスライドドアが静止しないため、必ず全開にしてください。傾斜地での停車時にドアが開いていると、突然動き出すおそれがあります。
- 坂道ではスライドドアの開閉スピードが早くなります。ドアが体に当たったり挟んだりしないよう、注意してください。
- 下り坂での停車時に乗りおりするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。ドアが突然動き出すおそれがあります。
- スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

注意 スライドドアを開閉する前に付近の状態を必ず確認してください。

●スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。
●走行するときやドアを開閉するときは、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。
●スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないよう注意してください。異物が入り込んだまままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。

知識

安全機能について

中間ストッパー

●スライドドアのドアガラスが大きく開いていたり、フューエルリッド（燃料補給口）が開いていると、スライドドアは途中までしか開きません。
（中間ストッパー位置で停止します。）
●中間ストッパー位置で停止したスライドドアを全開にするときは、ドアガラスおよびフューエルリッドを閉じ、ドアガラスが開いている場合はいったんスライドドアを全閉にしてから再度ドアを開けてください。

知識

開閉について

傾斜した場所では、平坦な場所よりもドアの開閉がしにくかったり、急に開閉してしまう場合があります。

スライドドアイージークローザー

スライドドアを半ドアの位置まで閉じると、イージークローザーが働き、自動的に全閉になります。イージークローザーは“ パワー ”スイッチの状態に関係なく作動します。

半ドア状態のときイージークローザーが働きスライドドアが自動的に閉まるため、指などを挟まないように注意してください。

●半ドア状態のときイージークローザーが働きスライドドアが自動的に閉まるため、指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●半ドア状態からイージークローザーが作動するまでに数秒かかります。指などをドアの間に挟まないでください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●イージークローザーは、パワースライドドアのメインスイッチがＯＦＦのときにも作動します。

●ロックレバーやチャイルドプロテクターレバー（P.181参照）が施錠側のとき、イージークローザー作動中にインサイドハンドルを引いても作動は停止しません。指などを挟まれないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。

●イージークローザーの故障を防ぐためにイージークローザーの作動中はスライドドアに無理な力をかけないでください。

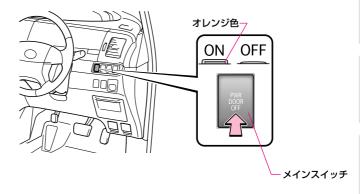
●ドアの開け閉めを短時間に繰り返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、1度ドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

知識

スライドドアイージークローザーについて

スライドドアを半ドアの位置まで閉めると、イージークローザーが働き、自動的に全閉になります。“パワー”スイッチの状態に関係なく作動します。
●イージークローザーの作動中でもインサイドハンドル、アウトサイドハンドル（P.171参照）を引くことによりドアを開けることができます。（ロックレバー、またはチャイルドプロテクターが施錠側のときは除く。）
●スライドドアハンドルを引いたままドアを閉めるとイージークローザーは作動しないことがあります。
●イージークローザーを使わずに手動でドアを全閉にすることもできます。

パワースライドドアの自動開閉のしかた

■メインスイッチ

メインスイッチを押すごとに、ＯＮとＯＦＦに切り替わります。
●メインスイッチがＯＦＦのときは、パワースライドドアを自動で開閉させることはできません。

知識

メインスイッチについて

●メインスイッチがＯＦＦのときでもイージークローザーは作動します。（前ページ参照）
●メインスイッチをＯＦＦにすると、同時にパワーバックドア（P.188参照）も自動で開閉できなくなります。

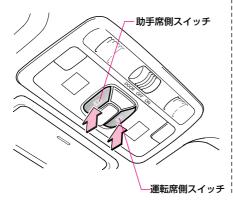
■スライドドアハンドルでの自動開閉

〈アウトサイドハンドル〉　〈インサイドハンドル〉

パワースライドドアが全閉状態のとき、ハンドルを操作してブザーが鳴る位置まで開けると自動で全開します。
また、パワースライドドアが全開状態のとき、ブザーが鳴る位置までハンドルを操作すると、自動で全閉します。閉作動中は、断続的にブザーが鳴ります。

- ●アウトサイドハンドルでは、全開（全閉）作動中に再度ハンドルを操作すると、全閉（全開）作動に切り替わります。ただし、全閉（全開）状態から自動開閉作動が開始して約1秒間は、再度ハンドルを操作しても全閉（全開）作動に切り替わりません。
- ●インサイドハンドルでは、全開作動中に再度ハンドルを車両前方に操作すると、全閉作動に切り替わります。全閉作動中に再度ハンドルを車両後方に操作すると、全開作動に切り替わります。ただし、全閉（全開）状態から自動開閉作動が開始して約1秒間は、再度ハンドルを車両前方（車両後方）に操作しても全閉（全開）作動に切り替わりません。
- ●チャイルドプロテクターレバーが施錠状態（P.181参照）になっていると、インサイドハンドルによる自動開操作はできません。

■パワースライドドアスイッチでの自動開閉

両側パワースライドドア装着車

助手席側パワースライドドア装着車

パワースライドドアが全閉（全開）状態のとき、パワースライドドアスイッチを約1秒以上押し続けると、自動で全開（全閉）します。

●両側パワースライドドア装着車では、運転席側パワースライドドアを自動開閉するときは、運転席側スイッチを押します。助手席側パワースライドドアを自動開閉するときは、助手席側スイッチを押します。

●助手席側パワースライドドア装着車では、パワースライドドアを自動開閉するときは、スイッチを押します

●開閉作動開始時にブザーが鳴ります。（閉作動中は、断続的にブザーが鳴ります。）

●全開（全閉）作動中に再度スイッチを押すと、全閉（全開）作動に切り替わります。ただし、全閉（全開）状態から自動開閉作動が開始して約1秒間は、再度スイッチを押しても全閉（全開）作動に切り替わりません。

■ワイヤレスドアロックリモコンでの自動開閉

操作方法については、P.201の「パワースライドドアの開閉のしかた」を参照してください。

次のことをお守りください。お守りいただかないとスライドドアで指や手などを挟んだり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●パワースライドドアの操作時は、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身の回りの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- スライドドアが自動で開いている途中でパワースライドドアスイッチを押すと、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。ドアは必ず全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にスライドドアが閉まるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
  - ・自動作動中、障害物に干渉したとき
  - ・ハイブリッドシステム停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに“パワー”スイッチをＯＮ モードにしたりハイブリッドシステムを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- タイヤ交換などをする際は、パワースライドドアメインスイッチをOFFにしてください。OFFにしないと、いたずらや誤ってスイッチに触れたときにスライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。
- チャイルドプロテクターを施錠側にしているときは、パワースライドドアの誤操作防止のため、パワースライドドアメインスイッチをOFFにしてください。

●挟み込み防止機能作動中は以下のことをお守りください。。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

注意 **パワースライドドア前端部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷つけないように注意してください。**

パワースライドドア前端部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷つけないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、ドアはただちに停止します。

知識

パワースライドドアの作動について

(“パワー”スイッチの状態に関係なく使用できます。)

●メインスイッチがＯＮで、次の作動可能条件をすべて満たしているときに自動で開閉できます。

〈作動可能条件〉

- パワースライドドアが解錠されているとき。(閉作動を除く)
- フューエルリッドが閉まっているとき(助手席側パワースライドドアのみ)。
- 車速が約3km/h未満のとき。
- “パワー”スイッチがＯＮ モードのときは、上記に加え、次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。
  - ・パーキングブレーキがかかっているとき。
  - ・シフトレバーがⓅのとき。
  - ・ブレーキペダルを踏んでいるとき。

●作動可能条件を満たしていないときに(フューエルリッドが開いているときを除く)、手動によりドアを閉める(開ける)と約8秒間スライドドアにブレーキをかけドアの速度を抑制します。

●メインスイッチがＯＦＦのときは、パワースライドドアは作動しませんが手動で開閉できます。

●パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより異状を感知すると、ブザーが鳴り、その位置から自動的にドアは反対方向に動きます。ただし、自動で開けているときに全開位置から約20cm手前の範囲で異状を感知すると、その位置で作動を停止します。

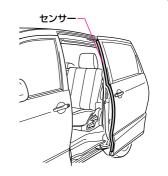
●連続して2回目以上同方向への異状を感知すると、ブザーが鳴り、手動操作に切り替わります(約8秒間スライドドアにブレーキをかけドアの速度を抑制します)。もう一度ドアを自動で作動させるときは、メインスイッチをＯＦＦにしたのち、ドアをいったん手動で全閉または全開にしてから行ってください。

●補機バッテリーの電圧が低下しているときは、パワースライドドアが作動しない場合があります。

知識

安全機能について

挟み込み防止機構

パワースライドドアの前端部には、センサーがついています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが圧縮されると挟み込み防止機構が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に動き、全開位置で停止します。

給油口開警告ブザー

●フューエルリッド（燃料補給口）が開いているときに、自動で助手席側パワースライドドアを開けようとすると作動を中止します。

●助手席側パワースライドドアの自動開閉中にフューエルリッド（燃料補給口）を開けると、ブザーが鳴り、作動を停止し（約8秒間スライドドアにブレーキをかけドアの速度を抑制します）、手動作動に切り替えます。

中間ストッパー

●パワースライドドアのドアガラスが大きく開いているときに、パワースライドドアを自動で開作動させるとパワースライドドアは中間ストッパー位置で停止し、その位置で保持されます。

●中間ストッパー位置でパワースライドドアが停止しているときに、パワースライドドアスイッチ、スライドドアハンドル、パワースライドドアリモコンスイッチのいずれかを操作するとドアは閉作動します。

●中間ストッパー位置でのパワースライドドア停止後は、約30分間ドアを保持します。その後、8秒間で徐々にその保持を解除し、下り坂などでドアが急激に動き出すのを防ぎます。

サイドリフトアップシート装着車について

サイドリフトアップシートが完全に（シート昇降スイッチを上側に押し続け、“ピピッ”と音がするまで）上昇しきってない状態で、パワースライドドアを閉めようとしても、ブザーが鳴りドアは閉まりません。

知識

初期設定について

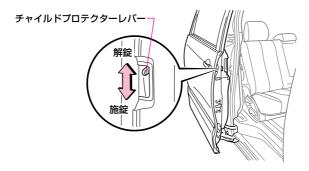
ヒューズ切れや補機バッテリーあがりなどがおきたときは、パワースライドドアの初期設定をしてください。（パワースライドドアが全閉時にヒューズ切れや補機バッテリーあがりなどがおきたときは初期設定をする必要はありません。）パワースライドドアの初期設定がされていないと、次の機能は作動しません。

●パワースライドドア
●挟み込み防止機構

■初期設定のしかた

〈設定手順〉

スライドドアのアウトサイドハンドルを操作して、手動で一度全閉にします。（P.171参照）

チャイルドプロテクターの使い方

チャイルドプロテクターレバーを施錠側にしてドアを閉めます。

●車内のインサイドハンドルでスライドドアを開けることができなくなります。

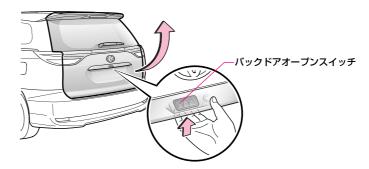
知識

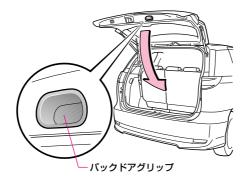
チャイルドプロテクターについて

走行中などに、お子さまが誤ってドアを開けたりしないように、ロックレバーの位置に関係なく、車内のインサイドハンドル操作ではスライドドアが開かないように施錠できます。

バックドアの開閉

開閉のしかた

■開け方

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げます。
●バックドアを開けるときは、最上部まで持ち上げてください。
●バックドアが自然に降下しないことを確認してください。

■閉め方

バックドアグリップを持ってバックドアをおろし、バックドア下端を押さえつけロックします。

警告　走行中はバックドアを閉じてください。また、ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

●走行中はバックドアを閉じてください。開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●お子さまを乗せているときは、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

●バックドアの操作にあたっては、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- バックドアを開ける前に、バックドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

⚠警告　バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

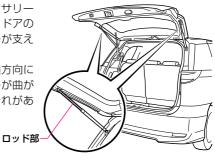
●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
●バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり､ぶらさがったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取りつけないでください。バックドアの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

⚠注意　バックドアを開閉する前に付近の状態を必ず確認してください。

●バックドアを開閉する前に、運転者はバックドアが安全に開閉できるように車外および車内のバックドア付近の状態を必ず確認してください。
●バックドアを閉めるときは､ストライカーバーに異物がかみこまないようにしてください。バーが破損し、バックドアが閉まらなくなるおそれがあります。
●傾斜した場所では、平坦な場所よりもドアの開閉がしにくかったり、急に開閉してしまう場合があります。
●走行中（車速が5km/h以上）にバックドアオープンスイッチを押してもバックドアは開きません。

バックドアダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

●バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取りつけられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物がステーのロッド部（伸縮部）に付着しないようにしてください。また、繊維などの付着を防止するため、ロッド部を軍手などで触れないでください。異物が付着すると、ステーが円滑に動かなくなったり、開けたとき保持力が損なわれるおそれがあります。
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取りつけないでください。バックドアの重量が重くなると、開けたときにステーが支えきれなくなるおそれがあります。
- ステーに手をかけて乗りおりしたり、横方向に力をかけたりしないでください。ステーが曲がり、バックドアが開閉できなくなるおそれがあります。

施錠・解錠について

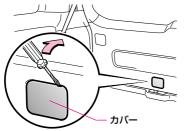
ワイヤレスドアロックリモコンスイッチや運転席ドアにあるキーシリンダー、ドアロックスイッチ、スマートエントリー＆スタートシステムにより、全ドアの施錠･解錠を行うことができます。P.200の「ワイヤレスドアロックリモコンの使い方」、P.160の「メカニカルキーでの施錠・解錠のしかた」、P.164の「ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた」、P.136の「バックドアの施錠・解錠のしかた」を参照してください。

便利機能について

ラゲージルームランプ（P.444参照）

ラゲージルームランプのスイッチがＯＮのとき、バックドアを開けるとラゲージルームランプが点灯します。夜間などの荷物確認に便利です。

エマージェンシーレバーについて

補機バッテリーがあがったときなど、車外からバックドアを開けられなくなったときには、エマージェンシーレバーを操作して車内からドアロックを解除することができます。

1 エマージェンシーレバーのカバーを開けます。

車内へ入り、カバー上部の切り欠きにマイナスドライバーなどを差し込み、カバーを取りはずします。

●マイナスドライバーの先端にカバーなどの傷つき防止のために薄手のテープを巻いておきます。

パワーバックドア装着車を除く

2 エマージェンシーレバーを押します。

レバーを矢印の方向に押すと、ドアロックが解除されます。

●パワーバックドア装着車を除く車両では、レバーをマイナスドライバーなどで押してください。

パワーバックドア装着車

3 バックドアを開けます。

故障しているときは、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

バックドアイージークローザー★

バックドアイージークローザー装着車は、バックドアを半ドアの位置まで閉めるとイージークローザーが働き、自動的に全閉になります。イージークローザーは“パワー”スイッチの状態に関係なく作動します。

バックドアイージークローザー装着車では、半ドア状態のときイージークローザーが働きバックドアが自動的に閉まるため、指などを挟まないように注意してください。

●半ドア状態のときイージークローザーが働きバックドアが自動的に閉まるため、指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●イージークローザーは、パワーバックドアのメインスイッチがＯＦＦのときにも作動します。
●半ドア状態からイージークローザーが作動するまでに数秒かかります。指などをバックドアで挟まないでください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

バックドアイージークローザー装着車では、イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。

●イージークローザーの故障を防ぐためにイージークローザーの作動中はバックドアに無理な力をかけないでください。
●バックドアの開け閉めを短時間に繰り返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、1度ドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

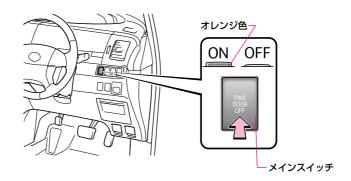
知識

バックドアイージークローザーについて

バックドアを半ドアの位置まで閉めると、イージークローザーが働き、自動的に全閉になります。“パワー”スイッチの状態に関係なく作動します。
●パワーバックドアのメインスイッチがＯＦＦのときでもイージークローザーは作動します。
●イージークローザーの作動中でも、バックドアオープンスイッチ（P.182参照）を押すことによりバックドアを開けることができます。
●バックドアオープンスイッチを押したままドアを閉めるとイージークローザーは作動しないことがあります。
●イージークローザーを使わずに手動でバックドアを全閉にすることもできます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

パワーバックドアの自動開閉のしかた★

■メインスイッチ

メインスイッチを押すごとに、ＯＮとＯＦＦに切り替わります。

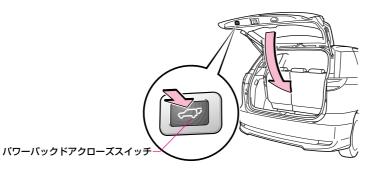
●メインスイッチがＯＦＦのときは、パワーバックドアを自動で開閉させることはできません。

知 識

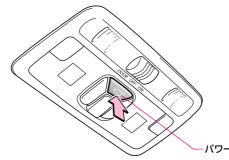
メインスイッチについて

●メインスイッチをＯＦＦにすると、同時にパワースライドドアも自動で開閉できなくなります。

●メインスイッチがＯＦＦのときでもイージークローザーは作動します。（前ページ参照）

■パワーバックドアクローズスイッチによる自動閉作動

バックドアが全開状態のときパワーバックドアクローズスイッチを押すと、バックドアが自動で閉まります。

●閉作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が2回点滅します。
●閉作動中は、断続的にブザーが鳴ります。
●閉作動中に再度スイッチを押すと、全開方向に反転作動します。

■パワーバックドアスイッチによる自動開閉

バックドアが全閉（全開）状態のときパワーバックドアスイッチを約1秒以上押し続けると、自動で全開（全閉）します。

●開閉作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が2回点滅します。
●開閉作動中は、断続的にブザーが鳴ります。
●開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。

■ワイヤレスドアロックリモコンでの自動開閉

操作方法については、P.202の「パワーバックドアの開閉のしかた」を参照してください。

パワーバックドア装着車では次のことをお守りください。お守りいただかないとバックドアで指や手などを挟んだり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●パワーバックドアの操作時は、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身の回りの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- バックドアが自動で開いている途中でパワーバックドアスイッチを押すと、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
- 自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切り替わる場合があります。この場合、坂道などの傾斜地ではバックドアが不意に動き出すおそれがあるので十分注意してください。
- 傾斜した場所では、自動で開いたあとにバックドアが落ちる場合があります。バックドアは必ず全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にバックドアが落ちるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
  - ・自動作動中、障害物に干渉したとき
  - ・ハイブリッドシステム停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、“パワー”スイッチをON モードにしたりハイブリッドシステムを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取りつけないでください。自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとに落ちるおそれがあります。
- タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアメインスイッチをOFFにしてください。OFFにしないと、いたずらや誤ってスイッチにふれたときにパワーバックドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

●挟み込み防止機能作動中は以下のことに注意してください。注意していただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

警告

パワーバックドア装着車では次のことをお守りください。守らないとバックドアで指や手などを挟んだり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●バックドアを開ける前に、バックドア上の重量物（雪など）を取り除いてください。開いたあとに、重みでバックドアが落下してくるおそれがあります。
●バックドアが全開で静止していることを確認してください。とくに傾斜地では急にバックドアが閉じるおそれがあり危険です。

パワーバックドア左右端部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷つけないように注意してください。

●パワーバックドアの故障を防ぐために、以下のことを必ずお守りください。
- パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼りつきがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。
- パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理な力をかけないでください。
- パワーバックドア左右端部のセンサー（P.192参照）を刃物などの鋭利なもので傷つけないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

知 識

パワーバックドアの作動について

（" パワー " スイッチの状態に関係なく使用できます。）

●メインスイッチがONで、次の作動可能条件をすべて満たしているときに自動で開閉できます。

〈作動可能条件〉

- パワーバックドアが解錠されているとき。
- 車速が約5km/h未満のとき。
- " パワー " スイッチがＯＮ モードのとき開作動するには、上記に加え、シフトレバーがⓅとなっていることが必要です。

●メインスイッチがＯＦＦのときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。

●パワーバックドアの自動開閉中に、バックドアオープンスイッチを押すと、手動作動に切り替わります。

●パワーバックドアの自動開閉中に、人や異物などにより異状を感知すると、ブザーが鳴り、その位置から自動的にドアは反対方向に動きます。

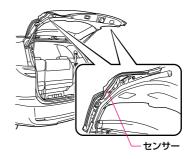
●連続して2回目以上の閉方向の異状を感知すると、ブザーが鳴り手動作動に切り替わります。

●バッテリーの電圧が低下しているときは、パワーバックドアが作動しない場合があります。

安全機能について

挟み込み防止機構

パワーバックドアの左右端部には、センサーがついています。

ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが圧縮されると挟み込み防止機構が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に動き、全開位置で停止します。

初期設定について

ヒューズ切れや補機バッテリーあがりなどがおきたときは、パワーバックドアの初期設定をしてください。（パワーバックドアが全閉時にヒューズ切れや補機バッテリーあがりなどがおきたときは初期設定をする必要はありません。）パワーバックドアの初期設定がされていないと、次の機能は作動しません。

●パワーバックドア

●挟み込み防止機構

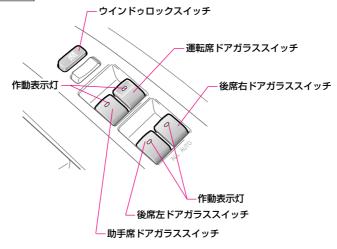
■初期設定のしかた

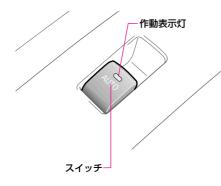
〈設定手順〉

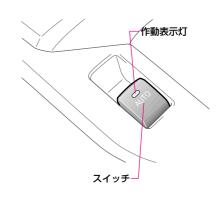
バックドアのバックドアグリップを持って、手動で一度全閉にします。（P.182参照）

ドアガラスの開閉

パワーウインドゥの使い方

運転席スイッチ

運転席スイッチですべてのドアガラスの開閉が行えます。

助手席スイッチ

後席スイッチ

自席のドアガラスの開閉が行えます。

■ドアガラスの開閉のしかた

スイッチを下に押している間は開き、上に引いている間は閉まります。
スイッチから手を離すと、その位置で停止します。

■ドアガラスの自動開閉のしかた

●全開するときは、スイッチを下に強く押して手を離します。
　途中で止めたいときは、スイッチを軽く引き上げます。
●全閉するときは、スイッチを上に強く引き上げて手を離します。
　途中で止めたいときは、スイッチを軽く押します。

作動条件について

“パワー”スイッチがＯＮ モードのとき使用できます。ただし、助手席・後席スイッチはウインドゥロックスイッチ（P.195参照）がＯＮになっているときは開閉しません。
●“パワー”スイッチをＯＮ モードにすると、各スイッチの作動表示灯が点灯します。
●各スイッチの作動表示灯が点滅しているときは、パワーウインドゥの初期設定をしてください。（次ページ参照）

安全機能について

挟み込み防止機構

ドアガラスを閉めるときに、窓枠とドアガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、ドアガラスの上昇を停止し、自動で少し開き、止まります。
●環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じ衝撃や荷重がドアガラスに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

便利機能について

電源ＯＦＦ後作動機能

ドアガラスは、“パワー”スイッチをＯＦＦにしたあとでも、約45秒間は開閉することができます。ただし、約45秒間に運転席ドアを開けてからいったん閉めると、ドアガラスの開閉はできなくなります。
●電源ＯＦＦ後作動が機能している間は、各スイッチの作動表示灯が点灯します。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

知識

初期設定について

パワーウインドゥの開閉中に補機バッテリーとの接続が断たれたときは、パワーウインドゥの初期設定をしてください。

- パワーウインドゥの初期設定がされていないと、次の機能は作動しません。
  - 運転席スイッチでの助手席、後席ドアガラスの開閉
  - ドアガラスの自動開閉
  - 挟み込み防止機構
  - 電源ＯＦＦ後作動機能
- パワーウインドゥの初期設定がされていないドアガラスは、スイッチの作動表示灯が点滅します。

■初期設定のしかた

パワーウインドゥの初期設定は、各ドアガラスごとに、各席スイッチで行います。
運転席スイッチで助手席、後席ドアガラスのパワーウインドゥの初期設定をすることはできません。

〈設定手順〉

1 "パワー" スイッチをON モードにします。

2 スイッチを上に引き続け、ドアガラスを全閉します。
全閉後、約1秒間スイッチを上に引き続けてください。

パワーウインドゥの初期設定が完了すると、スイッチの作動表示灯が点滅から点灯にかわります。

ウインドゥロックスイッチの使い方

ウインドゥロックスイッチを押すごとに、ＯＮとＯＦＦに切り替わります。スイッチをＯＮにすると、運転席ドアガラス以外のパワーウインドゥとリヤサンシェード（大型ムーンルーフ装着車）は開閉しません。

ウインドゥロックスイッチ	運転席スイッチ	助手席スイッチ、後席スイッチ	リヤサンシェード（大型ムーンルーフ装着車）
ＯＮ	運転席ドアガラスの開閉ができます。	開閉できません。	開閉できません。
ＯＦＦ	すべてのドアガラスの開閉ができます。	開閉できます。	開閉できます。

走行中は窓から手や顔を出さないでください。また、ドアガラスを開閉するときは手・腕・頭・首などを挟まないようにしてください。

●走行中は窓から手や顔を出さないでください。車外のものなどに当たったり、急ブレーキをかけたときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ドアガラスを開閉するときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟まないように注意してください。とくにお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまにドアガラスの操作をさせないでください。開けるときや閉めるときに手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込まれたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ドアガラスを確実に閉めるため、閉じ切り直前の部分では挟み込みを感知していない領域があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機構は、スイッチを強く引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機構を故意に作動させるため、手などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●万一、挟み込み防止機構が作動してしまい、ドアガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを引き続けると、閉めることができます。

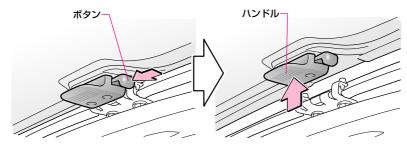
運転席スイッチとほかのドアのスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。パワーウインドゥの故障の原因となります。

●運転席スイッチとほかのドアのスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。パワーウインドゥの故障の原因となります。

●ドアガラスの全開・全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けないでください。パワーウインドゥの故障の原因となります。

フロントムーンルーフ・リヤサンシェードの開閉

大型ムーンルーフ装着車

フロントムーンルーフのチルトアップ／ダウンのしかた

■チルトアップするときは

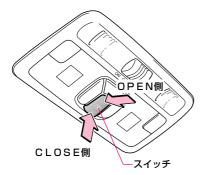
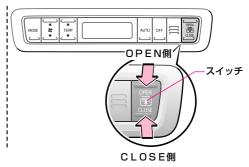
ボタンを押しながらハンドルを上に押し上げます。

■チルトダウンするときは

ハンドルを持って“カチッ”と音がするまで引き下げます。

●ハンドルが確実にロックされていることを確認してください。

リヤサンシェードの電動開閉のしかた

前席スイッチ

■開けるときは

スイッチのＯＰＥＮ側を押すと、自動で開きます。

●作動を途中で止めるときは、スイッチをもう一度押します。

●スイッチを押し、すぐに手を離すと、少し開けることができます。

■閉めるときは

スイッチのＣＬＯＳＥ側を押すと、自動で全閉します。

●作動を途中で止めるときは、スイッチをもう一度押します。

●スイッチを押し、すぐに手を離すと、少し閉めることができます。

走行中はフロントムーンルーフから手などを出さないでください。またフロントムーンルーフやリヤサンシェードを閉めるときはほかの人の手などを挟まないようにしてください。

●走行中はフロントムーンルーフから手などを出さないでください。車外のものなどに当たったり、急ブレーキをかけたときに重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントムーンルーフ、リヤサンシェードを閉めるときは、ほかの人の手などを挟まないように注意してください。フロントムーンルーフやリヤサンシェードに挟まれて、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

警告 **リヤサンシェードの挟み込み防止機能を故意に作動させるために、手などを挟んだりしないでください。**

●リヤサンシェードの挟み込み防止機構を故意に作動させるために、手などを挟んだりしないでください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●リヤサンシェードの挟み込み防止機構は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●リヤサンシェードを確実に閉めるため、閉じ切り直前の部分では挟み込みを感知していない領域があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●お子さまにフロントムーンルーフ、リヤサンシェードの操作をさせないでください。閉めるとき手などを挟んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

車から離れるときはフロントムーンルーフが完全に閉まっていることを確認してください。

●車から離れるときや、洗車時にはフロントムーンルーフが完全に閉まっていることを確認してください。また、ルーフ上に水や雪がないことを確認してから開けてください。雨や水が室内に入り、オーディオ類やフロアカーペット下の電気部品などに水がかかると、火災や故障の原因となるおそれがあります。
●リヤサンシェードが全開、全閉したあとにスイッチを押し続けないでください。リヤサンシェードの故障の原因となります。
●故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、リヤサンシェードを自動で閉めることができないときは、スイッチを押し続けると、閉めることができます。

知 識

リヤサンシェードの作動条件について

“ パワー ”スイッチがＯＮ モードのとき使用できます。ただし、ウインドゥロックスイッチがＯＮ（P.195参照）になっているときは作動しません。

フロントサンシェードについて

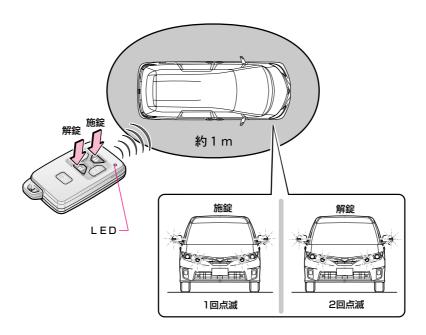
フロントは手動で開閉できます。

安全機能について

挟み込み防止機構

リヤサンシェードを閉めるときに、窓枠とシェードの間に異物の挟み込みを感知すると、シェードが閉まる作動を停止し、自動で少し開き止まります。
●環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じ衝撃や荷重がシェードに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

ワイヤレスドアロックリモコンの使い方

ドアの施錠・解錠のしかた

スイッチを押すとすべてのドア（バックドアを含む）が施錠されます。

スイッチを押すとすべてのドア（バックドアを含む）が解錠されます。

- 施錠したときは、非常点滅灯が1回点滅し、ブザーが1回鳴ります。※
- 解錠したときは、非常点滅灯が2回点滅し、ブザーが2回鳴ります。※
- スイッチを押すとキーのＬＥＤが点灯します。
- スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。
- 施錠操作をしたときは、必ず施錠作動したことを確認してください。

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.584の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

パワースライドドアの開閉のしかた

パワースライドドアが全閉（全開）状態のときスライドドアスイッチを約1秒以上押し続けると、自動で全開（全閉）します。

●運転席側パワースライドドアを開閉させるときは、リモコンスイッチの側（運転席側スイッチ）を押してください。（両側パワースライドドア装着車のみ）

●助手席側パワースライドドアを開閉させるときは、リモコンスイッチの側（助手席側スイッチ）を押してください。

●開閉作動開始時にブザーが鳴ります。

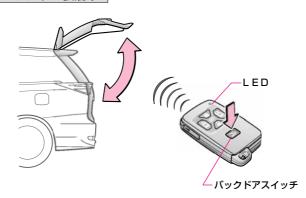
●閉作動中は、断続的にブザーが鳴ります。

●全開（全閉）作動中に再度スイッチを押すと、全閉（全開）作動に切り替わります。ただし、全閉（全開）状態から自動開閉作動が開始して約1秒間は、再度スイッチを押しても全閉（全開）作動に切り替わりません。

●スイッチを押すとキーのＬＥＤが点灯します。

●スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。

パワーバックドアの開閉のしかた

パワーバックドア装着車

パワーバックドアが全閉（全開）状態のときバックドアスイッチを約1秒以上押し続けると、自動で全開（全閉）します。

- 開閉作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が2回点滅します。
- 開閉作動中は、断続的にブザーが鳴ります。
- 全開（全閉）作動中に再度スイッチを押すと、全閉（全開）作動に切り替わります。ただし、全閉（全開）状態から自動開閉作動が開始して約1秒間は、再度スイッチを押しても全閉（全開）作動に切り替わりません。
- スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。
- スイッチを押すとＬＥＤが点灯します。

注意 **リモコンは電子部品です。強い衝撃などを与えると故障の原因となりますので、以下の点にご注意ください。**

- ダッシュボードの上など高温になる所に置かないでください。
- 分解しないでください。
- 落としたり、強い衝撃を与えないでください。
- 水にぬらさないでください。

知識

作動条件について

- リモコンは、周囲の状況により作動可能距離がかわることがあります。確実に作動させるためには、車から約1mまで近づいて操作してください。
- ワイヤレスリモコンは微弱な電波を使用しているため、状況によっては正常に作動しない場合があります。詳しくはP.129を参照してください。

知識

作動条件について

●バックドアガラスに次のものを貼りつけると、車両後方からリモコンの操作をした場合、受信器への電波がさえぎられて受信感度が低下し、作動可能距離が短くなるおそれがあります。
- 金属を含有するウインドゥフィルム。
- その他の金属物。（トヨタ純正品以外のアンテナなど）

●リモコンスイッチは、“ パワー ” スイッチがＯＦＦ以外では作動しません。
●🔒スイッチは、いずれかのドア（バックドアを含む）が開いているときは作動しません。
●🔒スイッチ・🔓スイッチを押し続けても、ドアの施錠・解錠は繰り返されません。スイッチを押しなおしてください。
●🔓スイッチを押して解錠操作をしたあと、約30秒以内にドアを開けなかったときは、自動的に施錠されます。（非常点滅灯が1回点滅します。）※
●パワースライドドアリモコンスイッチ、パワーバックドアリモコンスイッチは、運転席にあるメインスイッチがＯＦＦになっているときは作動しません。
●パワースライドドアリモコンスイッチ、パワーバックドアリモコンスイッチを押して、うまく開閉作動されなかったとき、スイッチを約1秒以上押し続けても開閉操作は繰り返されません。スイッチを押しなおしてください。

便利機能について

イルミネーテッドエントリーシステム（P.446参照）
ドアの状態や“ パワー ” スイッチ、シフトレバーの位置によって各部の照明が点灯・消灯します。

電池交換について

リモコンを操作しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、またはＬＥＤが暗くなったり、点灯しなくなった場合、電池の消耗が考えられます。電池を交換してください。
電池の交換は市販の精密ドライバーを使用すれば、お客様自身で交換できます。P.539の「キーの電池交換」を参照してください。（トヨタ販売店でも交換できます。）

航空機内へのキーの持ち込みについて

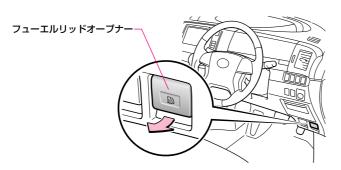
航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

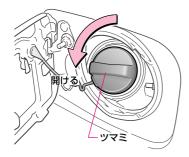
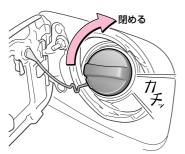
紛失について

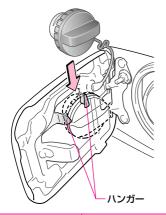
リモコンを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.584の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

フューエルリッド（燃料補給口）の開閉

フューエルリッドの開閉

運転席インパネ右下にあるフューエルリッドオープナー（⛽）を引くと開きます。
閉めるときは、フューエルリッドを手で“カチッ”と音がするところまで閉めます。

フューエルキャップの開閉

■開けるときは
キャップのツマミを持ち、左にまわして開けます。

■閉めるときは
キャップのツマミを持ち、“カチッ”と音がするまで右にまわして閉めます。

フューエルキャップの置き場所

給油中は、フューエルキャップをハンガーにかけておきます。

⚠ 警告　燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。

●燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。
- ハイブリッドシステムは必ず停止してください。
- 車のドア、ドアガラスは閉めてください。
- タバコなど火気を近づけないでください。
- フューエルリッド、フューエルキャップを開けるなど給油操作を行う前に、車体などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。
- フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミを持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。フューエルキャップを少しゆるめたときに“シュー”という音がする場合は、それ以上開けないでください。その音が止まってからゆっくり開けてください。
- 給油中、再び車内のシートにもどったり、帯電している人やものに触れないでください。(再帯電することがあります)
- 給油口には静電気除去を行った方以外の人を近づけないでください。
- 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と音がするまで右にまわしてください。手を離すと若干もどります。
- 車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
- その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員の指示にしたがってください。

●給油時に、気化した燃料を吸わないようにしてください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものがありますので、ご注意ください。

指定以外の燃料を使用しないでください。

●指定燃料は、無鉛レギュラーガソリンです。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。
●指定以外の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使うとエンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。
●給油中に燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。
●車両助手席側のスライドドアが、全開またはフューエルリッド近くまで開いているときは、フューエルリッドを開けないでください。フューエルリッドがスライドドアに当たり傷や汚れがつく原因となるおそれがあります。

フューエルリッドの位置について

フューエルリッド（燃料補給口）は助手席側車両後方にあります。

燃料タンク容量について

燃料タンク容量は約65Ｌです。

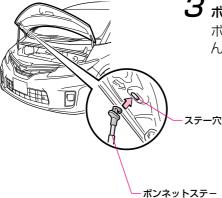
ボンネットの開閉

開け方

1 ボンネットオープナーを引きます。

運転席インストルメントパネル右下にあるボンネットオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。

2 ボンネットフックをはずします。

ボンネットのすき間に手を入れ、レバーを押し上げ、ボンネットフックをはずして、ボンネットを持ち上げます。

3 ボンネットステーを差し込みます。

ボンネットステーをステー穴に差し込んでボンネットを支えます。

閉め方

1 ボンネットステーをはずします。

ボンネットステーをはずし固定します。

2 ボンネットを閉めます。

ボンネットを約20～25cmの位置から静かに落として閉めます。

3 ロックされていることを確認します。

ボンネットの前端を上下にゆすり、確実にロックされていることを確認します。

警告

走行前にはボンネットがロックされていることを確認してください。ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、死亡事故や重大な傷害につながるおそれがあります。

●ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。

●ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

●長時間走行したあとにボンネットを開けるときは、ボンネットステーの樹脂部分を持ってステー穴に差し込んでください。樹脂部分以外を持つと、ステーが熱くなっているため、やけどをするおそれがあります。

盗難防止システム（オートアラーム）の使い方★

システムの作動（警報作動）について

不正な侵入を検知した場合、音と光で警報します。
システム作動可能状態中に以下のいずれかが行われた場合、盗難のおそれがあると判断し、警報を作動させます。

- ●いずれかのドアが開けられたとき
- ●スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロックリモコン以外の方法で、いずれかのドアが解錠されたとき
- ●ボンネットが開いたとき
- ●バッテリーターミナルを脱着したとき（補機バッテリーがあがったときの再充電、新品交換時など含む）
- ●スマートエントリー＆スタートシステムを使わずに、“パワー”スイッチがＯＮ モードになったとき

ドアの施錠・解錠は、スマートエントリー＆スタートシステム、またはワイヤレスドアロックリモコンで行います。

- ●ドアの施錠・解錠は、スマートエントリー＆スタートシステム（P.132参照）、またはワイヤレスドアロックリモコン（P.200参照）により行うことをおすすめします。
  キー（メカニカルキー）での施錠（P.160参照）では、オートアラームは作動可能状態になりません。
- ●スマートエントリー＆スタートシステム（P.132参照）、またはワイヤレスドアロックリモコンでドアを施錠したあと、キー（メカニカルキー）でドアを解錠すると、オートアラームが作動します。
- ●オートアラームシステムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

知 識

オートアラーム作動によるドアロック機能について

- ●オートアラームが作動したときドアが解錠されていると車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されます。
- ●オートアラームが作動したときに車内でキーを閉じ込めないように、補機バッテリーあがりなどで充電・交換する場合は車内にキーがないかを確認してください。

システムを作動可能状態にするには

車外に出たあと、すべてのドア・ボンネットが閉まっていることを確認し、スマートエントリー＆スタートシステム、またはワイヤレスドアロックリモコンでドアを施錠します。

●セキュリティ表示灯が点灯します。（システム待機状態）

●しばらく経過すると、セキュリティ表示灯が点灯から点滅にかわり、自動的にシステム作動可能状態になります。

知 識

システム作動可能状態について

●スマートエントリー＆スタートシステム、またはワイヤレスドアロックリモコンでドアを施錠したあと、約30秒以内（表示灯点灯中のシステム待機状態）に以下のいずれかを行った場合、システム作動可能状態にはなりません。（待機状態を解除します）

- いずれかのドア、またはボンネットを開けたとき。
- いずれかのドアを解錠したとき。
- 補機バッテリーを再接続したとき。
- “ パワー ”スイッチを押したとき。

メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

オートアラームの解除・システムを停止するには

以下のいずれかの操作を行います。

●スマートエントリー＆スタートシステム、またはワイヤレスドアロックリモコンでドアを解錠する.。

●ハイブリッドシステムを始動する。（数秒後に解除・停止します）

知 識

ドアを施錠するときは

オートアラームの思わぬ作動を防ぐため、ドアを施錠するときは、車内に人が乗っていないか、ドアガラスなどが開いていないか確認してください。

補機バッテリーを取りはずすときは

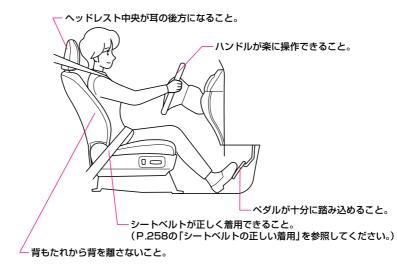
補機バッテリー端子の取りはずしや、補機バッテリーを交換するときは、オートアラームが解除されていることを確認してください。解除しないまま補機バッテリー端子を取りはずすと、再接続したときにオートアラームが作動することがあります。

セキュリティ表示灯について

“ パワー ”スイッチをＯＦＦにすると、エンジンイモビライザーシステム（P.501参照）が作動中であることを知らせるために、オートアラームが作動可能状態でなくても、セキュリティ表示灯が点滅します。

シートの調整

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるように、次の事項に注意してシートを調整します。

警告　走行中は運転席シートの調整をしないでください。

- 走行中は運転席シートの調整をしないでください。調整中にシートが突然動くなどして、運転を誤り、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。
- シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートの下にものを置かないでください。ものが挟まってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。また、ロック機構の故障の原因となります。
- 背もたれと背中の間にクッション（座布団）などを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 助手席や後席に荷物を積み重ねたりしないでください。急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員に当たったり、荷物を損傷したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が慣性力で飛ばされ、頭などを強く打ち、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ＳＲＳサイドエアバッグ装着車では、必ず次のことをお守りください。

●ＳＲＳサイドエアバッグ装着車では、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取りつけないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものがＳＲＳサイドエアバッグ展開部を覆うと、ＳＲＳサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取りつけてください。
- フロントシート表皮の張り替えやフロントシートの取りつけ・取りはずし・修理が必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造などはしないでください。
- フロントシート側面などＳＲＳサイドエアバッグ展開部を強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  ＳＲＳサイドエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

シートを調整するときは同乗者や荷物などまわりの状況に注意してください。

●シートを調整するときは、同乗者や荷物、または前後のシート・横のシートに当てないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたり、シートを破損するおそれがあります。

●シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近づけないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。

●室内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなどは、シートの下に手を入れると、シートレール・シートフレーム（シートの土台部分）などに当たり、けがをするおそれがありますので、十分に注意して行ってください。

●パワーシート装着車では、シートの前後位置・背もたれのリクライニング位置・シートの上下位置が終点まで移動したあとに、スイッチを同一方向に押し続けないでください。パワーシートの故障の原因となります。

●シートレールの上にマットなどを敷かないでください。
シートを移動させるときに、シートレール内のゴム部分を損傷させるおそれがあります。

フロントシートの調整

シート調整のしかた

■前後位置調整

パワーシート

スイッチを前後に操作している間作動します。

マニュアルシート

スライドレバーを引いたまま、シートを前後に動かして調整します。

■リクライニング調整

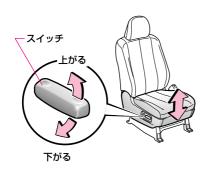
パワーシート

スイッチを前後に操作している間作動します。

マニュアルシート

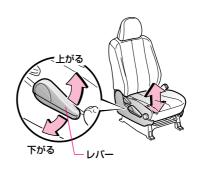
リクライニングレバーを引いたまま、背もたれを前後に動かして調整します。

■運転席シートクッションの上下調整

パワーシート

スイッチ前側の上下操作でシートクッション前端の高さを調整します。

スイッチうしろ側の上下操作でシート全体の高さを調整します。

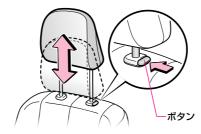
マニュアルシート

ハンドルをまわしてシートクッション前端の高さを調整します。

レバーを上または下に動かすごとに、シート全体の高さを調整します。

走行中は前後位置調整をしないでください。
急ブレーキをかけたときなどにシートが突然大きく移動し、放り出されたり、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

前後位置調整をするときは、フロントシートとオットマンの間で足を挟まないよう注意してください。

- 7人乗り車でフロントシートの前後位置調整をするときに、セカンドシートでオットマン（P.225参照）を使用しているときは、セカンドシートの乗員がフロントシートとオットマンの間で足を挟まないよう十分注意してください。
- マニュアルシートの背もたれをもどすときは、背もたれに手をそえながら、リクライニングレバーを操作してください。
背もたれを押さえずにレバーを操作すると、背もたれが急にもどり、けがをするおそれがあります。

ヘッドレスト調整のしかた

- 上げるときは、そのまま引き上げます。
- 下げるときは、ボタンを押したまま押し下げます。
- 取りはずすときは、ボタンを押したまま引き抜きます。

警告

ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。

- ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
- フロントシートのヘッドレストはフロントシート専用です。取りつけるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。ヘッドレストを間違って取りつけると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■アクティブヘッドレスト

背もたれに強い衝撃を受けると、フロント席乗員のむち打ちの症状を軽減させるためにヘッドレストが少し前方上側に動きます。

知識

アクティブヘッドレストについて

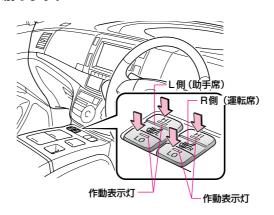
●背もたれに弱い衝撃を受けてもヘッドレストが動く場合がありますが、故障ではありません。

●ボタンを押さずにヘッドレストを無理に押し上げようとすると、ヘッドレストステーのサポートが見えますが、故障ではありません。

快適温熱シートの使い方★

運転席、助手席を暖めます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

■使用するときは

スイッチのＨＩ（強）側またはＬＯ（弱）側を押します。

●スイッチのＨＩ（強）側を押すと、シートの肩部分と背もたれ全体、およびクッション部を暖めます。
・作動表示灯が黄色に点灯します。

●スイッチのＬＯ（弱）側を押すと、シートの肩部分と背もたれ中央部のみを暖めます。
・作動表示灯が緑色に点灯します。

■停止するときは

スイッチを中立にもどします。

●作動表示灯が消灯します。

警告

快適温熱シートを使用するときは、次の点に注意してください。

●下記に相当される方がご使用になる場合は、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがありますので、十分注意してください。
・乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
・皮膚の弱い方
・疲労の激しい方
・深酒やねむけをさそう薬（睡眠薬、かぜ薬など）を使用された方

●毛布や座布団など保温性の良いものをかけた状態で使用しないでください。シートが異常過熱し、低温やけどやシートの故障につながるおそれがあります。

●仮眠するときは使用しないでください。シートが異常過熱し、低温やけどをするおそれがあります。

注意

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針など鋭利なものを突き刺したりしないでください。

●凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針など鋭利なものを突き刺したりしないでください。故障の原因になります。

●シートの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。ヒーターやシートの表面を損傷するおそれがあります。

●補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止しているときはスイッチをＯＦＦ（中立）にしてください。

知識

作動条件について

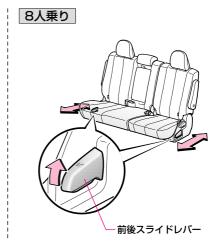
“パワー”スイッチがＯＮ モードのとき使用できます。

セカンドシートの調整

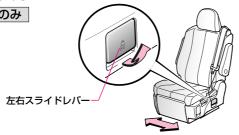
シート調整のしかた

■前後位置調整

7人乗り

8人乗り

スライドレバーを引いたまま、シートを前後に動かして調整します。調整後、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

■左右位置調整

7人乗りのみ

左右スライドレバーを引いて、シートを左右いっぱいまで動かして調整します。調整後、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

■リクライニング調整

7人乗り

8人乗り

リクライニングレバーを引いたまま、背もたれを前後に動かして調整します。
調整後、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

警告　**走行中は前後位置調整、左右位置調整をしないでください。**

●走行中は前後位置調整、左右位置調整をしないでください。
急ブレーキをかけたときなどにシートが突然大きく移動し、放り出されたり、思わぬ事故の原因となって生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●フロントシートを一番うしろにスライドさせているときは、セカンドシートに座った状態で、セカンドシートを一番前までスライドさせないでください。フロントシートの背もたれとセカンドシートのクッション・オットマンの間で足などを挟みけがをするおそれがあり危険です。とくに、床面に足の届かないお子様がスライドレバーを引いたままスライド操作をした場合、自然にシートが動き出すおそれがあります。

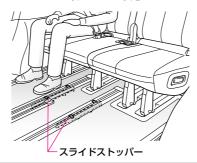
背もたれをもどすときは、背もたれに手をそえながら操作してください。

●背もたれをもどすときは、背もたれに手をそえながら、リクライニングレバーを操作してください。背もたれを押さえずにレバーを操作すると、背もたれが急にもどり、けがをするおそれがあります。

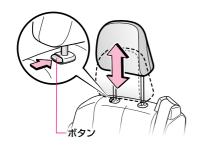
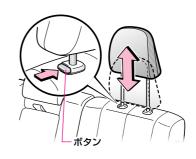
●左右位置調整は、必ず右側いっぱいか、左側いっぱいまでスライドさせてください。中間位置では左右位置を固定することはできません。

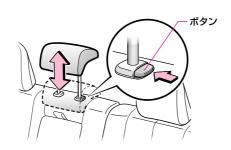
知 識

スライドストッパーについて

7人乗り車ではセカンドシート後方のスライドレールにスライドストッパー（2本）があります。これはセカンドシートを後方へスライドさせたとき、セカンドシートの後端とサードシートのクッションの間で、サードシートの乗員が足を挟まないようにするためのものです。サードシートに人が乗っているときは、取りつけた状態にしておいてください。

ヘッドレスト調整のしかた

■左右席

7人乗り

8人乗り

■中央席

8人乗りのみ

●上げるときは、そのまま引き上げます。
●下げるときは、ボタンを押したまま押し下げます。
●取りはずすときは、ボタンを押したまま引き抜きます。

警告 **ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。**

●ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
●セカンドシートのヘッドレストはセカンドシート専用です。取りつけるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。ヘッドレストを間違って取りつけると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

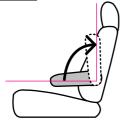
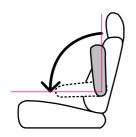
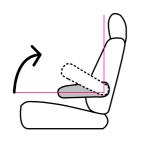
知識

中央席ヘッドレストについて

中央席ヘッドレストの上下位置調整は、引き上げたときと押し下げたときの2段階のみになります。中央席ヘッドレストは、引き上げた状態で使用してください。

アームレストの使い方

7人乗り

1 アームレストを一度、一番上まで上げます。

2 アームレストを一番下まで下げます。

3 お好みの位置まで上げると固定されます。

- ●アームレストが固定されると、その位置から下げることはできません。
- ●下げたいときは *1* の手順からやり直してください。

8人乗り

- ●使用するときは、一番下まで下げます。
- ●使用しないときは、一番上まで上げます。

サードシートへの乗り降り

■乗り降りするときは

リクライニングレバーを引き上げるか、またはシートうしろ側の前倒しペダルを踏むと、背もたれが前に倒れて、シートを前方へ移動させることができます。

●8人乗り車の前倒しペダルは、セカンドシートをチップアップ状態（P.227参照）にしているとき、通常よりも強く踏み込んでください。

■乗り降りしたあとは

●背もたれを“カチッ”という音がするまで起こし、前後位置を調整します。
●調整後、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

サードシートへ乗り降りしたあとは、必ずセカンドシートを固定させてください。固定させていないと急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートが動き、乗員に当たるなどして生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

背もたれをもどすときは、背もたれに手をそえながらリクライニングレバーを操作してください。

- 背もたれをもどすときは、背もたれに手をそえながら、リクライニングレバーを操作してください。背もたれを押さえずにレバーを操作すると、背もたれが急にもどり、けがをするおそれがあります。
- 8人乗り車の前倒しペダルは、セカンドシートをチップアップ状態（P.227参照）にしているとき、チップアップ状態にしていないときと同じ力で前倒しペダルを踏んでも、セカンドシートは前方へ移動しません。チップアップ状態にしているときは、前倒しペダルを通常よりも強く踏み込んでください。
- 7人乗り車では、前倒しペダル・リクライニングレバーでシートを前方へ移動させるときは、アームレストを格納してから操作してください。アームレストを格納せずにシートを前方へ移動させると、アームレストがシートクッションに当たり、シートクッションにアームレストのあとがのこることがあります。

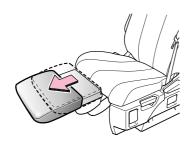
オットマン（フットレスト）の使い方

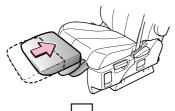
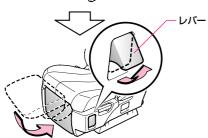
7人乗りのみ

足をのばして楽な姿勢をとることができます。
シートクッション下に格納されています。

■取り出しかた

1 **オットマンを取り出します。**

レバーを引きながら、オットマンを取り出し、お好みの角度に調整したらレバーをもどし、オットマンを固定させます。

2 **必要に応じてオットマンを前方に伸ばします。**

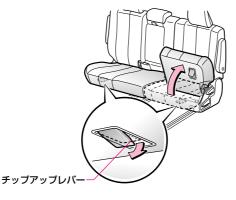
■格納のしかた

オットマンを一番うしろにもどし、レバーを引いてオットマンをシートの下に格納します。

警告　走行中はオットマンの位置調整をしないでください。

- 走行中はオットマンの位置調整をしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- オットマンの上には絶対に乗らないでください。オットマンが破損し、転倒などして生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 乗降時および使用しないときは、シートの下に格納してください。格納していないと、オットマンにつまずいて転倒するなど、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意　オットマンを格納するときは、オットマンを一番うしろにもどしてから格納してください。

- オットマンを格納するときは、オットマンを一番うしろにもどしてから格納してください。一番うしろにもどさずに格納すると、オットマンが床面に当たりオットマンが損傷するおそれがあります。
- フロントシートの調整をしているときは、足を挟まれないよう足元に十分注意してください。

シートクッションのチップアップのしかた

8人乗りのみ

チップアップレバーを引いて、クッションを持ち上げます。持ち上げたあと、クッションを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

- 格納するときは、レバーを引いてクッションをもどします。

サードシートの調整

シート調整のしかた

■リクライニング調整

手動格納式

背もたれに手をそえて、リクライニングレバーを手前に引きながら、背もたれを前後に動かして調整します。
調整後、背もたれを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

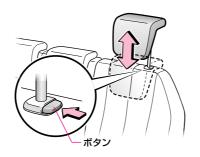
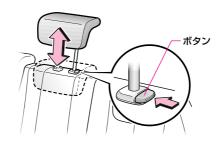
電動格納式

スイッチを操作している間作動します。

サードシートを調整するときは、次の点に注意してください。

- ●背もたれをもどすときは、背もたれに手をそえながら、リクライニングレバーを操作してください。背もたれを押さえずにレバーを操作すると、背もたれが急にもどり、けがをするおそれがあります。
- ●リクライニング調整をするときは、背もたれをバックドアに当てないように注意してください。バックドアなどを破損するおそれがあります。

ヘッドレスト調整のしかた

■左右席

■中央席

●上げるときは、そのまま引き上げます。
●下げるときは、固定ボタンを押したまま押し下げます。
●取りはずすときは、固定ボタンを押したまま引き抜きます。

警告　ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。

●ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
●サードシートのヘッドレストはサードシート専用です。取りつけるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。ヘッドレストを間違って取りつけると、固定することができず、衝突したときなどにけがをするおそれがあり危険です。

知識

サードシートのヘッドレストについて

サードシートのヘッドレストの上下位置調整は、引き上げたときと押し下げたときの2段階のみになります。ヘッドレストは、引き上げた状態で使用してください。

シートアレンジ

インデックス

シートは状況に応じて次のようなアレンジを行うことができます。それぞれの説明ページをよく読んでから行ってください。

8人乗りのみ

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

サードシートを格納する／テーブルにする ………237

手動格納式

■格納状態

■テーブル状態

電動格納式

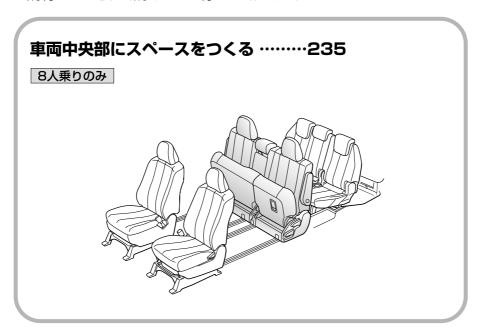
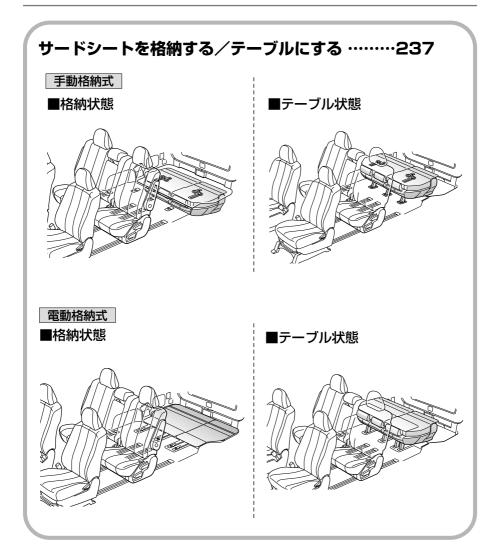
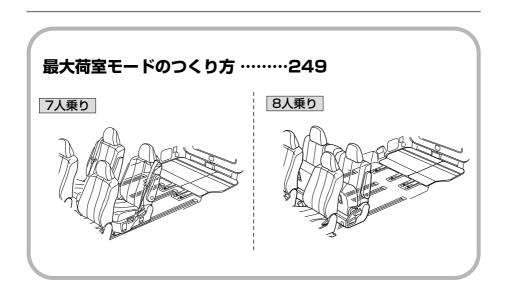
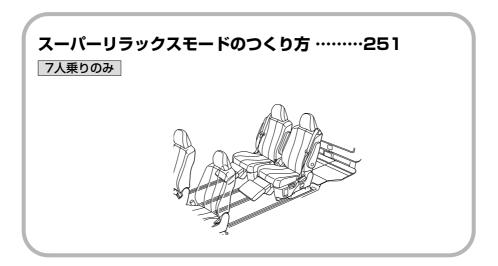
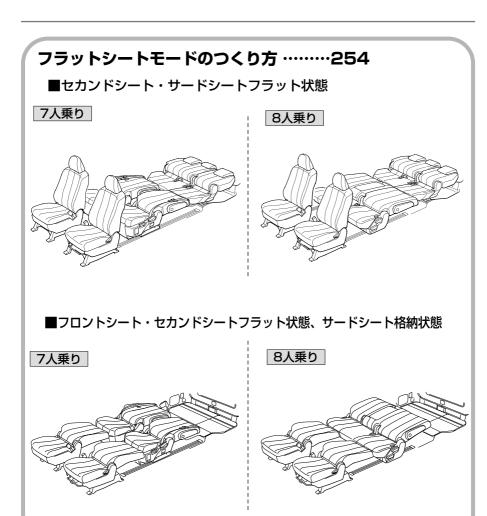
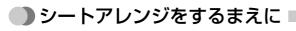
■格納状態

■テーブル状態

最大荷室モードのつくり方 ………249

スーパーリラックスモードのつくり方 ………251

フラットシートモードのつくり方 ………254

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

シートアレンジをするまえに

車両を安全で平坦な場所に駐車し、シフトレバーをⓅに入れ、パーキングブレーキを確実にかけます。

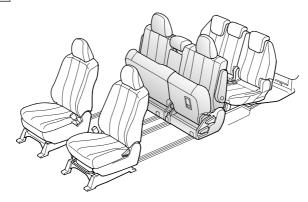
シートアレンジをするときは、必ず平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけて、シフトレバーをⓅに入れてください。

●シートアレンジをするときは、必ず平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをⓅに入れてください。不整地や傾斜地では操作中に不意にシートが動き、手足などを挟まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●走行中はシートアレンジ操作をしないでください。
ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●お子さまがラゲージルームに入らないように注意してください。ボディの突起に当たるなどして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートを操作したあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●リヤシートを操作するときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷つくおそれがあり、傷ついたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

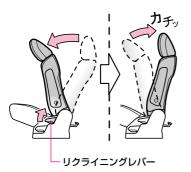
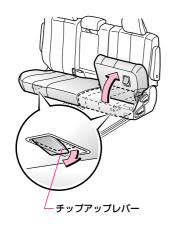
シートを操作するときは、同乗者や荷物に当てないように注意してください。

●シートを操作するときは、同乗者や荷物に当てないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
●シートを操作するときは、シートの下やロック機構部分、動いている部分の近くに手や足などを近づけないでください。指や手、足などを挟みけがをするおそれがあります。

車両中央部にスペースをつくる

8人乗りのみ

セカンドシートのクッションをチップアップさせて、前後にスライドさせることにより、車両中央部にスペースをつくることができます。

車両中央部にスペースをつくるときは

1 **シートベルトを格納します。**
中央席2点式シートベルト装着車は、シートベルトを格納ポケットに格納します。（P.269参照）

2 **背もたれを前方へ倒します。**
リクライニングレバーを引いて背もたれを前方に倒し、“カチッ”と音がする位置まで少し後方にもどして固定させます。

3 シートクッションを持ち上げます。

チップアップレバーを引いて、クッションを持ち上げます。

4 スライドレバーを引いて、シートの前後位置を調整し、固定します。

シート全体を軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

もとにもどすときは

逆の手順で行います。

シートアレンジでつくった車両中央部のスペースに人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

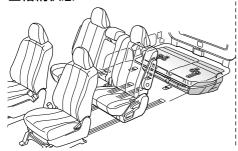
注意

シートクッションをチップアップさせたときは、次の点に注意してください。

- シートクッションをチップアップさせたときは、シートクッションの土台部分に乗らないでください。土台部分が損傷するおそれがあります。
- シートクッションをチップアップさせたときは、シートクッションの土台部分とシートクッションの間に手や足を入れないでください。シートに挟まれてけがをするおそれがあります。

サードシートを格納する／テーブルにする

手動格納式

■格納状態

■テーブル状態

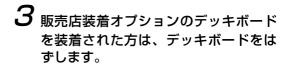
サードシートをラゲージルーム内に手動で格納することができます。また、テーブル状態にして使用することもできます。

操作するまえに

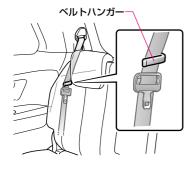
1 バックドアを開けます。

シートの操作は必ずバックドアを開け、車両後方から行ってください。

2 デッキフックを格納します。（P.456参照）

3 販売店装着オプションのデッキボードを装着された方は、デッキボードをはずします。

4 左右席のシートベルトをベルトハンガーに挟みます。

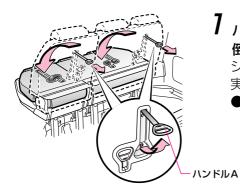
5 中央席シートベルト、バックルを収納します。（P.270参照）

分離格納式中央席シートベルト装着車は、シートベルトをシートから取りはずして天井へ収納します。（P.267参照）

6 ヘッドレストを下げます。

P.229参照

7 セカンドシートを前方に移動させます。

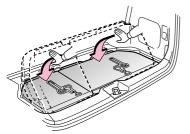
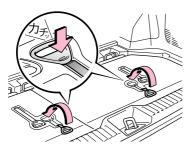
P.218参照

格納するときは

1 ハンドルAを引きながら背もたれを前倒しさせ、ロックさせます。

シート全体を軽く前後にゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

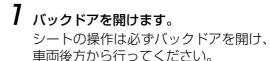
●この状態でテーブルとして使用することもできます。

2 ハンドルBを引きながらシート全体を後方へ引き上げます。

シート後端がシート格納部の後端に当たるまで引き上げます。

3 **背もたれに手をそえて、シート全体を押し下げてロックします。**
シート全体を軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

4 **ハンドルA、Bを格納部にもどします。**
“カチッ”と音がするまでハンドルを押し、固定します。

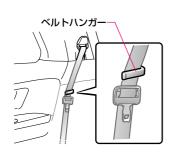
5 **販売店装着オプションのデッキボードを装着された方は、デッキボードを取りつけます。**

もとにもどすまえに

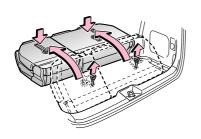
1 **バックドアを開けます。**
シートの操作は必ずバックドアを開け、車両後方から行ってください。

2 **デッキフックを使用していたときは、デッキフックを格納します。（P.456参照）**

3 **販売店装着オプションのデッキボードを装着された方は、デッキボードをはずします。**

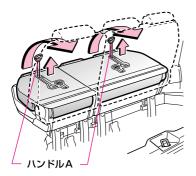
4 **左右席のシートベルトをベルトハンガーに挟みます。**

5 **セカンドシートを前方に移動させます。**
P.218参照

もとにもどすときは

1 ハンドルBを引きながらシート全体を引き上げます。

シート後端がシート格納部の後端に当たる位置でいったん止めます。

2 シート全体を前方に押し出し、背もたれに手をそえて、シート全体を押し下げてロックします。

●シート全体を押し下げてロックするときは、シートがもとの位置にもどったことを確認してから押し下げてください。

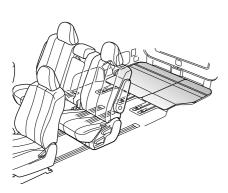
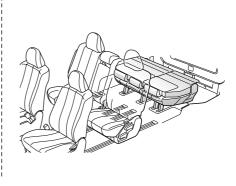
●シート全体を軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

3 背もたれに手をそえて、ハンドルAを引きながら、背もたれを起こしロックさせます。

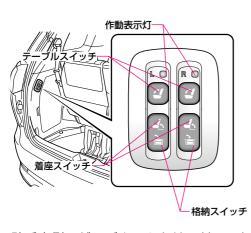
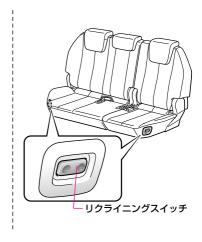
シート全体を軽く前後にゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

4 販売店装着オプションのデッキボードを装着された方は、デッキボードを取りつけます。

⚠注意	シートをもとにもどすときの手順2で、シートを前方へ押し出している途中にシートを押し下げないでください。途中でシートを押し下げると、シートの脚部で床面を損傷するおそれがあります。シートをロックするときは、シートがもとの位置にもどったことを確認してから押し下げてください。

電動格納式

■格納状態

■テーブル状態

サードシートをラゲージルーム内に自動で格納することができます。また、テーブル状態にして使用することもできます。

■サードシート操作スイッチ

助手席側ラゲージルームとサードシートクッション両端にあります。

●ラゲージルーム内スイッチのＲ側は運転席側サードシート、Ｌ側は助手席側サードシートのスイッチになります。

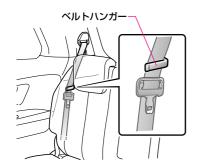
電動格納シートを操作するまえに

1 **“ パワー ” スイッチをＯＦＦ、または ＯＮ モードのときはシフトレバーをⓅにします。**

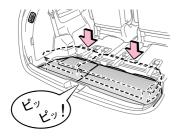
この条件を満たしてないとシートは格納作動しません。
（リクライニングスイッチでテーブルをもとにもどす場合を除く）

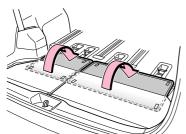
2 **バックドアを開けます。**

シートの操作は必ずバックドアを開け、車両後方から行ってください。

3 **左右席のシートベルトをベルトハンガーに挟みます。**

電動格納するときは

1 **操作する側の格納スイッチを押し続けます。**

- ブザーが2回鳴り、シートの格納作動が始まります。
- 背もたれが倒れ、シート全体が後方へ格納されます。

2 **格納作動が終了し、シートが固定されます。**

ブザーが2回鳴り、シートの格納作動が終了したことをお知らせします。

3 **背もたれにあるカバーを起こして固定部をおおいます。**

知 識

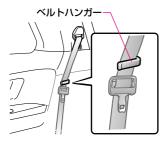
サードシートの電動格納について

●サードシートの格納作動中に、下記のことをした場合、格納作動は中断され、作動表示灯が点灯し、ブザーが約10秒間鳴り格納作動が中断されたことをお知らせします。ブザーが鳴るのと同時にマルチインフォメーションディスプレイに「3rd SEAT」と表示されます。

- 格納スイッチから手を離す。
- 格納作動している側のテーブルスイッチ、またはリクライニングスイッチを押す。
- “パワー”スイッチがON モードのときでシフトレバーをⓅからⓅ以外にする。

上記の中断条件を解消し、作動を再開させたときに、作動表示灯は消灯します。

●サードシートの格納作動中に、無理にシートの動きを止めたり、シートが故障したときは、作動表示灯が点滅しブザーが約10秒間鳴り格納作動が中断されます。ブザーが鳴るのと同時にマルチインフォメーションディスプレイに「3rd SEAT」と表示されます。作動が再開されたとき、作動表示灯は消灯します。

もとにもどすときは

1 **左右席のシートベルトをベルトハンガーに挟みます。**

2 **操作する側の着座スイッチを押し続けます。**
ブザーが2回鳴り、シート全体が前方にもどり始めます。
●“パワー”スイッチをＯＦＦにしていない、またはシフトレバーをⓅにしていないときは、スイッチを押している間、作動表示灯が点滅し、復帰作動できないことをお知らせします。

3 **シートが床面に固定され背もたれが後方にもどり始めます。**
ブザーが2回鳴り、背もたれがもどり始めます。
●背もたれがもどり始めてからは、着座スイッチから手を離しても、作動は継続されます。

4 **背もたれが直角ぐらいの位置までもどると作動が終了します。**

知識

サードシートの電動復帰について

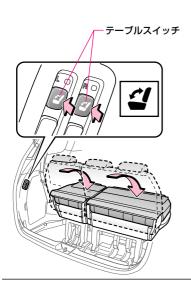
●サードシートの復帰作動中に、下記のことをした場合、復帰作動は中断され、作動表示灯が点灯し、ブザーが約10秒間鳴り復帰作動が中断されたことをお知らせします。ブザーが鳴るのと同時にマルチインフォメーションディスプレイに「3rd SEAT」と表示されます。
- 着座スイッチから手を離す （背もたれが後方にもどり始めてからは、スイッチから手を離しても作動は中断されません）。
- 復帰作動している側のテーブルスイッチ、またはリクライニングスイッチを押す。
- “ パワー ” スイッチがＯＮ モードのときでシフトレバーをⓅからⓅ以外にする。

上記の中断条件を解消し、作動を再開させたときに、作動表示灯は消灯します。

●サードシートの復帰作動中に、無理にシートの動きを止めたり、シートが故障したときは、作動表示灯が点滅しブザーが約10秒間鳴り復帰作動が中断されます。ブザーが鳴るのと同時にマルチインフォメーションディスプレイに「3rd SEAT」と表示されます。作動が再開されたとき、作動表示灯は消灯します。

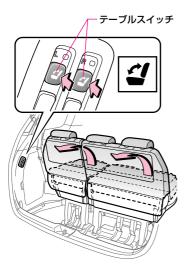
自動でテーブルにするときは

1 サードシートのクッションが固定されていることを確認します。

シート全体を軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

2 テーブルにする側のテーブルスイッチを押すと背もたれが前倒しされます。

もとにもどすときは

1 **サードシートのクッションが固定されていることを確認します。**

シート全体を軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

2 **もとにもどす側のテーブルスイッチまたは、リクライニングスイッチ（P.241参照）を押すと背もたれがもどります。**

3 **背もたれが直角ぐらいの位置までもどると作動が終了します。**

知識

サードシートのテーブル作動・復帰作動について

●サードシートのテーブル作動・復帰作動中に、同じサードシートの他のスイッチを押した場合、テーブル作動・復帰作動は中断され、作動表示灯が点灯し、ブザーが約10秒間鳴りテーブル作動・復帰作動が中断されたことをお知らせします。
テーブル作動・復帰作動を再開させたときに、作動表示灯は消灯します。
●サードシートのテーブル作動・復帰作動中に、無理にシートの動きを止めたり、シートが故障したときは、作動表示灯が点滅しブザーが約10秒間鳴りテーブル作動・復帰作動が中断されます。作動が再開されたとき、作動表示灯は消灯します。

リクライニングスイッチについて

リクライニングスイッチで背もたれををもどす場合、「電動格納シートを操作するまえに」(P.242参照)の手順*1*の“パワー”スイッチ、シフトレバーの条件は満たしていなくても作動します。

警告　シートは確実に固定されていないと、衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

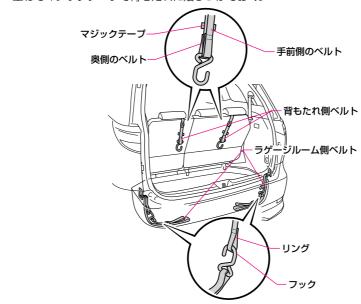
●シートをもとにもどしたときは、シートを軽くゆさぶり、さらにシートクッション全体を軽くゆさぶり、シートが確実に固定されていること確認してください。確実に固定されていないと、走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●手動格納式シートでシートを格納するときは必ずハンドルを持って操作してください。ハンドル以外の場所を持って格納すると、シートと床との間などに挟まりけがをするおそれがあり危険です。
●助手席側サードシートを格納したときのサードシートの乗車定員は1名です。中央席には絶対にすわらないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートを格納するとき、またはもどすときはシートなどで手や足やほかの乗員の体を挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートを格納したあとで、背もたれのみを起こして座らないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

シートクッションの上に荷物や座布団などをのせたまま、シートを格納またはテーブルにしないでください。

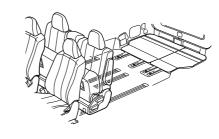
●シートクッションの上に荷物や座布団などをのせたまま、シートを格納またはテーブルにしないでください。荷物や座布団などを挟んでしまうと、シートやシート表皮が破損するおそれがあります。
●シートを格納するときはシート格納部に物がないことを確認してください。物がある状態でシートを格納すると、シートが破損するおそれがあります。
●シートをもどすときは床面に物がないことを確認してください。物がある状態でシートをもとにもどすと、シート固定部などを破損するおそれがあります。
●販売店装着オプションのスペアタイヤを装着された方は、サードシート格納スペースに、そのスペアタイヤが搭載されるため、サードシートの格納ができません。もし、無理にサードシートを格納しようとするとサードシートを破損するおそれがあります。

知 識

車いす固定ベルト付き車のサードシートの格納について

サードシートの格納をする前に次の準備をして、車いす固定ベルトがサードシートに挟み込まれないようにしてください。
●ラゲージルーム側の車いす固定ベルトは、ベルトの付け根のリングにフックを引っかけておく。
●背もたれ側の車いす固定ベルトは、手前側と奥側のベルトの長さを同じくらいに調整し、重ねてマジックテープで背もたれに貼りつけておく。

最大荷室モードのつくり方

7人乗り

8人乗り

セカンドシートとサードシートを組み合わせて、荷室を最大限に広くすることができます。

最大荷室モードにするときは

7人乗り

1 セカンドシートの前後位置を一番前へスライドさせます。

P.218参照

2 サードシートを格納します。

P.237参照

8人乗り

1 **セカンドシートのクッションをチップアップさせ車両中央部にスペースを作ります。**

P.235参照

2 **セカンドシートの前後位置を一番前へスライドさせせます。**

P.218参照

3 **サードシートを格納します。**

P.237参照

もとにもどすときは

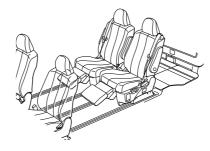
逆の手順で行います。

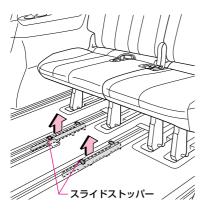
ラゲージスペースに人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- ラゲージスペースに人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートベルトが背もたれに挟まれていないことを確認してください。シートベルトが背もたれやシートクッションに挟まれていると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートをもとにもどしたときは、シートを軽くゆさぶり、さらにシートクッションを持ち上げ、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 走行中にラゲージスペースを作ったり、もとにもどす操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

シートレールの上にマットなどを敷かないでください。シートを移動させるときに、シートレール内のゴム部分を損傷するおそれがあります。

スーパーリラックスモードのつくり方

7人乗りのみ

セカンドシートとサードシートを組み合わせて、セカンドシートのスペースを広くし、さらにオットマンを使用することで、よりくつろげるスペースをつくることができます。

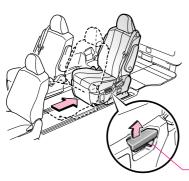
スーパーリラックスモードにするときは

1 スライドストッパーをはずします。

セカンドシート後方のシートレールから、スライドストッパー（2本）をはずします。

2 サードシートを格納します。

P.237参照

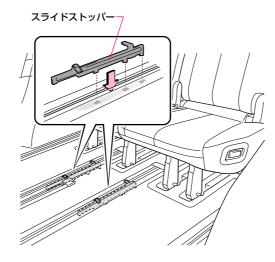
3 センターテーブルを格納します。
P.453参照

4 セカンドシートの左右位置を左右スライドレバーを引いて中央いっぱいまでスライドさせます。

5 セカンドシートの前後位置を前後スライドレバーを引いて後方へスライドさせます。

6 オットマンを引き起こします。
P.225参照

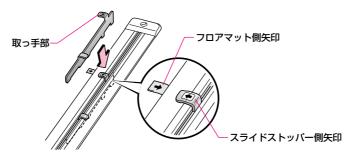
もとにもどすときは

逆の手順で行います。

●スライドストッパーを取りつけるときは、シートレール内の穴（3ケ所）にスライドストッパーのツメを差し込み取りつけてください。

知識

スライドストッパーについて

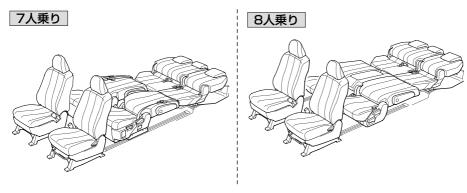
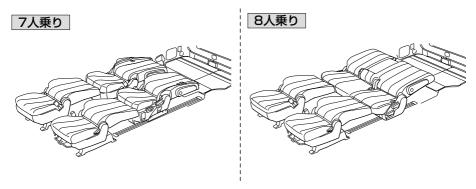
●はずしたスライドストッパーは紛失しないように大切に保管してください。工具袋に入れておくことをおすすめします。（工具袋についてはP.588をご覧ください。）

●スライドストッパーの取っ手部には矢印が表示してあります。その矢印は、販売店装着オプションのフロアマットを装着した場合に、スライドストッパーを取りつける際の目安となる矢印です。販売店装着オプションのフロアマットに表示されている矢印に、スライドストッパーの取っ手部の矢印をあわせてスライドストッパーを取りつけてください。

フラットシートモードのつくり方

■セカンドシート・サードシートフラット状態

7人乗り　　8人乗り

■フロントシート・セカンドシートフラット状態、サードシート格納状態

7人乗り　　8人乗り

セカンドシートとサードシート、またはフロントシート・セカンドシート・サードシートを組み合わせて、車内にフラットなスペースをつくることができます。

フラットシートモードにするときは

■セカンドシート・サードシートフラット状態

1 7人乗り車では、センターテーブルを格納しておきます。

P.453参照

2 セカンドシートの前後位置を一番前へスライドさせます。

P.218参照

3 7人乗り車では、セカンドシートの左右位置を中央にスライドさせます。

P.218参照

4 セカンドシートのヘッドレストを取りはずします。

P.221参照

5 セカンドシートの背もたれを後方いっぱいまで倒します。

P.219参照

6 サードシートの背もたれを後方いっぱいまで倒します。

P.228参照

●サードシートのヘッドレストは、一番下まで下げておいてください。下げておかないと背もたれをうしろにリクライニングさせたときに、ヘッドレストがバックドアに当たります。

■フロントシート・セカンドシートフラット状態、サードシート格納状態

1 サードシートを格納します。
P.237参照

2 フロントシートを一番前へスライドさせます。
P.213参照

3 フロントシートのヘッドレストを取りはずします。
P.215参照

4 フロントシートの背もたれを後方いっぱいまで倒します。
P.213参照

5 7人乗り車では、センターテーブルを格納しておきます。
P.453参照

6 7人乗り車ではセカンドシートの左右位置を、中央にスライドさせます。
P.218参照

7 セカンドシートのシートクッションが、フロントシートの背もたれに当たる位置まで移動させます。(P.218参照)
セカンドシートのクッションとフロントシートの背もたれがフラットになるようにフロントシートのリクライニング位置を調整します。

8 セカンドシートの背もたれを後方いっぱいまで倒します。
P.219参照

9 必要に応じてセカンドシートのヘッドレストを取りはずします。
P.221参照

もとにもどすときは

逆の手順で行います。

シートをフラットにしたとき、またはもとにもどしたときは、シートを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。

●シートをフラットにしたとき、またはもとにもどしたときは、シートを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートをフラットにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●走行中にフラットシートの操作をしないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。

●背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。背もたれを押さえずにリクライニング調整すると背もたれが急にもどり、けがをするおそれがあります。
●フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。またシートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動してください。シートを踏みはずしたり、シートの間に足などを挟んだりしてけがをするおそれがあります。
●シートに人が乗っている状態でフラット操作をしないでください。シートが当たるなどしてけがをするおそれがあります。

サイドリフトアップシート装着車について

サイドリフトアップシートは、フラット状態にすることができません。

シートベルトの着用

シートベルトの正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法にしたがって走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

肩部ベルト
肩に十分かけること。(首にかかったり、肩からはずれないこと。)

背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座ること。

ねじれていないこと。

腰部ベルト
必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること。

必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

●車に乗る場合は、全員がシートベルトを着用してください。ベルトを着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに身体がシートに保持されず、身体をぶつけたり、ふくらむＳＲＳエアバッグに飛ばされたり、車外に投げ出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトは上体を起こして、シートに深く腰かけた状態で着用してください。
  正しい姿勢については、P.211を参照してください。
- 肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。必ず肩に十分かかるように着用してください。
- 腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
- シートベルトはねじれがないように着用してください。ねじれていると、衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができません。
- シートベルトは1人用です。2人以上で1本のベルトを使用しないでください。
- シートベルトを着用する場合は、洗たくばさみやクリップなどでたるみをつけないでください。

⚠警告　必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突したときなどに身体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
- ハンドルやインストルメントパネルに必要以上に近づいて運転しないでください。
- セカンドシート左右席のアームレストを使用するときは、必ずシートベルトをアームレストの下に通した状態で正しく着用してください。アームレストにかかった状態で着用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。

●シートベルトやプレートをシートやドアに挟まないようにしてください。シートベルトが傷ついた場合、十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●妊娠中の女性も必ずシートベルトを着用してください。
（ただし、医師に注意事項をご確認ください。）

- 妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。
  また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
- ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●疾患のあるかたも必ずシートベルトを着用してください。
（ただし、医師に注意事項をご確認ください。）

必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

●シートベルトが首やあごに当たったり、腰骨にかからないような小さなお子さまには、チャイルドシート・ジュニアシートを使用してください。使用しない場合、衝突したときなどに強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、ひとり座りのできない小さなお子さまは、ベビーシートを使用してください。なお、子供専用シートについてはトヨタ販売店にご相談ください。

●シートベルトのバックルには異物が入らないようにしてください。異物が入ると、プレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ほつれ・すりきれができたり、正常に作動しなくなったシートベルトは、すぐにトヨタ純正の新品と交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷のついたシートベルトは、使用しないですぐに新品と交換してください。そのまま使用すると、衝突したときなどに正常に働かず、シートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトの改造や分解・取りつけ・取りはずしなどをしないでください。衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。シートベルトの取りつけ・取りはずし・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

●シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が落ち、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

シートベルトの着用のしかた

3点式シートベルトの脱着のしかた

フロントシート

セカンドシート左右席

サイドエアバッグ装着車のセカンドシート中央席

サードシート左右席

1 **シートベルトを引き出します。**

プレートを持って引き出し、ねじれていないことを確認します。
シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

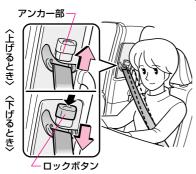
2 **プレートをバックルに差し込みます。**

プレートを“カチッ”と音がするまでバックルに差し込みます。
フロントシートベルトは、シートベルト非着用警告灯（P.327参照）が消灯したことを確認してください。

3 **腰部ベルトを密着させせます。**

腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引き、腰部に密着させせます。

4 肩部ベルトをかけます。

肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるようにします。
このとき、ベルトが首に当たったり、肩からはずれないようにしてください。

5 フロントシートでは、ベルトの高さを調整します。

アジャスタブルシートベルトアンカーでベルトの高さを調整します。
調整するときは、ベルトができるだけ肩の中央にかかるようにしてください。

- 上げるときはアンカー部を持ち、そのまま動かします。
- 下げるときは、ロックボタンを押したままアンカー部を動かし、最適な位置に調整します。

“カチッ”と音がし、確実に固定されていることを確認します。

6 はずすときは、バックルのボタンを押します。

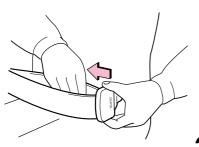
シートベルトアンカーを調整するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトが首に当たらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。

●調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

長さ調整式2点式シートベルトの脱着のしかた

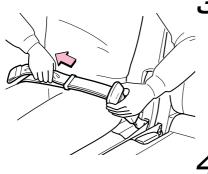
サイドエアバッグ非装着車のセカンドシート中央席

サイドエアバッグ非装着車のサードシート中央席

1 ベルトの長さを調整します。

プレートを図のように持ってベルトを引き、必要な長さより少し長めにします。

2 プレートをバックルに差し込みます。

ベルトにねじれがないようにし、プレートを“カチッ”と音がするまでバックルに差し込みます。

※ 左記のイラストはサードシートのイラストで、セカンドシートは左記のイラストとプレート形状が若干異なります。

3 ベルトを密着させます。

ベルトを引いて、必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるように密着させます。

4 はずすときは、バックルのボタンを押します。

はずしたベルトは、バックルにはめておいてください。

分離格納式シートベルトの使い方

サイドエアバッグ装着車のサードシート中央席

■脱着のしかた

1 **シートベルトを引き出しねじれていないことを確認します。**
シートベルトが固定されたまま引き出せないときは、一度ベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

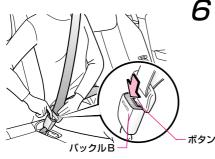
2 **プレートAを“カチッ”と音がするまでバックルAに差し込みます。**

3 **プレートBを“カチッ”と音がするまでバックルBに差し込みます。**

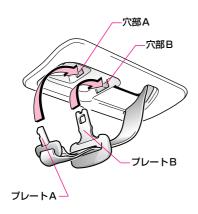
4 腰部ベルトを密着させます。

腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引き、腰部に密着させます。

5 肩部ベルトをかけます。

肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるようにします。
このとき、ベルトが首に当たったり、肩からはずれないようにしてください。

6 はずすときは、バックルBのボタンを押します。

■分離・格納のしかた

1 シートベルトを分離します。
バックルAのボタンをメカニカルキーなどを使って押します。（P.160参照）

2 シートベルトを巻き取らせ、プレートを差し込み格納します。
プレートBの先端部をホルダーの穴部Bに差し込んでから、プレートAの先端部をホルダーの穴部Aに差し込みプレートを格納します。

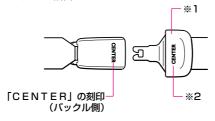
サードシートを格納するときは、必ずシートベルトを分離格納してください。

●サードシートを格納するときは必ずシートベルトを分離格納してください。分離格納しないままサードシートの格納操作を行うと、シートベルトが背もたれなどに挟まれて傷つくおそれがあり、傷ついたまま使用するとシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●分離格納式シートベルトを使用するときは、必ずプレートＡとバックルＡを結合してください。結合しない状態で使用すると、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

知 識

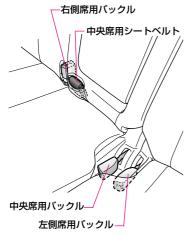
セカンドシート／サードシート中央席シートベルトの結合について

中央席用のシートベルトはバックルに「ＣＥＮＴＥＲ」の刻印があるものと結合してください。左右席用のベルトとは結合できません。

※1 プレートの形状はセカンドシート・サードシート、3点式シートベルト・2点式シートベルトにより異なります。

※2 2点式シートベルトには、プレート側にも「ＣＥＮＴＥＲ」の刻印があります。（3点式にはありません。）

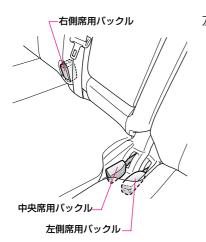
リヤシートベルトの格納のしかた

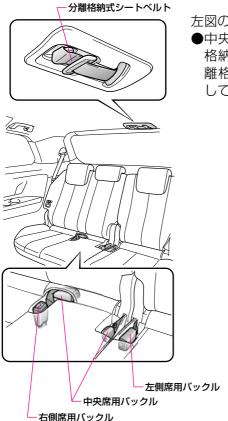
セカンドシートベルトの格納

8人乗り（中央席2点式シートベルト装着車）

左図のように格納します。

8人乗り（中央席3点式シートベルト装着車）

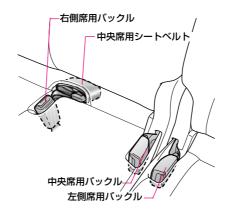
左図のように格納します。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

サードシートベルトの格納

中央席分離格納式シートベルト装着車

左図のように格納します。

●中央席分離格納式シートベルトの分離・格納のしかたについては、P.265の「分離格納式シートベルトの使い方」を参照してください。

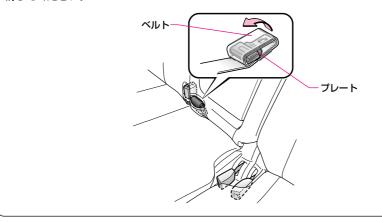
中央席分離格納式シートベルト装着車を除く

下図のように格納します。

リヤシートベルトはバックルをシートの中に押し込んだ状態で使用しないでください。押し込んだままの状態で使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

知 識

中央席用シートベルト（2点式）の格納について

中央席用シートベルト（2点式）を格納するときは、ベルトをプレートに巻きつけてから格納してください。

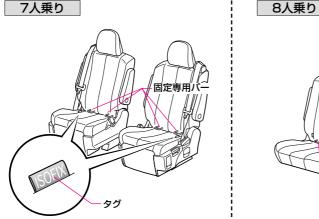
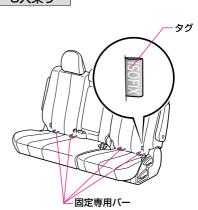
チャイルドシートの固定

ＩSOFＩX対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーでの固定

セカンドシート左右席（サイドリフトアップシートを除く）

ＩＳＯ※ＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカーには、ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカー対応のチャイルドシート・ベビーシートのみ取りつけることができます。お子さまに最適な子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。

※ International Organization for Standardizationの略で「国際標準化機構」の意味。

取りつけ位置について

■ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バーの取りつけ位置

7人乗り

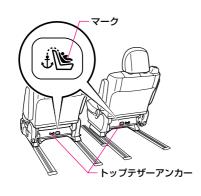
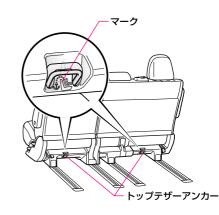
8人乗り

※ グレード等によりタグの取りつけ位置が異なる場合があります。

シートクッションと背もたれの間にあります。

●固定専用バーが装備されていることを示すタグ（表面「LATCH」・裏面「ISOFIX」）がシートについています。

■トップテザーアンカーの取りつけ位置

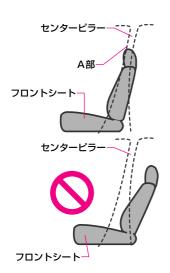
7人乗り

8人乗り

シートクッションうしろ側にあります。
●トップテザーアンカーが装備されていることを示すマークがあります。

取りつけるときは

1 **セカンドシートの前後位置を一番うしろに調整します。**

P.218参照

2 **セカンドシートのヘッドレストを“カチッ”と音がするところまで引き上げます。（P.221参照）**

ヘッドレストが固定されていることを確認してください。

3 **フロントシートのヘッドレスト前側がセンターピラー前側（A部）より前になるようにシートの前後位置・リクライニング調整をしてください。**

P.213参照

4 **固定専用バーとトップテザーアンカーの位置を確認します。**

P.272、273参照

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

5 **子供専用シート（チャイルドシート、ベビーシート）をセカンドシートに取りつけます。**

適合する子供専用シートの取りつけ金具を、固定専用バーに取りつけます。次にテザーベルトをトップテザーアンカーに取りつけます。

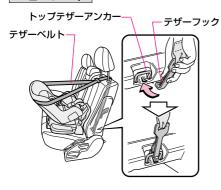
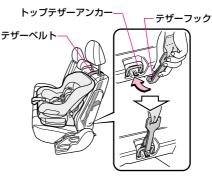
＊取りつけ方法および取りはずし方は、それぞれの商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

●シートの背もたれおよびシートクッションと子供専用シートとの間にすき間ができないように、シートの背もたれの角度を調整してから取りつけてください。

●テザーベルトがねじれないように下図のようにヘッドレストの間に通し、テザーフックを車両側トップテザーアンカーに掛けます。

●テザーベルトがピンと張るまでＡ部を強く引っ張って、子供専用シートを固定します。

■**子供専用シートの取りつけ例**

ベビーシート

チャイルドシート

※ イラストは説明のためのものであり、実際の子供専用シートの形状とは異なります。

6 確実に固定されていることを確認します。

取りつけた子供専用シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

警告　子供専用シートが固定されていることを必ず確認してください。

●正しく取りつけられていないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
なお、子供専用シートによっては、取りつけができない、または取りつけが困難な場合があります。

●子供専用シートを取りつけるときは、ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物やシートベルトなどをかみ込むと、子供専用シートが固定されず、衝突したときなどに飛ばされて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●子供専用シートシートを取りつけるときは、必ずテザーベルトがピンと張るまで張力を掛けてください。テザーベルトが正しく張っていないと、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠警告 テザーベルトは必ずヘッドレストの下を通してください。

●テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。ヘッドレストの上にかけると、子供専用シートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●子供専用シートの取り扱いについては、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取りつけてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

知 識

ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーについて

このＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーには、エスティマハイブリッド指定の道路運送車両の保安基準に適合する子供専用シート（ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカー対応のトヨタ純正チャイルドシート・ベビーシート）のみ取りつけることができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

サイドリフトアップシート装着車について

サイドリフトアップシートには、固定専用バーとトップテザーアンカーはありません。シートベルトで固定してください。（次ページ参照）

シートベルトでの固定

セカンドシート左右席

サイドエアバッグ装着車のセカンドシート中央席

チャイルドシートにシートベルトを取りつけ、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで差し込みます。
その際ベルトがねじれていないことを確認します。

●チャイルドシートに付属の取扱書にしたがい、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定します。

●ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ 品番：73119-22010）

取りつけたあとはチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

※ イラストは説明のためのものであり、実際の子供専用シートの形状とは異なります。

子供専用シートの取りつけは、必ず商品に付属の取り扱い説明書をよくお読みのうえ、正しく取りつけてください。

●正しく取りつけられていないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
なお、子供専用シートによっては、取りつけができない、または取りつけが困難な場合があります。

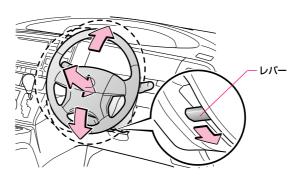
●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。お子さまがシートベルトで遊んで万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●子供専用シートの取り扱いについては、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取りつけてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

道路運送車両の保安基準に適合するＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカー対応のトヨタ純正子供専用シートは、ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定し、この車のシートベルトでは固定しないでください。
（ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーについては、P.272の「ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーでの固定」を参照してください。）

ハンドル・ミラーの調整

ハンドルの調整

レバーを押し下げ、ハンドルを上下、前後に動かし適切な位置にして、レバーを引き上げると固定されます。

 警告 **走行中はハンドル位置の調整をしないでください。**

●走行中はハンドル位置の調整をしないでください。調整中に運転を誤り、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●ハンドル位置を調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

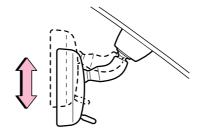
 注意 ハンドル位置を調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、ホーンが鳴らない場合があります。

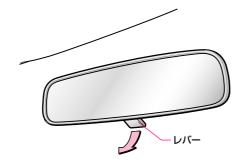
知 識

パワーステアリングの作動音について

ハンドル操作を行ったとき、“ウィーン”というモーター音が聞こえることがあります。これは、パワーステアリングが作動しているときの音で異常ではありません。

インナーミラーの調整

上下調整のしかた

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整します。

防眩切り替えのしかた

通常はミラー下側のレバーを前方に押した状態で使用します。
後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを手前に引きます。

走行中は、インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ドアミラーの調整

鏡面角度調整のしかた

1 **調整する側のメインスイッチを押します。**
R…右側ドアミラー
L…左側ドアミラー

2 **角度を調整します。**
位置調整スイッチでミラーの角度を調整します。

3 **メインスイッチを中立にします。**
調整したあとは、メインスイッチを中立の位置にもどします。

格納のしかた

	スイッチの状態	ミラーの状態
ＯＮ（格納）		
ＯＦＦ（復帰）		

格納スイッチを押すごとに、ＯＮ（格納）とＯＦＦ（復帰）に切り替わります。“パワー”スイッチがＯＦＦのときは、手で格納・復帰させることもできます。

警告 **走行中は、ドアミラーの調整をしないでください。**

●走行中は、ドアミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●ドアミラーを倒したまま走行しないでください。ドアミラーによる後方確認ができず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

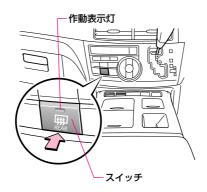
ドアミラーが動いているときは手を触れたりしないでください。手を挟んでけがをしたり、ドアミラーの故障などの原因となるおそれがあります。

知 識

作動条件について

● “ パワー ” スイッチがアクセサリーモードまたはＯＮ モードのとき使用できます。
●ドアミラー格納作動中に、“ パワー ” スイッチをＯＦＦにすると、格納作動が停止します。
●次の場合は、ドアミラーを手で格納・復帰させても、ミラーは格納スイッチの状態にもどります。
  ●手動で操作したあとに、“ パワー ” スイッチをアクセサリーモードまたはＯＮ モードにしたとき。
●格納スイッチがＯＦＦ（復帰）の状態で、手でドアミラーを前方に倒したときは、“ パワー ” スイッチをアクセサリーモードまたはＯＮ モードにしても、ミラーは復帰しません。一度格納スイッチをＯＮ（格納）にしてから、再度格納スイッチをＯＦＦにして復帰させてください。

ミラーヒーターの使い方

寒冷地仕様車

リヤウインドゥデフォッガースイッチを押すと約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。

●作動中は作動表示灯が点灯します。

作動中はドアミラーの表面が熱くなりますので、手を触れないでください。やけどをするおそれがあり危険です。

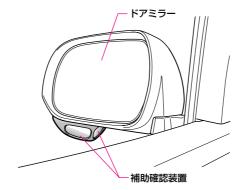
連続して長時間使用すると、補機バッテリーあがりの原因となります。

知 識

ミラーヒーターについて

●ドアミラーの鏡面を暖めて、霜、露、雨滴などを取り除きます。
●ミラーヒーターと同時にリヤウインドゥデフォッガー（P.349参照）も作動します。

作動条件について

“パワー”スイッチがON モードのとき使用できます。

補助確認装置

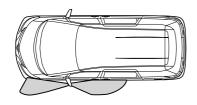
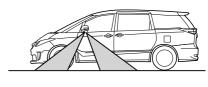
補助確認装置が助手席側ドアミラー下部にあります。

補助確認装置に汚れが付着しているときは、拭き取ってください。

●補助確認装置の鏡面部に汚れなどが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れを拭き取ってください。そのままにしておくと視界のさまたげとなるおそれがあります。
●車両直前・直左部や後方の確認は直接確認するか、インナーミラー、ドアミラーなども併用して十分行ってください。

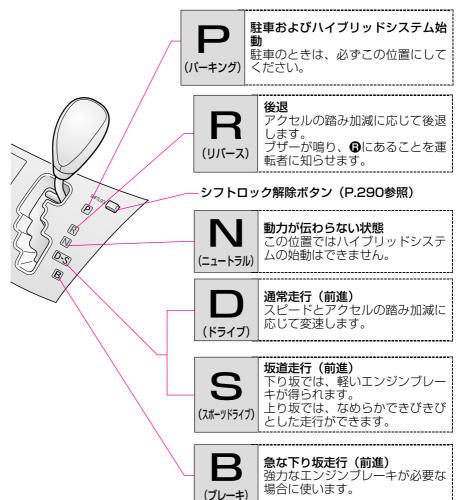
補助確認装置について

発進時またはごく低速時に左側車両側面を確認するときに役立ちます。
●ミラーの鏡面は固定式ですので鏡面を動かしてミラーの調整をすることはできません。

ミラーに映るおよその範囲

※身長・シート位置により、確認できる範囲は異なります。

シフトレバーの使い方

シフトレバーの使い方　HYBRID

シフトレバーの働き

警告	駐車時は、必ずパーキングブレーキをかけて、シフトレバーをⓅにしてください。 メーター内の READY （走行可能表示灯）が点灯した状態にしておくと、万一シフトレバーがⓅ、Ⓝ以外のとき、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだとき急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。 また、この車両はハイブリッドシステムが始動し走行可能な状態（ READY が点灯している状態）になっていてもエンジン音や振動がない場合があるため、駐車時は必ずパーキングブレーキをかけて、シフトレバーをⓅにしてください。

	シフトレバーがⓃでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、Ⓝで長時間放置すると、駆動用電池がバッテリーあがりを起こし、走行不能になるおそれがあります。

知 識

スポーツドライブ（Ⓢ）について

シフトレバーをⓈに入れると、以下のような効果があります。

●上り坂では、なめらかできびきびとした走行ができます。
●下り坂では軽いエンジンブレーキが得られます。

ただし、シフトレバーをⒹにして走行するのと比べて燃費が悪くなります。
通常はシフトレバーをⒹにして使用してください。燃費性能など、経済性を重視した走行ができます。

エンジンブレーキについて

この車両のエンジンブレーキは、減速力を得るためだけでなく、「回生ブレーキ」として駆動用電池の充電も行っています。（P.470参照）

知 識

安全装備について

シフトロックシステム

シフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

●ブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーをⓅからレバー操作できません。
- ●“パワー”スイッチがアクセサリーモードまたはＯＦＦのときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
- ●シフトレバーを助手席側に倒したままブレーキペダルを踏むと、操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み込んで、操作してください。

●シフトレバーがⓅ以外では“パワー”スイッチをＯＦＦにすることはできません。
- ●“パワー”スイッチをＯＦＦにするときは、シフトレバーをⓅに入れてください。Ⓟ以外でスイッチを押すとスイッチはアクセサリーモードになります。

●Ⓡにすると、ブザーが鳴ります。
- ●ブザーが鳴り、Ⓡにあることを運転者に知らせます。
- ●車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。（車外の人に対する警告音ではありません。）

シフトロック解除ボタンの使い方

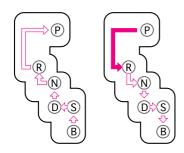
万一、シフトレバーがⓅから操作できないときに使用します。

●ブレーキペダルを踏んだ状態で、“パワー”スイッチをアクセサリーモードにして、シフトロック解除ボタンを押しながらレバーを操作してください。

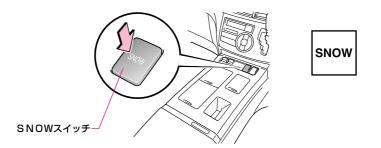
●シフトロックシステムなどの故障が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトレバーの取り扱い

■シフトレバーの操作

ⓅとⒹの間の操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをゲートにそって動かします。

シフトレバーをゲートにそって**そのまま**動かします。

ＳＮＯＷスイッチの使い方

ＳＮＯＷスイッチを押すとスノーモードに切り替わり、もう一度押すと解除されます。

●スノーモードにすると、メーター内のＳＮＯＷ表示灯が点灯します。（P.309参照）

知 識

スノーモードについて

ハイブリッドシステムの出力をコントロールし、雪道などすべりやすい路面での発進に適しています。

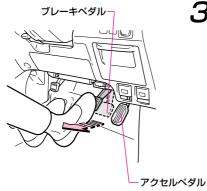
作動条件について

● “ パワー ” スイッチがＯＮ モードのとき使用できます。
● “ パワー ” スイッチをアクセサリーモードまたはＯＦＦにすると、スノーモードは解除されます。

発進のしかた　HYBRID

通常発進のしかた

1 ブレーキペダルを右足でしっかり踏んだまま、シフトレバーを**D**に入れます。

2 左足でパーキングブレーキを解除します。
P.300参照

3 ブレーキペダルを徐々にゆるめてから、右足でアクセルペダルをゆっくり踏み発進します。

上り坂の発進のしかた

1 パーキングブレーキがしっかりかかっていることを確認してから、シフトレバーをⒹに入れます。

2 右足でアクセルペダルをゆっくり踏みます。

3 車が動き出す感触を確認してから、左足でパーキングブレーキを解除し、発進します。

ブレーキペダルを右足でしっかり踏んだままシフトレバーを操作してください。

- 発進するときは、ブレーキペダルを右足でしっかり踏んだまま、シフトレバーを操作してください。
- 運転するときは、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- アクセルペダルを踏み込んだままでのシフトレバー操作は絶対に行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

駆動用電池の残量が低下した場合は、ハイブリッドシステムの出力が低下することがあります。この場合、より強めにアクセルペダルを踏んで発進してください。

READY が消灯し、走行できないとき

ハイブリッドシステムを始動した直後に、シフトレバーを操作すると起こることがあります。この場合は、シフトレバーをⓅにして、再度ハイブリッドシステムを始動する操作を行ってください。READY が点滅から点灯にかわってからシフトレバーの操作をしてください。

通常の走行

シフトレバーをⒹに入れたまま走行します。
●アクセルとブレーキの操作だけで、加速・減速します。

急加速するには

アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。

坂道で走行するときは

■上り坂
坂道に応じてシフトレバーをⓈに入れます。エンジン回転数の変化が少ないなめらかな走行ができます。

■下り坂
フットブレーキを使いすぎると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。シフトレバーがⒹのままでスピードが出すぎるときは、Ⓑに入れエンジンブレーキを併用します。
●シフトレバーをⓈにすることによっても軽いエンジンブレーキが得られます。
●下り坂を連続して走行したときなどに、アクセルペダルをもどすとエンジン回転が高くなることがありますが、異常ではありません。

⚠警告　走行中にはシフトレバーをⓃに入れないでください。

●走行中にはシフトレバーをⓃに入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●前進で走行中は、シフトレバーをⓇに入れないでください。車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、ハイブリッド用トランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。
●ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●坂道などでは、シフトレバーをⒹ（ⓈまたはⒷ）にしたまま惰性で後退したり、Ⓡにしたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

シフトレバーをⓃにしたままで走行すると駆動系の故障の原因となるおそれがあります。

●シフトレバーをⓃにしたままで走行すると駆動系の故障の原因となるおそれがあります。
●渋滞のときはⒹのまま走行してください。
シフトレバーがⓃでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、Ⓝのままで長時間放置すると、駆動用電池がバッテリーあがりを起こし、走行不能になるおそれがあります。
●走行中に自動的に充電されますが、シフトレバーがⓃにあるときは充電がおこなわれません。車両停止時は、Ⓓでブレーキをしっかり踏むか、Ⓟにしてください。

知 識

レーダークルーズコントロール・クルーズコントロール使用時のエンジンブレーキについて

レーダークルーズコントロール・クルーズコントロールを使用しているときに、シフトレバーをⒹからⓈにしてもクルーズコントロールが解除されていないため、エンジンブレーキは効きません。減速が必要なときはクルーズコントロールスイッチで設定速度をかえる（P.368、377、383）かブレーキペダルを踏みます。

燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速をひかえるなど、通常のガソリンエンジン車と同様の心がけが必要です。P.526の「環境にやさしい運転」を参照してください。

エンジンブレーキについて

高速走行時は、通常の車に比べてエンジンブレーキによる減速感が小さくなります。

ＥＶ※ドライブモードへの切り替え方　HYBRID

ＥＶドライブモードについて

EVドライブモードは、駆動用電池に蓄えられた電気を使って電気モーターを駆動し、「電気自動車」のように走行するモードです。
早朝、深夜の住宅街、または屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

ＥＶドライブモードへの切り替え方

ＥＶドライブモードスイッチを押します。
●ＥＶドライブモードになると、ＥＶドライブモード表示灯が点灯します。
●ＥＶドライブモードのときスイッチを押すと、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。

警告　ＥＶドライブモードで走行しているときは、周りに十分注意して運転してください。

●ＥＶドライブモードで走行しているときは歩行者、自転車、付近の人や車に十分注意して運転してください。
●ＥＶドライブモードでの走行は、エンジン音がしないため歩行者、自転車、付近の人や車が車両の発進や接近に気づかない場合があります。

※ Electric Vehicleの略で「電気自動車」の意味。

知識

ＥＶドライブモードの切り替えについて

車両の状態によっては、EVドライブモードに切り替わらない場合があります。EVドライブモードに切り替わらないときはブザーが鳴ります。ただし、ＥＶドライブモード表示灯は点灯しません。
次のときはEVドライブモードに切り替わらない場合があります。
●ハイブリッドシステムが高温のとき。
（車両を炎天下に放置した後や登降坂、高速走行後など）
●ハイブリッドシステムが低温のとき。
（約0℃を下回るような低温に長時間放置したあとなど）
●ガソリンエンジン暖機運転中。
●駆動用電池の充電量が低いとき。
●車速が約25km/h以上のとき。
●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など。
●フロントデフロスターを使用しているとき。

ＥＶドライブモードの自動キャンセルについて

EVドライブモードで走行中、自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。自動でEVドライブモードから通常走行になると、ブザーが鳴り、EVドライブモード表示灯が3回点滅後、消灯します。
次のときは自動でEVドライブモードがキャンセルされる場合があります。
●駆動用電池の充電量が低下したとき。
●車速が約25km/hをこえたとき。
●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など。

ＥＶドライブモードの走行可能距離について

走行可能距離は、駆動用電池の充電量やエアコンの状態などによって異なりますが、数百mから1km程度です。

燃費について

エスティマハイブリッドは通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費が良くなるように制御されていますので、EVドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

停車のしかた

1 **車を止めます。シフトレバーはⒹのまま、右足でブレーキペダルをしっかり踏みます。**

2 **必要に応じて、パーキングブレーキをかけます。**
上り坂での停車は、クリープ現象で前へ進もうとする力よりも、車が後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退するおそれがあります。
右足でブレーキペダルをしっかりと踏み、左足でしっかりとパーキングブレーキをかけてください。

3 **長時間停車する場合は、シフトレバーをⓅに入れます。**

警告 **走行中は、シフトレバーをⓅに入れないでください。**

●走行中はシフトレバーをⓅに入れないでください。ハイブリッド用トランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●停車中は空ぶかしをしないでください。シフトレバーがⓅまたはⓃ以外にあると、車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

停車が長くなりそうなときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをⓅにしてください。

●停車が長くなりそうなときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをⓅにしてください。シフトレバーがⓃでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、Ⓝのままで長時間放置すると、駆動用電池がバッテリーあがりを起こし、走行不能になるおそれがあります。
●アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でシフトレバーがⒹ（ⓈまたはⒷ）のままアクセルを踏み込みながら止まらないでください。駆動系部品が過熱し、故障の原因になります。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

駐車のしかた

1 **車を完全に止めます。**

2 **パーキングブレーキをかけます。**
右足でブレーキペダルをしっかりと踏んだまま、左足でパーキングブレーキをしっかりかけます。

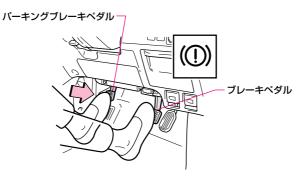
3 **シフトレバーを🅟に入れます。**
車が動き出さないためにも、必ず🅟に入れてください。

4 **“パワー”スイッチを押して、ハイブリッドシステムを停止します。**
車を離れるときは、必ずハイブリッドシステムを停止して、ドアを施錠してください。

車から離れるときは、必ずハイブリッドシステムを停止してドアを施錠してください。メーター内の READY （走行可能表示灯）が点灯した状態にしておくと、万一シフトレバーが🅟、🅝以外のとき、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだとき、急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、この車両は、ハイブリッドシステムが始動し走行可能な状態（ READY が点灯している状態）になっていてもエンジン音や振動がない場合があるため、駐車時は必ずパーキングブレーキをかけて、シフトレバーを🅟にしてください。

パーキングブレーキペダルの使い方

パーキングブレーキペダルの取り扱い

パーキングブレーキをかけるには

右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。
●“パワー”スイッチがＯＮ モードのときはブレーキ警告灯が点灯します。

パーキングブレーキを解除するには

右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルを“カチッ”と音がするまで踏み込み、ゆっくり離します。
●ブレーキ警告灯（赤）が消灯します。

注意 パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

知識

かけなおすときは

パーキングブレーキをかけたあと、かけなおしたい場合は、一度解除してから踏みなおします。

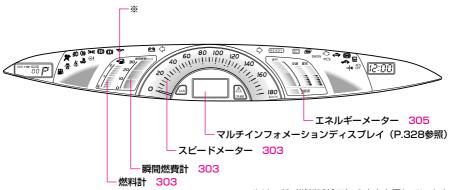
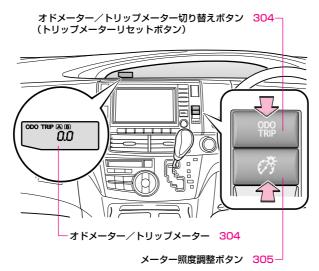
警告ブザーについて

パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が約5km/hになると、警告ブザーが鳴ります。

冬季のパーキングブレーキの使用について

P.525の「駐車するときは」をお読みください。

メーター・表示灯・警告灯の見方

メーター HYBRID

※フューエルリッド（燃料補給口）の方向を示しています。

知識

メーターについて

“パワー”スイッチをON モードにしたときなどに、メーター内の指針がゼロ目盛り付近で短時間微動する場合がありますが、異常ではありません。

燃料計

“パワー”スイッチがON モードのとき、燃料残量を示します。
燃料タンク容量は約65Ｌです。

注意

ハイブリッド車といっても燃料がないと走行できません。
通常のガソリンエンジン車と同様に、燃料残量警告灯が点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。

知 識

燃料計について

●坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯したり、残量表示が変化することがあります。
●燃料補給後、指示が安定するまで少し時間がかかります。
●“パワー”スイッチがON モードのまま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示できません。
●燃料計にある ◀⛽ 印はフューエルリッド（燃料補給口）が助手席側にあることを示しています。

スピードメーター

車両の走行速度を示します。

瞬間燃費計

“パワー”スイッチがON モードのとき、約0.5秒ごとの瞬間燃費を表示します。

知 識

瞬間燃費について

次の場合は、表示が0km/lになります。
● READY （走行可能表示灯）が点灯していないとき。
●燃費の計測ができなかったとき。
●停車しているとき。

オドメーター／トリップメーター

“ パワー ” スイッチがＯＮ モードのとき、次の表示をします。

■オドメーター

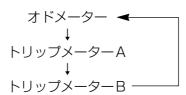
走行した総距離をkmの単位で示します。

■トリップメーター

2種類の区間距離（トリップＡ、トリップＢ）をkmの単位で示します。

オドメーター／トリップメーター切り替えボタン（トリップメーターリセットボタン）

■オドメーターとトリップメーターの表示の切り替え方

切り替えボタンを押すごとに、次のように表示が切り替わります。

■トリップメーターを0（ゼロ）にもどすときは

トリップメーターＡ、トリップメーターＢのうち0にしたいほうを表示させてから、リセットボタンを表示が0になるまで押し続けます。

補機バッテリーとの接続が断たれたときは、トリップメーターは0になります。

メーター照度調整ボタン

メーター照度調整ボタンを押すごとに、メーター照明の明るさを調整できます。

●5段階で明るさのレベルを調整することができます。
●ライト消灯時と点灯時で、それぞれの明るさのレベルを設定できます。

知 識

作動条件について

“ パワー ” スイッチがＯＮ モードのとき使用できます。

減光について

周囲が暗いときにライトを点灯すると、メーター照明が減光されます。周囲が明るいときに（昼間など）ライトを点灯しても、メーター照明は減光されません。

エネルギーメーター

■走行系

ガソリンエンジンとモーターのエネルギー入出力を表示します。

■空調系

エアコン用コンプレッサーの消費電力を表示します。

■電気系

アクセサリーコンセントやランプ類、エアコンのファンなど、エアコン用コンプレッサー以外の消費電力を表示します。

知 識

エネルギーメーターについて

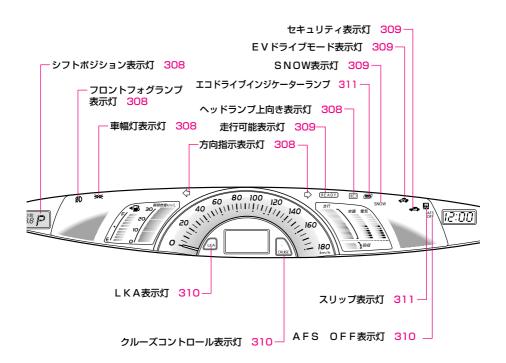
表示される消費電力はおおよその表示であり、正確な消費電力を示すものではありません。

走行系エネルギーメーターの表示について

回生ブレーキ時（充電時）には回収側に表示されます。

エネルギーの回収について

駆動用電池の状態によっては回収される電気エネルギーが変化することがあります。

表示灯　HYBRID

＊図ではすべてのグレードにおける表示灯を掲載しています。実際の車に設定される表示灯はグレード等により異なります。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

〈表示灯一覧表〉

表示灯	表示灯名	表示灯	表示灯名
	シフトポジション表示灯	SNOW	ＳＮＯＷ表示灯
	方向指示表示灯		セキュリティ表示灯
	ヘッドランプ上向き表示灯	CRUISE	クルーズコントロール表示灯
	車幅灯表示灯	AFS OFF	ＡＦＳ　ＯＦＦ表示灯
	フロントフォグランプ表示灯	LKA	ＬＫＡ表示灯
READY	走行可能表示灯		スリップ表示灯
EV	ＥＶドライブモード表示灯	ECO	エコドライブインジケーターランプ

シフトポジション表示灯

選択しているシフトポジションが表示されます。

方向指示表示灯

方向指示灯、非常点滅灯を作動させると点滅します。（P.343、351参照）

知 識

点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

ヘッドランプ上向き表示灯

ヘッドランプを上向きにすると点灯します。（P.342参照）

車幅灯表示灯

車幅灯、尾灯を点灯させると点灯します。（P.340、341参照）

フロントフォグランプ表示灯

フロントフォグランプを点灯させると点灯します。（P.344参照）

READY

走行可能表示灯

ハイブリッドシステムを始動すると点灯し、走行可能状態であることを示します。詳しくは、P.142を参照してください。

点灯しない場合は走行できません。“パワー”スイッチをＯＦＦにして再度ハイブリッドシステム始動操作を行ってください。
以上の操作をしても消灯したままの場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

ＥＶドライブモード表示灯

●ＥＶドライブモードにすると点灯します。
●自動的にＥＶドライブモードから通常走行になると、ブザーが鳴り、点滅後消灯します。
詳しくはP.296を参照してください。

ＳＮＯＷ表示灯

スノーモードにすると点灯します。（P.291参照）

セキュリティ表示灯

盗難防止システムが作動状態になると点滅します。（P.501参照）

CRUISE

クルーズコントロール表示灯

クルーズコントロールメインスイッチを押してシステムをＯＮにすると点灯します。
その後、システムに異常があると点滅します。(P.357、358、364、375、382、385参照)

AFS
OFF

ＡＦＳ　ＯＦＦ表示灯

ＡＦＳ　ＯＦＦスイッチを押してインテリジェントＡＦＳを作動停止状態にすると点灯します。（Ｐ.353参照）
インテリジェントＡＦＳまたはディスチャージヘッドランプのオートレベリングシステムに異常があると点滅します。（ディスチャージヘッドランプについてはＰ.506参照）
ＡＦＳ　ＯＦＦ表示灯が点滅しているときは、インテリジェントＡＦＳまたはオートレベリングシステムは作動しませんがヘッドランプは点灯しますので通常走行には支障ありません。

表示灯が点滅しているときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

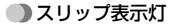
表示灯について

“ パワー ” スイッチをＯＮ モードまたはハイブリッドシステムを始動すると点灯し、数秒後に消灯します。

LKA

ＬＫＡ表示灯

レーンキーピングアシスト装着車

レーンキーピングアシストスイッチを押してシステムをＯＮにすると点灯します。
その後、システムに異常があると点滅します。（Ｐ.387参照）

スリップ表示灯

ＡＢＳ、ＴＲＣシステム、またはＶＳＣシステムが作動したときに点滅します。

注意

“パワー”スイッチをＯＮ モードにしても点灯しないときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

表示灯について

“パワー”スイッチをＯＮ モードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

■ＶＳＣ作動警告ブザー

車両が横すべりしそうになったときに断続音が鳴ります。

知 識

作動について

運転状況によっては、スリップ表示灯の点滅のみで警告する場合があります。

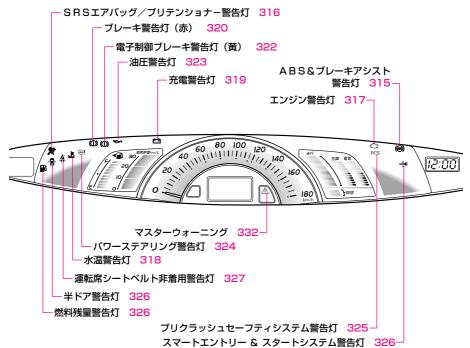
エコドライブインジケーターランプ

二酸化炭素排出量の少ない運転をしているときに点灯してお知らせします。（ＳＮＯＷモード以外で、シフトポジションをDで走行時）

知 識

表示灯について

必要以上にアクセルペダルを踏むと消灯します。

■メーター内

＊図ではすべてのグレードにおける警告灯を掲載しています。実際の車に設定される警告灯はグレード等により異なります。

■インパネ中央

助手席シートベルト非着用警告灯　327

〈警告灯一覧表〉

警告灯	警告灯名	警告灯	警告灯名
ABS	ＡＢＳ＆ブレーキ アシスト警告灯		パワーステアリング警告灯
	ＳＲＳエアバッグ／ プリテンショナー警告灯	PCS	プリクラッシュ セーフティシステム警告灯
	エンジン警告灯		燃料残量警告灯
	水温警告灯		半ドア警告灯
	充電警告灯		スマートエントリー ＆ スタートシステム警告灯
	ブレーキ警告灯（赤）		運転席シートベルト 非着用警告灯
	電子制御 ブレーキ警告灯（黄）	PASSENGER	助手席シートベルト 非着用警告灯
	油圧警告灯		

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ＡＢＳ＆ブレーキアシスト警告灯

ＡＢＳ＆ブレーキアシストシステム（P.490参照）に異常があると点灯します。

●警告灯が点灯しているときは、下記のシステムは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されています。
- ＡＢＳ＆ブレーキアシスト
- ＶＳＣ

●警告灯が点灯しているときは、ＡＢＳが作動しないため急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時には、タイヤがロックすることがあります。

ブレーキ警告灯（赤）と同時に点灯したままのときはただちに停車してください。

●警告灯がブレーキ警告灯（赤）と同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。この場合、ＡＢＳに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- “パワー”スイッチをＯＮ モード、またはハイブリッドシステムを始動しても点灯しないとき。
- ハイブリッドシステムを始動しても点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき。

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯について

●“パワー”スイッチをＯＮ モードにすると点灯し、ハイブリッドシステムを始動すると消灯します。

●“パワー”スイッチがＯＦＦ、アクセサリーモードの状態で、ハイブリッドシステムを始動すると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯

ＳＲＳエアバッグシステム（Ｐ.474参照）、またはプリテンショナー付シートベルトシステム（Ｐ.488参照）に異常があると、点灯します。

注意

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。衝突したときなどにＳＲＳエアバッグ、またはプリテンショナー付シートベルトが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

- “パワー”スイッチをＯＮ モード、またはハイブリッドシステムを始動しても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
- 走行中に点灯したとき。

知識

警告灯について

“パワー”スイッチをＯＮ モード、またはハイブリッドシステムを始動すると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジン警告灯

READY（走行可能表示灯）が点灯した状態で、エンジン電子制御システム、または電子制御スロットルシステムに異常があると点灯または点滅します。

READYが点灯した状態で警告灯が点灯または点滅したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- READY（走行可能表示灯）が点灯した状態で警告灯が点灯または点滅したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 走行中に万一、電子制御系の異常が解消された場合でも、ハイブリッドシステムを停止して、“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたはＯＦＦにするまでは、正常状態に復帰することはありません。

知識

警告灯について

- “パワー”スイッチをＯＮ モードにすると点灯し、ハイブリッドシステムを始動すると消灯します。
- “パワー”スイッチがＯＦＦ、アクセサリーモードの状態で、ハイブリッドシステムを始動すると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

水温警告灯

READY（走行可能表示灯）が点灯した状態で、冷却水の温度が上昇やモーターの過熱時などオーバーヒートのおそれがあるときに点灯します。

- READY（走行可能表示灯）が点灯した状態で点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、P.624の「オーバーヒートしたときは」にしたがって処置をしてください。
- 警告灯の点灯状態が続くときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯について

“パワー”スイッチをON モードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

次の警告灯が点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

充電警告灯

READY（走行可能表示灯）が点灯した状態で、充電系統（インバーターユニットなど）に異常があると点灯します。

READY（走行可能表示灯）点灯中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へご連絡ください。

警告灯について

“パワー”スイッチをON モードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

ブレーキ警告灯（赤）

“パワー”スイッチがＯＮモードで次のときに点灯します。

●パーキングブレーキをかけたままのとき。
- パーキングブレーキが解除されていても、“パワー”スイッチをＯＮモードにすると、数秒間点灯します。

●ブレーキ液が不足しているとき。

●電子制御ブレーキシステムに異常があるとき。

●ＡＢＳ＆ブレーキアシストに異常があるとき。

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキがかかったまま、車速が約5km/h以上になると、警告ブザーが鳴ります。

●マルチインフォメーションディスプレイにも警告内容が表示されます。（P.333参照）

警告灯が次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車してトヨタ販売店へご連絡ください。

●ハイブリッドシステムを始動してパーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき。
この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。

●警告灯がＡＢＳ＆ブレーキアシスト警告灯と同時に点灯したままのとき。
この場合、ＡＢＳ、ＥＢＤ、またはブレーキアシストに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ●“パワー”スイッチがON モードで、パーキングブレーキをかけても点灯しないとき。
- ●パーキングブレーキが解除された状態で、“パワー”スイッチをON モードにしても点灯しないとき。

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、警告ブザーが鳴ったときは、すみやかに停車し、パーキングブレーキを解除してください。パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

警告灯について

●“パワー”スイッチをON モードにすると点灯し、ハイブリッドシステムを始動すると消灯します。

●ハイブリッドシステム始動時、約60秒間警告灯が点灯することがありますが、その後、消灯すれば異常ではありません。

●繰り返しブレーキペダルを踏むと警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがありますが、数秒後に消灯、消音すれば異常ではありません。この場合、一時的にブレーキペダルの操作感がかわりますが、消灯、消音すればもとにもどります。

作動音について

ハイブリッドシステムを始動したとき、またはブレーキペダルを踏んだとき、エンジンルームからモーター音が聞こえることがあります。これはブレーキシステムの作動音で異常ではありません。

次の警告灯が点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

電子制御ブレーキ警告灯（黄）

“パワー”スイッチがON モードで次のときに点灯します。

●回生ブレーキシステムに異常があるとき。
●電子制御ブレーキシステムに異常があるとき。
（ブレーキ警告灯（赤）と同時に点灯します。）

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店へご連絡ください。

● “パワー”スイッチをON モードにしても点灯しないとき。
● “パワー”スイッチがON モードで点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき。

知識

警告灯について

● “パワー”スイッチをON モードにすると点灯し、ハイブリッドシステムを始動すると消灯します。
●ハイブリッドシステム始動時、約60秒間警告灯が点灯することがありますが、その後、消灯すれば異常ではありません。
●繰り返しブレーキペダルを踏むと警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがありますが、数秒後に消灯、消音すれば異常ではありません。この場合、一時的にブレーキペダルの操作感がかわりますが、消灯、消音すればもとにもどります。

作動音について

ハイブリッドシステムを始動したとき、またはブレーキペダルを踏んだとき、エンジンルームからモーター音が聞こえることがあります。これはブレーキシステムの作動音で異常ではありません。

次の警告灯が点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

油圧警告灯

（走行可能表示灯）が点灯した状態で、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力に異常があると点灯します。
この警告灯はオイル量を示すものではありません。オイル量の点検はオイルレベルゲージにより行ってください。
（点検方法はP.569を参照してください。）

注意

（走行可能表示灯）点灯中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、ハイブリッドシステムを停止して、エンジンオイル量を点検してください。点灯したまま走行し続けるとエンジンを損傷するおそれがあります。エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

知 識

警告灯について

“パワー”スイッチをONモードにすると点灯し、ハイブリッドシステムを始動すると消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

パワーステアリング警告灯

パワーステアリング制御システムに異常があると点灯します。

点灯したときは、ハンドル操作が重くなることがあります。しっかり操作してください。

●点灯したままのときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、ハンドル操作が重くなることがありますので、ハンドルをしっかり持って操作をしてください。

●下り坂などでハイブリッドシステムが始動していないのに車両が動いてしまったときなど、（走行可能表示灯）が消灯している状態で車両が動いているときに、ハイブリッドシステムを始動すると、ハンドルの操作が非常に重くなります。
この場合、車両を完全に停止させ、ハイブリッドシステムを始動させてください。

知識

警告灯について

“パワー”スイッチをＯＮモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

PCS

プリクラッシュセーフティシステム警告灯

プリクラッシュセーフティシステム装着車

プリクラッシュセーフティシステムに異常があると点灯・点滅します。（P.508、513参照）

●マルチインフォメーションディスプレイにも警告内容が表示されます。（P.513参照）

READY（走行可能表示灯）点灯中に点灯したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

警告灯について

●“パワー”スイッチをＯＮモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

●プリクラッシュブレーキＯＦＦスイッチを押すと点滅します。（P.511参照）

次の警告灯が点灯したときは、すみやかに対処してください。

燃料残量警告灯

“ パワー ” スイッチがＯＮ モードのとき、残量が約１０Ｌ以下になると点灯します。点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。

●坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

半ドア警告灯

いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていないときに点灯します。

●マルチインフォメーションディスプレイにも警告内容が表示されます。

警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが確実に閉まっていないため、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

スマートエントリー＆スタートシステム警告灯

P.151を参照してください。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

次の警告灯が点滅したときは、すみやかに対処してください。

運転席シートベルト非着用警告灯

“パワー”スイッチがＯＮ モードのとき、運転席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

■運転席シートベルト非着用警告ブザー

警告灯が点滅している状態で、車速が約20km/h以上になると、断続音が約120秒間鳴ります。（ブザーが鳴りはじめてから、約30秒後にブザーの音がかわります。）

●シートベルトを装着すると消音します。

助手席シートベルト非着用警告灯

“パワー”スイッチがＯＮ モードで、かつ助手席シート座面の乗員検知センサーが乗員を検知したときに、助手席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

■助手席シートベルト非着用警告ブザー

警告灯が点滅している状態で、車速が約20km/h以上になると、断続音が約120秒間鳴ります。（ブザーが鳴りはじめてから、約30秒後にブザーの音がかわります。）

●シートベルトを装着すると消音します。

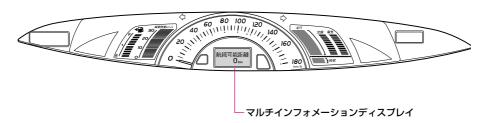
知 識

警告灯について

●センサーは、助手席シート座面（うしろ半分）に、ある一定以上の重量がかかったときに検知します。したがって、荷物などを置いた場合にも検知し、警告灯が点滅することがあります。

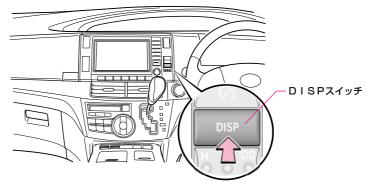
●助手席シート座面上にクッション（座布団）などを敷くと、重量が分散され、センサーが乗員を検知しない場合があります。

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイでできること

マルチインフォメーションディスプレイに、次の情報が表示されます。

クルーズインフォメーションディスプレイ……………………P.330参照

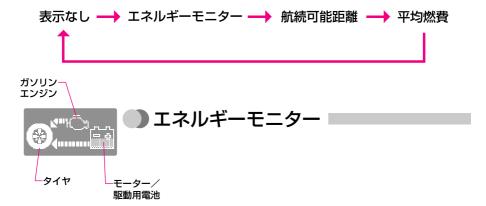
警告表示…………………………………………………………P.332参照

各表示の切り替えのしかた

ＤＩＳＰスイッチを押すごとに、「クルーズインフォメーションディスプレイ」の表示を切り替えることができます。（次ページ参照）
また、レーダークルーズコントロール、レーンキーピングアシストのメインスイッチをＯＮにすると「レーダークルーズコントロール」の表示にも切り替えることができます。（レーダークルーズコントロール装着車、レーンキーピングアシスト装着車）

ディスプレイの表示について

次の場合は、ディスプレイの表示が自動的に切り替わります。
●警告する項目が発生すると、「クルーズインフォメーションディスプレイ」の項目が表示されていても、警告表示に切り替わります。
●レーダークルーズコントロール、レーンキーピングアシストのメインスイッチがＯＮのとき、それぞれの表示に変更があると、「クルーズインフォメーションディスプレイ」の項目が表示されていても、それぞれの表示に切り替わります。
（レーダークルーズコントロール装着車、レーンキーピングアシスト装着車）

クルーズインフォメーションディスプレイ HYBRID

ＤＩＳＰスイッチを押すごとに、次のように表示が切り替わります。

エネルギーモニター

車両駆動状況、ハイブリッドシステムの作動状況、およびエネルギーの回収状況を表示します。
ハイブリッドシステムの作動状態についてはＰ.472を参照してください。

■エネルギーモニター表示

ガソリンエンジンにより走行しているとき。

モーターにより走行しているとき。

ガソリンエンジンとモーターの両方で走行しているとき。

回生ブレーキにより、駆動用電池へ充電しているとき。

 知 識

エネルギーモニター表示について

●駆動用電池の残量を8段階で表示します。
●表示されるエネルギーの流れや駆動用電池の残量などは、走行状況により異なります。

航続可能距離（000km）

現在の燃料残量と燃費から航続可能距離を算出して表示します。

 注意

航続可能距離がまだ十分走行できる数値であっても、燃料計がＥに近づくか、燃料残量警告灯が点灯したら早めに燃料を補給してください。

知 識

航続可能距離表示について

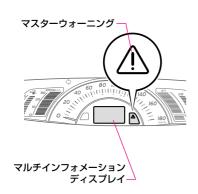
●新車を受け取った際に、航続可能距離として表示される数値は正しい数値を表示しないことがあります。
●表示される航続可能距離は、過去の燃費をもとに計算しているため、運転方法・道路状況により増減することがあります。
●燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
●燃料計が異常検出したときは、しばらく表示が「　km」になることがあります。
●バッテリーターミナルの脱着を行ったときは、学習した燃費はリセットされます。

平均燃費（00.0km/L）

リセットしてから READY （走行可能表示灯）が点灯している時の平均燃費を約10秒ごとに更新して表示します。

●現時点からの数値を計測したい場合（リセットしたい場合）は、ＤＩＳＰスイッチを約1秒以上押し続けます。

警告表示

HYBRID

車両の各システムに、システムの異常などのお知らせしたい情報が発生すると、“ポーン”という警告音が鳴るとともにマスターウォーニングが点灯または点滅して、マルチインフォメーションディスプレイに警告内容などの情報が表示されます。
なお、システムによっては、マルチインフォメーションディスプレイに情報が表示されるのみの場合もあります。

- ●警告表示が2つ以上ある場合には、自動的に表示が切り替わり、繰り返して表示します。
- ●警告表示の要因が解消されると、警告表示は消えます。

半ドア警告表示

いずれかのドア（バックドアを含む）が開いていると、開いているドアが文字と絵で表示されます。

警告表示がでたまま走行しないでください。ドアが確実に閉まっていないため、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告表示がでたときは、車を止め、ドアを確実に閉めてから走行してください。

始動時は
ブレーキを
踏んでください

始動時警告表示

ブレーキを踏まずに “ パワー ” スイッチを押してスイッチの切り替えを2回繰り返すと、警告内容が数秒表示されます。ただし、マスターウォーニングは点滅または点灯しません。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

パーキングブレーキ
未解除

パーキングブレーキ未解除警告表示

パーキングブレーキがかかったまま、車速が約5km/h以上になると、警告ブザーが鳴るとともにマスターウォーニングが点灯し、警告内容が表示されます。

警告表示がでたときは、車を止め、パーキングブレーキを解除してから走行してください。

エンジン油圧
不足

エンジンオイル油圧警告表示

READY（走行可能表示灯）が点灯した状態で、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力に異常があると、“ポーン”という音が鳴るとともにマスターウォーニングが点灯し、警告内容が表示されます。

警告表示がでたときは、ただちに安全な場所に停車してハイブリッドシステムを停止し、エンジンオイル量を点検してください。(P.569参照）エンジンオイルが減っていないのに表示しているときや、エンジンオイルを補給しても表示されるときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

VSC
システムチェック

ＶＳＣ警告表示

ＶＳＣシステムに異常があると、“ポーン”という音が鳴るとともにマスターウォーニングが点灯し、警告内容が表示されます。

●警告表示がでているときは、ＶＳＣ、ＴＲＣは作動しませんが、通常の走行には支障ありません。

警告表示がでたときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

4WD
システムチェック

4WDシステム警告表示

システムの異常により4WD走行禁止状態になると、“ポーン”という音が鳴るとともにマスターウォーニングが点灯し、警告内容が表示されます。

警告表示がでたときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

3rd SEAT

サードシート警告表示

電動格納式サードシート装着車

サードシートの格納・復帰作動が途中で中断されたとき、ブザーが鳴り警告内容が表示されます。

●ブザーは約10秒間鳴り続けます。

始動時は
Pレンジに
入れて下さい

ハイブリッドシステム始動時警告表示

シフトレバーが🅟の位置以外でハイブリッドシステムの始動を行うと、“ポーン”という音が鳴るとともにマスターウォーニングが点滅し、警告内容が表示されます。

駐車時には
Pレンジに
入れて下さい

駐車時警告表示

シフトレバーが🅟の位置以外で運転席ドアを開けると、“ピー”という音が鳴るとともにマスターウォーニングが点滅し、警告内容が表示されます。

●駐車して車から離れるときは、シフトレバーの位置を確認してください。

電池残量低下
停車しPレンジに
入れて下さい

駆動用電池残量低下警告表示

駆動用電池の残量が低下すると、“ポーン”“ポーン”という断続音とともにマスターウォーニングが点滅し、警告内容が表示されます。この場合、停車してシフトレバーをⓅの位置にし、駆動用電池を充電してください。

●上記の断続音が鳴ったままの状態にしておくと、断続音から連続音に変わります。連続音に変わった場合は、すみやかにハイブリッドシステムをいったん停止させ、再始動後シフトレバーをⓅの状態で駆動用電池を充電してください。

●走行中に自動的に充電されますが、シフトレバーがⓃにあるときは充電がおこなわれません。車両停止時は、Ⓓでブレーキをしっかり踏むか、Ⓟにしてください。

ハイブリッドシステム
過熱

ハイブリッドシステム過熱警告表示

ハイブリッドシステムがオーバーヒートのおそれがあるときに、“ポーン”という音が鳴るとともにマスターウォーニングが点灯し、警告内容が表示されます。

P.624の「オーバーヒートしたときは」にしたがって対処してください。

ハイブリッドシステム異常警告表示

モーター、インバーターユニット、駆動用電池、ＥＣＵなどに異常があるときに、“ポーン”という音が鳴るとともにマスターウォーニングが点灯し、警告内容が表示されます。

注意　警告が表示されたときはただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へご連絡ください。

- 警告が表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へご連絡ください。
- 警告が表示されていてもアクセルペダルの操作に応じて多少の加速ができる場合もありますが、これは一時的な性能であるため、長時間の使用はできません。車両をより安全な場所に移動させる場合に限って使用し、移動させたらただちにトヨタ販売店へご連絡ください。
- 警告が表示されてアクセルペダルに応じて加速しない場合は、アクセルペダル系の故障の可能性があります。ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。
  また、車両をより安全な場所に移動させる場合には、下記の「アクセルペダルに応じて加速しないときの移動方法」で車両を動かせます。よくお読みになってから移動させ、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

知 識

アクセルペダルに応じて加速しないときの移動方法

通常の走行方法と異なり、ブレーキペダルのみで速度調整を行います。

1 ブレーキペダルをしっかり踏みます。
2 シフトレバーをⒹにします。
3 ブレーキペダルを右足でしっかりと踏んだまま、パーキングブレーキを解除します。
4 ブレーキペダルを徐々にゆるめると車両が動き、移動できます。
5 減速、停止するときは、ブレーキペダルを踏みます。

アクセルペダルを使用しないでブレーキペダルだけで走行する方法ですので、ペダルの踏み間違いなどに十分注意して運転してください。

プリクラッシュセーフティシステム警告表示

プリクラッシュセーフティシステム装着車

プリクラッシュセーフティ（ＰＣＳ）システムの警告表示については、P.513を参照してください。

レーダー汚れ
清掃必要

クルーズ
システムチェック

悪天候
クルーズ
できません

レーダークルーズコントロール警告表示

レーダークルーズコントロール装着車

レーダークルーズコントロールの警告表示については、P.379をご覧ください。

警告表示がでても、走行上支障はありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー&スタートシステム警告表示

キーが
見つかりません

キーバッテリー
残りわずか

Pレンジに
入れて下さい

ステアリング
ロック
システム確認

ステアリング
ロック
未解除

スマートエントリー＆スタートシステムの警告表示については、P.151をご覧ください。

レーンキーピングアシスト警告表示

条件確認中
LKAできません

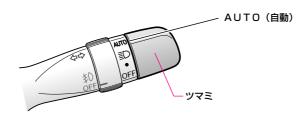
LKA
システムチェック

レーンキーピングアシスト装着車

レーンキーピングアシストの警告表示については、P.397をご覧ください。

スイッチの使い方

ライトスイッチの使い方

コンライトの使い方

ツマミをＡＵＴＯにまわすと周囲の明るさに応じて、ヘッドランプ・車幅灯などが自動で点灯・消灯します。

●ハイブリッドシステムを停止し、運転席ドアを開けると、自動的に消灯します。“パワー”スイッチをＯＮ モードにすると、再び点灯します。

知 識

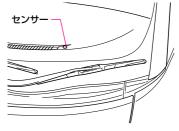
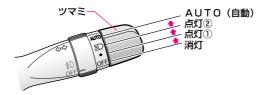
作動条件について

“パワー”スイッチがＯＮ モードのとき使用できます。

コンライトセンサーについて

●自動で使用しているときのランプの点灯・消灯が早いまたは遅いと感じたときは感度の調整ができますのでトヨタ販売店にご相談ください。

●コンライトのセンサーの上にものを置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備の 解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ランプの点灯・消灯

ツマミの位置	点灯するランプ
点灯①	車幅灯・尾灯・番号灯・各スイッチ照明
点灯②	①のランプ＋ヘッドランプ

ツマミを点灯①・点灯②にまわすと、点灯します。

●ＡＵＴＯにまわすと、自動で点灯・消灯します。（前ページ参照）

完全に充電された補機バッテリーでも、ハイブリッドシステムを停止した状態で長時間ランプ類を点灯すると、補機バッテリーあがりの原因となります。

知 識

作動条件について

● “ パワー ” スイッチがＯＮ モードのとき使用できます。（ＡＵＴＯで使用するとき）
● “ パワー ” スイッチの状態に関係なく使用できます。（点灯①・点灯②で使用するとき）

便利機能について

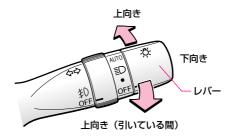
ライト消し忘れ警告ブザー

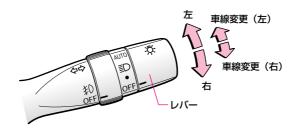
ライトスイッチが点灯①・点灯②のまま、“ パワー ” スイッチをＯＦＦにして、運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

ランプオートカットシステム

ライトスイッチが点灯①・点灯②、またはＡＵＴＯのまま、“ パワー ” スイッチをＯＦＦにして、運転席ドアを開けると自動的に消灯します。次のいずれかの操作をすると、再び点灯します。

● “ パワー ” スイッチをＯＮ モードにする。
●ライトスイッチをＯＦＦにし、もう一度ＯＮにする。（この場合、ドアを開けてもランプは消灯しません。）

前方を遠くまで照らしたいときは

●ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前方に押します。
●ヘッドランプが消灯していても、レバーを手前に引いている間、ヘッドランプが上向きになります。
●ヘッドランプが上向きのときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。（P.308参照）

方向指示レバーの使い方

●レバーを上または下へ操作すると、左または右側の方向指示灯が点滅し、メーター内にある方向指示表示灯も点滅します。
レバーはハンドルをもどすと自動的にもどります。もどらないときは、手でもどしてください。

●車線変更のときには、レバーを軽く上または下へ押さえている間、それぞれの方向指示灯および方向指示表示灯が点滅し、手を離すと消灯します。

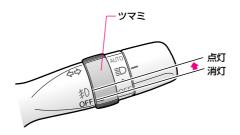
作動条件について

“ パワー ” スイッチがＯＮ モードのとき使用できます。

点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

フォグランプの使い方

フロントフォグランプの点灯・消灯

ツマミを 　の位置にまわすと点灯し、ＯＦＦにまわすと消灯します。

●フロントフォグランプが点灯しているときは、メーター内のフロントフォグランプ表示灯（P.308参照）が点灯します。

知 識

フロントフォグランプについて

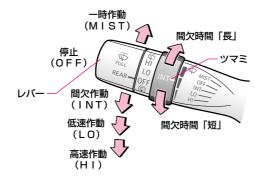
雨や霧などで視界が悪いときに、ヘッドランプの補助として使用します。

作動条件について

ライトスイッチが点灯①・点灯②のとき（P.341参照）、およびＡＵＴＯで車幅灯またはヘッドランプが点灯しているとき使用できます。

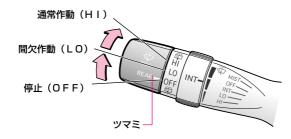
ワイパー&ウォッシャースイッチの使い方

ワイパーの動かし方

■フロント

レバーを操作すると、上図のように作動します。

●間欠作動（ＩＮＴ）の位置のときツマミをまわすと、間欠時間を約3〜12秒の間で調整できます。

●一時作動（ＭＩＳＴ）は、レバーを停止（ＯＦＦ）の位置から押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すと停止（ＯＦＦ）にもどります。

■リヤ

ツマミをまわすと、上図のように作動します。

ワイパーゴムがガラスに張りついていないことを確認してください。

●ウインドゥガラスが凍結しているときや長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに張りついていないことを確認してください。ガラスに張りついたまま作動させると、ワイパーゴムを損傷するおそれがあります。
●積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めて、ワイパースイッチをＯＦＦ、“ パワー ” スイッチをアクセサリーモードまたはＯＦＦにし、ワイパーが作動できるように、積雪などの障害物を取り除いてください。

作動条件について

“ パワー ” スイッチがＯＮ モードのとき使用できます。

保護機能について

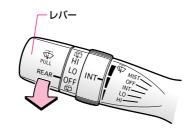
ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。約10分ほどすると、ブレーカーが復帰して、通常どおり使用できるようになります。

ワイパーのＬＯ、ＨＩ作動について

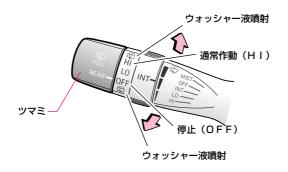
フロント側ワイパーとリヤ側ワイパーとでは、作動状態が異なります。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ウォッシャー液の噴射のしかた

■フロント

レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射されます。

●ウォッシャー液噴射後、ワイパーが数回作動します。

■リヤ

●低速作動中にウォッシャー液を噴射させるときは、ツマミを通常作動（ＨＩ）から上の側にまわします。

●ツマミを停止（ＯＦＦ）から下の側にまわしている間、ウォッシャー液が噴射されます。

寒冷時はウォッシャー液を使用しないでください。視界不良を起こすおそれがあります。

●寒冷時は、ウインドゥガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がウインドゥガラスに凍りつき視界不良を起こすおそれがあります。
●必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。ガラスが乾いているときにワイパーを作動させると、ガラスを傷つけるおそれがあります。
●ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを操作し続けると、ポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。また、ノズルがつまって噴射状態が悪い場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

作動条件について

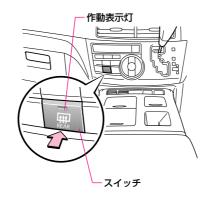
“ パワー ” スイッチがＯＮ モードのとき使用できます。

ガラスについた油膜について

油膜があると、雨の夜は対向車のライトなどが乱反射します。ガラスクリーナーを使ってガラスの表面をきれいにしてください。

ウォッシャー液の補給について

ウォッシャー液の補給については、P.571を参照してください。

リヤウインドゥデフォッガー（曇り取り）スイッチの使い方

スイッチを押すと約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。
●作動中は作動表示灯が点灯します。

連続して長時間使用すると、補機バッテリーあがりの原因となります。

知識

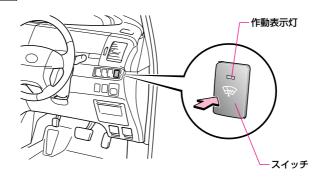
リヤウインドゥデフォッガーについて

●バックドアガラスを熱線で暖めて曇りを取ります。
●寒冷地仕様車は、ミラーヒーター（P.286参照）も同時に作動します。

作動条件について

“パワー”スイッチがＯＮ モードのとき使用できます。

熱線式ウインドシールドデアイサースイッチの使い方

寒冷地仕様車

スイッチを押すと約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。
●作動中は作動表示灯が点灯します。

作動中は、フロントウインドゥガラス下部、および運転席側フロントピラー部の表面が熱くなりますので、手を触れないでください。やけどをするおそれがあり危険です。

連続して長時間使用すると、補機バッテリーあがりの原因となります。

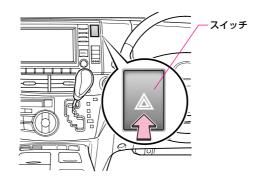
知 識

熱線入りウインドシールドガラスについて

フロントウインドゥガラス下部、運転席側ピラー周辺部の表面を暖めてガラスとワイパーブレードの凍結を防ぎます。

作動条件について

“ パワー ” スイッチがＯＮ モードのとき使用できます。

非常点滅灯スイッチの使い方

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、点滅中にもう一度押すと消灯します。
●点滅中はメーター内にある方向指示表示灯も点滅します。

補機バッテリーがあがるのを防ぐため、ハイブリッドシステムが停止しているときに長時間使用しないでください。

知 識

非常点滅灯について

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

作動条件について

“パワー”スイッチの状態に関係なく使用できます。

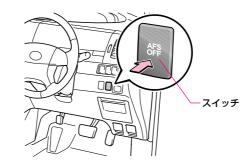
ホーンの使い方

ハンドルの マーク周辺部を押すと、ホーン（警音器）が鳴ります。

知 識

作動条件について

“ パワー ” スイッチの状態に関係なく使用できます。

ＡＦＳ※　ＯＦＦスイッチの使い方

ＡＦＳ　ＯＦＦスイッチを押すとインテリジェントＡＦＳの作動が停止し、作動停止中にもう一度押すと作動可能状態にもどります。

●停止中はメーター内のＡＦＳ　ＯＦＦ表示灯（Ｐ.310参照）が点灯します。

注意	雪壁などのある道路ではインテリジェントＡＦＳを使用しないでください。雪の斜面などにヘッドランプが反射して運転のさまたげになる可能性があります。

知識

作動条件について

● “パワー”スイッチがＯＮ モードでヘッドランプ（下向き）が点灯しているとき使用できます。
●車速が10km/h以上で作動開始となり、車速が5km/h未満になると作動は停止します。
●左旋回時は、左側ヘッドランプが最大10°、右側ヘッドランプが最大5°まで照射軸が左へ移動します。
●右旋回時は、右側ヘッドランプが最大15°、左側ヘッドランプが最大7.5°まで照射軸が右へ移動します。
●ＡＦＳ　ＯＦＦ表示灯が点滅（Ｐ.310参照）しているとき、インテリジェントＡＦＳは作動しません。

作動チェックについて

“パワー”スイッチをＯＮ モードにすると、ヘッドランプ（下向き）が動きます。これはシステムの作動をチェックしているので異常ではありません。

※Adaptive Front-Lighting System（アダプティブ フロントライティング システム）の略

レーダークルーズコントロール（ブレーキ制御付）★

レーダークルーズコントロール（ブレーキ制御付）の使い方

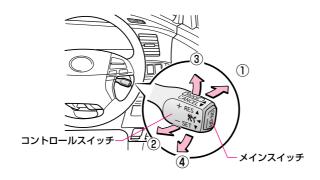
レーダークルーズコントロールとは

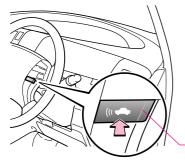
シフトレバーが**D**または**S**のとき、アクセルペダルを踏まなくても、次の2通りの制御による走行ができます。

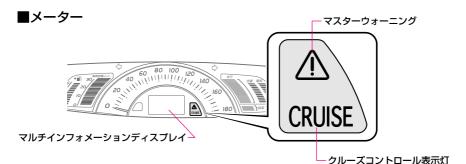
●レーダーセンサーによる車間制御モード……………………… P.360参照
●一定の速度で走行する定速制御モード………………………… P.375参照

先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などでご使用ください。

レーダークルーズコントロールを使用するにあたっての主装備

■クルーズコントロールスイッチ

操作方向	スイッチ表示	機　能
―	ON-OFF ◀	・レーダークルーズコントロールシステムのON・OFF
①	▲ MODE	・車間制御モードから定速制御モードへの切り替え
②	▼ CANCEL	・制御の一時解除
③	▲ ＋　RES	・もとのセット車速での制御状態にもどす ・セット車速を上げる
④	▼ －　SET	・制御の開始 ・セット車速を下げる

■車間距離切り替えスイッチ

車間制御モードの制御車間距離を「長」、「中」、「短」の3段階に切り替えることができます。

■メーター

クルーズコントロール表示灯
メインスイッチを押してシステムをＯＮにすると点灯します。

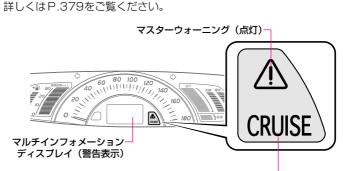
マスターウォーニング
マルチインフォメーションディスプレイに警告内容が表示されたときに点灯します。

マルチインフォメーションディスプレイ

●レーダークルーズコントロール使用中にセット車速、車間距離、先行車検知の有無などを表示します。

●悪天候や何らかの異常でレーダークルーズコントロールが使用できないときに、警告内容を表示します。

レーダークルーズコントロールを使用しないときはメインスイッチをＯＦＦにしてください。誤ってレーダークルーズコントロールを作動させてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

悪天候（車間制御モード）やシステムの異常（すべてのモード）などでレーダークルーズコントロールを使用できないと判断されたとき“ポーン”と警告音が鳴るとともにメーター内のマスターウォーニングが点灯し、クルーズコントロール表示灯が点滅します。このとき、マルチインフォメーションディスプレイに警告内容が表示されます。
このとき、制御は自動的に解除されます。
詳しくはP.379をご覧ください。

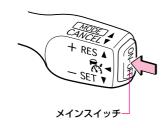
車間制御モード・定速制御モードの切り替え方

■車間制御モードで使用するときは

メインスイッチを押すと車間制御モードになります。

●メーター内のレーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。また同時に、マルチインフォメーションディスプレイの「RADAR READY」が表示され、車間制御モードのセット待機状態になります。

車間制御モードで使用する場合は、この状態で使用します。

■定速制御モードで使用するときは

1 **メインスイッチを押してＯＮにします。**

●スイッチを押すと車間制御モードになります。

●メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。また同時に、マルチインフォメーションディスプレイに「RADAR READY」が表示され、車間制御モードのセット待機状態になります。

2 **コントロールスイッチを約1秒以上前方に押し続けます。**

定速制御モードに切り替わります。

●マルチインフォメーションディスプレイの「RADAR READY」の表示が消灯し、定速制御モードのセット待機状態になります。

知 識

作動条件について

“ パワー ” スイッチがＯＮ モードのときに車間制御モードと定速制御モードに切り替えることができます。

ハイブリッドシステムを停止させたときは

レーダークルーズコントロールシステムは自動的にＯＦＦになります。モード設定と車間距離設定はそれぞれ「車間制御モード」、「長」にもどります。

モードについて

車間制御モードと定速制御モードは制御内容が異なります。レーダークルーズコントロールを使用するときは、どちらのモードが選択されているかをしっかり確認してください。各モード使用時のマルチインフォメーションディスプレイの表示は以下のようになります。

	車間制御モード	定速制御モード
セット待機状態	RADAR READY	表示なし
制御中	100 km/h	定速 100 km/h

モードの切り替えについて

セット操作をして車間制御モードを使用したときは、定速制御モードに切り替えることはできません。また、定速制御モードから車間制御モードへは切り替えられません。一度メインスイッチを押して、システムをＯＦＦにしてから、再度操作をしてください。

マルチインフォメーションディスプレイについて

レーダークルーズコントロール使用中にマルチインフォメーションディスプレイを他の画面に切り替えることができます。（P.329参照）ただし、セット車速を変更したときや、先行車の有無など制御に変更があったときは自動的にレーダークルーズコントロール画面にもどります。

車間制御モードについて

このモードはレーダーセンサーにより車両前方約100m以内の先行車を検知して、先行車の有無・先行車との車間距離を判定しています。

≪先行車がいないとき≫

運転者がセットした車速（約50km/h〜100km/ｈ）で定速走行します。

≪先行車がいるとき≫

運転者がセットした車速（約50km/h〜100km/ｈ）を上限として、車速に比例した車間距離※を保つように車間制御を行い走行します。したがって、先行車の車速変化に合わせた追従走行ができます。また、先行車がいなくなった場合は、ゆっくり加速し、セットした車速になると定速走行を行います。

定速走行（先行車がいないとき）	減速走行（セットした車速より遅い先行車が現れたとき）	追従走行（セットした車速より遅い先行車に追従するとき）	加速走行（セットした車速より遅い先行車がいなくなったとき）
例：100km/ｈにセット	例：100km/ｈで定速走行時に、80km/ｈの先行車がいる場合	例：100km/ｈにセットしているときに、80km/ｈの先行車がいる場合	例：100km/ｈにセットしているときに、80km/ｈの先行車がいなくなった場合
未検知 100km/ｈ（セット車速）	先行車検知 80km/ｈ 100km/ｈ → 80km/ｈ（セット車速）	80km/ｈ 80km/ｈ	80km/ｈ 80km/ｈ → 100km/ｈ（セット車速）

※車間距離は車速に比例してかわり、車速が低くなるほど短くなります。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

レーダークルーズコントロールを過信しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●レーダークルーズコントロールを過信しないでください。車間距離制御には限界があります。運転するときは常に周囲の状況に注意し、状況によってはブレーキペダルを踏んで減速したり、アクセルペダルを踏んで加速するなどして、先行車や後続車との車間距離を確保し安全運転に心がけてください。

- 車両を停止させるまで自動的にブレーキ制御を行うモードではありません。また、ブレーキ制御により車間距離を確保しますが減速には限界があり、先行車の減速度合いが大きい場合や自車の前へ他車が割り込んだ場合などは十分な減速ができず、先行車に接近することがあります。この場合、接近警報が作動して注意をうながします。（P.372参照）また、車速が約40km/h以下になると警告音が“ピッピッ”と鳴ると同時に制御は解除されます。（ブレーキ制御も解除されます。）
- わき見運転やぼんやり運転など前方不注意を補助するものではありません。

●次のような状況のときはレーダークルーズコントロールを使用しないでください。使用すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、システムが悪天候と判断したとき、レーダークルーズコントロールが自動的に解除される場合もあります。

悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐のときなど）

先行車との車間距離が正確に測定できないおそれがあります。なお、ワイパーを高速作動（HI）させるとレーダークルーズコントロールは自動的に解除されます。
（低速作動もしくは間欠作動では解除されません。）

レーダーセンサー前部に雨滴、雪などが付着しているとき

先行車との車間距離が正確に測定できない場合があります。

交通量の多い道や急カーブのある道

道路の状況にあった速度で走行できないおそれがあります。

凍結路や積雪路などのすべりやすい路面

タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。

急な下り坂

先行車がいないときは、エンジンブレーキが十分効かないため、セットした速度をこえてしまうおそれがあります。
また、先行車がいて追従制御が行われているときでも、エンジンブレーキが十分効かず、減速するタイミングが遅れるおそれがあります。

頻繁に加速・減速を繰り返すような交通状況のとき

交通状況に合った速度で走行できないおそれがあります。

レーダークルーズコントロールを過信しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急な上り坂、下り坂が繰り返される道路

先行車を検知できず、先行車に接近しすぎるおそれがあります。

高速道路などでレーダークルーズコントロール使用中にインターチェンジ・サービスエリア・パーキングエリアなどへ進入する（本線から出る）とき

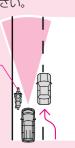
本線上でレーダークルーズコントロールによりセット車速よりも遅い車に追従走行していたときは、自車が本線から出ることにより先行車がいなくなり、セット車速まで加速してしまうおそれがあります。

他車をけん引する場合

やむを得ず他車をけん引する場合（P.630参照）は、クルーズコントロールを使用しないでください。クルーズコントロールの機能を損なう可能性があり、制御性能の低下や、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●停車中の車両や自車速より極端に遅い車両に対しては、レーダークルーズコントロールの制御も接近警報も行わないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。料金所や渋滞の最後尾で停車中や極端に車速の遅い車両などには十分注意してください。

●近距離ではレーダーセンサーの検知エリアが狭いため、間近で割り込んでくる先行車の検知が遅れたり、自車線の端を走行する二輪車を検知できないため、車間距離が適切に保てずに、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●このシステムでは、先行車の後端面の反射電波を主に検知して制御をおこなっていますので、次の場合は、先行車を正確に検知できないため、車間距離が適切に保てずに、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 先行車や他車線の車両が路上の水や雪などをまき上げて走行しているとき。
- 先行車が空荷のトレーラーなど極端に車両後端面積が少ないとき。
- ラゲージルームや後席に荷物などを積んで、車が傾いているとき。

レーダークルーズコントロールを過信しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●レーダーセンサーはセンサー前部の汚れを自動で判定し、お知らせする機能を備えていますが万能ではありません。
状況によってはセンサー前部が汚れていても判定できない場合があります。また、ビニール袋（金属コーティングされたものなど）が密着した場合や氷、つららなどが付着した場合も判定できない場合があります。このような状況では、車間距離が適切に保てずに、思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、常に前方に注意して走行してください。
なお、汚れを判定した場合、制御は自動的に解除されます。
また、センサー前部はいつもきれいにしておいてください。（P.374参照）

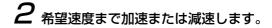
●道路形状（カーブ路、左右カーブの連続している道路、カーブの出入口、工事中や車線規制などで車線幅が狭い道路など）や自車の状況（ハンドル操作や車線内の位置、事故や故障で走行が不安定な状況など）によっては、一時的に隣の車線の車両や周辺のものを検知して、制御・接近警報が作動したり、一時的に先行車を検知できず、先行車に接近して、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

セットのしかた

1 メインスイッチを押してＯＮにします。

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。また同時に、マルチインフォメーションディスプレイに「RADAR READY」が表示され、車間制御モードのセット待機状態になります。

RADAR READY

2 希望速度まで加速または減速します。

3 コントロールスイッチを下げ、手を離します。

マルチインフォメーションディスプレイがセット状態表示（セット車速・先行車検知の有無・設定されている車間距離）になります。

以上の操作で制御を開始します。

知識

セット条件について

●セット車速は約50km/ｈ～100km/ｈの間で設定できます。ただし、セット時に、セット上限車速をこえて走行していた場合、セット車速は約100km/hになります。
●次のときはセットできません。
- シフトレバーがⒹまたはⓈ以外にあるとき。
- ワイパーを高速作動（HI）させているとき。

なお、悪天候などによりレーダーセンサーでの正確な検知ができないような状況では、システムが作動しない場合があります。詳しくはP.379の「警告表示」を参照してください。

ハイブリッドシステムを停止したときは

メインスイッチは自動的にＯＦＦになります。

車間距離設定について

車間距離設定は、ハイブリッドシステムを始動するたびに「長」になります。「中」または「短」に切りかえたいときは、車間距離切り替えスイッチを操作します。詳しくはP.369の「車間距離設定のかえ方」を参照してください。

レーンキーピングアシストについて

レーンキーピングアシストの状態が表示されることがあります。詳しくは、P.388の「レーンキーピングアシスト」を参照してください。

制御中の作動

アクセルペダルを踏まなくても、セットした車速で定速走行します。

■**先行車がいる場合**

先行車との車間距離を保つように車速を制御し、追従走行します。

●セットした車速（約50～100km/ｈ）を上限とする範囲で制御します。

●マルチインフォメーションディスプレイにセット状態（セット車速・先行車検知の有無・設定されている車間距離）が表示されます。

セット車間距離
（現在は「長」）
100
km/h
セット車速

■**先行車がいなくなった場合**

セット車速までゆっくり加速し、定速走行します。

●マルチインフォメーションディスプレイにセット状態（セット車速・設定されている車間距離）が表示されます。

●セット車速までの加速中に先行車が現れれば、再び追従走行を行います。

知 識

素早くセット車速まで加速するには

先行車がいなくなった場合はセット車速までは自動的に加速しますが、素早く加速したいときは、コントロールスイッチを上げ、手を離すか、アクセルペダルを踏んで加速してください。

一時的に加速・減速したいとき

■加速したいとき

アクセルペダルを踏みます。
アクセルペダルを離せば、もとの制御状態にもどります。

■減速したいとき

ブレーキペダルを踏みます。
- ●ブレーキペダルを踏むと、制御が解除されます。
- ●マルチインフォメーションディスプレイに「RADAR READY」が表示され、セット待機状態になります。

加減速について

追従走行中は先行車の車速に合わせて自動的に加速・減速を行いますが、車線変更などで加速が必要なとき、および先行車が急減速、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときなどはブレーキペダルで減速、またはアクセルペダルで加速を行ってください。

エンジンブレーキについて

レーダークルーズコントロールを使用して走行しているときは、シフトレバーをⒹからⓈに操作しても制御が解除されないため、エンジンブレーキは効きません。
減速が必要なときは、コントロールスイッチで減速の操作をするか、またはブレーキペダルを踏んでください。

セット車速のかえ方

P.364の「セットのしかた」の*2*、*3*の手順でかえる方法と、次のコントロールスイッチでかえる方法があります。

1 **コントロールスイッチを操作します。**

- 上げ続けるとセット車速が上がります。
- 下げ続けるとセット車速が下がります。
  ただし、セット車速はスイッチ操作を開始したときの車速から下がり始めます。

2 **マルチインフォメーションディスプレイに表示されるセット車速が希望速度になったら、コントロールスイッチから手を離します。**

コントロールスイッチを下げ続け、セット車速が約50km/h以下になったときは、警告音が“ピッピッ”と鳴り自動的に制御が解除されます。マルチインフォメーションディスプレイに「RADAR READY」が表示され、セット待機状態になります。このときセット下限車速（約50km/h）がセット車速として記憶されます。

車間制御（追従走行）しているときは、先行車に合わせた車速に制御されるため、コントロールスイッチを上げてセット車速を上げても加速しません。ただし、このときにセット車速は上がっているため、先行車がいなくなったあと、加速し続けることになります。セット車速はマルチインフォメーションディスプレイのセット車速表示で確認してください。

車間距離設定のかえ方

先行車との車間距離を「長」、「中」、「短」の3段階から選択することができます。
各制御車間距離は車速に比例してかわり、車速が低くなるほど短くなります。

〈車間距離「長」〉

〈車間距離「中」〉

〈車間距離「短」〉

マルチインフォメーションディスプレイにセット車間距離マークが表示されているときに、車間距離切り替えスイッチを押すごとに「長」→「中」→「短」→「長」の順に切り替わります。

知識

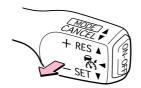
車間距離について

●交通状況に応じて車間距離を選択してください。
車速80km/hで走行しているとき、各車間距離設定での制御車間距離の目安は次の通りです。
- 「長」… 約50m
- 「中」… 約40m
- 「短」… 約30m

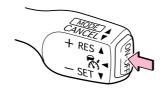
なお、車速が低くなるほど、上記の車間距離よりも短くなります。
●長い下り坂などでは、セットした車間距離よりも制御車間距離が短くなることがあります。
●ハイブリッドシステムを止めると、車間距離は「長」にリセットされます。（ハイブリッドシステムを始動するたびに初期設定は「長」になります。）
●車間制御モードを選択しているときのみ車間距離を切り替えることができます。

解除のしかた

ブレーキペダルを踏むと、制御が解除されます。

■使用を一時的に中断するときは

コントロールスイッチを手前に引きます。

●マルチインフォメーションディスプレイに「RADAR READY」が表示され、セット待機状態になります。

もとのセット車速での制御状態にもどすには、車速が約40km/ｈ以上でコントロールスイッチを上げ、手を離します。

■使用を中止するときは

メインスイッチを押してＯＦＦにします。

●メーター内のクルーズコントロール表示灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「CRUISE OFF」が表示され、その後、他の画面に切り替わります。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

制御の自動解除

次のときは、自動的に制御が解除されます。制御が解除されたときの状況が改善されてから、車速が約40km/ｈ以上でコントロールスイッチを上げ手を離すと、もとの制御状態にもどり、マルチインフォメーションディスプレイが再びセット状態表示になります。

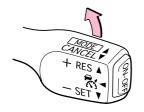
●車速が制御解除車速の約40km/h以下になったとき。
（警告音が“ピッピッ”と鳴ります。）
●コントロールスイッチを下げ続けて車速が約50km/h以下になったとき。
（警告音が“ピッピッ”と鳴ります。）
●スリップ表示灯が点滅するとともにＶＳＣ作動警告ブザーが鳴ったとき。
（ＶＳＣの作動についてはＰ.504を参照してください。）
●レーダーセンサー前部の汚れが判定されたとき。
●ワイパーを高速で作動させたとき。
●“パワー”スイッチをOFFにすると記憶車速は消去されます。

知識

横すべりしそうになったときは

運転状況によっては横すべりしそうになったとき、スリップ表示灯やＶＳＣ警告ブザーで警報する前に制御が解除されることがあります。

もとの制御状態にもどすときは

制御が解除されたあとも、マルチインフォメーションディスプレイに「RADAR READY」が表示されていれば、もとのセット車速での制御状態にもどすことができます。

車速が約40km/h以上のとき、コントロールスイッチを上げ、手を離します。

●マルチインフォメーションディスプレイが再びセット状態表示になります。

接近警報

追従走行中に先行車の減速度合いが大きい場合や他車の割り込みなどによって、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、警報ブザーとマルチインフォメーションディスプレイによって運転者に注意をうながします。

この場合は、ブレーキを踏むなどして減速し、適切な車間距離を確保してください。

●警報ブザーが“ピピピピッ”と鳴ります。

●マルチインフォメーションディスプレイの画面が明暗の反転を繰り返します。

接近警報が頻繁に作動するような状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。

●接近警報が頻繁に作動するような状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。

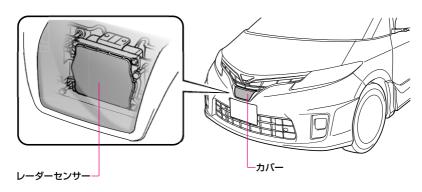
●短い車間距離でも、次の場合には警報が作動しないことがあります。

- 先行車との相対速度が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）。
- 先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れていくとき）。
- セット操作をした直後。
- アクセルペダルを踏んでいるとき、およびアクセルペダルを離した直後。

●料金所や渋滞の最後尾で停車中や極端に車速の遅い車両などに対しては警報が作動しません。

●道路形状（カーブなど）や自車の状況（ハンドル操作や車線内の位置）によっては、一時的に隣の車線の車両や周辺の物を検知して、接近警報が作動する場合があります。

レーダーセンサー前部の取り扱い

レーダーセンサーはフロントバンパー内にあります。
レーダークルーズコントロールの正しい作動のため、次のことをお守りください。

●カバー前面をつねにきれいにしておいてください。また、清掃するときは、やわらかい布などを使用して、傷をつけないようにご注意ください。
●レーダーセンサーやその周辺部に強い衝撃や力を加えないでください。また、分解などもしないでください。故障、誤作動の原因となります。
●レーダーセンサーやカバーの周辺にステッカーやアクセサリー用品などを取りつけないでください。
とくにカバー前面にはステッカーが透明であっても貼りつけないでください。誤作動の原因となります。
●カバーの改造、塗装、交換などはしないでください。故障、誤作動の原因となります。

バンパーをぶつけたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

定速制御モード

シフトレバーがⒹまたはⓈのとき、アクセルペダルを踏まなくても、セットした一定の速度（約50km/h〜100km/h）で走行できます。

警告　先行車との車間距離に十分注意してください。

●定速制御モード中は、車間制御モード中のように、先行車の有無・先行車との車間距離を判定していないため、接近警報が作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。先行車との車間距離に十分注意してください。

●次のような状況のときはレーダークルーズコントロール（定速制御モード）を使用しないでください。使用すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

交通量の多い道や急カーブのある道

道路の状況にあった速度で走行できないおそれがあります。

凍結路や積雪路などのすべりやすい路面

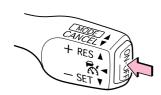
タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。

急な下り坂

急な下り坂ではエンジンブレーキが十分効かないため、セットした速度をこえてしまうおそれがあります。

他車をけん引する場合

やむを得ず他車をけん引する場合（P.630参照）は、クルーズコントロールを使用しないでください。クルーズコントロールの機能を損なう可能性があり、制御性能の低下や、思わぬ事故につながるおそれがあります。

セットのしかた

1　メインスイッチを押してONにします。

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。また同時に、マルチインフォメーションディスプレイに「RADAR READY」が表示されます。

2　コントロールスイッチを約1秒以上前方に押し続けます。

定速制御モードに切り替わります。

3　希望速度まで加速または減速します。

4 コントロールスイッチを下げ、手を離します。

マルチインフォメーションディスプレイに「定速」とセット車速が表示されセット状態表示になります。

以上の操作で定速走行を開始します。

知 識

セット条件について

セット車速は約50km／h～100km／hの間で設定できます。ただし、セット車速設定時、セット上限車速（約100km／h）をこえて走行していた場合、セット上限車速をセット車速として記憶します。

“パワー”スイッチやメインスイッチをＯＦＦにしたときは

システムはＯＦＦになり、定速制御モードもキャンセルされます。

一時的に加速、減速したいときは

■加速したいとき

アクセルペダルを踏みます。
アクセルペダルを離せば、もとの定速走行状態にもどります。

■減速したいとき

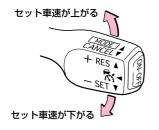
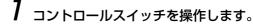
ブレーキペダルを踏みます。
ブレーキペダルを踏むと、定速走行が解除されます。

もとのセット車速での制御状態にもどしたいときは、車速が約40km/h以上でコントロールスイッチを上げ、手を離します。

- マルチインフォメーションディスプレイが再びセット状態表示になり、セット車速にもどります。

セット車速のかえ方

P.375、376の「セットのしかた」の*3*、*4*の手順でかえる方法と、次のコントロールスイッチでかえる方法があります。

1 **コントロールスイッチを操作します。**

●上げ続けるとセット車速が上がります。
●下げ続けるとセット車速が下がります。
●コントロールスイッチを上または下に軽く操作して手を離せば、設定速度の微調整（約1.5km／h）ができます。

2 **マルチインフォメーションディスプレイに表示されるセット車速が希望速度になったら、コントロールスイッチから手を離します。**

解除のしかた

ブレーキペダルを踏むと、制御は解除されます。

■使用を一時的に中断するときは

コントロールスイッチを手前に引きます。
もとの定速走行状態にもどしたいときは、コントロールスイッチを上げ手を離します。

■使用を中止するときは

メインスイッチを押してＯＦＦにします。
●メーター内のクルーズコントロール表示灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「CRUISE OFF」が表示され、その後、他の画面に切り替わります。

制御の自動解除

次の場合は、自動的に定速走行が解除されます。

●ブレーキペダルを踏んだとき。
●セットした速度より車速が約16km/h以上低下したとき。
●車速が約40km/h以下になったとき。
●コントロールスイッチを下げ続けて車速が約50km/h以下になったとき。
●ＶＳＣの作動によりスリップ表示灯が点滅するとともにＶＳＣ作動警告ブザーが鳴ったとき。（ＶＳＣの作動についてはP.504を参照してください。）
●“パワー”スイッチをOFFにすると記憶車速は消去されます。

知 識

横すべりしそうになったときは

運転状況によっては横すべりしそうになったとき、スリップ表示灯やＶＳＣ警告ブザーで警報する前に制御が解除されることがあります。

エンジンブレーキについて

レーダークルーズコントロール（定速制御モード）を使用して走行しているときは、シフトレバーをⒹからⓈに操作しても制御が解除されないため、エンジンブレーキは効きません。減速が必要なときは、コントロールスイッチで減速の操作をするかまたはブレーキペダルを踏んでください。

もとの制御状態にもどすときは

次の方法で制御が解除された場合は、もとのセット車速での制御状態にもどすことができます。

●コントロールスイッチを手前に引いての解除
●ブレーキペダルを踏んでの解除
●ＶＳＣの作動による解除

車速が約40km/h以上のとき、コントロールスイッチを上げ、手を離します。

●マルチインフォメーションディスプレイが再びセット状態表示になります。

警告表示

次の場合には、警告音が“ポーン”と鳴るとともにマスターウォーニングが点灯し、自動的に制御が解除されます。また、同時にクルーズコントロール表示灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに警告内容が表示されます。

■「レーダー汚れ清掃必要」

レーダー汚れ
清掃必要

車間制御モードで、カバー前面が汚れて車間距離の測定が困難になったとき表示されます。

●この場合はカバー前面をやわらかい布などで清掃してから再度セットしてください。
●汚れが自然にとれた場合、セット待機状態になります。
車間制御モードではこのとき車速が約40km/ｈ以上でコントロールスイッチを上げ手を離すと、もとのセット車速での制御状態にもどり、マルチインフォメーションディスプレイが再びセット状態表示になります。

■「悪天候クルーズできません」

悪天候
クルーズ
できません

車間制御モードで以下のとき、車間距離の測定が困難と判断され、表示されます。

●ワイパーを高速で作動させたとき。
●ＳＮＯＷモードを作動させたとき。

制御が解除されたときの状況が改善されると、セット待機状態になります。このとき、車速が約40km/h以上でコントロールスイッチを上げ、手を離すと、もとのセット車速での制御状態にもどり、マルチインフォメーションディスプレイが再びセット状態表示になります。

■「クルーズシステムチェック」

レーダークルーズコントロールのセット待機中または制御中にシステムの異常が発生したとき表示されます。
ただし通常の走行に支障はありません。

この場合は安全な場所に停車して、一度ハイブリッドシステムを停止してから再度セットしてください。

次の場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

次の場合はシステムの異常が考えられます。通常の走行に支障はありませんがトヨタ販売店で点検を受けてください。

- **「レーダー汚れ清掃必要」**が表示されたあと、レーダーセンサーを清掃してもセットできないまたは警告表示が消えないとき。
- **「悪天候クルーズできません」**が表示されたあと、天候が回復してもセットできないまたは警告表示が消えないとき。
- **「クルーズシステムチェック」**が表示されたあと、停車してハイブリッドシステムを始動しなおしてもセットできないまたは警告表示が消えないとき。

知 識

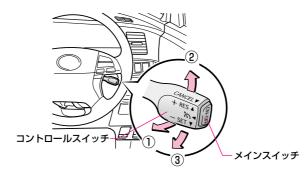
マルチインフォメーションディスプレイについて

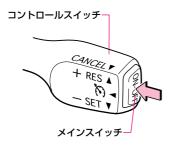
警告表示が点灯しているときに、メインスイッチをＯＦＦにすると、マルチインフォメーションディスプレイの警告表示は消灯し、他の画面に切り替わります。

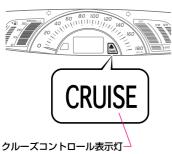
クルーズコントロール★

クルーズコントロールの使い方

シフトレバーの位置が、ⒹまたはⓈのとき、アクセルペダルを踏まなくても、セットした一定の速度（約40km/ｈ～100km/ｈ）で走行できます。

■クルーズコントロールスイッチ

操作方向	スイッチ表示	機　能
―	ON-OFF ◀	・クルーズコントロールシステムのON・OFF
①	▼ CANCEL	・制御の一時解除
②	▲ ＋　RES	・もとのセット車速での制御状態にもどす ・セット車速を上げる
③	▼ －　SET	・制御の開始 ・セット車速を下げる

セット（定速走行）のしかた

1 **メインスイッチを押します。**

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

2 **希望速度まで加速または減速します。**

3 **希望速度になったら、コントロールスイッチを下げ、手を離します。**

以上の操作で定速走行を開始します。

一時的に加速、減速したいときは

■加速したいとき

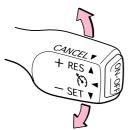
アクセルペダルを踏みます。
アクセルペダルを離せば、もとの定速走行状態にもどります。

■減速したいとき

ブレーキペダルを踏みます。
ブレーキペダルを踏むと、定速走行が解除されます。

もとの定速走行状態にもどしたいときは、コントロールスイッチを上げ、手を離します。

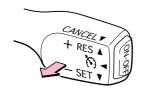
セット車速のかえ方

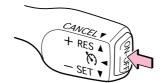
前ページの「セットのしかた」の***2***、***3***の手順で替える方法と、次のコントロールスイッチで替える方法があります。

1 **コントロールスイッチを操作します。**

- ●上げ続けるとセット車速が上がります。
- ●下げ続けるとセット車速が下がります。

2 **希望速度になったら、コントロールスイッチから手を離します。**

- ●コントロールスイッチを上または下に軽く操作して手を離せば、設定速度の微調整（約1.5km／h）ができます。

解除のしかた

コントロールスイッチを手前に引きます。
●作動待機状態にもどります。
●もとの定速走行状態にもどしたいときは、コントロールスイッチを上げ手を離します。

クルーズコントロールをＯＦＦにするには

メインスイッチを押してＯＦＦにします。
●メーター内のクルーズコントロール表示灯が消灯します。
●再度、定速走行するには、Ｐ.382の「セットのしかた」をお読みください。

警告　クルーズコントロールを使用しないときは、メインスイッチをＯＦＦにしてください。

●クルーズコントロールを使用しないときはメインスイッチをＯＦＦにしてください。誤ってクルーズコントロールを作動させてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあります。
●次のような状況のときはクルーズコントロールを使用しないでください。使用すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 交通量の多い道や急カーブのある道
  道路の状況にあった速度で走行できないため事故につながるおそれがあります。
- 凍結路や積雪路などのすべりやすい路面
  タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

クルーズコントロールを使用しないときは、メインスイッチをＯＦＦにしてください。

- 急な下り坂
  急な下り坂ではエンジンブレーキが十分効かないため、セットした速度を越えてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 他車をけん引する場合
  やむを得ず他車をけん引する場合（Ｐ.630参照）は、クルーズコントロールを使用しないでください。クルーズコントロールの機能を損なう可能性があり、制御性能の低下や、思わぬ事故につながるおそれがあります。

定速走行中に表示灯が点滅したときは、メインスイッチを一度ＯＦＦにしてから再度セットしてください。
以上の操作をしても、セットできないまたはセットしてもすぐ解除される場合はシステムの異常が考えられます。走行上支障はありませんがトヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

定速走行の自動解除について

次の場合は、自動的に定速走行が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んだとき。（この場合は、コントロールスイッチを上げ、手を離すと、もとの定速走行状態にもどります。）
- セットした速度より車速が約16km/h以上低下したとき。
- 車速が約40km/h以下になったとき。
- コントロールスイッチを下げ続けて車速が約40km/h以下になったとき。
- 車両が横すべりしそうになったとき。（ＶＳＣの作動によりスリップ表示灯が点滅するとともに、ＶＳＣ作動警告ブザーが鳴ったとき。運転状況によっては横すべりしそうになったときに、スリップ表示灯やＶＳＣ作動警告ブザーで警報する前に制御が解除されることがあります。）
- “パワー”スイッチをOFFにすると記憶車速は消去されます。

エンジンブレーキについて

クルーズコントロールを使用して走行しているときは、シフトレバーをⒹからⓈに操作しても制御が解除されないため、エンジンブレーキは効きません。
減速が必要なときは、コントロールスイッチで減速の操作をするかまたはブレーキペダルを踏んでください。

レーンキーピングアシスト★

レーンキーピングアシストについて

レーンキーピングアシストとは

レーンキーピングアシストは、白（黄）線の整備された高速道路、自動車専用道路を走行中に、白線認識用カメラの映像を用いて車線を認識させ、車線内走行を支援するシステムです。車線逸脱警報機能と車線維持支援機能の2つの機能があり、レーダークルーズ機能とも連携した運転支援を行い、高速走行時の運転者の負担を軽減します。

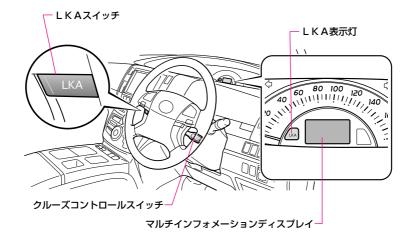
■車線逸脱警報機能

車線逸脱警報機能※は、レーンキーピングアシストがＯＮで、車速が50km/ｈ以上で走行中に、車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断した場合に、ブザー音、マルチインフォメーションディスプレイによる表示と電動パワーステアリングシステムを介して操舵力を短時間付加することでハンドルを通して体感警報し、注意を促す警報機能です。

※車線維持支援機能中の車線逸脱警報は、ブザー音とマルチインフォメーションディスプレイによる表示のみになります。

■車線維持支援機能

車速が65km/ｈ以上でレーダークルーズコントロール（車間制御モード）がセットされ、制御走行中になったときには、車線維持支援機能が付加され、車両が車線中央付近を走行するようにハンドルに小さい操舵力を与えて運転者のハンドル操作をアシストします。

各部のなまえと機能

装　備	機　　能
ＬＫＡ（レーンキーピングアシスト）スイッチ	システムのＯＮ・ＯＦＦ
ＬＫＡ（レーンキーピングアシスト）表示灯	消灯：システムＯＦＦ／点灯：システムＯＮ／点滅：システム異常
マルチインフォメーションディスプレイ	システムＯＮ時の、ＬＫＡの状態を表示

白線認識用カメラについては、Ｐ.396をご覧ください。

レーンキーピングアシストの使い方

ＬＫＡスイッチを押すとシステムがＯＮになります。もう一度スイッチを押すとＯＦＦになります。

●メーター内のＬＫＡ表示灯が点灯します。システムの状態がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

システムをＯＮにすると、白（黄）線の認識状態、車速、レーダークルーズコントロール（車間制御モード）のセット状況などの条件に応じて車線逸脱警報機能と車線維持支援機能が自動的に作動します。
（レーダークルーズコントロールの使い方は、Ｐ.354をご覧ください）

●各機能の作動条件　　○：作動　×：非作動

ＬＫＡスイッチ	レーダークルーズコントロールシステムの状態	車線逸脱警報機能 車速が50～約120km/ｈで作動	車線維持支援機能 車速が65～約100km/ｈで作動
ＯＮ	使用していない、または定速制御モード	○	×
	セット車速が64km/ｈ以下で制御走行しているとき	○	×
	セット車速が65km/ｈ以上で制御走行しているとき	○	○

知 識

作動車速について

各機能が作動を開始すると、作動車速は上限下限とも5km/h拡張して作動を維持します。

ハンドルの手ごたえについて

車線逸脱警報が作動したときや車線維持支援機能の手ごたえは、横風のあるとき、左右に傾いた道路やカーブを走行中のときなど、走行条件や道路条件により異なって感じる場合があります。

⚠警告　レーンキーピングアシストを過信しないでください。

●レーンキーピングアシストを過信しないでください。車線逸脱を警報したり、車線内走行を支援したりするシステムで、手放し運転や脇見運転など前方不注意を補助するものではありません。常に自らハンドル操作をして進路を修正し、安全運転に心がけてください。

●次の場合は、レーンキーピングアシストが正しく機能しない場合がありますので、ＬＫＡスイッチを押し、システムをＯＦＦにして走行してください。

- 白（黄）線がかすれたり汚れたりして見えにくいとき。
- 雨、雪、霧、逆光などで、白（黄）線が見えにくいとき。
- ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき。
- 検札所や料金所手前など、白（黄）線が途切れるとき。
- 急激な明るさの変化が連続するとき。
- 道路補修の消し残り線・影・残雪・雨のたまった轍など、白（黄）線と紛らわしい線が見えるとき。
- 高速道路等の本線（走行車線、追い越し車線）以外の車線を走行するとき。
- 工事による車線規制や仮設の車線を走行するとき。
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき。
- 前車との車間距離が極端に短くなったとき。
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の調整不良などで、車両が著しく傾いているとき。
- うねった道路や荒れた道路を走行するとき。
- 雨天時や積雪・凍結などですべりやすい道路を走行しているとき。

車線逸脱警報機能

レーンキーピングアシストがＯＮで、車速が50～約120km/ｈのとき、白線認識用カメラが走行中の車線の白（黄）線を認識するとマルチインフォメーションディスプレイの車線表示が太く表示され、車線逸脱監視状態になります。システムが車線を逸脱すると判断したとき、車線逸脱を警報します。（車線逸脱警報については、Ｐ.395をご覧ください）

警告　車線逸脱警報機能は、車線逸脱を自動的に防止するものではありません。

●車線逸脱警報機能は、走行中の車線を逸脱するとシステムが判断した場合に、警報によって運転者のハンドル操作による進路修正を促す機能で、車線逸脱を自動的に防止するものではありません。常に自らのハンドル操作で進路を修正し、安全運転に心がけてください。

●走行条件や道路条件により、車線逸脱警報が早く作動したり作動しなかったりすることがあります。常に進路の確認を行い、安全運転に心がけてください。

●白線をはみ出て車線逸脱警報機能が一度働いた際、再度白線を認識するまでに数秒間時間がかかるため、短時間のうちに連続して白線をはみ出た場合、車線逸脱警報機能が作動しない場合があります。

目次

警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

車線維持支援機能

レーンキーピングアシストがＯＮで、白線認識用カメラが走行中の車線の白（黄）線を認識しているとき、レーダークルーズコントロール（車間制御モード）により車速が65〜約100km/ｈでセットされると、車線逸脱警報機能に加え車線維持支援機能が作動します。車線維持支援機能は、車線中央付近を走行するための運転者のハンドル操作力の一部を、電動パワーステアリングを介して補助することで、運転を支援する機能です。

車線維持支援機能は、運転者のハンドル操作力を補助し、運転を支援する機能で、自動的に車線の中央を走行するものではありません。常に自らのハンドル操作で進路を修正し、安全運転に心がけてください。

手放し運転警告について

車線維持支援機能中に、一定時間以上（直線路で約15秒、カーブ路で約5秒）ハンドル操作が行われていないとシステムが判断したとき“ピピッ”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイの表示が点滅して警告します。このとき車線維持支援機能は一時的に解除されます。

- ハンドルに軽く手を添えた運転が続くときは、警告が作動する場合があります。
- 平坦でない道路では、警告が作動するまでの時間が長くなる場合があります。

機能の一時解除

次のいずれかのときは、機能を一時的に解除します。解除したときの状況が改善されると、機能の作動を再開します。

■車線維持支援機能と車線逸脱警報機能が解除されるとき
●方向指示レバーが操作されているとき。
●車線変更相当量のハンドル操作がされたとき。
●ブレーキペダルを踏んだとき。※1
○走行中の車線の白（黄）線が認識できなくなったとき。
○車線変更を検出したとき。
○ワイパースイッチをＬＯ（低速）またはＨＩ（高速）にしたとき。※2

■車線維持支援機能が解除されるとき
●ＳＮＯＷモードを作動させたとき。
○手放し運転警告が作動したとき。
○作動条件外の車速（60km/h未満、または約100km/hをこえた）になったとき。

■車線逸脱警報機能が解除されるとき
●作動条件外の車速（45km/h未満、または約120km/hをこえた）になったとき。

○の項目で車線維持支援機能が一時的に解除されたときは、“ピピッ”とブザー音が鳴ります。

※1車線維持支援機能中にブレーキペダルを踏むとレーダークルーズコントロールが解除されるため、ブレーキペダルの操作を止めても車線維持支援機能は再開しません。
※2レーダークルーズコントロール解除のお知らせを優先し、車線維持支援機能解除時のブザーが鳴らない場合があります。

マルチインフォメーションディスプレイ

ＬＫＡがＯＮのとき、車線表示とハンドル表示によって、レーンキーピングアシストの状態を表示します。車線表示で車線逸脱警報機能、ハンドル表示で車線維持支援機能の状態を示します。

	表　示	システムの状態
車線表示		ＬＫＡがＯＮで、車速が50km/h以上のとき ●白（黄）線が認識できていない ●機能を一時解除している
車線表示		**車線逸脱警報機能作動中**
ハンドル表示	Ready	**車線維持支援機能が開始可能な状態** ●ＬＫＡスイッチをＯＮするまたはレーダークルーズコントロールを65km/h以上でセットすると車線維持支援機能を開始します。
ハンドル表示		**車線維持支援機能作動中**

知識

表示について

●車速が50km/ｈ未満または約120km/ｈをこえているとき、マルチインフォメーションディスプレイにレーンキーピングアシストの状態は表示されません。
●レーダークルーズコントロールの表示については、P.356をご覧ください。

■表示の例

車線逸脱警報機能時

車線表示により白（黄）線の認識状態などを表示します。

表示	内容
	作動条件外車速時 車速が50km/ｈ未満、または約120km/ｈ以上の場合
	車線逸脱警報機能中断時 ●車速が50～約120km/ｈで、白（黄）線を認識できない場合 ●車線逸脱警報機能を一時解除しているとき（Ｐ.394参照）
	車線逸脱警報機能中 車線逸脱を監視している状態

車線維持支援機能時

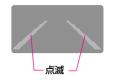
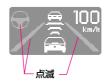
車線表示に加え､ハンドル表示により車線維持支援機能の状態を表示します。

表示	内容
	ＬＫＡ　ＯＦＦ時 ＬＫＡをＯＮすることで車線維持支援機能が作動する状態（白線の認識状態による）
	車線維持支援機能開始可能時 レーダークルーズコントロールの車間制御モードをセットすることで車線維持支援機能が作動する状態
	車線維持支援機能中 レーダークルーズコントロール（車間制御モード）がセットされ制御走行を開始し、車線逸脱警報機能に加え車線維持支援機能が作動している状態
	作動条件外車速時 車速が60km/ｈ未満、または約100km/ｈをこえ、車線維持支援機能が一時的に解除されて車線逸脱警報機能が作動している状態

車線逸脱警報

車線逸脱警報は、自車が走行中の車線を逸脱するとシステムが判断した場合、ブザー音が“ピピピピピ…”と鳴るとともに、マルチインフォメーションディスプレイによる表示が点滅し、電動パワーステアリングシステムにより操舵力を短時間付加し、ハンドルを通して運転者に体感警報して注意を促します。

■車線逸脱警報機能時

■車線維持支援機能時

知 識

警報について

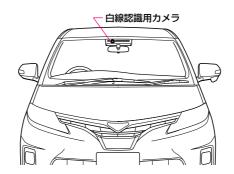
●約1秒後の自車位置を演算により推定しています。白（黄）線に接近しても、車両がほぼ平行に走行している場合は車線逸脱警報が作動しないことがあります。
●車線維持支援機能中に車線逸脱警報が作動したときは、電動パワーステアリングシステムによる体感警報は行われません。

ブザー音による告知

下記のとき、マルチインフォメーションディスプレイの表示と同時にブザー音によっても運転者に告知します。

状　態	ブザー音	ページ
車線逸脱警報時	**“ピピピピピ…”**	上記
車線維持支援機能が一時的に解除されたとき	**“ピピッ”**	392
警告表示したとき	**“ポン”**	397

白線認識用カメラについて

白線認識用カメラは、車内（フロントウインドゥガラス内側）に取りつけられています。レーンキーピングアシストの正しい作動のため、次のことをお守りください。

●フロントウインドゥガラスは、いつもきれいにしておいてください。雨滴、結露、氷雪などの付着によっても、性能が低下する場合があります。また、自動車検査標章などのしゃへい物を貼らないでください。
●カメラに強い衝撃や力を加えないでください。また、分解などもしないでください。故障、誤作動の原因になります。
●カメラの向きは、厳密に調整されています。取りつけを変更したり、取りはずしたりしないでください。故障、誤作動の原因になります。
●インナーミラー（ルームミラー）の位置をカメラのレンズ前に調整すると、白（黄）線認識ができなくなりレーンキーピングアシストを使用することができません。
●寒冷時などにヒーターを モードで使用していると、フロントウインドゥガラスの上部が曇り、映像に影響を与えます。その場合は、フロントデフロスタースイッチでガラスの曇りを取ってください。
●ダッシュボードの上に物を置かないでください。フロントウインドゥガラスへの映りこみを白（黄）線と誤認識する場合があります。
●カメラのレンズを汚したり、傷をつけたりしないでください。
●カメラ付近のフロントウインドゥガラスにステッカーなどを貼らないでください。

警告表示（作動制限時表示・システム異常時表示）

マルチインフォメーションディスプレイに次の表示がされた場合には、レーンキーピングアシストを使用できません。

■「条件確認中ＬＫＡできません」

条件確認中
LKAできません

レーンキーピングアシスト、または電動パワーステアリングシステムが次の状態のときは、“ポン”とブザー音が鳴るとともに「条件確認中ＬＫＡできません」が表示されます。

●白線認識用カメラが極端に高温または低温になっていて、システム保護のため一時的にレーンキーピングアシストの使用を制限するとき。
●電動パワーステアリングシステムが作動制限をしていて、一時的にレーンキーピングアシストの使用を制限するとき。

この場合は、ＬＫＡスイッチを押してシステムをＯＦＦし、しばらくしてから再度ＯＮにしてください。この操作で制限条件の解除が確認されると、通常の作動状態となります。

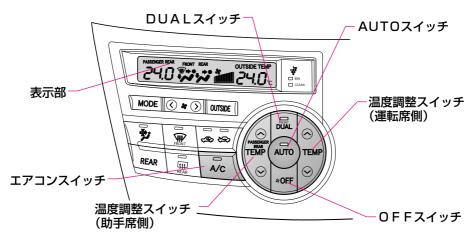
■「ＬＫＡシステムチェック」

レーンキーピングアシストシステムの異常を検出したときは、“ポン”とブザー音が鳴るとともに、「ＬＫＡシステムチェック」が表示され、ＬＫＡ表示灯が点滅します。
この場合は、ＬＫＡスイッチを押してシステムをＯＦＦし、安全な場所に停車して、一度ハイブリッドシステムを停止してから再度セットしてください。この操作でシステムの正常が確認されると、通常の作動状態となります。
「ＬＫＡシステムチェック」が再度表示されるときは、システムをＯＦＦにしてトヨタ販売店で点検を受けてください。なお、通常の走行に支障はありません。

4 室内装備の取り扱い

エアコンの取り扱い

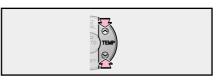
フロントエアコンの使い方

オート（ＡＵＴＯ）での使い方

ＡＵＴＯスイッチを押すと、ファンが作動し、吹き出し口・風量が自動的に調整され、外気導入と内気循環が自動的に切り替わり、設定温度となります。

自動調整にする

ＡＵＴＯスイッチを押します。

●作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。

温度を調整する

温度調整スイッチで調整します。

上げるときは ∧ 側、下げるときは ∨ 側を押します。

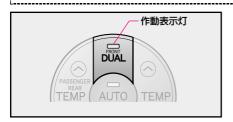
（0.5℃ずつ調整できます。）

●設定温度を18℃～32℃の間で調整することができます。

- 最大冷房にするとＬＯ
- 最大暖房にするとＨＩ

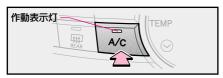
の表示になります。

●設定温度は表示部に表示されます。

運転席・助手席で それぞれ温度調整をする

ＤＵＡＬスイッチを押すごとに、連動モードと独立モードに切り替わります。
作動表示灯が
- ●消灯しているときは連動モード
- ●点灯しているときは独立モードになります。

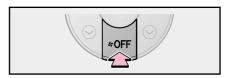
表示	モード
消灯	**連動モード** 運転席側スイッチ操作により運転席と助手席の設定温度を同じにします。
点灯	**独立モード** 運転席と助手席の設定温度を独立してかえることができます。

独立モードのときに運転席は運転席側スイッチ、助手席は助手席側スイッチを押して、希望する室内温度に設定することができます。
上げるときはスイッチの∧側、下げるときはスイッチの∨側を押します。（0.5℃ずつ調整できます。）
- ●運転席と助手席でそれぞれ独立した温度調整をすることができます。

エアコンをＯＮにする

ファンが作動中のとき、エアコンスイッチを押すごとに、エアコン（冷房、除湿機能）がＯＮとＯＦＦに切り替わります。

●作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。

●外気温が0℃近くまで下がると、エアコンは作動しません。

ファンを止める

ＯＦＦスイッチを押します。

●ファンを停止させることができます。

補機バッテリーあがりを防ぐために、ハイブリッドシステム停止中に作動させないでください。

- 補機バッテリーあがりを防ぐために、ハイブリッドシステム停止中に作動させないでください。
- エアコンスイッチの作動表示灯が点滅した場合は、システムの異常が考えられますので、安全な場所に車を止めて、いったんエアコンスイッチをＯＦＦにしてから、もう一度ＯＮにしてください。点滅がさらに続く場合は、スイッチをＯＦＦにしてトヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

車内の温度が高いときは

駐車のあと車内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

便利機能について

ＡＵＴＯスイッチをＯＮにしているとき、次のような機能があります。

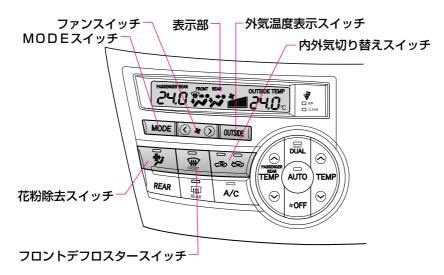
- 吹き出し口が または のとき、冬場などの寒いときには温風の準備ができるまで、しばらくの間ファンを停止します。
- 吹き出し口が または のとき、夏場などの暑いときには冷風の準備ができるまで、数秒間ファンを停止します。

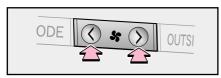
ＡＵＴＯスイッチについて

ＡＵＴＯスイッチがＯＮのときにＭＯＤＥスイッチ（P.404参照）、およびファンスイッチ（P.404参照）を操作すると、ＡＵＴＯスイッチはＯＦＦになります。

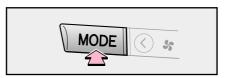
温度調整について

- 独立モードから連動モードにもどすとき、運転席と助手席で設定温度が異なる場合は運転席側の設定温度になります。
- 連動モードのとき、助手席側温度調整スイッチを操作すると、自動的に独立モードに切り替わります。

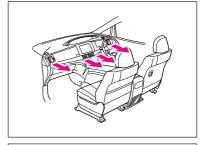
お好みの状態にするには

各スイッチを押すことで、それぞれの設定で使用することができます。

風量をかえる

ファンスイッチで風量を7段階に切り替えます。
風量を強くするときは>側、弱くするときは<側を押します。

- 選択している風量が表示部に表示されます。
- ファンが停止しているときに、スイッチを押すと、ファンが作動します。

吹き出し口をかえる

ＭＯＤＥスイッチで吹き出し口を切り替えます。（次ページ参照）

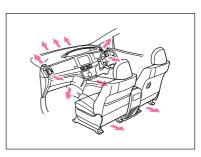
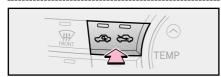
- スイッチを押すごとに吹き出し口が切り替わります。
- 選択している吹き出し口が表示部に表示されます。

■吹き出し口選択の目安

上半身に送風するときは

上半身と足元に送風するときは

足元に送風するときは

＊ＡＵＴＯ作動時のみ送風されます。

足元への送風とガラスの曇りを取るときは

外気導入・内気循環の切り替えをする

内外気切り替えスイッチを押すごとに、外気導入と内気循環に切り替わります。

●選択した側の作動表示灯が点灯します。

表示	モード
	外気導入 外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。
	内気循環 外気をしゃ断している状態です。トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときにお使いください。

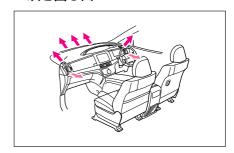
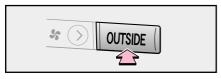
ガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押し、内外気切り替えスイッチを外気導入にします。

●ファンが停止中のとき、スイッチを押すと、ファンが自動的に作動します。

●スイッチを押すと、エアコンが自動的にＯＮになります。

●作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。

＜吹き出し口＞

外気温度を表示する

外気温度表示スイッチを押すと表示部に外気温度が表示されます。

●設定温度表示にもどすときは、もう一度スイッチを押します。

湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とウインドゥの温度差でウインドゥ外側表面が曇り視界をさまたげ思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステム停止中に作動させないでください。

知識

内外気切り替えについて

●トンネル内や渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときに内外気切り替えスイッチを内気循環にすると効果的です。
●長時間、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。
●設定温度や室内温度・外気温度などにより自動的に内気循環、または外気導入へ切り替わることがあります。

より早くガラスの曇りを取るには

ガラスの曇りを取る操作（P.406参照）と併せて、次の操作を行います。
●風量を増す。（ファンスイッチを操作する。）
●設定温度を上げる。（温度調整スイッチを操作する。）

外気温度表示について

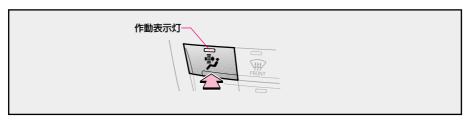
●“パワー”スイッチがＯＮ モードのとき表示させることができます。
●ほかの計測装置により、計測した外気温度とは異なることがあります。
●次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
- 外気温度が約－30℃以下、または約50℃以上のとき。
- 停車しているときや低速走行（約20km／ｈ以下）しているとき。
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入口付近など）。

●実際の外気温度が変化していなくても、車両の状態（車速・風向きなど）により、外気温度表示が変動することがあります。

モーターの作動音について

●補機バッテリーの端子を脱着したあとに“パワー”スイッチをＯＮ モードにすると、フロントデフロスタースイッチの作動表示灯が点滅し、モーターの作動音がすることがありますが、これは正常な作動であり、異常ではありません。
●“パワー”スイッチをＯＮ モードからＯＦＦにしたとき、数秒後にモーターの作動音がすることがありますが、これは正常な作動であり、故障ではありません。

花粉除去スイッチの使い方

中央、左側、右側吹き出し口からフィルターを通ったきれいな風を顔周辺に送風し、乗り降りするときやドアガラスを開けて走行したときなどに車室内に入った花粉を早期に除去します。

スイッチを押すと花粉除去モードに切り替わり、もう一度押すと通常制御にもどります。

●花粉除去モード時はスイッチの作動表示灯が点灯します。

●車室内の花粉が除去されると、自動的に通常制御にもどります。
（通常は約3分後、外気温が低いときは約1分後に通常制御にもどります。）

- ファンが作動していない状態で使用したときは、ＡＵＴＯ制御になります。

知 識

作動条件について

“ パワー ” スイッチがＯＮ モードのときに使用できます。

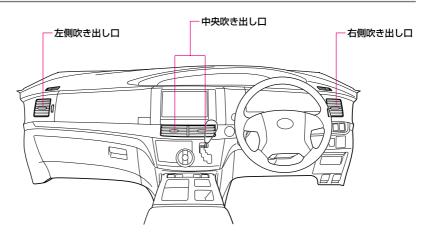
花粉除去スイッチについて

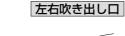
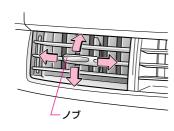
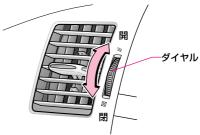
●花粉除去スイッチを押すと次のように制御されます。

- エアコンがＯＮになる場合があります。
- ファンが作動します。
- 内気循環に切り替わります。
（外気温が低いときは、ガラスの曇り防止のため切り替わらない場合があります。）
- 吹き出し口は に切り替わります。
（外気温が低いときは、ガラスの曇り防止のため切り替わらない場合があります。）

●雨天時に花粉除去スイッチを押すと、ガラスが曇ることがあります。そのときは、フロントデフロスタースイッチ（P.406参照）を押してください。

●通常制御でも、フィルターを通ったきれいな空気が送風されます。

フロント吹き出し口の調整

風向きのかえ方・吹き出し口の開閉のしかた

中央吹き出し口

左右吹き出し口

●吹き出し口のノブを動かすと、風向きの調整ができます。
●左右吹き出し口ではダイヤルをまわすと、吹き出し口を開閉できます。

知 識

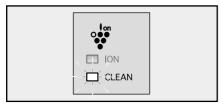
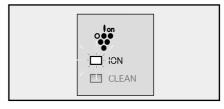
吹き出し口について

冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

プラズマクラスター®の使い方★

エアコンの吹き出し口（運転席側吹き出し口）からの送風にプラズマクラスターイオンを含ませ、車内の空気質を整えます。

作動させるには

ファンが作動すると自動的にプラズマクラスターが作動します。
●クリーンモード、イオンコントロールモードが約15分ごとに自動的に切り替わります。
●エアコン表示部にモードが表示されます。

クリーンモード
同量のプラスイオンとマイナスイオンを放出して、車内に浮遊するカビ菌の活動を抑制します。

イオンコントロールモード
マイナスイオンの比率を高く放出して空気中のイオンバランスを整えます。

作動を停止させるには

ＯＦＦスイッチを押します。

プラズマクラスターイオン発生器は高電圧を利用しています。危険ですので、修理等は必ずトヨタ販売店にご相談ください。

プラズマクラスターの取り扱いについては、次の点にご注意ください。

●プラズマクラスターイオンの吹き出し口（運転席側吹き出し口）には、スプレー（洗浄剤、整髪料など）の噴霧、また棒などの異物を挿入しないでください。故障の原因となります。

●運転席側吹き出し口付近に汚れが付着することがあります。この場合は、ファンをＯＦＦにしてから清掃してください。

作動条件について

ファンが作動中、次の条件で効果を発揮します。

●吹き出し口が、 または のとき
（ 、 以外のときにも送風されますが、高い効果は得られません。）

プラズマクラスターについて

プラズマクラスター、プラズマクラスターイオンおよび Plasmacluster はシャープ株式会社の商標です。

作動音について

プラズマクラスターイオン発生器作動時には、微少な作動音が発生する場合がありますが、これはプラズマクラスターイオン生成時に電子が電極に衝突する際に発生するもので、故障ではありません。

プラズマクラスターイオン／マイナスイオンについて

●プラズマクラスターイオンは、「除菌イオン」とよばれ、車内に浮遊するカビ菌の活動を抑制します。

●一般的にマイナスイオンは、渓流、山林部、滝などの周辺の空気中に多く存在しており、人に安らぎを与えるものとされています。

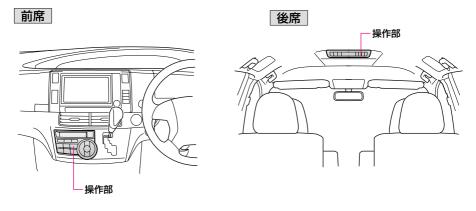
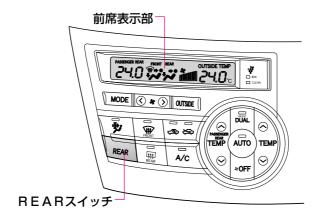
●非常に高い電圧で作動しますので、吹き出し口付近で静電気を感じることがあります。

リヤエアコンの使い方

リヤエアコン装着車

リヤエアコンは前席または後席から別々に操作することができます。

操作部の位置

前席　　後席

前席操作部

リヤエアコンの吹き出し口についてはＰ.４２１の「リヤ吹き出し口の調整」を参照してください。

前席操作部からの操作モードを切り替えるには

前席操作部のＲＥＡＲスイッチを押すごとに、操作モードをフロントエアコンモードまたはリヤエアコンモードに切り替えることができます。

前席表示部	モード
PASSENGER FRONT 25.0	**フロントエアコンモード** ＦＲＯＮＴの表示が出ます。 ●前席操作部で、フロントエアコンの操作ができます。
REAR REAR 25.0	**リヤエアコンモード** ＲＥＡＲの表示が出ます。 ●前席操作部で、リヤエアコンの操作ができます。 ●助手席側設定温度の表示部がリヤエアコンの設定温度の表示に切り替わります。

知 識

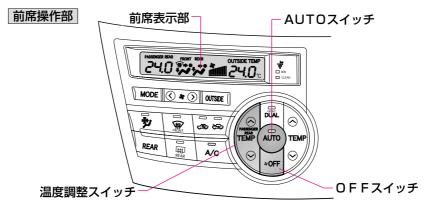
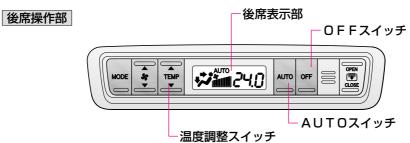
前席表示部について

ＲＥＡＲスイッチを押してリヤエアコンモードにしたとき、約6秒間操作をしないと、フロントエアコンモードにもどります。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

通常の使い方

前席操作部

後席操作部

自動調整にする

ＡＵＴＯスイッチを押します。

●作動中は、後席表示部にＡＵＴＯの表示が出ます。

●前席操作部がリヤエアコンモードのときは、ＡＵＴＯスイッチの作動表示灯が点灯します。

温度を調整する

温度調整スイッチで調整します。
上げるときは上側、下げるときは下側を押します。
(0.5℃ずつ調整できます。)

●設定温度を18℃～32℃の間で調整することができます。
- ●最大冷房にするとＬＯ、
- ●最大暖房にするとＨＩ

の表示になります。

●設定温度は表示部に表示されます。

ファンを止める

ＯＦＦスイッチを押します。

●作動を停止させることができます。

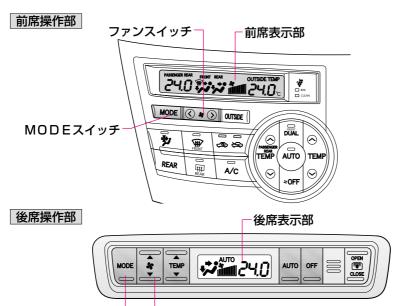
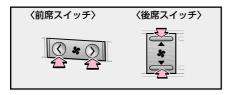
補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステム停止中に作動させないでください。

知 識

エアコンの作動条件について

フロントエアコンが停止しているときは、冷房、除湿機能は作動せず、送風のみとなります。

お好みの状態にするには

各スイッチを押すことで、それぞれの設定で使用することができます。

風量をかえる

ファンスイッチで風量を設定します。風量を7段階に切り替えることができます。
風量を強くするときはアップ側、弱くするときはダウン側を押します。
●風量は表示部に表示されます。

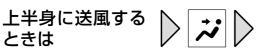
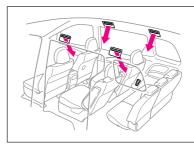
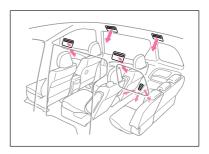
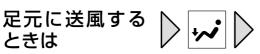
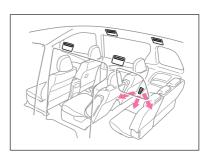
吹き出し口をかえる

ＭＯＤＥスイッチで吹き出し口を選択します。
スイッチを押すごとに、吹き出し口が切り替わります。
（次ページ参照）

■吹き出し口選択の目安

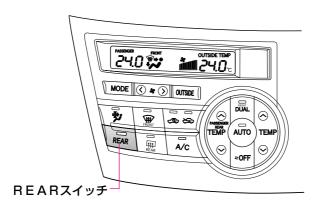
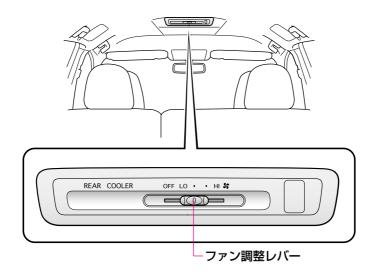
上半身に送風するときは

上半身と足元に送風するときは

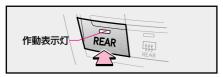
足元に送風するときは

リヤクーラーの使い方

リヤクーラー装着車

操作部

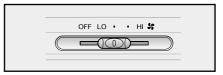
■前席操作部

■後席操作部

リヤクーラーの吹き出し口についてはP.421の「リヤ吹き出し口の調整」を参照してください。

通常の使い方

リヤクーラーを ＯＮにする

フロントエアコン作動中に、前席操作部のＲＥＡＲスイッチを押します。

●作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。

●リヤクーラーの作動を停止したいときは、もう一度ＲＥＡＲスイッチを押します。

風量をかえる

後席操作部のファン調整レバーで調整します。

●風量は4段階に切り替えることができます。

補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステム停止中に作動させないでください。

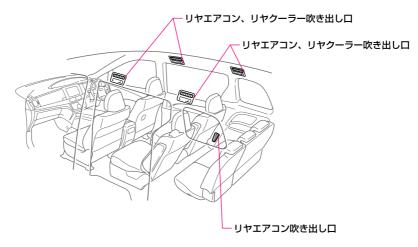
知 識

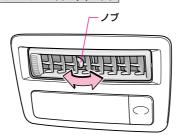
エアコンの作動条件について

フロントエアコンが停止しているときは、冷房、除湿機能は作動せず、送風のみとなります。

前席操作部のＲＥＡＲスイッチについて

前席操作部のＲＥＡＲスイッチを押すことにより、前席からリヤクーラーを作動・停止することができます。

リヤ吹き出し口の調整

風向きのかえ方

リヤエアコン・リヤクーラー吹き出し口

吹き出し口のノブを動かすと風向きの調整ができます。

知識

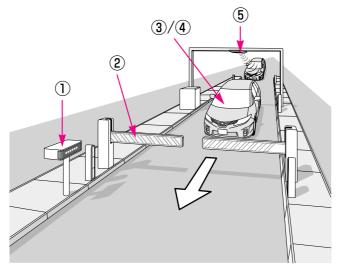
吹き出し口について

冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

ＥＴＣの取り扱い★

ＥＴＣシステムについて

メーカーオプションのＥＴＣ装着車

ＥＴＣ（Electronic Toll Collection）システムは、有料道路の通過をスムーズに行うために、自動で料金を精算するシステムです。
路側無線装置と車両のＥＴＣユニットとの間で無線通信を行い、料金はお客様が登録した銀行口座から後日引き落とされます。

①路側表示器
料金所のＥＴＣレーンに設置されています。進入車両に対し、適切に通行したかどうかなどのメッセージが表示されます。

②発進制御装置（開閉バー）
料金精算を確実にするために、料金所のＥＴＣレーンに必要に応じて設置されています。通過車両の発進を制御するもので、踏み切りの遮断機のようなものです。
通信が正常に行われると開きます。

③ＥＴＣユニット
車両に装着されています。ＥＴＣカードに格納されている料金精算に必要なデータを路側無線装置と通信するための機器です。

④ＥＴＣカード
ＥＴＣユニットに装着します。ＩＣチップを搭載した、ＥＴＣ機器用カードのことです。ＥＴＣカードでは、このＩＣチップに料金精算に必要なデータが保持されています。

⑤路側無線装置
料金所のＥＴＣレーンに設置されています。料金精算のため、車両のＥＴＣ機器との通信を行うためのアンテナです。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ＥＴＣを利用する前に

ＥＴＣシステムを利用する際には、以下の点に注意してください。

警告	安全のため、運転者は走行中にＥＴＣカードの抜き差し、およびＥＴＣユニットの操作を極力しないでください。 走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車を停車させてから操作をしてください。

注意	その他、ＥＴＣユニットを用いたサービス（スマートＩＣなど）には、様々な制約があります。サービス提供者が案内する利用方法をご確認ください。

ＥＴＣカードを挿入する前に

注意	ＥＴＣカードの有効期限切れにご注意ください。ＥＴＣカードの有効期限が切れていると、開閉バーが開きません。お手持ちのＥＴＣカードに記載された有効期限を、あらかじめ確認してください。

ＥＴＣカードを挿入したあとに

 注意

ＥＴＣカードを確実に挿入し、正常に作動していることを確認してください。

- ＥＴＣを利用する際は、あらかじめＥＴＣカードが確実にＥＴＣユニットに挿入されていることと、ＥＴＣユニットが正常に作動していることを確認してください。
- ＥＴＣユニットがＥＴＣカードを認証するまでには数秒かかりますので、料金所手前でのＥＴＣカードの挿入はエラーの原因となる場合があります。

料金所を通過するときは

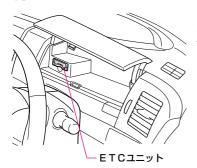
 注意

ＥＴＣレーンに進入するときは、十分な車間距離をとり、約20km/h以下の安全な速度で進入してください。

- ＥＴＣレーンに進入するときは、十分な車間距離をとり、約20km/h以下の安全な速度で進入してください。
- ＥＴＣレーンに設置されている開閉バーは、ＥＴＣユニットと路側無線装置の間の通信、あるいはＥＴＣユニットとＥＴＣカードとの通信が正常に行われなかった場合は、開かないことがありますので、ご注意ください。
- ＥＴＣレーンを通行するときは、前車との車間距離を保持した上で、開閉バーの手前で安全に停止できるように十分に減速し、開閉バーが開いたことを確認してから通行してください。

ＥＴＣの使い方

本書では、メーカーオプションのＥＴＣユニットの操作のみを説明しています。このＥＴＣユニットをメーカーオプションのナビゲーションシステムとセットで装着された方は、ナビゲーションシステムの画面で、現在のＥＴＣシステムの状態、ＥＴＣ登録情報や利用履歴の表示、ＥＴＣの設定変更などができます。
詳しくは、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

ＥＴＣユニットについて

ＥＴＣユニットは、運転席アッパーボックスの中にあります。

はじめてＥＴＣシステムをご利用される前に、ＥＴＣユニットのセットアップ手続きが必要です。トヨタ販売店にご相談ください。（セットアップ手続きには別途費用が発生します。）

ＥＴＣユニットの内部に異物などを入れないでください。

- ●ＥＴＣユニットの内部に異物などを入れないでください。ＥＴＣユニットが故障するおそれがあります。
- ●ＥＴＣユニットに衝撃を与えないでください。ＥＴＣユニットが故障、破損するおそれがあります。
- ●濡れた手でＥＴＣユニットに触れたり、水（液体など）を付着させないでください。
ＥＴＣユニット内部に水が入り、故障・破損するおそれがあります。
- ●汚れたときは、柔らかい乾いた布で汚れをふき取ってください。ワックス、シンナー、アルコールなどは絶対に使用しないでください。ＥＴＣユニットが変形・故障する場合があります。
- ●車両1台に対して複数のＥＴＣユニットを取りつけると、ゲートの開閉バーが開かない場合があります。

知識

作動条件について

“ パワー ” スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ＯＮモードのとき使用できます。

製品に貼られているシールについて

本製品は電波法の基準に適合しています。製品に貼りつけられているシールはその証明ですので、はがさないでください。また、本製品を分解・改造すると法律により、罰せられることがあります。

車のナンバープレートを変更する場合は

車のナンバープレートが変更になった場合は、再度ＥＴＣユニットのセットアップ手続きが必要となりますので、トヨタ販売店にご相談ください。

ＥＴＣアンテナについて

インストルメントパネル内中央付近にあります。

注意

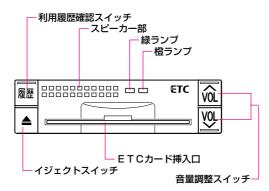
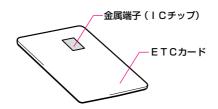
路側無線装置との通信のさまたげにならないよう、ＥＴＣアンテナ上方（インストルメントパネル中央付近）には、物を置かないでください。

知識

フロントガラスの汚れなどについて

フロントガラスの汚れや積雪がひどい場合は、それらを取り除いてください。

各部の名称

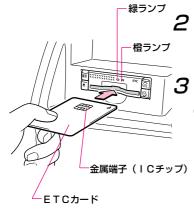
■ＥＴＣユニットについて

■ＥＴＣカードについて

ＥＴＣカードの取り扱いについては、ＥＴＣカード発行会社の提示する注意事項にしたがってください。

- ●ＥＴＣカードの取り扱いについては、ＥＴＣカード発行会社の提示する注意事項にしたがってください。
- ●ＥＴＣカードには有効期限があります。有効期限内のＥＴＣカードをご利用ください。
- ●セロハンテープ・シールなどが貼ってあるＥＴＣカードや、金属端子（ＩＣチップ）が汚れているＥＴＣカードは使用しないでください。ＥＴＣユニットが正常に作動しなくなったり、ＥＴＣカードが取り出せなくなるなど、故障の原因となるおそれがあります。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

使用するときは

■乗車時の操作

1 ハイブリッドシステムを始動します。
ＥＴＣユニットの電源が入り、緑ランプと橙ランプが同時に点灯したあと、しばらくすると消灯します。

2 左図のように正しい挿入方向でＥＴＣカードをＥＴＣユニットにしっかりと挿し込みます。
「ピッ」と音がして、緑ランプが点滅します。

3 ＥＴＣカードを認証します。

●正しく認証された場合

音声案内※	「ポーン ＥＴＣカードが挿入されました」
ＥＴＣユニット	緑ランプが点灯したまま

ＥＴＣシステムは、この状態でご利用ください。

※メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車では、ハイブリッドシステム始動後しばらくの間は、ＥＴＣカードを挿入しても音声案内されない場合があります。

●正しく認証されなかった場合
橙ランプが点滅し、統一エラーコード（P.436参照）を音声でお知らせします。

ＥＴＣユニットやＥＴＣカードにエラーが発生した場合は、橙ランプが点滅し、統一エラーコードを音声でお知らせします。
「統一エラーコード一覧」（P.436参照）の記載にしたがって対処してください。

知 識

ＥＴＣユニットについて

●橙ランプが点灯しているときは、ＥＴＣユニットのセットアップ手続きができていないので使用できません。
●有効期限切れや解約済みのＥＴＣカードは使用できません。これらのカードをＥＴＣユニットに挿入してもエラー表示はされませんが、開閉バーは開きません。

■降車時の操作

1 安全な場所に停車し、ハイブリッドシステムを停止する前にETCユニットのイジェクトスイッチを押します。

ＥＴＣカードを抜く前に、ハイブリッドシステムを停止すると、カードの抜き忘れをお知らせする音声案内がＥＴＣユニットより出力されます。（P.430参照）

2 ＥＴＣユニットからＥＴＣカードを抜きます。

3 ハイブリッドシステムを停止します。

緑ランプが点滅中はＥＴＣカードを抜かないでください。

●緑ランプが点滅中はＥＴＣカードを抜かないでください。ＥＴＣカード内のデータが破損するおそれがあります。

●ＥＴＣユニットやＥＴＣカードにエラーが発生した場合は、橙ランプが点滅します。状況に応じて、次のように対応してください。

- 統一エラーコード（01～07）が音声出力された場合は、「統一エラーコード一覧」（P.436参照）に記載されている処置にしたがってください。
- ハイブリッドシステム始動時にエラーが発生した場合は、いったんハイブリッドシステムを停止させ、再度始動してみてください。それでもエラーが続くときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ＥＴＣカード挿入時にエラーが発生した場合は、いったんＥＴＣカードを抜き、挿入方向を確認して再度挿し込んでみてください。それでもエラーが続くときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●ＥＴＣカードを放置して車から離れないでください。
車内の温度上昇により、ＥＴＣカードが変形したり、ＥＴＣカード内のデータが破損するおそれがあります。

■ＥＴＣの作動状態を知るには

ＥＴＣユニットの作動状態	ランプの点灯状態
●“パワー”スイッチがＯＦＦのとき（ハイブリッドシステムが停止） ●“パワー”スイッチがイグニッションＯＮモードで、ＥＴＣカードが未挿入のとき	緑ランプ：消灯 橙ランプ：消灯
ＥＴＣが正常に作動しているとき ●ＥＴＣカードが正しく認証されたとき ●ＥＴＣゲートで正常に通信できたとき ●ＥＴＣゲートで正常に精算処理ができたとき	緑ランプ：点灯
ＥＴＣの作動に異常があったとき ●ＥＴＣカードとは種類の異なるカードを挿入したとき ●挿入したＥＴＣカードが正しく認識されなかったとき ●ＥＴＣシステムに異常があるとき ●ＥＴＣゲートで正常に通信できなかったとき ●ＥＴＣゲートで精算処理ができなかったとき ●ＥＴＣのアンテナに異常があるとき	橙ランプ：点滅
ＥＴＣがセットアップ手続きされていないとき	橙ランプ：点灯

■有効期限切れ通知

ＥＴＣと連動するナビゲーションシステムを装着されている場合、ＥＴＣカードを挿入したとき、またはＥＴＣカード挿入状態で“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたはON モードにすると、次のように有効期限切れ通知が行われます。
ただし、装着されたナビゲーションシステムの機種によっては通知が行われない場合があります。

[有効期限まで１ヶ月以内の場合]

音声案内

「ポーン　ＥＴＣカードの有効期限は今月末です　カードをお確かめください」

画面表示

「ＥＴＣカードの有効期限は今月末です　カードをお確かめください」

[有効期限切れの場合]

音声案内

「ポーン　ＥＴＣカードの有効期限が切れています」

画面表示

「ＥＴＣカードの有効期限が切れています」

＊ ハイブリッドシステム始動後、すぐにＥＴＣカードを挿入すると音声案内および画面表示がされないことがあります。

有効期限切れＥＴＣカードでは開閉バーは開きません。有効期限内のＥＴＣカードをご利用ください。

知 識

ＥＴＣカードの取り扱いについて

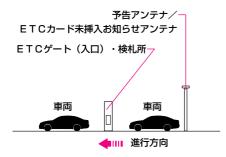
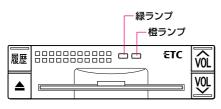
●ＥＴＣカードを放置して車から離れないでください。ＥＴＣカードが盗難にあうおそれがあります。
●ＥＴＣカードを挿入しているときは、盗難を防止するため運転席アッパーボックスを閉めておいてください。
●ＥＴＣカードを紛失してしまった場合は、すみやかにＥＴＣカード発行会社に連絡してください。

カード抜き忘れ警告について

●ＥＴＣカードを抜く前にハイブリッドシステムを停止すると、ＥＴＣユニットから**「ピーカードが残っています」**と音声が出力されます。
●カード抜き忘れ警告の音声を出力しないようにすることもできます。
- 音声を出力をさせない場合は、車を停車させ、ＥＴＣユニットにＥＴＣカードが挿入され緑ランプが点灯している状態で、「履歴」と「 VOL 」スイッチを同時に約2秒間押し続けます。操作をするごとに「音声出力する／音声出力しない」が切り替わり、選択した設定が保持される（設定が切り替わる）とＥＴＣユニットから**「ピッピッ」**と音がします。なお、メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、ＥＴＣ設定画面でも行えます。詳しくは、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。
- ＥＴＣユニットの音声案内を中止（音量0）に設定した場合は、**「ピー」**とブザー音のみ出力されます。

走行中の表示と音声案内について

走行中は、次のようにＥＴＣユニットのランプ表示と音声案内が行われます。ただし、安全のため運転者は走行中にランプ表示を見ないでください。

■ＥＴＣゲート（入口）、検札所、予告アンテナ／ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナを通過します。

通信が正常に行われたかどうかにより、通知される内容がそれぞれ次のように異なります。

●通信が正常に行われた場合

ランプ表示	緑ランプが点灯したまま
通知音※1/※2	「ピンポン」

※1ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナを通過したときは、通知されません。

※2メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車では通知されません。

●通信が正常に行われなかった場合

橙ランプが点滅し、統一エラーコードを音声でお知らせします。
「統一エラーコード一覧」（P.436参照）の記載にしたがって対処してください。

注意

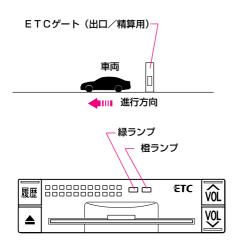
ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナ、ＥＴＣゲート、検札所、予告アンテナ付近では、ＥＴＣカードを抜かないでください。ＥＴＣカード内のデータが破損するおそれがあります。

知識

ＥＴＣゲートを通過するときは

ＥＴＣカードが未挿入の状態で、予告アンテナやＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナを通過した場合は、橙ランプが点滅し、**「ピー　ＥＴＣをご利用できません※」**と案内されます。これはＥＴＣが利用できないことをお知らせするもので、ＥＴＣユニットが故障したわけではありません。

※メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車では、**「ポーン　ＥＴＣゲートを通過できません」**または**「ポーン　ＥＴＣカードが挿入されていません」**という音声になります。

■ＥＴＣゲート（出口／精算用）を通過したとき

通信が正常に行われたかどうかにより、通知される内容がそれぞれ次のように異なります。

●通信が正常に行われた場合

ランプ表示	緑ランプが点灯したまま
通知音	「ピンポン」
音声案内	通行料金を通知

●通信が正常に行われなかった場合

橙ランプが点滅し、統一エラーコードを音声でお知らせします。
「統一エラーコード一覧」（P.436参照）の記載にしたがって対処してください。

ＥＴＣゲート進入時は、十分減速してください。

●ＥＴＣゲート進入時は、十分減速してください。
●ＥＴＣゲート通過時は、ＥＴＣゲート付近に表示されている案内にしたがって走行してください。
●ＥＴＣゲートの開閉バーが開かない場合は、料金所係員の指示にしたがってください。
●その他、道路事業者の発行する利用方法にしたがってください。
●必ず、ＥＴＣゲート（入口）で使用したＥＴＣカードで、ＥＴＣゲート（出口／精算用）または検札所を通過してください。
●ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナ、ＥＴＣゲート、検札所、予告アンテナ付近では、ＥＴＣカードを抜かないでください。
ＥＴＣカード内のデータが破損するおそれがあります。

通行料金の音声案内について

●通知される通行料金は、割り引きなどにより実際と異なる場合があります。
●他のナビ案内などと重なったときは、通行料金が案内されないことがあります。※
※ メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

知識

ゲート通過時の通知について

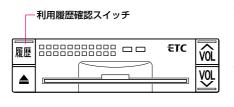
道路側システムにより通信が正常に行われた場合、1つのゲートで2回通知されることがあります。

道路設備について

●予告アンテナは、料金所の手前に設置され、ＥＴＣユニットと通信し、ＥＴＣゲートを利用できるかどうかをＥＴＣユニットを通じて運転者にあらかじめ通知するためのアンテナです。
●ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナは、料金所の手前に設置され、ＥＴＣユニットと通信し、正しくＥＴＣカードが挿入されていない場合にＥＴＣユニットを通じて運転者にあらかじめ通知するためのアンテナです。
●予告アンテナ・ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナは、道路側のシステムにより、設置されている場合と設置されていない場合があります。

利用履歴の確認について

ＥＴＣユニットの利用履歴確認スイッチで、有料道路の利用日および通行料金を音声で確認できます。

ＥＴＣカードが挿入され、緑ランプが点灯した状態で、停車中に利用履歴確認スイッチを押すと、最新の利用履歴が音声で案内されます。

●利用履歴確認スイッチを押すごとに、古い利用履歴に切り替わります。なお、最も古い利用履歴の次は、最新の利用履歴に切り替わります。
●案内終了後、約１秒以上たってからスイッチを押した場合は、最新の利用履歴から案内されます。

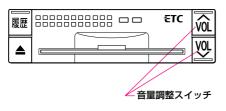
ＥＴＣゲート、検札所、予告アンテナ／ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナ付近では、利用履歴の確認を行わないでください。路側無線装置と通信ができなくなるおそれがあります。

知 識

利用履歴について

●利用履歴はＥＴＣカードに記録されるため、記録件数は使用するＥＴＣカードにより異なります。（最大100件）
●利用履歴の最大記録件数を超えた場合は、最も古い利用履歴が消去されます。
●利用履歴がない場合は、**「利用履歴はありません」**と案内されます。
●利用日の情報が正しくない場合は、**「利用日付は不明です」**と案内されます。
●通行料金の情報が正しくない場合は、**「料金は不明です」**と案内されます。

音量調整について

ＥＴＣユニットの音量調整スイッチで、ＥＴＣユニットから出力される音声案内の音量を調整することができます。

ＥＴＣユニットの音量調整スイッチで、ＥＴＣユニットから出力される音声案内の音量を8段階に調整することができます。

音量を

●大きくするときはスイッチの VOL 側

●小さくするときはスイッチの VOL 側を押します。

音量を調整すると、調整結果が音声で案内されます。

音量	音声案内
1～8	「音量○○です」
0	「音声案内を中止します」

知 識

音量調整について

●音量調整は、以下のような案内に有効です。
- 未セットアップ状態の通知
- エラー発生時のブザー音
- カード抜き忘れ警告（P.430参照）
- 利用履歴の確認
- 音量調整時の案内

●音量調整を中止（音量0）に設定してあっても、エラー発生時には音量1で出力されます。

●ＥＴＣユニットが未セットアップ状態（セットアップ手続きをしていない状態）の通知は、ＥＴＣユニットを消音（音量0）にすると出力されません。

エラーコードについて

統一エラーコード一覧

エラーが発生すると、橙ランプが点滅するとともに統一エラーコードが音声出力されます。この場合は、以下の表にもとづき、処置をしてください。

（例）エラー03が発生したときは、次のように音声で案内されます。

音声案内：「ピッピッ　カードを読めません　エラー03」※

※メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車では、**「ポーン　ＥＴＣカードが読めません　03」**という音声で車両のスピーカーから通知されます。併せてナビゲーション画面に**「ＥＴＣカードが読めません　カードをお確かめください　03」**と表示されます。

コード	異常状態	想定される要因	処置
01	ＥＴＣカード挿入異常	●ＥＴＣカードが通信時に挿入されていない ●ＥＴＣカードの挿入状態が悪い	ＥＴＣカードの挿入状態をご確認のうえ、再度挿入してください。
02	データ処理異常	●ＥＴＣカードへの読出し、書込みエラー ●ＥＴＣカードとユニットの接点不良（ＥＴＣカードアクセス中の瞬断） ●読出し中、書込み中カードのイジェクト	**ＥＴＣカード挿入時：** 挿入されたＥＴＣカードのデータが読み出せませんでした。再度挿入してください。 エラーが解消しない場合は、トヨタ販売店へお問い合わせください。 **ＥＴＣゲート通過前：** 料金所にて車両の停止が案内されることがあります。 車両停止後、料金所係員の指示にしたがってください。 **ＥＴＣゲート通過後：** 次の料金所にて車両の停止が案内されることがあります。 料金所係員のいる一般レーン（ＥＴＣ／一般共用レーンを含む）へ進入してください。
03	ＥＴＣカード異常	●ETCカードが故障している ●ＩＣカード以外のカードが挿入され、通信しない ●ＥＴＣカードの誤挿入（裏面、挿入方向違い）	挿入されたカードがＥＴＣカードであると認識できませんでした。正しいＥＴＣカードであること、および挿入方向などをご確認のうえ、再度挿入してください。 エラーが解消しない場合は、トヨタ販売店へお問い合わせください。

コード	異常状態	想定される要因	処置
04	ＥＴＣユニット故障	自己診断の結果、ＥＴＣユニットが故障していると判断された	再度ハイブリッドシステムを始動してみてください。 エラーが解消しない場合は､トヨタ販売店へお問い合わせください。
05	ＥＴＣカード情報の異常	●ＥＴＣカードとの認証エラー ●ＥＴＣカード以外のＩＣカードが挿入 ●認証中ＥＴＣカードのイジェクト ●未セットアップ状態でのＥＴＣカードの挿入	挿入されたカードがＥＴＣカードであると認識できませんでした。正しいＥＴＣカードであること、および挿入方向などをご確認のうえ、再度挿入してください。 エラーが解消しない場合は､トヨタ販売店へお問い合わせください。
06	ユニット情報の異常	路側無線装置との認証エラー	ユニットと料金所間におけるデータ処理にエラーが発生しました。 料金所係員の指示にしたがってください。
07	通信異常	路側無線装置との通信が途中で終了	

知 識

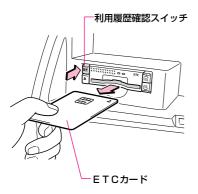
統一エラーコードについて

●ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナなどと通信したときに、統一エラーコード（07）と通知されることがありますが、ＥＴＣユニットの故障ではありません。
●ＥＴＣユニットの無線通信を利用して、駐車場管理システムが運用されています。有料道路の料金支払いと異なる通信を行った場合、統一エラーコード（01）または（07）と通知されることがありますが、ＥＴＣユニットの故障ではありません。

ＥＴＣゲート通過後のエラー発生時は

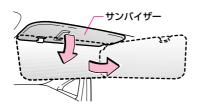
ＥＴＣゲート通過後にエラーが発生した場合、ＥＴＣカードを抜くとエラー音が停止します。再度、ＥＴＣカードを挿入すると**「ポーン　ＥＴＣカードが挿入されました」**の音声と同時に緑ランプが点灯しますが、次の料金所にて車両の停止が案内されることがあります。

記録されているエラーコードを確認するには

ＥＴＣユニットは、最後に発生した統一エラーコードを記録しています。
コードの確認をする場合は、次のように行います。

1 イジェクトスイッチを押し、ＥＴＣカードを抜きます。

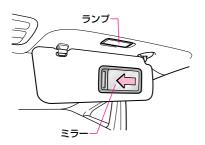
2 利用履歴確認スイッチを約2秒以上押します。
最後に案内された統一エラーコードが音声で案内されます。

室内装備品の使い方

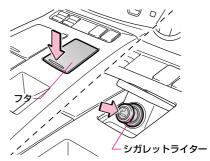
サンバイザー

日差しがまぶしいときに使用します。
側面にまわして使用することもできます。

知 識

便利機能について

バニティ（化粧用）ミラー
サンバイザーの裏側にミラーがついています。

● “パワー”スイッチがＯＮ モードのときにフタを開けるとランプが点灯します。

チケットホルダー
運転席サンバイザーの表側にあります。チケットなどを収納することができます。

シガレットライター

フタを押して開きます。
●シガレットライターを押し込んで手を離します。もとの位置にもどったら使用できます。

注意

●シガレットライターの金属部分に触れないでください。やけどをするおそれがあります。
●シガレットライターの故障や周辺部の焼損を防ぐため、次のことをお守りください。
- シガレットライターを押さえたままにしないでください。
- 他車のシガレットライターを差し込まないでください。
- ソケットからトヨタ純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。トヨタ純正品以外の電源を取り出した場合、シガレットライターを使用すると、赤熱したシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

知 識

作動条件について

“パワー”スイッチがアクセサリーモードまたはＯＮ モードのとき使用できます。

移動式灰皿

使用するときは、フタを開けます。

⚠警告

出火を防ぐため、次のことをお守りください。

●マッチ、タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。

●灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

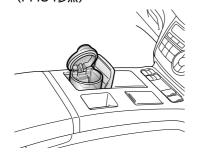
知識

灰皿の収納場所について

次の場所に収納することができます。

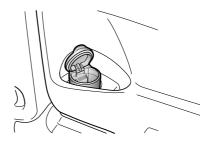
フロントシート

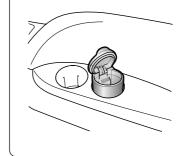
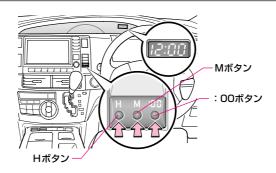
■センターコンソールのカップホルダー
（P.454参照）

知識

灰皿の収納場所について

次の場所に収納することができます。

セカンドシート

■スライドドアのボトルホルダー
（P.455参照）

サードシート

■クォータートリムのボトルホルダー
（P.455参照）

時計

“時”“分”を調整するときは

Hボタンを押すと“時”、Mボタンを押すと“分”が早送りされます。

正時に合わせるときは

時報と同時に：00ボタンを押すと正時に合わせることができます。

●0～29分は切り下げられます。

●30～59分は切り上げられます。

（例）1：00～1：29の場合は1：00に、1：30～1：59の場合は2：00になります。

知識

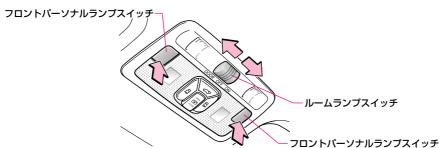
時計の表示について

●“パワー”スイッチがＯＮ モードのとき時刻が表示されます。

●秒表示はありませんが、次の場合は0秒から作動を開始します。

- Mボタンを押して分を調整後、Mボタンから手を離したとき
- ：00ボタンを押したとき

室内灯

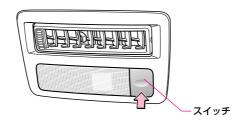
ルームランプ一体フロントパーソナルランプ

■ルームランプスイッチ

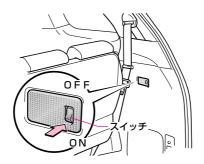
●ルームランプスイッチがＯＮの位置のとき点灯します。
●ルームランプスイッチがＯＦＦの位置のとき消灯します。
●ルームランプスイッチがＤＯＯＲの位置のときは、フロントドアおよびスライドドアを開けると点灯します。
詳しい作動はＰ.446の「イルミネーテッドエントリーシステム」を参照してください。

■フロントパーソナルランプスイッチ

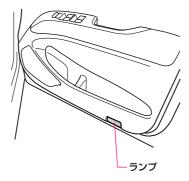
フロントパーソナルランプスイッチを押すと、押した側のフロントパーソナルランプが点灯し、もう一度押すと消灯します。

リヤパーソナルランプ

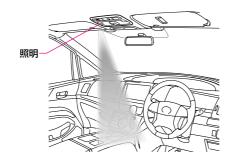
セカンドシート、サードシート上部

●スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。
●ルームランプ一体フロントパーソナルランプのルームランプスイッチがＤＯＯＲの位置のときは、スライドドアを開けると点灯します。
詳しい作動はＰ.446の「イルミネーテッドエントリーシステム」を参照してください。

ラゲージルームランプ

スイッチをＯＮにしておくと、バックドアを開けたとき点灯し、閉めると消灯します。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ドアカーテシランプ★

フロントドア

フロントドアを開けたとき点灯し、閉めると消灯します。

フロントフロアまわり照明

車幅灯を点灯させると点灯します。

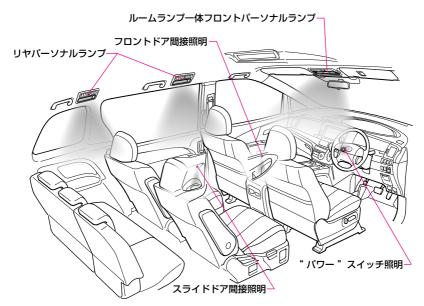
補機バッテリーあがりを防ぐために、ハイブリッドシステム停止中に長時間点灯させないでください。

作動条件について

“パワー”スイッチの状態に関係なく使用できます。

イルミネーテッドエントリーシステム

イルミネーテッドエントリーシステムについて

ドアロックの施錠・解錠、ドアの開閉、“パワー”スイッチの状態、シフトレバーの位置によって、各部の照明が点灯・消灯するシステムです。

①“パワー”スイッチ照明
②ルームランプ一体フロントパーソナルランプ※
③リヤパーソナルランプ※
④フロントドア間接照明★
⑤スライドドア間接照明★

※ルームランプ一体フロントパーソナルランプのスイッチがＤＯＯＲのとき

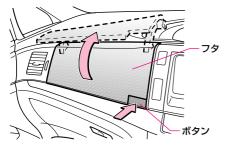
★印はグレード等により装着の有無が異なります。

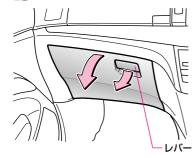
作動のしかた

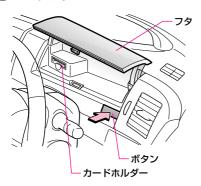
下記の作動は、条件が1つしか成立しない場合の例です。実際には、いくつかの条件が同時に成立することにより、下記の作動と異なる場合があります。

条件＼部位		①・②・③	④・⑤
電子キーを携帯して検知エリアに入ったとき		消灯→約15秒間点灯	消灯のまま
ドアロック	いずれかを解錠したとき	消灯→約15秒間点灯	消灯→約15秒間点灯
ドアロック	いずれかを施錠したとき	点灯→消灯	点灯→消灯
		消灯→消灯のまま	消灯→消灯のまま
ドア	いずれかを開けたとき(バックドアを除く)	消灯→点灯	消灯→点灯
ドア	すべてを閉めたとき(バックドアを除く)	点灯→約15秒後に消灯	点灯→約15秒後に消灯
“パワー”スイッチの状態	ＯＦＦ→アクセサリーモード	点灯→消灯	点灯→約15秒後に消灯
		消灯→消灯のまま	消灯→消灯のまま
	アクセサリーモード→ＯＮ モード	消灯のまま	消灯→点灯
	ハイブリッドシステム駆動中	消灯のまま	点灯のまま
	ＯＮ モード→ＯＦＦ	消灯→約15秒間点灯	点灯→約15秒後に消灯
シフトレバーの位置	ⓅからⓅ以外にしたとき	点灯→点灯のまま	点灯→減光状態で点灯
		消灯→消灯のまま	

収納スペース

助手席アッパーボックス

ボタンを押してフタを開けます。
●閉めるときはそのままフタを下におろし確実に閉めます。

グローブボックス

レバーを引いて開けます。
●閉めるときは“カチッ”と音がするまで確実に閉めます。

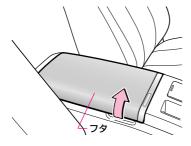
運転席アッパーボックス

ボタンを押してフタを開けます。
●閉めるときはそのままフタを下におろし確実に閉めます。

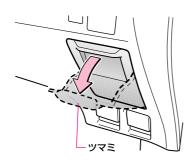
ＥＴＣ装着車を除く

ボックスの中にカードホルダーがあります。

メーカーオプションのＥＴＣ装着車

ボックスの中にＥＴＣユニットがあります。（P.424参照）

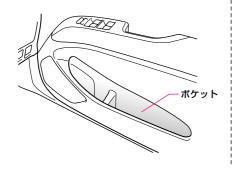
コンソールボックス

フタを開けます。
●閉めるときはそのままフタを下におろします。

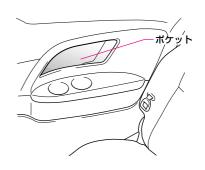
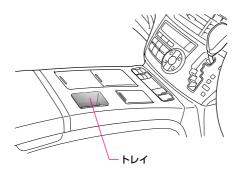
運転席アンダーボックス

ツマミを引いて開けます。
●閉めるときは確実に閉めます。

⚠警告　収納ボックスのフタを開けたまま走行しないでください。

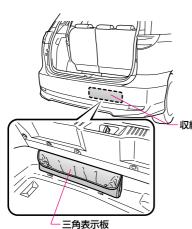
●収納ボックスのフタを開けたまま走行しないでください。
急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●運転席アッパーボックスは、走行中にフタの開閉をしないでください。とくにハンドルの中に手を入れてフタを開けるようなことはしないでください。ハンドル操作に支障をきたし、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●コンソールボックスに水などをこぼさないように注意してください。コンソールボックス下部には駆動用電池などがあり、水などをこぼすと駆動用電池などに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。

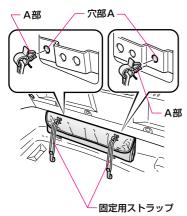
各席ドアポケット

■フロントドア

■サードシート

運転席側のみ

センターコンソールトレイ

収納ポケットやトレイ内に転がりやすいものや凹面より高さのあるものを置かないでください。
急ブレーキ、急旋回したときなどに置いたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

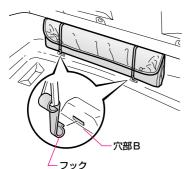
三角表示板収納スペース

販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車を除く

1 **三角表示板を収納スペースに置きます。**

三角表示板をラゲージスペースうしろ側のくぼみにある収納スペースに置きます。

2 **固定用ストラップを穴に差し込みます。**

固定用ストラップのA部を穴部Aに差し込みます。

●固定用ストラップは工具袋の中に入っています。

●A部を差し込む穴を間違えないように注意してください。

3 固定用ストラップのフックを引っかけます。

固定用ストラップのフックを穴部Bに引っかけます。

●ストラップのフックが確実にボディ側の穴部Bにかかっていることを確認します。

三角表示板収納スペースに三角表示板を収納したときは、三角表示板が確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、急ブレーキをかけたときなどに三角表示板が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

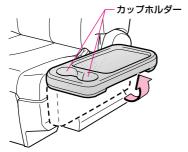
収納について

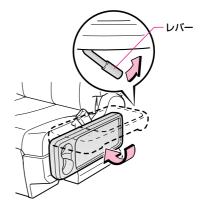
三角表示板のケースの大きさ、形によっては収納できない場合があります。

固定用ストラップについて

固定用ストラップは工具袋の中にあります。また、使用しないときは、工具袋（P.588参照）にもどしておいてください。

センターテーブル

7人乗りのみ

使用するときは、テーブルを引き上げます。

- テーブルを引き上げたら、確実に固定されたことを確認してください。
- カップホルダーとしても、使用することができます。
- センターテーブルは、セカンドシートの左右位置調整が外側にあるときのみ使用することができます。

もとにもどすときは、レバーを引いてテーブルが固定するまでおろします。

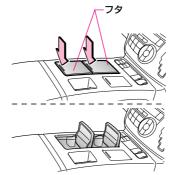
警告

カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあり危険です。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタをしてください。

注意

テーブルの上に乗ったり、重い物を置くなど無理な力をかけないでください。破損や変形の原因となります。

カップホルダー

フロント

フタを押すと開きます。
●使用しないときはフタを閉めておいてください。

セカンドシートアームレスト(8人乗り)

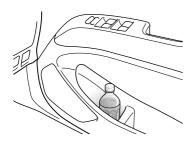
アームレストにあります。
●使用しないときは、アームレストを格納しておいてください。
●7人乗り車のセカンドシート用カップホルダーは、センターテーブルにあります。(P.453参照)

カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。

●カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタをしてください。
●急ブレーキをかけたときや衝突時に、カップホルダーに体が当たるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。カップホルダーを使用しないときはフタを閉めておいてください。

カップホルダーを破損から守るため、カップホルダーに手をついたりしないでください。

ボトルホルダー

■フロントシート

フロントドア（両側）にあります。

■セカンドシート

スライドドア（両側）にあります。

■サードシート

クォータートリム（両側）にあります。

走行するときやドアを開閉するときは、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

知 識

ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから、収納してください。
●ペットボトルの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

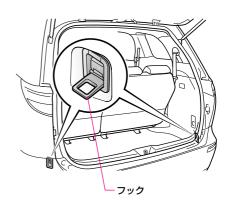
買物フック

買物袋などを吊り下げておくことができます。

●使用しないときはフックを格納してください。

●フックを使用しないときは、格納しておいてください。指を挟むなどして思わぬけがをするおそれがあります。

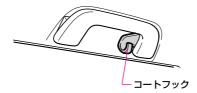
●とくに重たいものや大きなものをフックに吊り下げないでください。
フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。
最大荷重……………………4kg

デッキフック

使用するときは、フックを取り出します。

フックを使用しないときは、格納しておいてください。指を挟むなどして思わぬけがをするおそれがあります。

デッキフックについて

荷物の固定用として使用することができます。

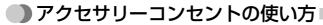
●フックは2カ所あります。

コートフック

サードシート天井にコートフックがあります。

	コートフックには、ハンガー・重いもの・とがったものをかけないでください。服をかけるときは、ハンガーを使用せずに直接コートフックにかけてください。 ＳＲＳカーテンシールドエアバッグが展開したときに飛ばされて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。（ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車）

アクセサリーコンセント HYBRID

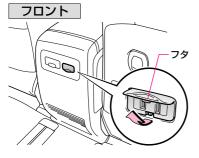
車内で電気製品を使用することのできるコンセントです。

● READY （走行可能表示灯）が点灯しているときに使用できます。

アクセサリーコンセントの使い方

1 **メインスイッチを押します。**

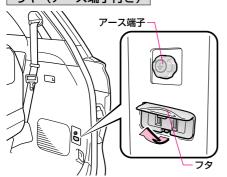
●作動表示灯が点灯し、アクセサリーコンセントが使用可能な状態になります。

●スイッチを押すごとに“パワー”スイッチがＯＮ モードとＯＦＦに切り替わります。

●アクセサリーコンセントを使用しないときは、メインスイッチをＯＦＦにして、作動表示灯が消灯していることを確認してください。

2 **フタを開けて、電気製品のプラグを差し込みます。**

●コンセントは、フロント（コンソールボックス後方）とリヤ（ラゲージルーム運転席側）に2カ所あります。

●アース線のある電気製品を使用するときは、リヤ側コンセントを使用し、アース線を接続してください。

●使用しないときは、コンセントからプラグをはずし、フタを閉めておいてください。

走行中、次のような場合は、絶対に電気製品を使用しないでください。

●走行中、次のような場合は、絶対に電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。思わぬ事故の原因となって重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 脇見運転など安全運転のさまたげになる場合。（テレビ、ビデオ、ＤＶＤなど）
- 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒、落下による事故や、発熱により火災、やけどなどのおそれがある場合。
（トースター、電子レンジ、電熱器、ポット、コーヒーメーカーなど）
- ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合。
（ドライヤー、ＡＣアダプター、マウスなど）

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなど、思わぬ事故の原因となって重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
また、他の電装品に悪影響を与えるおそれがあります。やむを得ず使用するときは、窓を開けて使用してください。

●電気製品を使用中に READY （走行可能表示灯）が点灯した状態のまま、車両から離れないでください。車両の盗難や、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

●暖房機具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

●故障した電気製品は使用しないでください。アクセサリーコンセントが使用できなくなったり、感電するおそれがあります。

●濡れた手で電気製品のプラグを抜き差ししたり、ピンなどをアクセサリーコンセントに差したりしないでください。感電するおそれがあり危険です。また、コンセントに雨水、飲料水などや雪が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。

●アクセサリーコンセントの改造や分解、修理などは絶対にしないでください。また、絶対に車両搭載のＡＣ１００Ｖインバーターを市販のＡＣインバーターに組み替えないでください。思わぬ故障や事故の原因となって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。修理については、トヨタ販売店にご相談ください。

●使用する電気製品に付属の取扱書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

電気製品を使用するときは、以下の点に注意してください。

●車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損したり、焼損するおそれがあります。

●振動や熱などに弱い電気製品を、車内で使用しないでください。
走行時の振動や炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。

●アクセサリーコンセントを使わないときは、フタを閉めてください。異物がコンセントにはいったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートするおそれがあります。

●ＡＣアダプターを直接アクセサリーコンセントに接続しないでください。フタを損傷したり、ＡＣアダプターが脱落するおそれがあります。

●お子さまには、アクセサリーコンセントをさわらせないでください。

●アクセサリーコンセントに、二股などの分岐用コンセントを接続してタコ足配線しないでください。

●アクセサリーコンセントに、ほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。

●電気製品のプラグをアクセサリーコンセントに差し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

●駆動用電池の残量によってはアクセサリーコンセントが使用できない場合があります。できるだけ駆動用電池の残量が多い状態で使用してください。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

アクセサリーコンセントについて

●使用する電気製品は、必ずＡＣ100Ｖで最大消費電力1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、ＡＣ電源装置の保護機能が働き、アクセサリーコンセントが使用できなくなります。
- 保護機能が働いたときに作動音がすることがありますが、異常ではありません。

●メインスイッチをＯＮにした状態でアクセサリーコンセントに電気製品のプラグを挿入した場合、電気製品側の回路構成によっては起動時に大きな電流が流れ瞬間電力が1500Wを超える場合があります。その場合、ＡＣ電源装置の保護機能が働き、自動的にメインスイッチがＯＦＦになることがありますが故障ではありません。電源プラグ挿入後、再度メインスイッチをＯＮにして使用してください。
- メインスイッチがＯＦＦになる可能性がある電気製品
  ＩＨ調理器など

●消費電力が1500W以下であっても、起動時に大きな電流が流れ瞬間電力が1500Wを超える電気製品を使用した場合、ＡＣ電源装置の保護機能が働き、電気製品が正常に起動しない場合があります。
- 正常に起動しない可能性がある電気製品
  コンプレッサー式冷蔵庫、電気ポンプ、電動工具など

●次のような機器は使用しないでください。
- 医療機器（アクセサリーコンセント使用中、車両状態により一時的にＡＣ電源の出力が断たれることがあるため。）
- 計量器、計測器など（ＡＣ電源電圧を基準にする機器の場合、計測精度が保証できないため。）

●次のような機器を使用の際は注意してください。
- タイマー設定する機器などＡＣ電源の出力が連続して必要な電気製品（車両状態により一時的にＡＣ電源の出力が断たれることがあるため。）
- 電気毛布（冬期に車中に泊まるときなど電気毛布のみで暖を取る使用方法では、車両状態により一時的にＡＣ電源の出力が断たれ、電気毛布の電源が切れてしまうことがあるため。）
- コーヒーメーカー、電子レンジなど（水平に設置しないと正常に作動しない場合があるため。）

●使用する電気製品によっては、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。

●アクセサリーコンセントの電圧は、市販のテスターでは正常な電圧を計測できません。電圧の確認が必要な場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●アクセサリーコンセントを使用中、運転席の下から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

知 識

使用できないときは

メインスイッチの作動表示灯が消灯して、コンセントからＡＣ電源が出力されないとき、再度メインスイッチをＯＮにしても復帰しない場合は、保護機能が働いていることが考えられます。この場合は、まず次の処置を行ってください。

●電気製品のプラグを抜き、消費電力が1500W以下になっているかどうかを確認し、再度メインスイッチをＯＮにしてください。

●電気製品のプラグを抜き、製品自体が故障していないか確認して、再度メインスイッチをＯＮにしてください。

●マルチインフォメーションディスプレイの駆動用電池の残量を確認してください。
残量表示の点灯が1つになっているようであれば、シフトレバーをⓅにして、駆動用電池の残量を回復させ、再度メインスイッチをＯＮにしてください。

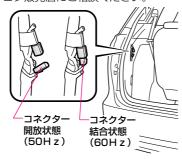
●真夏の炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合はエアコンを使用するなどして、車内を十分に換気し、車内温度を下げ、しばらくしてから再度メインスイッチをＯＮにしてください。

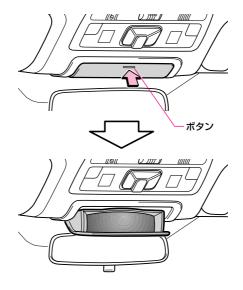
以上の操作をしても、復帰しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

寒冷地で使用するときは

外気温が－15℃以下になるようなときは、駆動用電池を保護するため、数十分間アクセサリーコンセントが使用できないことがあります。
この場合はエアコンを使用して車内を暖房し、駆動用電池を暖めてから使用してください。

電源周波数について

工場出荷時の車両側電源周波数は、50Ｈｚになっています。
電気製品によっては、電源周波数の切り替え（50／60Ｈｚ）機能がありますので、車両と電気製品の電源周波数を一致させておいてください。
また、ラゲージルームにある50／60Ｈｚ切り替えコネクターを開放／結合状態にすることにより、車両側電源周波数を切り替えることができます。車両側電源周波数の切り替えが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

後席確認ミラー

レーンキーピングアシスト装着車を除く

ボタンを押してミラーを開きます。

●使用しないときはミラーを収納します。

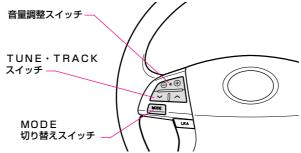
後席確認ミラーは、走行中に使用しないでください。走行中に使用するとわき見運転となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ステアリングスイッチ

ハンドル左側にあるスイッチで、トヨタ販売店で装着したナビゲーションシステムやオーディオなどを操作することができます。

モードの切り替えや、CD、ラジオなどの操作については、装着されたオーディオにより異なる場合や、操作できない場合があります。

●メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

●販売店装着オプションのナビゲーションシステムやオーディオの操作方法は、商品に付属の各取扱書をご覧ください。

電源を入れる

ＭＯＤＥ切り替えスイッチを押します。

スイッチを押し続けるとオーディオの電源がＯＦＦになります。

●装着されたオーディオにより“ピッ”と音が鳴ることがあります。

音量を調整する

音量を大きくするときは音量調整スイッチの＋側、小さくするときは－側を押します。

●スイッチを押してすぐに手を離すと、音量を1ステップずつ調整できます。

●スイッチを1秒以上押し続けると、音量を連続して調整できます。

安全運転に支障がないように適度な音量でお聞きください。

モードを切り替える

MODE切り替えスイッチを押します。

●電源がＯＮのときMODE切り替えスイッチを押すごとに（ＣＤ、ラジオなど）が切り替わります。

選局・選曲する

TUNE・TRACKスイッチを押します。

●スイッチを押して、お聞きになりたい放送局やＣＤなどで再生したい曲を選択します。

5 安全・快適装備の解説と注意

ハイブリッドシステム

エスティマハイブリッドのシステム構成 HYBRID

エスティマハイブリッドは、前輪の駆動にはガソリンエンジンとモーターを組み合わせたトヨタハイブリッドシステムⅡ(ＴＨＳⅡ)を採用しています。さらに後輪は独立したモーターだけで駆動する、プロペラシャフトのいらない電気式4WDシステム(Ｅ－Ｆｏｕｒ)を採用しています。

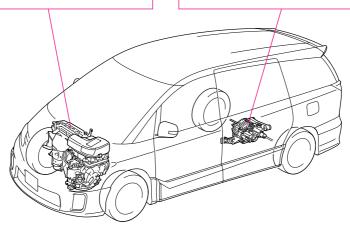
前輪

エンジン ＋ モーター

ガソリンエンジンとモーターを使い、エンジンとモーターの駆動力を有効に活用します。

後輪

リヤモーター

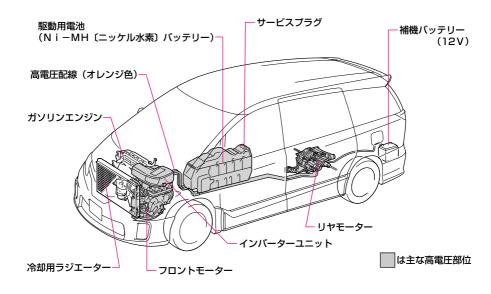
前輪とは独立したリヤモーターの駆動力により、走行性能を向上させ、独自のエネルギー回収を行います。

■トヨタハイブリッドシステムⅡ

走行する場所や車速によって、ガソリンエンジンとモーターを組み合わせて走行するシステムです。（P.469参照）

■電気式4WDシステム（Ｅ－Ｆｏｕｒ）

ハイブリッドシステムにより、後輪をリヤモーターで駆動する4輪駆動システムです。（P.496参照）

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

エスティマハイブリッドには、約650Ｖの高電圧部位と、これらを接続するオレンジ色の配線やモーター、冷却用ラジエーターなどの走行時高温になる部位があります。

高電圧・高温に注意してください。

●高電圧部位、高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし、分解などは、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険ですので、絶対に行わないでください。
これらの部位には取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示にしたがって正しい取り扱いをしてください。
●サービスプラグがコンソールボックス下部に設置してあります。サービスプラグは、トヨタ販売店にて、車両の修理時などに駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。
取り扱いを誤ると感電し、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険ですので、絶対に触らないでください。

ガス欠になったときは

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（P.326参照）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量は車両水平状態で約10Lです。車両の傾きによって給油量はかわります）

電磁波について

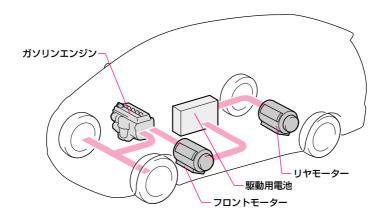
●高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。
●アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。
●無線機の取り付け・取りはずしについては、トヨタ販売店にご相談ください。

駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

トヨタハイブリッドシステムⅡとは HYBRID

トヨタハイブリッドシステムⅡの特徴

走行する場所や車速によってモーターとガソリンエンジンを組み合わせて走行するシステムです。モーターパワーとエンジンパワーのシナジー（相乗）効果でガソリンエンジン車と同等以上の動力性能を兼ね備え、さらに飛躍的な燃費向上および排出ガスの大幅なクリーン化を可能にしています。

●ガソリンエンジンの駆動で電力が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。
●ガソリンエンジンは必要に応じて始動・停止するので燃料の無駄な消費を防ぎます。
●発進時はモーターが駆動を担当し、急加速時にはガソリンエンジンとモーターの両方で駆動しますので、安定した発進・加速性能を実現しています。
●ガソリンエンジンを理想的な状態で運転できるため、画期的な燃費向上、排出ガスのクリーン化を可能にしています。

走行特性

■ハイブリッド走行

状況に応じて、ガソリンエンジンが自動的に始動・停止します。
READY（走行可能表示灯）が点灯していれば、ガソリンエンジンが停止していても発進可能です。
なお、下記の状態ではガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。

- ガソリンエンジン暖機中。
- 駆動用電池の温度が低いとき。
- 駆動用電池充電中。
- 暖房中。

■クリープ現象

坂道での車両の保持、発進時のペダル操作をより使いやすくするため、通常のオートマチック車と同様にクリープ力を発生させるようにしてあります。（P.66参照）

■回生ブレーキ

アクセルペダルから足をはなしたときや、ブレーキペダルを踏んだときにエネルギーを回収します。

- 操作方法は通常の車のブレーキと同じです。
- 駆動用電池の状態によっては回収される電気エネルギーが変化することがあります。
- 下り坂を連続して走行したときなどに、アクセルペダルをもどすとエンジン回転が高くなることがありますが、異常ではありません。

知識

ハイブリッド車特有の音と振動について

- 走行できる状態でも、エンジン音や振動がないことがあります。駐車時は必ずシフトレバーをⓅに入れてください。
- 走行中、エンジンルームや車両後方の床下からモーター音が聞こえることがあります。
- ハイブリッドシステム始動時や停止時に、駆動用電池付近から“コトン”、“カチッ”などの音が聞こえることがあります。これは、高電圧リレーの音で、異常ではありません。
- 走行中、ブレーキを踏んだときや、アクセルを緩めたときに“ヒューン”と音がします。これは駆動用電池へ電気エネルギーを回収するときに発生する音で、異常ではありません。
- ハイブリッド車は状況に応じてガソリンエンジンが始動・停止を繰り返すため、走行中であっても振動を感じることがあります。
- ガソリンエンジンの始動や停止時、およびアイドリング時にトランスミッション付近から“コツコツ”、“カタカタ”という音が聞こえることがありますが異常ではありません。
- シフトレバーがⓃの位置でハイブリッドシステムを停止すると、トランスミッション付近から“コツコツ”、“カタカタ”という音が聞こえることがありますが異常ではありません。通常はシフトレバーをⓅに入れてからハイブリッドシステムを停止してください。
- 急加速時に突然エンジン音が大きくなったと感じることがあります。これは、エンジン回転を高くしてパワーを得ているためです。

駆動用電池の充電について

- 走行中に自動的に充電されますが、シフトレバーがⓃにあるときは充電がおこなわれません。車両停止時は、Ⓓでブレーキをしっかり踏むか、Ⓟにしてください。

ハイブリッドシステムの作動状態 HYBRID

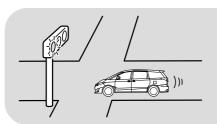
エスティマハイブリッドシステムが状況によりどのように作動するかを説明します。
実際には、駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、使用状況により、さまざまな制御を行います。

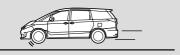
電気を意味します。

ガソリンを意味します。

4WD走行を意味します。

回生（充電）を意味します。

■停車時・発進時

停車中はガソリンエンジンを停止します。
発進時は、前後のモーターを使って4輪駆動で発進します。

■低速走行時

エンジン効率の悪い領域ではガソリンエンジンを停止し、フロントモーターおよびリヤモーターで走行します。

■通常走行時

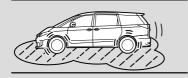
通常走行時は、主にガソリンエンジンを使って走行します。必要に応じて、フロントモーターが発電機として働き、駆動用電池に充電します。

■全開加速時

全開加速時には、ガソリンエンジンにフロントモーターの駆動力を加えて走行します。また、必要に応じてリヤモーターの駆動力も使います。

■減速時・制動時

車輪が前後のモーターを発電機として動かし、駆動用電池に充電します。
（回生ブレーキ）

■4WD走行時

発進時やすべりやすい路面の走行時は、4輪駆動で走行します。
必要に応じて、電力の過不足を駆動用電池で調整します。

知 識

車両停車時は

●ガソリンエンジンがかかっている状態で、シフトレバーを N に入れたままにしておくとガソリンエンジンが停止しないため、余分な燃料を消費します。

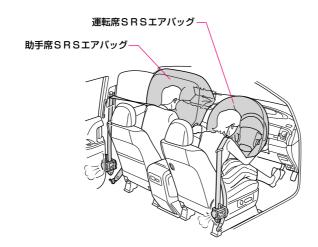
ＳＲＳ※エアバッグ

ＳＲＳエアバッグとは

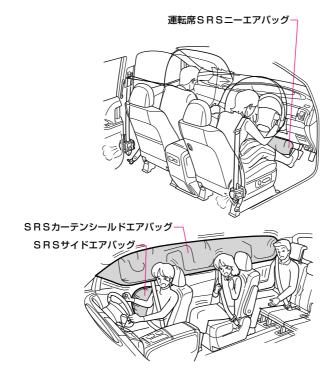
ＳＲＳエアバッグは、あくまでも乗員保護の補助装置でシートベルトの補助をするもので、ＳＲＳエアバッグの効果を発揮させるためには、正しい姿勢と正しいシートベルトの着用が絶対条件です。
また、正しく取り扱えば効果のあるＳＲＳエアバッグも、誤った取り扱いをすると効果を発揮しないばかりか、かえって乗員に傷害または死亡の危険を与えるおそれがあります。

デュアルＳＲＳエアバッグ

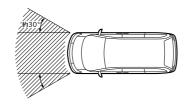
デュアル（運転席・助手席）ＳＲＳエアバッグは、運転者、または助手席乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、乗員の頭や胸などに作用する衝撃を分散・緩和させる働きをするものです。

※ Supplemental Restraint Systemの略で「乗員保護補助装置」の意味。

ＳＲＳサイドエアバッグ＆ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ＆ＳＲＳニーエアバッグ★

ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグは、フロントシートおよびセカンドシート、サードシート左右席の乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両客室部に側方から受けたときに、衝撃を受けた側のＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、ＳＲＳサイドエアバッグはフロントシート乗員の胸などの上体に、ＳＲＳカーテンシールドエアバッグはフロントシートおよびセカンドシート、サードシート左右席乗員のおもに頭部に作用する衝撃力を分散・緩和させる働きするものです。
ＳＲＳニーエアバッグは、運転者の挙動の適性化により、乗員の衝撃緩和を補助するものです。
ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグは乗員がいなくてもふくらみます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ＳＲＳエアバッグの作動のしくみ

デュアルＳＲＳエアバッグ／ＳＲＳニーエアバッグの作動★

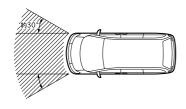
車両前方左右約30°以内の方向から乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。
衝撃は車両前方・車両中央床部に取りつけられたセンサーで感知し、ＳＲＳエアバッグをふくらませるようコンピューターに信号を送り、ＳＲＳエアバッグが作動します。

車両前方にグリルガードなどを装着すると、センサーが正常に衝撃を感知できなくなり、ＳＲＳエアバッグの正常な作動を損なうおそれがあります。

ＳＲＳサイドエアバッグ＆ＳＲＳカーテンシールドエアバッグの作動★

車両側面方向から乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。
衝撃は左右センターピラー・左右スライドドア・左右クォーターピラー・フロントフロア・リヤフロアに取りつけられたセンサーで感知し、ＳＲＳエアバッグをふくらませるようコンピューターに信号を送り、ＳＲＳエアバッグが作動します。

ＳＲＳエアバッグが作動するとき

シートベルトを正しく着用している乗員が、重大な傷害を受けるおそれがあるような強い衝撃があった場合に作動し、重大な傷害を受けるおそれの少ない衝撃では作動しにくくなっています。

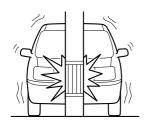
作動する場合

車両前方左右約30°以内の方向から乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。

ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグは、車両側面方向から乗員に重大な傷害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。

作動しにくい場合

■デュアルＳＲＳエアバッグ／ＳＲＳニーエアバッグ★

次のようなボディが受ける衝撃が弱い場合には、作動しない場合があります。

●衝突時に変形・移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても、衝突速度が約25km/h以下のときは作動しない場合があります。

●衝突時に変形・移動しない電柱や立木などの狭い範囲に正面衝突したときであっても、衝突速度が約30km/h以下の場合は作動しない場合があります。

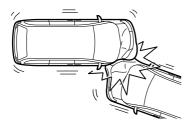
★印はグレード等により装着の有無が異なります。

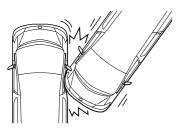
次のような場合にも衝突による衝撃が緩められるため、作動しない場合があります。

●トラックの荷台下などへもぐりこみ衝突した場合。

●斜め前方から衝撃を受けた場合。

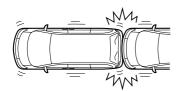
衝突したものが変形したり移動した場合は、衝突による衝撃が緩められるため、作動する車速は高くなります。

●例えば、停車中の同程度の重さの車へ正面から衝突した場合には、約50km/h程度の速度であっても、作動しない場合があります。

●衝突の方向（角度）や片側衝突（オフセット衝突）などによっては、さらに高い速度であっても、作動しない場合があります。

■ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ
次のようなボディが受ける衝撃が弱い場合には、作動しないことがあります。

●斜め側面から衝撃を受けた場合。

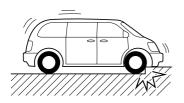
●客室部以外の側面に衝撃を受けた場合。

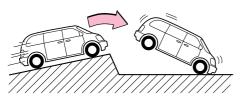
本来の効果を発揮しない場合

次のような場合は作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません。

●側面や後方から衝撃を受けた場合。（運転席・助手席ＳＲＳエアバッグ）

●車両が横転・転覆した場合。

車両下部に衝突を受けた場合

次のような車両下部に強い衝撃を受けたときには、作動する場合があります。

●縁石などにぶつかった場合。

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえた場合。

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下した場合。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備の 解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

●**ＳＲＳエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトに代わるものではありません。**

乗車するときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと衝突したときなどにＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させることができないばかりでなく、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキなどで前方に放り出されると同時にＳＲＳエアバッグがふくらみ、強い衝撃を受け危険です。シートベルトの正しい着用については、P.258を参照してください。
- シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢でシートに座ってください。ＳＲＳエアバッグに近づきすぎた姿勢で乗車していると、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

＜運転者のかたは＞

運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近づきすぎないようにして座ってください。

＜助手席乗員のかたは＞

助手席ＳＲＳエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。シートの調整、正しい運転姿勢についてはP.211を参照してください。

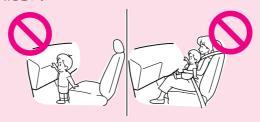
- ドアにもたれかかったり、フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイド部や天井に近づかないようにしてください。ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに頭部などに強い衝撃を受け、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。とくにお子さまを乗せるときには注意してください。

ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

- ひざの上にものをかかえるなど、乗員とＳＲＳエアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。ＳＲＳエアバッグがふくらんだときにものが飛ばされ顔に当たったり、ＳＲＳエアバッグの正常な作動がさまたげられ、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●お子さまを乗せるときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまはリヤシートに座らせて、必ずシートベルトを着用させてください。
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまには、子供専用シートをリヤシートに装着してご使用ください。
- 助手席には子供専用シートをうしろ向きに絶対に取りつけないでください。助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。（P.48参照）
  なお、やむを得ず前向きにして助手席に子供専用シートを取りつける場合には、シートの前後調整位置をいちばんうしろにして取りつけてください。

- お子さまを助手席ＳＲＳエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりした状態では走行しないでください。

ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

●車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。これらの作業が必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

- ＳＲＳエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取りつけ・分解・修理などをしないでください。

- ＳＲＳサイドエアバッグ装着車は、フロントシートの表皮の張り替えやフロントシートの取りはずし・取りつけ・分解・修理などが必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造はしないでください。
- ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車は、フロントピラー・センターピラー・リヤピラー、およびルーフサイド部や天井の取りはずし・取りつけなどＳＲＳカーテンシールドエアバッグ格納部周辺を分解・修理しないでください。

- サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわると、ＳＲＳエアバッグの誤作動につながります。
- 車両前部、または車両客室部の修理をしないでください。不適切な修理を行うと、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなります。

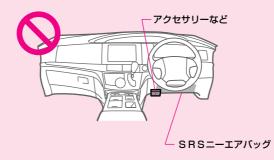
ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

●カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ＳＲＳエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどで覆わないでください。

- インストルメントパネル上に芳香剤などのものを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、ふくらんだときに飛ばされて危険です。

- インストルメントパネル下部のＳＲＳニーエアバッグ展開部周辺にアクセサリーなどを取りつけないでください。ＳＲＳニーエアバッグがふくらんだとき飛ばされて危険です。

警告　ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

- ＳＲＳサイドエアバッグ装着車は、フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取りつけないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものがＳＲＳサイドエアバッグ展開部を覆うと、ＳＲＳサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取りつけてください。

- ＳＲＳサイドエアバッグ装着車は、フロントドアやその周辺にカップホルダーなどのカー用品を取りつけないでください。ＳＲＳサイドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

- ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車は、フロントウインドゥガラス、サイドドアガラス、フロントピラー・センターピラー・リヤピラーおよびルーフサイド部、アシストグリップや天井などＳＲＳカーテンシールドエアバッグ展開部周辺にアクセサリー・ハンズフリーマイク・ハンガーなどを取りつけないでください。ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに、飛ばされて危険です。

ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

- 無線機の電波などは、ＳＲＳエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがありますので、無線機などを取りつけるときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 車両前部にグリルガードやウインチなどを装着するときは、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をすると、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグの誤作動につながります。

●ステアリングパッド・インストルメントパネル上部などＳＲＳエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだ直後は、ＳＲＳエアバッグ構成部品に触れないでください。構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ＳＲＳエアバッグが正常に作動した場合でも次のような場合があります。

●ＳＲＳエアバッグは非常に速いスピードでふくらむため、ＳＲＳエアバッグとの接触により打撲やすり傷などを受けることがあります。

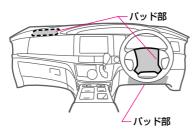
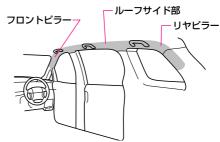
●ＳＲＳエアバッグが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある人は、呼吸が苦しくなることがあります。
この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出れない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
また、ＳＲＳエアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。

ＳＲＳエアバッグが正常に作動した場合でも次のような場合があります。

●衝突したときなどに、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらむことによって、車両のフロントウインドゥガラスが破損することがあります。

●一度作動したＳＲＳエアバッグは、2回目以降の衝突では再作動しません。必ずトヨタ販売店で交換してください。同様に連続して衝突した場合、1回目の衝突でＳＲＳエアバッグが作動すれば、2回目の衝突ではＳＲＳエアバッグは作動しません。

●車やＳＲＳエアバッグを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。ＳＲＳエアバッグが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。衝突したときなどにＳＲＳエアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

●ハイブリッドシステム停止時およびＳＲＳエアバッグ作動時は、フューエルポンプ制御が作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限におさえます。燃料供給の停止を解除するときは、燃料もれがないことを十分確認してから、“ パワー ”スイッチを一度ＯＦＦにします。

シートベルト関係

シートベルトの働き

プリテンショナー＆フォースリミッター付 シートベルト

フロントシートベルト

- ●プリテンショナー機構は、前席の乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときに、シートベルトを瞬時に巻き取り、適切な乗員拘束効果の確保に役立ちます。
- ●フォースリミッター機構は、シートベルトの荷重を規定値に維持することで胸部への衝撃を緩和します。

プリテンショナー機構

【衝突初期にシートベルトを瞬時に巻き取る】

フォースリミッター機構

【衝突時規定荷重を維持しながらシートベルトを引き出す】

ＥＬＲ機構付シートベルト

シートベルトは身体の動きに合わせて伸縮しますが、強い衝撃で身体が前に倒れそうなときは、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。

プリクラッシュシートベルト

プリクラッシュシートベルトについてはＰ.510を参照してください。

警告 プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。

●プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとプリテンショナーが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトを正しく着用する。(P.258参照)
- シートを正しい運転姿勢のとれる位置に調整する。(P.211参照)

●プリテンショナー付シートベルトの取りつけ・取りはずし・分解などをしないでください。また、プリテンショナー付シートベルトを修理するときは、必ずトヨタ販売店で行ってください。プリテンショナー付シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤って巻き取り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリテンショナー付シートベルトが作動するとSRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●プリテンショナー付シートベルトが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが火災ではありません。また、人体への影響もありません。

●車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。プリテンショナー付シートベルトが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。

知 識

プリテンショナー付シートベルトの作動条件について

プリテンショナー付シートベルトは、車両前方から強い衝撃を受けたときに作動します。次のような衝撃が弱いときには、作動しない場合があります。

●コンクリートの壁に約25km/h以下の速度で正面衝突したとき。
なお､次のような場合は作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません。

●側面や後方から衝撃を受けたとき。

●車両が横転、転覆したとき。

作動後について

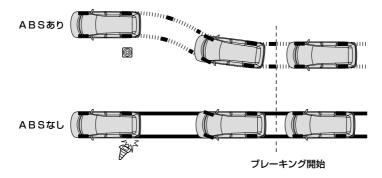
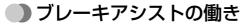
プリテンショナー付シートベルトは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

ＥＢＤ※1付ＡＢＳ※2、ブレーキアシスト

ＡＢＳ、ブレーキアシストとは HYBRID

ＡＢＳの働き

ＡＢＳは、急ブレーキをかけたときや、すべりやすい路面でブレーキをかけたときに起こるタイヤのロック（回転が止まること）を防ぐことによりスリップを抑制します。

※1 Electronic Brake force Distributionの略で「電子制動力配分制御」の意味。
※2 Antilock Brake System（アンチロック・ブレーキ・システム）の略。

ブレーキアシストの働き

ブレーキアシストは、
●緊急制動時の運転に不慣れな運転者が緊急制動するとき
●緊急制動時にパニック状態に陥ったとき
●運転者のブレーキ踏み込み速度が通常よりも速く、車両が緊急制動と判断したとき
などのブレーキペダルが強く踏めず、ブレーキ性能を十分に発揮できない場合に、運転者のペダル踏力を増加させ、制動力を確保する装置です。

ＡＢＳ、ブレーキアシストについて

ＡＢＳやブレーキアシストが作動した状態でも、スリップの抑制やハンドルの効き方には限界がありますので、過信することなく安全運転を心がけましょう。
また、ＡＢＳ＆ブレーキアシストは、車輪に取りつけられたセンサーによりタイヤのロックを検出します。タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、Ｐ.80の「タイヤについての注意」をよくお読みください。

ＡＢＳやブレーキアシストが作動しているとき HYBRID

運転について

●急ブレーキ時は、ＡＢＳやブレーキアシストが効果を発揮するように、ブレーキペダルをできるだけ早く、強く踏み続けることが必要です。

●急ブレーキ時にポンピングブレーキ※をしないでください。ポンピングブレーキをすると制動距離が長くなります。
※ ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけ方。

思いきり踏む。

踏み続ける。

ゆるめたり、ポンピングはしない。

作動について

ＡＢＳが作動すると、スリップ表示灯（Ｐ.３１１参照）が点滅することで、作動中であることを示します。

ブレーキアシストが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを急速度で踏んだとき、ブレーキが強くかかるようになり、ＡＢＳが作動することがあります。

ＥＢＤの働き　HYBRID

ＡＢＳの制御技術を応用して、車両の走行状態に応じた適切な制動力を前後輪に配分します。これにより、積載時や減速度による荷重変化に応じ、4輪の制動力配分を適切に行い、高いブレーキ性能を確保します。さらに、旋回中の制動時にも左右輪の制動力をコントロールして走行安定性を確保します。

ＥＢＤ付ＡＢＳやブレーキアシストを過信しないでください。

●**ＥＢＤ付ＡＢＳやブレーキアシストを過信しないでください。**
ＥＢＤ付ＡＢＳが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ＥＢＤ付ＡＢＳやブレーキアシストを過信せず速度を抑え、車間距離を十分に取って安全運転に心がけてください。
- ＥＢＤ付ＡＢＳはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロプレーニング現象※が起こった場合は、効果を発揮できません。
  ※ 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

●**ＥＢＤ付ＡＢＳは制動距離を短くするための装置ではありません。**
次の場合などは、ＥＢＤ付ＡＢＳのついていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分にとってください。
- 砂利道、新雪路を走行しているとき。
- タイヤチェーンを装着しているとき。
- 道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき。
- 凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき。

●**ブレーキアシストは、ブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。**

知識

作動条件について

●ＥＢＤ付ＡＢＳ、ブレーキアシストは、車速が約10km/hをこえると作動できるようになります。また、車速が約5km/hまで下がると作動を止めます。
●雨の日に、マンホールのフタ・橋の継ぎ目・工事中の鉄板などの上でブレーキを踏むとすべりやすいため、ＥＢＤ付ＡＢＳが作動しやすくなります。

電子制御ブレーキシステム（ＥＣＢ※）

電子制御ブレーキシステムとは HYBRID

ブレーキペダル操作から得た入力信号をもとに電気的に制動力を決定する電子制御式の4輪独立油圧ブレーキシステムです。
このシステムでは油圧ブレーキとモーターによる回生ブレーキの2つの制動力を最適配分します。また、ＶＤＩＭシステムなどから得た入力信号をもとに、4輪を独立してブレーキ油圧の制御をします。
●4輪独立油圧ブレーキは、常に蓄圧状態を監視しているため、ブレーキペダル操作以外やハイブリッドシステム停止時でもポンプ作動することがあります。

走行中、ブレーキ警告灯が点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。詳しくはＰ.320、322をよくお読みください。

知識

作動音について

●“パワー”スイッチがＯＦＦのとき、システムチェックのためにモーター音が聞こえることがあります。
●“パワー”スイッチがＯＦＦのとき、システムチェックのために作動音が聞こえることがあります。
●“パワー”スイッチをＯＦＦにしたあと、しばらくしてモーター音が聞こえることがあります。これはブレーキシステムの作動音で異常ではありません。
●ハイブリッドシステムを始動したときや、繰り返しブレーキペダルを踏んだとき、エンジンルームからモーター音がすることがありますが、これはブレーキシステムの作動音で異常ではありません。
●最適なブレーキ制御を行うため、モーター音が聞こえることがありますが、これはブレーキシステムの作動音で異常ではありません。
●“パワー”スイッチがＯＦＦの状態でブレーキペダルを踏むと、ペダルストロークが短い場合があります。

※ＥＣＢはElectronically Controlled Brake（エレクトロニカリー・コントロールド・ブレーキ）の略。

電子制御スロットル（ＥＴＣＳ－ｉ※）

電子制御スロットルとは

電子制御スロットルは、各運転条件においてアクセル開度に対するハイブリッドシステム出力を最適にコントロールし、車両の優れた操作性を確保する装置です。
エンジン電子制御システム、ＴＨＳⅡなどとの統合制御により、様々な運転領域にわたって、良好なアクセルコントロール性の確保に貢献します。

エンジン警告灯（P.317参照）が点灯しアクセルペダルを踏んでもエンジン回転数の上昇が鈍いときは、電子制御系の異常が考えられます。
このときは、低速で走行ができます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
なお、この低速走行中に万一、電子制御系の異常が解消した場合でも、ハイブリッドシステムを停止するまでは、正常状態に復帰することはありません。

※ＥＴＣＳ－ｉは、Electronic Throttle Control System―intelligent（エレクトロニック・スロットル・コントロール・システム－インテリジェント）の略。

電気式4WDシステム（E－Four）

電気式4WDシステムとは　HYBRID

電気式4WDシステムの働き

電気式4WDシステム（E－Four）はハイブリッドシステムにより、後輪をモーターで駆動する4WDシステムです。
前輪駆動状態から4輪駆動状態に可変させることで、高い燃費性能と日常生活の様々な条件での安定した発進・加速性能に寄与します。

●電気式4WDシステム（E－Four）の取り扱い上の注意がP.69の「4WD車についての注意」およびP.94の「ハイブリッドシステムについて」に記載されていますので、よくお読みになり、正しい取り扱いを理解して安全運転を心がけるようにしましょう。

走行について

ガソリンエンジンで通常走行しているとき、4輪駆動状態が必要なとき以外は、前輪駆動状態にすることにより、燃費重視で走行します。
コーナリング時や雪道走行時、登坂時、発進時などでは、前輪駆動状態から発進・加速性能重視の4輪駆動状態に可変させます。

●必要に応じて後輪への適切な駆動力配分を行うことにより、次のような効果を発揮します。
- コーナリング時の走行安定性、操縦性に優れています。
- 雪や雨などですべりやすい路面や急坂、悪路での発進・走行安定性、操縦性に優れています。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

タイヤについて

電気式4WDシステム（E－Four）は、タイヤの状態が車の性能に大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、P.80の「タイヤについての注意」をよくお読みください。

警告　宙に浮いたタイヤを、むやみに空転させないでください。

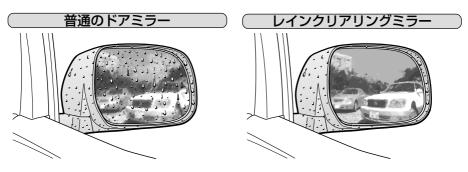
●脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。左右輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動部品に無理な力が加わり焼きつきなどの損傷を受けたり、焼きつきにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。タイヤを混在使用すると、左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイル漏れや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるので、タイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
- 4輪の空気圧の差が著しいとき。
- 空気圧が指定値からはずれているとき。

●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（P.538参照）
●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.583参照）

ミラー・ガラス関係

レインクリアリングミラー

レインクリアリングミラーとは？

ドアミラーの鏡面には親水膜のコーティングがしてあり、雨天時など鏡面に付着した水滴を膜状に広げる（親水効果）ことにより、後方を見やすくします。

※イラストはイメージで表わしたもので、実際のものとは異なります。

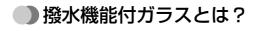
●ミラーヒーター装着車は、ミラーヒーターを作動させると、水膜が晴れ、よりクリアな視界が得られます。ミラーヒーターの操作については、P.286をお読みください。
●通常の手入れは水洗いをするだけで十分です。
●霧雨や小雨などの少量の水滴に対しては親水効果が低下します。
●次の場合、一時的に親水効果が失われますが、徐々に回復します。
- ミラーの汚れを拭き取ったとき
- ミラーが曇ったとき
- 自動洗車機でワックス洗車をしたとき
- 長期間、地下駐車場など日の当たらない場所に駐車していたとき

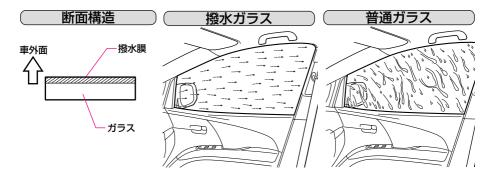
●回復時間は、汚れの量や種類にもよりますが、晴天時に太陽光を1・2日間当てると回復します。親水効果を早く回復させたいときは、鏡面を中性洗剤（シリコーン・研磨剤を含まないもの）で洗浄したあと、多量の水で洗い流してください。（カーシャンプーやガラスクリーナーの中には、シリコーン・研磨剤が入っているものもありますので、成分表をよくお読みください。）

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

親水効果を持続させるため、またドアミラーの傷つきを防止するため、次の注意事項を必ず守ってください。

- 撥水剤（シリコーン入りのスプレー・溶剤など）・油膜取り剤（コンパウンド入りのスプレー・溶剤など）は使用しないでください。また、ドアガラスやボディに撥水剤・油膜取り剤・ワックスを使用するときは、ドアミラーの鏡面をタオルなどで覆い、ドアミラーに付着しないようにしてください。万一付着したときは、カーシャンプーやガラスクリーナーなどで洗浄したあと、多量の水で洗い流してください。（カーシャンプーやガラスクリーナーの中には、シリコーン・コンパウンドが入っているものもありますので、成分表をよくお読みください。）
- 親水膜の効果を持続させるため、ドアミラーが凍結したときはプラスチックの板などで削り落とさずに、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させる（ミラーヒーター装着車のみ）などして解氷してください。
- ドアミラーの汚れを拭き取るときは、きれいなタオルで拭き取ってください。

撥水機能付ガラス

撥水機能付ガラスとは？

フロントドアガラスには、撥水膜のコーティングがしてあり、ガラスについた雨水などをはじき、雨天時の視界を良くします。また、コーティングにより、泥・油膜・水アカがつきにくくなり、霜や着氷も落としやすくなります。

※イラストはイメージで表わしたもので、実際のものとは異なります。

注意　水滴をはじく持続期間には限りがあります。長持ちさせるために次の注意事項を必ず守ってください。

●撥水機能付ガラスが汚れているときは、なるべく早めにやわらかい湿った布などで清掃してください。
●ガラスの泥などの汚れがひどいときは、汚れを取り除いてから、フロントドアガラスの開閉を行ってください。
●撥水機能付ガラスを清掃するときは、コンパウンド（みがき粉）の入ったガラスクリーナーやワックスは使用しないでください。また、ガラスクリーナー使用時に白曇りする場合は、湿った布で拭き取ってください。
●自動洗車機を使用するときは、撥水機能付ガラス表面の泥などの汚れを落としてから洗車してください。
●金属製のもので霜取りなどをしないでください。
●撥水機能付ガラスは消耗品です。水滴のはじきが悪くなったときは、補修が必要です。また、コーティングを除去することもできます。詳しくは、トヨタ販売店におたずねください。

盗難防止システム

エンジンイモビライザーシステムとは

車両の盗難防止のために、電子キーに信号発信機を内蔵しており、あらかじめ登録された電子キー以外ではハイブリッドシステムを始動できないようにしたシステムです。

●電子キーに登録された信号は車ごとに異なります。

●“パワー”スイッチをＯＦＦにすると、システムが作動し、セキュリティ表示灯（P.309参照）が点滅します。

●登録された電子キーを携帯し、“パワー”スイッチを押すと、システムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。

●車両から離れる場合は、車内に電子キーを残さないでください。

盗難防止システムの故障を防ぐために次のことをお守り下さい。

●電子キーは信号発信機を内蔵している電子部品です。故障を防ぐために次のことをお守りください。
- 電子キーを無理に曲げたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
- ダッシュボードの上など高温になる場所に置かないでください。
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをつけないでください。
- 電子キーを超音波洗浄機などでは洗浄しないでください。

●エンジンイモビライザーシステムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

知識

メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

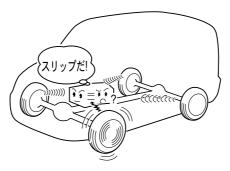
ＴＲＣ・ＶＳＣ

ＴＲＣ※とは　HYBRID

ＴＲＣの働き

すべりやすい路面での発進時や加速時に、過剰な駆動力により生ずる駆動輪のホイールスピンを抑え、車両の方向安定性と駆動力を確保しようとする装置です。

●車輪がスリップしはじめると車輪速センサーからの情報でコンピューターがスリップを感知し､ハイブリッドシステムの出力を一瞬下げるようにし、また、必要に応じてブレーキをかけます。これにより、過剰な駆動力を抑え、スリップを防止します。
- ＴＲＣが作動すると、スリップ表示灯（Ｐ.３１１）が点滅します。このとき、車両の振動を感じることがありますが、これはブレーキ制御によるもので、異常ではありません。

ＴＲＣのしくみ

タイヤのスリップは4輪に取りつけられたセンサーからの信号を比較し、いずれかの信号のみほかの車輪より多い場合、スリップしているとコンピューターが判断します。それによって、スリップしているタイヤの駆動力を抑えようとブレーキをかけたり、エンジンとモーターの出力を一時的に抑えたりして、スリップを抑制させます。

※ Traction Control（トラクション・コントロール）の略。

TRCとタイヤの関係について

ＴＲＣは、車輪についているセンサーからの信号を基準に作動させるため、4輪の中で1輪でもタイヤの種類が異なると、信号の出方がかわり、コンピューターがスリップと判断します。

●タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、P.80「タイヤについての注意」をよくお読みください。

ＴＲＣを過信しないでください。ＴＲＣが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転に心がけ、スリップ表示灯（P.311）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

作動条件について

ハイブリッドシステムを始動すると、ＴＲＣが作動可能状態になります。

ＶＳＣ※とは　HYBRID

ＶＳＣは、急激なハンドル操作やすべりやすい路面での旋回時の横すべりなどを抑制するため、自動的にブレーキやハイブリッドシステムの出力などを制御して、車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

●タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、Ｐ.80の「タイヤについての注意」をよくお読みください。

ＶＳＣを過信しないでください。ＶＳＣが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転に心がけ、ＶＳＣ作動警告ブザー（断続音）が鳴ったり、スリップ表示灯（Ｐ.311）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

知識

作動条件について

●ＶＳＣは車速が約15km/hをこえると作動できるようになります。

●次のような場合には、ＶＳＣは作動しません。

- ＶＳＣ警告表示（Ｐ.333参照）が表示されているとき。
- ＡＢＳ＆ブレーキアシスト警告灯（Ｐ.315参照）が点灯しているとき。

※ＶＳＣは、Vehicle Stability Control（ビークル・スタビリティ・コントロール）の略。

ＶＤＩＭ

ＶＤＩＭ※とは HYBRID

ＶＤＩＭは、ＡＢＳ・ブレーキアシスト・ＴＲＣ・ＶＳＣ・ＴＨＳⅡ・電動パワーステアリングなどを協調制御し、急激なハンドル操作やすべりやすい路面での旋回時の横すべりなどを抑制するため、自動的にブレーキ・ハイブリッドシステムの出力・ハンドルアシスト力などを制御して、車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

●タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、Ｐ.80の「タイヤについての注意」をよくお読みください。

ＶＤＩＭを過信しないでください。ＶＤＩＭが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転に心がけ、ＶＳＣ作動警告ブザー（断続音）が鳴ったり、スリップ表示灯（Ｐ.311参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

※ ＶＤＩＭは、Vehicle Dynamics Integrated Management（ビークル・ダイナミクス・インテグレーテッド・マネージメント）の略。

ディスチャージヘッドランプ

ディスチャージヘッドランプとは

ディスチャージヘッドランプは、バルブ管内のガスと金属ヨウ化物を使って発光させ、通常のランプより白い光と伸び、広がりのある配光を持つランプです。

ディスチャージヘッドランプを交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
電球ソケットに触れた状態で点灯操作をすると、瞬間的に20,000Ｖの高電圧が発生し、感電して生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

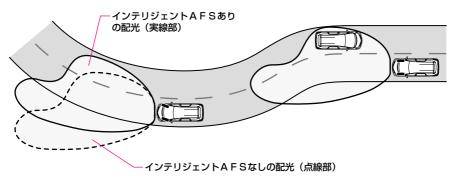
知 識

オートレベリング（上下照射方向自動調整）システムについて

●加減速時や荷物の積載状況などによる車両姿勢の変化に対応して、ヘッドランプの光軸を自動的に調整する装置です。
●ハイブリッドシステムを始動してはじめてヘッドランプを点灯したとき、ヘッドランプの光軸が動くことがありますが、これはシステムの正常な作動をチェックしているときの現象で異常ではありません。
●ハイブリッドシステムを始動したとき、ヘッドランプの光軸が動き、“ウィーン”と音がすることがありますが、これはシステムの正常な作動をチェックしている現象で異常ではありません。

インテリジェントＡＦＳ※

インテリジェントＡＦＳとは

インテリジェントＡＦＳ(アダプティブ　フロントライティング　システム)は、さまざまな走行状態に応じて、最適な配光を確保する装置です。
ヘッドランプ（下向き）点灯時、車速およびハンドルの操作量に応じてランプを旋回方向に動かして交差点やカーブでの視認性を向上させることができます。

＊イラストはイメージで表したもので、実際とは異なります。

雪壁などのある道ではインテリジェントＡＦＳを使用しないでください。雪の斜面などにヘッドランプが反射して運転のさまたげになる可能性があります。

知 識

作動条件について

- ●車速が10km/h以上で作動開始となり、車速が5km/h未満になると作動は停止します。
- ●左旋回時は、左側ヘッドランプが最大10°、右側ヘッドランプが最大5°まで照射軸が左へ移動します。
- ●右旋回時は、右側ヘッドランプが最大15°、左側ヘッドランプが最大7.5°まで照射軸が右へ移動します。
- ●ＡＦＳ　ＯＦＦ表示灯が点滅（P.310参照）しているとき、インテリジェントＡＦＳは作動しません。

作動チェックについて

“パワー”スイッチをＯＮ モードにすると、ヘッドランプ（下向き）が動きます。これはシステムの作動をチェックしているので異常ではありません。

ＡＦＳ　ＯＦＦスイッチについて

ＡＦＳ　ＯＦＦスイッチで作動を禁止することもできます。(P.353参照)

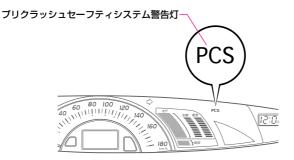
※ Adaptive Front-lighting System の略。

プリクラッシュセーフティシステム★

プリクラッシュセーフティシステムとは

プリクラッシュセーフティシステムは、衝突が避けられない状況をプリクラッシュセンサーで予測し、フロント席シートベルトの早期巻き取り（プリクラッシュシートベルト）や衝突前のブレーキ制御（プリクラッシュブレーキ）やブレーキの踏み込みに応じた制動補助（プリクラッシュブレーキアシスト）により乗員のけがや車両損傷の低減に寄与します。

プリクラッシュセーフティシステム警告灯について

プリクラッシュセーフティシステムに異常があると点灯・点滅します。

■警告灯が点滅する

●プリクラッシュシートベルトが短時間に繰り返し作動したときに警告灯が点滅します。この場合、過熱保護のためにシステムの作動が停止しますが、しばらくすると復帰します。

●カバー（次ページ参照）が雪などで汚れているとき、警告灯が点滅します。この場合は、カバーの汚れをやわらかい布などで清掃し、しばらく走行すると復帰します。

■警告灯が点灯する

プリクラッシュセーフティシステムに異常があると警告灯が点灯します。
警告灯が点灯しているとき、プリクラッシュシートベルトは作動しないことがあります。

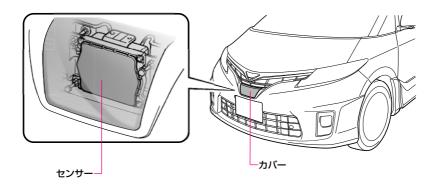
警告	プリクラッシュセーフティシステムを過信しないでください。

●プリクラッシュセーフティシステムを過信しないでください。
運転するときは常に周囲の状況に注意し、進行方向の障害物などを確認して安全運転に心がけてください。

●シートベルトを着用していないとプリクラッシュシートベルトは作動しません。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

プリクラッシュセンサーについて

ミリ波レーダーで進路上にある車両や障害物を検知して、物体の位置、車速や進路から衝突の可能性を事前に判断します。

ミリ波レーダーに加え、白線認識カメラの映像からも衝突の可能性を判断します。

●白線認識用カメラについては、P.396の「白線認識用カメラについて」をご覧ください。

知識

プリクラッシュセンサーについて

●ミリ波レーダーは、フロントバンパー前端のカバーの内側に装着されています。
●ミリ波レーダーは、パイロン等のプラスチック類は検知できません。また、人、動物、自転車、オートバイ、立ち木などは衝突物として検知できないことがあります。
●センサーの取り扱いについては、「レーダーセンサー前部の取り扱い」（P.374参照）を参照してください。

プリクラッシュシートベルト（フロント席）について

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にフロント席シートベルトを巻き取ります。
また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。

作動条件について

プリクラッシュシートベルトは以下の条件のとき作動します。

●“パワー”スイッチがＯＮ モードのとき。
●自車速度が約5km/h 以上のとき。
●自車からみた対向車や障害物などの接近速度が約30～40km/h以上のとき。
●シートベルトを着用しているとき。

プリクラッシュシートベルトの作動によりシートベルトが引き込まれた状態でロックした場合、すみやかに安全な場所に停車してシートベルトをはずし、再度装着してください。また、シートベルトをゆるませることができる場合は、少し巻き取らせることでロックを解除することができます。

プリクラッシュブレーキについて

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突の可能性が高いと判断したとき、マスターウォーニングの点灯およびブザーが鳴ると同時にメーター内にあるマルチインフォメーションディスプレイに、「ブレーキ！」を表示して、運転者に衝突の危険を知らせます。さらに衝突が避けられないと判断したときはブレーキをかけて、衝突速度を低減します。

■プリクラッシュブレーキ　ＯＦＦスイッチ

作動可能状態	停止状態

スイッチを押すとプリクラッシュブレーキの機能が停止し、機能停止中にもう一度押すと作動可能状態にもどります。

●プリクラッシュブレーキの機能を停止させるとプリクラッシュセーフティシステム警告灯（Ｐ.325参照）が点滅しプリクラッシュブレーキの作動が停止していることをお知らせします。

●プリクラッシュブレーキ作動中にスイッチを押して作動を停止させた場合は、作動終了後にプリクラッシュブレーキの機能が停止します。

知 識

作動条件について

プリクラッシュブレーキは以下の条件のとき作動します。

● “ パワー ” スイッチがＯＮ モードのとき。

●プリクラッシュブレーキＯＦＦスイッチが押し込まれていないとき。

●自車速度が約15km/h 以上のとき。

●自車からみた先行車や障害物などの接近速度が約15km/h以上のとき。

プリクラッシュブレーキアシストについて

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突の可能性が高いと判断した状態で、運転者がブレーキペダルを踏んだとき、踏み込みに応じて制動力の補助を行います。

知 識

作動条件について

プリクラッシュブレーキアシストは以下の条件のとき作動します。
●“ パワー ”スイッチがON モードのとき。
●自車速度が約30km/h 以上のとき。
●自車からみた先行車や障害物などの接近速度が約30～40km/h以上のとき。
●運転者がブレーキペダルを踏んだとき。

マルチインフォメーションディスプレイの表示について

■「ブレーキ！」

プリクラッシュブレーキが作動しているときに表示されます。
●同時にマスターウォーニングが点灯し、ブザーが鳴ります。

PCS
現在使用
できません

■「ＰＣＳ現在使用できません」

以下の場合に表示されます。
●カバーの前後面またはレーダーセンサー前面が汚れているとき
- この場合はカバーの前後面およびレーダーセンサーをやわらかい布などで清掃してください。

●プリクラッシュシートベルトが短時間に繰り返し作動したとき
- この場合、過熱保護のためにシステムの作動が停止しますが、しばらくすると復帰します。

同時にプリクラッシュセーフティシステム警告灯（P.325参照）が点滅します。

■「ＰＣＳシステムチェック」

プリクラッシュセーフティシステムに異常があると表示されます。“ポーン”という音が鳴るとともにマスターウォーニングが点灯します。警告表示が出ているとき、下記のシステムは作動しないことがあります。
●プリクラッシュシートベルト
●プリクラッシュブレーキアシスト
●プリクラッシュブレーキ
同時にプリクラッシュセーフティシステム警告灯（P.325参照）が点灯します。

衝突以外で作動するケースについて

次のような場面では、プリクラッシュセンサーが検知対象物を衝突物と判断し、プリクラッシュセーフティシステムが作動する場合があります。

●カーブ入り口に路側物がある場合
●カーブですれ違う対向車両がある場合
●狭い鉄橋を通る場合
●路面上に金属物がある場合
●右折時に対向車両がある場合
●前走車に急接近した場合
●ＥＴＣゲートを通過する場合

プリクラッシュセーフティシステムを過信しないでください。

●プリクラッシュセーフティシステムを過信しないでください。
運転するときは常に周囲の状況に注意し、進行方向の障害物などを確認して安全運転に心がけてください。
●衝突を避けられない状況でプリクラッシュセーフティシステムが作動状態のときでも、シートベルトを着用していないとプリクラッシュシートベルトは作動しません。
また、ブレーキペダルを踏まないとプリクラッシュブレーキアシストは作動しません。

衝突物以外で作動するケースの場合、衝突の可能性がなくても下記のような作動をすることがあります。

●プリクラッシュシートベルトが作動して、シートベルトが引っ張られる。
- シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は、車を安全な場所に止めてシートベルトをはずし、再度装着してください。

●プリクラッシュブレーキアシストが作動して通常よりブレーキが良く効く。
●プリクラッシュブレーキが作動してブレーキがかかる。

6 車との上手な付き合い方

雨の日の運転について

雨の日の運転

すべりやすい路面は慎重に走行してください

雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなるので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため､慎重に走行してください。
●雨の日はハイドロプレーニング現象※でハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。
※雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

警告 **すべりやすい路面では、慎重に運転してください。**

●すべりやすい路面での急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●急激なエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

冠水した道路は走行しないでください

大雨などで冠水した道路では、車両に重大な損傷を与えるおそれがあるので走行しないでください。

冠水した道路を走行すると、ハイブリッドシステムが停止するだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。

●ブレーキの効き具合。
●エンジン・ハイブリッド用トランスミッションなどのオイル量および質の変化。（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です。）
●各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良。

寒冷時の取り扱い

冬の前の準備・点検

エンジンオイルを交換する

外気温に応じたエンジンオイルに交換してください。（P.582の「指定エンジンオイル」参照）

ウォッシャー液の濃度を調整する

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、購入されたウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。

冷却水の濃度を調整する

冷却水の凍結を防ぐために冷却水濃度を調整してください。

使用地域	希釈割合	凍結保証温度
温暖地	30%	−12℃
寒冷地	50%	−35℃

アルコール系不凍液や真水だけの使用はしないでください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンを準備する

- タイヤを取り替えるときは、必ずP.80の「タイヤについての注意」を参照してください。
- タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを準備してください。
- 必ずエスティマハイブリッド指定のトヨタ純正品を使用してください。トヨタ純正品以外のタイヤチェーンを使用すると車体側に当たり走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

寒冷地用ワイパーブレードを準備する

降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスが拭き取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。
- 寒冷地用ワイパーブレードを必要としない時季は、通常のワイパーブレードを使用してください。

屋根に積もった雪は

走行時にガラス面に落ちた雪が視界のさまたげになります。
走行する前に取り除いてください。

ガラスについた雪や霜は

ガラス内外の雪や霜を落として視界を確保してください。
デフロスターを使うと、ガラスを傷つけずに落とすことができます。

フロントウィンドドウガラスについた氷を除去するために、たたいて割らないでください。フロントウインドゥガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

ランプ類についた雪や霜は

ランプ類についた雪や霜を落としてから走行してください。
夜間の走行時などに視界のさまたげとなったり、後続車などへの合図がわかりにくくなるおそれがあります。また、走行中にも、ときどき安全な場所に停車して点検してください。

足まわりなどについた氷塊は

車体などに傷をつけないように取り除いてください。

外気取り入れ口に積もった雪は

フロントウインドゥ前部の外気取り入れ口に積もった雪を取り除いてから、エアコンのファンを作動させてください。
雪が積もったままで作動させると、ファンが故障したり、ガラスが曇ったりするおそれがあります。

ワイパーなどが凍結したときは

ワイパー・ドアミラー・ドアガラスなどが凍って動かない場合は、無理に動かさないでください。
スイッチを押し続けたりすると、装置をいためたり、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあります。

ドアが凍結したときは

お湯をかけて氷を溶かしてください。なお、すぐに水分を十分拭き取ってください。無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、損傷するおそれがあります。

靴についた雪をよく落とす

ペダル類を操作するときにすべったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったり、凍結することがあります。

走行するときは

すべりやすい路面では“急”のつく操作はしない

急発進・急ハンドル・急ブレーキなどは車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。ゆっくり発進し、控えめな速度で、車間距離を十分とって走行してください。
橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。

急激なエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

フェンダー裏側についた氷は

ハンドル操作に影響しますので、ときどき確認し、氷塊が大きくなる前に取り除いてください。

ブレーキ装置についた氷は

ブレーキの効きが悪くなる場合があります。ときどき軽くブレーキペダルを踏んでブレーキの効き具合を確認してください。

すべり止めは早めに

積雪時、凍結路では早めにタイヤチェーン、または冬用タイヤを装着してください。タイヤを取り替えるときは、必ずP.80の「タイヤについての注意」を参照してください。

警告

冬用タイヤ装着時は以下の点をお守りください。

●指定サイズのタイヤを使用してください。
●指定空気圧に調整してください。
●お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないでください。

タイヤチェーン

- タイヤチェーンは前2輪に取りつけてください。
- タイヤチェーンの取り扱い方法はタイヤチェーンに付属の取り扱い説明書にしたがってください。
- タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
- 必ずエスティマハイブリッド指定のトヨタ純正合金鋼チェーンスペシャルを使用してください。トヨタ純正品以外のタイヤチェーンを使用すると車体側に当たり走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■タイヤチェーンを取りつける前に

交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に移動し、パーキングブレーキをしっかりかけます。以下の手順により準備作業を行います。

〈手順〉

1 ハイブリッドシステムを停止します。

シフトレバーをⓅにし、ハイブリッドシステムを停止します。

2 車の存在を知らせます。

必要に応じて非常点滅灯（P.351参照）を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

3 工具を用意します。

ジャッキ・ジャッキハンドル・ホイールナットレンチを用意します。
（P.588の「ジャッキ・工具の格納場所」参照）

4 タイヤチェーンを用意します。

5 輪止めを用意します。

タイヤチェーンを取りつける場合には、輪止めが必要です。

- 輪止めについては、トヨタ販売店にご相談ください。
- 輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

タイヤチェーン装着時は必ず慎重に運転してください。

●タイヤチェーン装着時は約30km/h以下、またはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。また、走行性に影響を与えるため、必ず慎重に走行してください。

●タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。
また、ＡＢＳ作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので、慎重に運転してください。

タイヤチェーンを取りつけるときは、ホイールに傷をつけないよう注意してください。

●アルミホイールにタイヤチェーンを取りつけると、ホイールに傷がつくことがあります。

●トヨタ純正品以外のタイヤチェーンを使用すると、車体側に当たり走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

駐車するときは HYBRID

READY（走行可能表示灯）が点灯した状態のままにしない

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、READY（走行可能表示灯）が点灯したままにしないでください。

READY（走行可能表示灯）が点灯した状態のままで車のまわりに雪が積もると、ガソリンエンジンが始動したときに排気ガスが車内に侵入して、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パーキングブレーキはかけない

寒冷時はパーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結してパーキングブレーキが解除できなくなるおそれがあります。

■平らな場所に駐車するときは

パーキングブレーキをかけないで、シフトレバーをⓅにし、輪止めをします。

■やむを得ず坂道に駐車するときは

下り坂では前輪の前側、上り坂では後輪のうしろ側に輪止めをして、パーキングブレーキをかけず、シフトレバーをⓅにします。

●輪止めについてはトヨタ販売店にご相談ください。

●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ワイパーアームは立てておく

降雪時は、寒さでワイパーがガラスに凍りついたりします。ワイパーアームは立てて駐車してください。

環境にやさしい運転

環境にやさしく経済的な運転をするために HYBRID

■環境に配慮し、長時間停車するときは、アイドリングしないようにハイブリッドシステムを停止してください。（ハイブリッドシステムの停止についてはP.143をお読みください）

●ハイブリッドシステムを停止しないと、駆動用電池の充電状態やエンジン冷却水温などの状態により自動的にガソリンエンジンが始動し、アイドリングすることがあります。

■スムーズな加減速で走行してください。

●通常の車と同様に無駄な加減速を行わないことで、より効率の良い走行が可能です。

●急な加減速をひかえることにより、駆動用電池の残量を確保することができ、常にガソリンエンジンの動力と駆動用電池からの電気を利用して走行することが可能です。

知識

ハイブリッド車特有のテクニック

●加速後にいったんアクセルをもどし、その後じわっと踏み込んでください。こうすると、ガソリンエンジンを使わずに、モーターでの走行が多くなります。

●減速時は、早めに緩やかなブレーキ操作を行ってください。減速時に発生するエネルギーを、より多く回収できます。

●渋滞での発進は、ブレーキを緩めるだけで、アクセルをあまり踏まないでください。

●走行中に自動的に充電されますが、シフトレバーがⓃにあるときは充電がおこなわれません。車両停止時は、Ⓓでブレーキをしっかり踏むか、Ⓟにしてください。

車両情報の表示

車両情報（燃費、エネルギーモニター）をマルチインフォメーションディスプレイに表示させることができます。燃費の良い走行をするための参考にしてください。また、駆動用電池の残量も確認できます。

環境保護のために

使用済み部品・廃オイル類は適正な処理をする

●補機バッテリーは、鉛や硫酸が使われていますので、特定産業廃棄物として適切な処理が法律で義務付けられています。
補機バッテリー交換時は、購入した販売店で処分を依頼してください。
●タイヤは個人が燃やすなどすると、亜硫酸ガスなど有毒なガスを発生させます。
購入した販売店に処分を依頼してください。
●エンジンオイルは、放置しておくといずれ流れ出し、地下に浸透したり、水に浮き、環境を悪くします。
購入した販売店に処分を依頼してください。
●不凍液は､冷却水の凍結温度を下げるエチレングリコールが入っています。川などに流すと、水質汚濁の原因となりますので、不凍液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。
●エアコン冷媒用フロンガス（特定フロンガスＣＦＣ12）は、大気に放出されると、オゾン層の破壊を進めます。
トヨタでは、オゾン層を破壊しない代替フロンガス（ＨＦＣ134a）に全車切り替えを完了しています（93年完了）。
それでも、代替フロンガス（ＨＦＣ134a）は地球を温暖化する働きがあります。
エアコンの効きが悪い場合、ガスを充填するのみでなく、ガスもれの点検を併せて行い、もれ箇所を修理したうえで、ガス充てんをしてください。

7 メンテナンス

車の手入れ

日頃の手入れ

車をいつまでも美しく保つためには日頃の手入れが必要です。

洗車・ワックス用品について

それぞれの用品に記載されている説明をよく読み、用途や注意事項などを必ずお守りください。

月に1度はワックスがけを行ってください

月に1度、または水のはじきが悪くなったら行ってください。

保管・駐車について

風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。

塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために、次のことをお守りください。

- ●塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために、次のような場合はただちに洗車してください。
  - ●海岸地帯を走行したあと
  - ●凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
  - ●コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死骸などが付着したとき
  - ●ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
  - ●ほこり、泥などで激しくよごれたとき
  - ●塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- ●塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。
- ●ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

外装の手入れ

洗車するときは

十分水をかけながら汚れを洗い落とし、洗い落としたあとは、水を拭き取ります。

●車体、足まわり、下まわりと、上から下の順に行います。
●車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗います。
●汚れのひどいときは、カーシャンプーを使用し、水で十分洗い流してください。
●はん点が残らないように、水を拭き取ります。

自動洗車機を使うときは

●ミラーは格納し、前側から洗車してください。
●ときによりブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。
●洗車機によっては、リヤスポイラーがひっかかり洗車できない場合や、傷ついたり破損するおそれがあります。

高圧洗車機を使うときは

●ノズルの先端をドアガラスなどに近づけすぎないでください。近づけすぎると、水圧が高いため、室内に水が入るおそれがあります。
●駆動系部品（ハイブリッド用トランスミッションなど）のベアリングやオイルシール部品に近づけすぎないでください。近づけすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

アルミホイールの手入れ

●中性洗剤を使用し、早めによごれを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
●洗剤を使用した後は早めに十分洗い流してください。
●光沢を失うおそれがありますので、スチーム洗浄などで熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。

ワックスがけをするときは

洗車後、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）に行います。

撥水機能付ガラス・レインクリアリングミラーについて

手入れについてはP.498の「レインクリアリングミラー」、P.500の「撥水機能付ガラス」の注意事項を必ず守ってください。

警告　エンジンルーム内に水をかけないでください。

●エンジンルーム内の電気部品に水などをかけないでください。ハイブリッドシステムの始動不良や電気部品がショートして、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
●寒冷時に洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置内に水が入ると、凍結してブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキの固着につながるおそれがあり、走行できなくなる場合があります。
●洗車後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などで触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

注意　洗車をするときは、けがをしないように注意してください。

●下まわり、足まわりを洗うときは、手にけがをしないように注意してください。
●洗車するときは、硬いブラシやたわしなどを使用しないでください。塗装などに傷がつきます。
●ランプのレンズ表面をワックス、ベンジンやガソリンなどの有機溶剤で拭いたり、硬いブラシなどでこすったりしないでください。破損したり、劣化を早めることがあります。
●目地のある素地部※に塗装用ワックスを使用しないでください。塗装用ワックスが付着すると、目地に入って取れなくなり、白くなることがあります。
※素地部＝塗装されていないドアミラーなどの樹脂部分。

内装の手入れ

室内の清掃

カークリーナーや電気掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭き取ります。

警告　車内に水をかけないでください。

●車の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。オーディオやフロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が低下し、衝突などのとき十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。
●車内の清掃などで車内（とくにコンソールボックス下部の駆動用電池周辺）に水をかけないでください。駆動用電池などに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。
●コンソールボックス下部には、駆動用電池を冷却するための空気の吸入口があります。吸入口の清掃するときなどに、吸入口をはずさないでください。吸入口の奥には高圧電池があるため、手などを入れると、感電など生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれ
●内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウィンドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

注意　クリーナーに含まれる成分に注意してください。

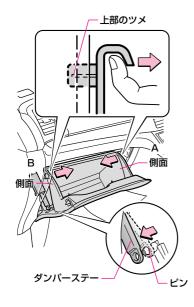
●内装の手入れをするときは、ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸、またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やしみの原因となります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますので、よく確認のうえ使用してください。
●芳香剤（液体・固体・ゲル状・プレートタイプなど）を、内装品（エアコンやオーディオなど）に直接触れさせたり、こぼしたりしないよう注意してください。含まれる成分によっては変色やしみ・塗装はがれの原因となるおそれがあります。
●バックドアガラスやクォーターガラスの内側を清掃するときは、熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
●バックドアガラスやクォーターガラスの内側を掃除するときは、熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。
●ガラスの内側を清掃するときは、コンパウンドが入ったガラスクリーナーを使用しないでください。清掃は、水、またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
●内装の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

エアコンの手入れ

エアコンガス（冷媒）の点検

冷媒が不足していると、冷房性能が低下します。
夏になる前に点検・補充をしてください。

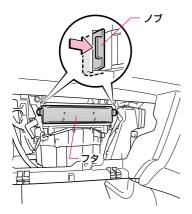
クリーンエアフィルターの交換

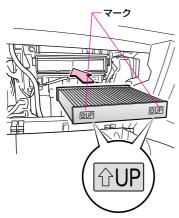
1 “パワー”スイッチをＯＦＦにします。

2 ピンとツメをはずします。

●グローブボックスを開け、ダンパーステーのピンをはずします。

●グローブボックス内側に指をかけて、Ａ側の側面を引っ張りたわませて、上部のツメをはずし、Ｂ側の側面をたわませて、上部のツメをはずします。

3 グローブボックスをはずします。

●グローブボックスを軽く手前に引きながら徐々に下げ、下部のツメをはずして取りはずします。

4 フィルターケースのフタをはずします。

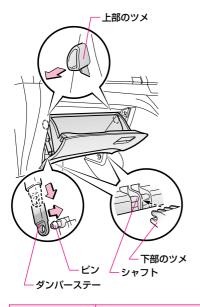
フタの左側にあるノブをつまみながら手前に引いて、取りはずします。

5 フィルター交換時のみフィルターを交換します。

フィルターを取りはずし、新しいフィルターに交換します。

●フィルターにある「⇧UP」のマークの矢印が上になるように確実に取りつけます。

6 フィルターケースのフタを取りつけます。

フィルターケースの切り欠きにフタのツメをあわせて取りつけます。

●フタの「⇧UP」マークの矢印が上になるようにして確実に取りつけます。

7 **グローブボックスを取りつけます。**

グローブボックス下部のツメの切り欠きをシャフトの面に合わせてはめ込み、ダンパーステーにピンを取りつけてから、グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片方ずつはめて、グローブボックスを閉めます。

注意 **フィルターの交換は、“ パワー ” スイッチをＯＦＦにしてから行ってください。**

●フィルターの交換は、“ パワー ” スイッチをＯＦＦにしてから行ってください。
●エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを清掃、または交換してください。なお、フィルターの清掃については、トヨタ販売店にご相談ください。
●フィルターの裏と表を間違えないように、フィルターを取りつけてください。
●必ずフィルターを装着した状態で、エアコンを使用してください。フィルターを装着せずにエアコンを使用すると故障の原因となることがあります。

知 識

エアフィルターの清掃・交換について

●エアコンにはエアフィルターが取りつけられています。快適にお使いいただくため定期的な清掃・交換をおすすめします。
●エアフィルターの交換は工具なしで行うことができます。
●エアフィルターの清掃、交換用エアフィルターについてはトヨタ販売店にご相談ください。

清掃の目安：**15,000km【7,500km】ごと。**

交換の目安：**30,000km【15,000km】ごと。**

【　】は、多じん地区（大都市・寒冷地など、交通量・粉じんの多い地区）の場合。

タイヤローテーション（タイヤ位置交換）

タイヤの摩耗を4輪ともに均等にし、寿命をのばすために、5,000kmごとにタイヤローテーションを行います。

●タイヤローテーションについてはトヨタ販売店にご相談ください。

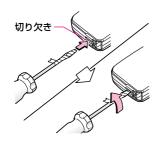
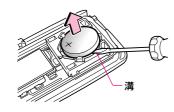
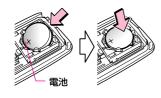
●販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車で、搭載されているジャッキを使用してタイヤ位置交換を行うときは、スペアタイヤを使用して1輪ずつ交換してください。

注意　**日常点検として必ずタイヤを点検してください。**

●日常点検として必ずタイヤの点検を行ってください。（P.80「タイヤについての注意」参照）

●タイヤ・ディスクホイール・ディスクホイール取りつけナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。（P.97「その他の注意」参照）

キーの電池交換

1 **メカニカルキーを取り出します。**
ノブのキーマークのある側を押しながら、メカニカルキーを引き出します。

2 **キーカバーをはずします。**
市販のマイナスドライバーの先端を電子キーの切り欠きに差し込み、ひねりながらカバーをはずします。
●傷つき防止のため、ドライバーの先端にビニールテープなどを巻いてください。

3 **電池をはずします。**
市販の精密ドライバーなどを溝に挿入し、電池を取り出します。

4 **新しい電池を取りつけます。**
電池を斜めに挿入し、上から押さえつけ、確実に取りつけます。
●電池の⊕側を上にして取りつけます。

5 キーカバーを取りつけます。

6 メカニカルキーを取りつけます。

7 作動確認をします。
いずれかのスイッチを押したとき、本体のＬＥＤが点灯することを確認します。

取りはずした電池や部品を（とくにお子さまが）飲み込まないようにご注意ください。飲み込むと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

電池および取りはずした部品の取り扱いにはご注意ください。

- ●電池交換時にはネジなどの部品を紛失しないようにご注意ください。
- ●電池の⊕極と⊖極は必ず正しい向きにして取りつけてください。
- ●電池挿入部の電極を曲げたり、内部にゴミや油などが付着しないように注意してください。
- ●基盤などの内部部品を取り出さないでください。

電池について

使用電池……リチウム電池ＣＲ1632
電池はトヨタ販売店・時計店・カメラ店などでお求めください。

電池交換について

電池交換は、お客さまご自身で交換することができますが、交換の際に破損などのおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れやランプ自体の球切れが考えられます。
次の手順でヒューズの点検・交換を行ってください。
●ヒューズについてはトヨタ販売店にご相談ください。

1 “パワー”スイッチをＯＦＦにします。

2 ヒューズボックスを開けます。

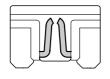
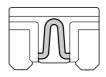
ヒューズラベルが、カバーまたはフタに表示してあります。

3 ヒューズの点検をします。

故障の状況から、点検すべきヒューズをヒューズラベルで確認し、ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないかを点検します。
●ヒューズはずしは、エンジンルーム内ヒューズボックスＢの中に入っています。（Ｐ.542参照）
●ヒューズは車の仕様によりないものもあります。
●ヒューズについてはトヨタ販売店にご相談ください。

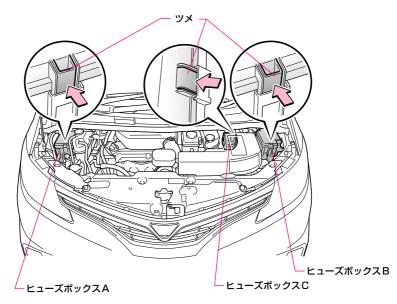
4 ヒューズを交換します。

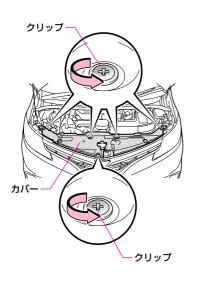
ヒューズが切れていたら、ヒューズボックスの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。
●ランプ類が点灯しないときは、電球切れも考えられます。
●以下の場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。
・取り替えても再びヒューズが切れるとき。
・取り替えても電気系統の装置が働かないとき。

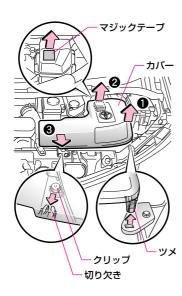
切れた状態

切れていない状態

規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあり危険です。

■エンジンルーム内ヒューズボックス

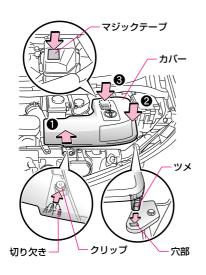
ツメを押しながらカバーを開けます。

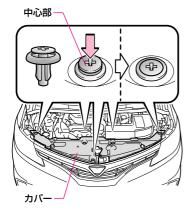
●ヒューズボックスCは、エンジンルーム内カバーを取りはずしてから開けます。（次ページ参照）

●カバーを取りつけたときは、カバーが確実に固定されていることを確認してください。

<エンジンルーム内カバーのはずしかた>

1 **エンジンルーム前側のカバーをはずします。**

クリップ（5本）の中心部を市販の⊕ドライバーでゆるめ、エンジンルーム前側のカバーをはずします。

2 **エンジンルームうしろ側のカバーをはずします。**

❶ツメを引き抜きます。
❷マジックテープをはがします。
❸カバーを手前に引き、切り欠きをクリップからはずします。

<エンジンルーム内カバーの取りつけかた>

1 **エンジンルームうしろ側のカバーを取りつけます。**

❶切り欠きをクリップにはめます。
❷ツメを穴部に差し込みます。
❸カバーを上から押してマジックテープを張りつけ固定します。

2 **エンジンルーム前側のカバーを取りつけます。**

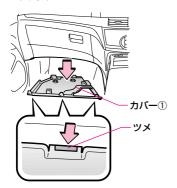
クリップを取りつけるときは、クリップを取りはずした状態で差し込み、中心部を押し込みます。

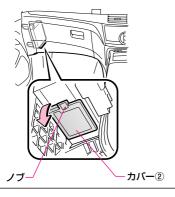
■室内運転席側ヒューズボックス

運転席側席インストルメントパネル下にあります。

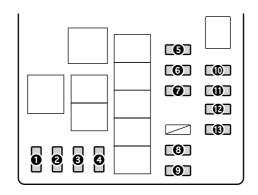
ノブを引いてカバーを取りはずします。

■室内助手席側ヒューズボックス

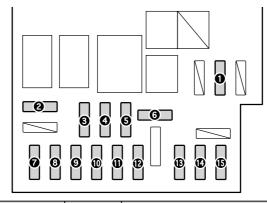
助手席側席インストルメントパネル下にあります。

1 **インストルメントパネル下部のカバー①を取りはずします。**

ツメ3カ所を押してはずします。

2 **ノブを引いてカバー②を取りはずします。**

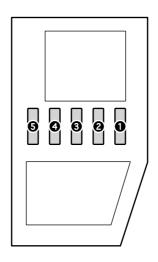
ヒューズの受け持つ装置

■エンジンルーム内ヒューズボックスＡ

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
❶	Ｈ－ＬＰ　ＬＨ	１５Ａ	ヘッドランプ（左）ハイビーム
❷	Ｈ－ＬＰ　ＲＨ	１５Ａ	ヘッドランプ（右）ハイビーム
❸	Ｈ－ＬＰ　ＬＬ	１５Ａ	ヘッドランプ（左）ロービーム
❹	Ｈ－ＬＰ　ＲＬ	１５Ａ	ヘッドランプ（右）ロービーム
❺	ＥＣＵ－Ｂ３	７.５Ａ	スマートエントリー＆スタート
❻	ＥＣＵ－Ｂ２	７.５Ａ	パワーウインドゥ（運転席スイッチ）
❼	Ｓ／ＨＯＲＮ	１０Ａ	スマートキー警報
❽	ＤＥＩＣＥＲ	２０Ａ	熱線式ウインドシールドデアイサー
❾	ＦＯＧ	２０Ａ	フォグランプ
❿	ＨＯＲＮ	１０Ａ	ホーン
⓫	ＳＴＲＧ　ＬＣＫ	２０Ａ	ステアリングロック
⓬	ＡＭＰ２	３０Ａ	オーディオ
⓭	ＡＭＰ１	３０Ａ	オーディオ

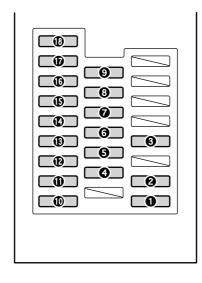
＊車の仕様により設定のないヒューズもあります。

■エンジンルーム内ヒューズボックスＢ

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
❶	ＤＥＦ	25Ａ	リヤウインドゥデフォッガー
❷	ＥＦＩ	20Ａ	ＥＦＩコンピューター
❸	ＥＣＵ－Ｂ	10Ａ	メーター
❹	ＤＯＭＥ	7.5Ａ	室内灯
❺	ＲＡＤ　ＮＯ.1	15Ａ	オーディオ
❻	ＭＩＲ　ＨＴＲ	10Ａ	ミラーヒーター
❼	ＡＢＳ　ＭＡＩＮ１	10Ａ	ＡＢＳ
❽	ＡＢＳ　ＭＡＩＮ２	10Ａ	ＡＢＳ
❾	ＥＴＣ－Ｓ	10Ａ	電子制御スロットル
❿	ＡＭ２　ＮＯ.2	7.5Ａ	“パワー”スイッチ
⓫	ＴＲＮ　ＨＡＺ	15Ａ	方向指示灯 兼 非常点滅灯
⓬	ＩＧ２	15Ａ	ＥＦＩ
⓭	ＡＢＳ　ＭＡＩＮ３	10Ａ	ＡＢＳ
⓮	ＦＲ　ＤＯＯＲ	30Ａ	ドアロック
⓯	Ａ／Ｃ　Ｗ／Ｐ	10Ａ	エアコン用ウォーターポンプ

＊車の仕様により設定のないヒューズもあります。

■エンジンルーム内ヒューズボックスC

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
❶	ＩＧＣＴ　３	１０Ａ	ハイブリッドシステム関係
❷	ＩＮＶ　Ｗ／Ｐ	１０Ａ	ハイブリッド用ウォーターポンプ
❸	ＩＧＣＴ　２	１５Ａ	ハイブリッドシステム関係
❹	ＢＡＴＴ　ＦＡＮ	１０Ａ	駆動用電池冷却用ファン
❺	ＩＧＣＴ　１	３０Ａ	ハイブリッドシステム関係

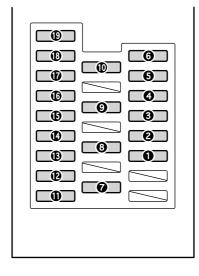
＊車の仕様により設定のないヒューズもあります。

■室内運転席側ヒューズボックス

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
❶	FR WIP	30A	フロントワイパー
❷	SEAT HTR RH	10A	快適温熱シート（運転席側）
❸	RH ECU−IG	10A	EPS
❹	P／POINT	15A	—
❺	CIG	15A	シガレットライター
❻	RAD NO.2	7.5A	オーディオ
❼	ECU−ACC	7.5A	スマートエントリー＆スタートシステム
❽	IGN	10A	イグニッション
❾	MET	7.5A	メーター
❿	PSB	30A	プリクラッシュセーフティシステム

＊車の仕様により設定のないヒューズもあります。

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
⓫	ＲＲ　ＦＯＧ	7.5Ａ	リヤフォグランプ
⓬	Ｐ／Ｗ　ＦＲ	20Ａ	パワーウインドゥ（運転席側）
⓭	Ｐ／ＳＥＡＴ　ＲＨ	30Ａ	パワーシート（運転席側）
⓮	ＡＭ1	7.5Ａ	―
⓯	ＳＴＯＰ	15Ａ	制動灯
⓰	ＯＢＤ	7.5Ａ	ダイアグノーシスコネクター
⓱	ＰＳＤ　ＲＨ	30Ａ	パワースライドドア（運転席側）
⓲	Ｐ／Ｗ　ＲＲ	20Ａ	パワーウインドゥ（後席右側）

＊車の仕様により設定のないヒューズもあります。

■室内助手席側ヒューズボックス

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
❶	LH　ECU−IG	10A	電動格納サードシート
❷	SEAT　HTR　LH	10A	快適温熱シート（助手席側）
❸	GAUGE　NO.2	10A	―
❹	STP　RR	7.5A	制動灯（右側）
❺	STP　HI　MT	7.5A	ハイマウントストップランプ
❻	STP　RL	7.5A	制動灯（左側）
❼	RR　WIP	15A	リヤワイパー
❽	GAUGE　NO.1	10A	ヘッドランプオートレベリング
❾	PANEL	10A	スイッチ照明
❿	TAIL	10A	尾灯

＊車の仕様により設定のないヒューズもあります。

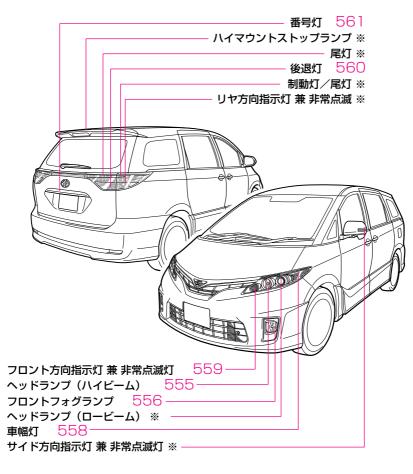
ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
⓫	ＷＥＬＣＡＢ	30A	―
⓬	4WD	7.5A	―
⓭	ＡＣ　ＩＮＶ	15A	―
⓮	ＤＲ　ＬＯＣＫ	30A	電気式ドアロック
⓯	Ｐ／Ｗ　ＦＬ	20A	パワーウインドゥ（助手席側）
⓰	Ｓ／Ｒ	20A	電動リヤサンシェード
⓱	ＰＳＤ　ＬＨ	30A	パワースライドドア（助手席側）
⓲	Ｐ／Ｗ　ＲＬ	20A	パワーウインドゥ（後席左側）
⓳	ＰＢＤ	30A	パワーバックドア

＊車の仕様により設定のないヒューズもあります。

外装の電球（バルブ）交換

この車の外装には、下図で示した電球（バルブ）があります。

●ページ数が記載してある電球の交換については、該当ページをお読みください。

●※印が記載してある電球の交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

電球の交換をするときは必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと重大な傷害ややけどにつながるおそれがあります。

●ディスチャージヘッドランプを交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。電球ソケットに触れた状態で点灯操作をすると、瞬間的に20,000Ｖの高電圧が発生し、感電するおそれがあります。
●電球を交換するときは、必ずハイブリッドシステムを停止し各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあり危険です。

電球は十分注意して取り扱ってください。

●ハロゲン電球はガラス内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると破損してガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。また、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。
●必ず同じW数の電球を使用してください。（Ｐ.579参照）
●電球および電球固定具の取りつけは確実に行ってください。取りつけが不完全な場合、水入りなどによる故障およびレンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
●電球の交換をするときは、工具や電球・電球固定具・ソケットなどを紛失しないように注意して作業してください。

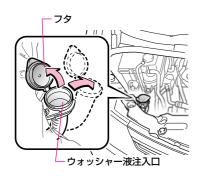
知 識

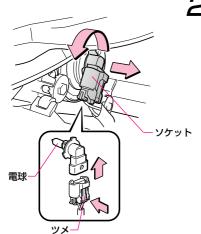
ランプの曇りについて

ヘッドランプなどのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

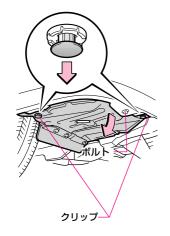
ヘッドランプ（ハイビーム）

■取りはずしかた

1 ボンネットを開け、運転席側ではウォッシャー液注入口のフタを開けて、ウォッシャー液注入口を固定具からはずします。

2 ソケットを矢印の方向にまわして引き抜き、ツメを押してソケットから電球を取りはずします。

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

※ 図は運転席側で説明しています。

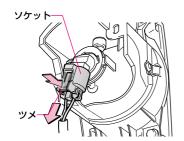
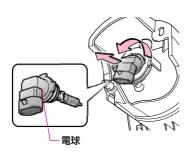
フロントフォグランプ

■取りはずしかた

1 クリップ（2本）とボルトをはずし、フェンダーライナーをずらします。

クリップとボルトをはずし、フェンダーライナーとバンパーの間から手が入れられるように、フェンダーライナーをうしろ側へずらします。

●クリップは中心部を引き出してロックをはずし、引き抜きます。

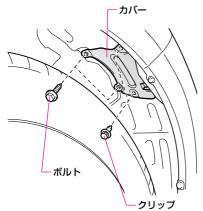
2 ツメを押して電球からソケットを取りはずします。

※ 図は運転席側で説明しています。

3 電球を矢印の方向にまわして取りはずします。

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

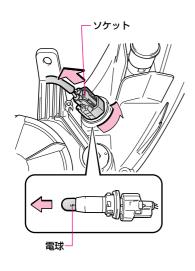
※ 図は運転席側で説明しています。

車幅灯

■取りはずしかた

1 **カバーを取りはずします。**

クリップ（2本）とボルト（2個）をはずし、カバーをはずします。

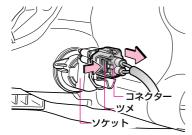
●クリップは中心部を引き出してロックをはずし、引き抜きます。

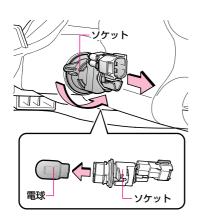
●助手席側のランプを交換するときはハンドルを右いっぱいに、運転席側のランプを交換するときはハンドルを左いっぱいにまわしておくとスペースが広がります。

2 **ソケットを矢印の方向にまわして引き抜き、ソケットから電球を取りはずします。**

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

※ 図は運転席側で説明しています。

フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯

■取りはずしかた

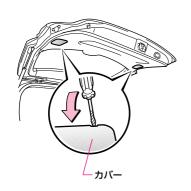
1 ツメを押してコネクターをはずします。

2 電球を取りはずします。

ソケットを矢印の方向にまわして取り出し、ソケットから電球を抜き取ります。

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

※ 図は運転席側で説明しています。

後退灯

■取りはずしかた

1 **バックドアを開け、カバーを取りはずします。**

カバーの切り欠き（1カ所）にマイナスドライバーを差し込んで取りはずします。

●傷つき防止のため、マイナスドライバーの先端にビニールテープなどを巻いてください。

2 **電球を取りはずします。**

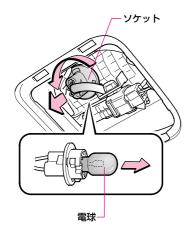
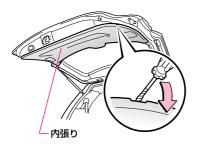
ソケットを矢印の方向にまわして取り出し、ソケットから電球を抜き取ります。

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

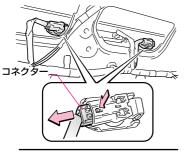
※ 図は運転席側で説明しています。

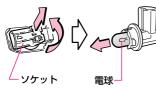
目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

番号灯

■取りはずしかた

1 バックドアを開け、内張りを取りはずします。

内張りの切り欠き（1カ所）にマイナスドライバーを差し込んで取りはずします。

●傷つき防止のため、マイナスドライバーの先端にビニールテープなどを巻いてください。

2 電球を取りはずします。

ツメを押してコネクターをはずしてから、ソケットを矢印の方向にまわして取り出し、ソケットから電球を抜き取ります。

■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

バックドアの内張りを取りはずすときは、内張りを固定しているクリップの破損や紛失に注意してください。

日常点検

日常点検について

日常点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。日常点検は、簡単に点検できる項目になっていますので、長距離走行前や洗車時・給油時などを目安に実施してください。

ここでは、点検内容を簡単に説明します。

●基準値については、P.578の「メンテナンスデータ」を参照してください。

●点検方法および実施時の注意事項は、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。

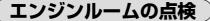
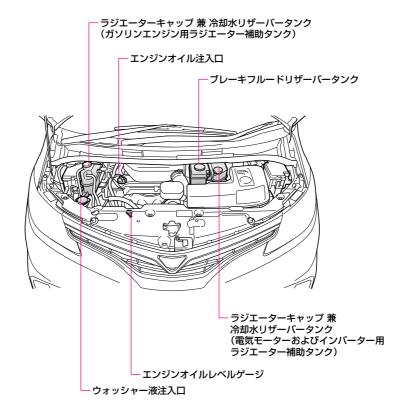
ラジエーターキャップ 兼 冷却水リザーバータンク
（ガソリンエンジン用ラジエーター補助タンク）

エンジンオイル注入口

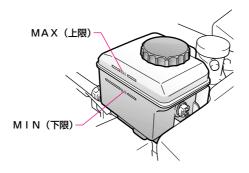
ブレーキフルードリザーバータンク

ラジエーターキャップ 兼
冷却水リザーバータンク
（電気モーターおよびインバーター用
ラジエーター補助タンク）

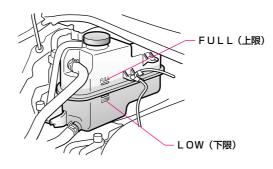
エンジンオイルレベルゲージ

ウォッシャー液注入口

点検や交換したあとは、工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていないことを確認してください。万一、置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

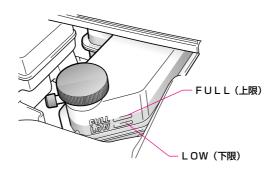
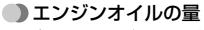
ブレーキの液量

ブレーキフルードの量がリザーバータンクのＭＡＸ（上限）とＭＩＮ（下限）の間にあるかを点検します。

ブレーキフルードが不足していると、ブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

冷却水の量（ガソリンエンジン用）

冷却水の量がリザーバータンクのＦＵＬＬ（上限）とＬＯＷ（下限）の間にあるかを点検します。

	冷却水の量が不足しているとラジエーターの腐食やオーバーヒートによるエンジン破損のおそれがあるため、定期的に点検してください。また、水のみで使用していると、寒冷時に凍結し、ラジエーターなどに損傷を与えるため、必ずスーパーロングライフクーラント（不凍液）を適切な濃度でご使用ください。

冷却水の量（電気モーターおよびインバーター用）

冷却水の量がリザーバータンクのＦＵＬＬ（上限）とＬＯＷ（下限）の間にあるかを点検します。

	冷却水の量が不足しているとラジエーターの腐食やハイブリッドシステムに破損のおそれがあるため、定期的に点検してください。また、水のみで使用していると、寒冷時に凍結し、ラジエーターやハイブリッドシステムなどに損傷を与えるため、必ずスーパーロングライフクーラント（不凍液）を適切な濃度でご使用ください。

エンジンオイルの量

エンジンオイルの量がオイルレベルゲージの上限と下限の間にあるかを点検します。

警告　エンジンオイルを点検・交換するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと重大な傷害ややけどにつながるおそれがあります。

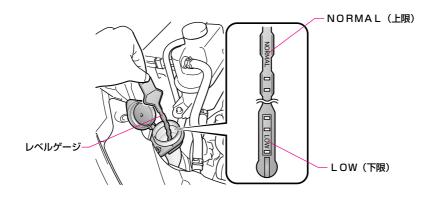
- ハイブリッドシステムを停止してください。
  - ハイブリッド車は、ガソリンエンジンが自動的に動き出すことがあります。ガソリンエンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分に触れたり付近にいたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジンオイルの温度が低いときに点検・交換してください。
- ガソリンエンジンが停止していても冷却水温が高いときは、エンジンオイルも高温になっており、やけどをするおそれがあり危険です。

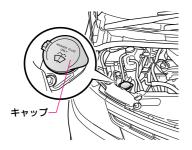
注意　エンジンオイルは、定期的に点検・交換してください。

- 定期的な点検を怠ると、オイル不足や劣化により回転部分が潤滑不良になり、焼きつきなどを起こしてエンジンに損傷を与えるため、定期的に点検・交換をしてください。
  - エンジンオイルはエンジン内部の潤滑・冷却などをする働きがあります。通常の運転をしていても、ピストンおよび吸・排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるため、オイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。
- オイルを補給するときは、入れすぎないように注意してください。
- エンジンオイルを点検するときは、オイルがハイブリッドシステムなどに付着しないように、布などを当てて点検してください。万一、オイルが付着したときは、完全に拭き取ってください。

ウインドゥウォッシャーの液量

ウォッシャー液注入口のキャップを開け、液面がＮＯＲＭＡＬ（上限）とＬＯＷ（下限）の間にあることを、レベルゲージで確認します。

●液面がＬＯＷに近づいたらウォッシャー液を補給してください。

リヤワイパーのウォッシャー液の補給について

リヤワイパー用ウォッシャータンクはフロントワイパー用と兼用です。

■ウォッシャー液を補給するには

1 キャップを開けます。

ウォッシャー液注入口のキャップを開けます。

2 ウォッシャー液を補給します。

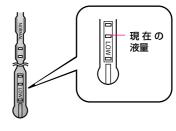
補給が終わったら、ウォッシャー液注入口のキャップを確実に閉めてください。

ハイブリッドシステムが熱いときや READY （走行可能表示灯）が点灯した状態のときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のしみになるおそれがあります。

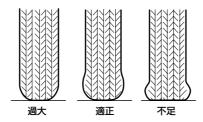
知識

ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。残量がゲージの先端から２つめの穴部より下まわったら（ＬＯＷの位置まで低下した）、ウォッシャー液を補給してください。

車のまわりの点検

タイヤの点検については、P.80の「タイヤについての注意」を併せてお読みください。

タイヤの空気圧

タイヤが冷えている（走行前）状態でタイヤの接地部のたわみ状態（つぶれ具合）を見て、空気圧が適正であるかを点検します。

●月に1回程度は空気圧ゲージによる点検をおすすめします。
●空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

指定空気圧より低いと、車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗します。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

※ 高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

知識

指定空気圧について

指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはメンテナンスデータ（P.583参照）でご確認ください。

●スペアタイヤも点検してください。（販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車）

●指定空気圧でのたわみ状態を確認しておくと、タイヤを目視点検するときに参考になります。

●指定空気圧の調整はタイヤが冷えているときに行ってください。

「タイヤ空気圧」の表

タイヤのき裂・損傷

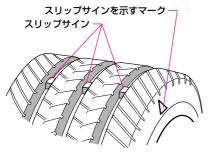
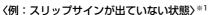
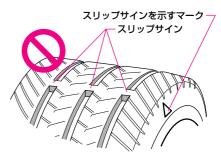
タイヤの側面や接地部全周に著しい傷やき裂がないかを点検します。また、釘・石・その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検します。

警告 **タイヤの側面などに傷やき裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。**

●異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルがとられたり、異常な振動を感じることがあります。
また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。

●異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

タイヤの溝の深さ、異常摩耗

〈例：スリップサインが出ていない状態〉※1

〈例：スリップサインが出ている状態〉※1

タイヤ接地面に表示されているスリップサイン（摩耗限度表示）が現れていないかを点検します。また、極端な片べりなどの偏摩耗がないかを点検します。

※1 例のイラストは説明のためであり、実際とは異なります。

警告

摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象 ※2により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

※2 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

灯火装置・方向指示器の汚れ・損傷

各ランプのレンズに、汚れや破損・ヒビ割れなどがないかを点検します。

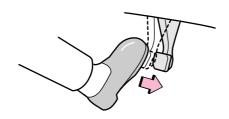
知識

ランプの曇りについて

ヘッドランプなどのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

運転席に座っての点検 HYBRID

パーキングブレーキの踏みしろ

パーキングブレーキペダルが止まるまでゆっくりと踏み、“カチカチ”音が基準値の範囲（P.578参照）で止まるかを点検します。

エンジンのかかり具合

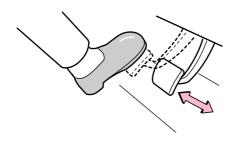
エンジン始動の際、異音がないか、かかり具合いは良いかを点検します。また、アイドリング状態および少し回転を上げた状態で、異音がないかを点検します。

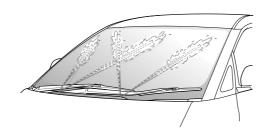
知識

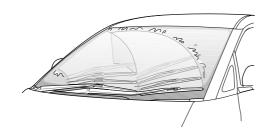
ハイブリッド車について

ハイブリッド車は、車両の状態により停車中にガソリンエンジンが停止する場合があります。

ブレーキペダルの踏みしろ

ハイブリッドシステムを始動し、ブレーキペダルをいっぱいに踏み込み、床板とのすき間（P.578参照）を点検します。併せてペダルの感触に異常がないかを点検します。

ウインドゥウォッシャーの噴射状態

ハイブリッドシステムを始動し、ウインドゥウォッシャーを作動させ、噴射状態を点検します。

ワイパーの払拭状態

ハイブリッドシステムを始動し、ウインドゥウォッシャーでガラスをぬらした状態でワイパーを作動させ、「間欠作動」「低速作動」「高速作動」「一時作動」の各作動が良いか、拭き取り状態が良いか点検します。

灯火装置・方向指示器の作動

ハイブリッドシステムを始動し、各灯火装置・方向指示器を作動させ、ランプが点灯・点滅するか、明るさが不足していないかを点検します。

走行しての点検 HYBRID

ブレーキの効き具合

通常走行時にブレーキをかけたとき、効きが十分か、片効きしないかを点検します。

走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（“キーキー”音）が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなって思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

エンジンの低速および加速の状態

通常走行で停車したとき、エンジン回転にむらがあったり、止まったりしないかを点検します。また、アクセルペダルを踏み込んだとき、なめらかに加速するかを点検します。

知 識

ハイブリッド車について

ハイブリッド車は、車両の状態により停車中にガソリンエンジンが停止する場合があります。

前日までの異常箇所の点検

前日までの使用時に異常があった箇所について、運行に支障がないかを点検します。

メンテナンスデータ HYBRID

点検基準値

項　　目		メンテナンスデータ
ブレーキペダル	遊び［mm］ （負圧なしの状態）	1～6
	踏み込んだときの 床板とのすき間［mm］ 〔踏力500N｛50kgf｝〕 （READY〔走行可能表示灯〕 が点灯した状態）	90以上
パーキングブレーキ	踏みしろ［ノッチ※］ 〔操作力300N｛30kgf｝〕	4～6
Vベルト	たわみ量	非調整式

※ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

電球のワット数

項　　目		メンテナンスデータ
電　　球	W（ワット）数	ヘッドランプ ●ハイビーム……60W （バルブタイプ：ＨＢ3） ●ロービーム……35W （バルブタイプ：Ｄ4Ｓ） 車幅灯……5W フロントフォグランプ……51W （バルブタイプ：ＨＢ4） フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯 （アンバーバルブ）※1……21W サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯……ＬＥＤ※2 番号灯……5W 制動灯／尾灯……ＬＥＤ※2 尾灯……ＬＥＤ※2 リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯 （アンバーバルブ）※1……21W 後退灯……16W フロントパーソナルランプ……5W リヤパーソナルランプ……5W フロントドアカーテシランプ★……5W ハイマウントストップランプ……ＬＥＤ※2 フロントフロアまわり照明……ＬＥＤ※2 ラゲージルームランプ……5W

※1 アンバーバルブはオレンジ色の電球です。
※2 ＬＥＤは、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光素子です。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

冷却水・油脂類の量と種類

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。トヨタ純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に相当する品質のものをご使用ください。

<table>
<tr><th colspan="3">項　目</th><th>容量［L］
（参考値）</th><th>銘　柄</th></tr>
<tr><td rowspan="3">冷却水</td><td rowspan="2">ガソリンエンジン用</td><td>リヤエアコン付き車を除く</td><td>7.3</td><td rowspan="3">トヨタ純正スーパーロングライフクーラント
●凍結保証温度
濃度30%　－12℃
濃度50%　－35℃</td></tr>
<tr><td>リヤエアコン付き車</td><td>8.9</td></tr>
<tr><td colspan="2">電気モーターおよびインバーター用</td><td>3.3</td></tr>
<tr><td colspan="3">ハイブリッド用
トランスアクスルフルード</td><td>4.1</td><td>トヨタ純正
オートフルードWS</td></tr>
<tr><td colspan="3">リヤモーター用
トランスアクスルフルード</td><td>1.8</td><td>トヨタ純正
オートフルードWS</td></tr>
<tr><td colspan="3">ブレーキフルード</td><td>——</td><td>トヨタ純正ブレーキフルード2500H</td></tr>
</table>

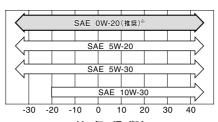
項　目	容量［L］（参考値）		銘　柄
	オイルのみ交換時充てん量	オイルとオイルフィルター交換時充てん量	
エンジンオイル	4.1	4.3	トヨタ純正モーターオイルSM 0W―20※（API SM，EC/ILSAC GF-4，SAE 0W-20） トヨタ純正モーターオイルSM 5W―30（API SM，EC/ILSAC GF-4，SAE 5W-30） トヨタ純正モーターオイルSM 10W―30（API SM，EC/ILSAC GF-4，SAE 10W-30） トヨタ純正モーターオイルSL 5W―20（API SL, EC SAE 5W-20） トヨタ純正モーターオイルSL 10W―30（API SL, EC SAE 10W-30）

※0W―20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■指定エンジンオイル
API規格SM/EC、SL/ECか、ILSAC規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC規格合格油の缶にはILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

ＡＰＩマーク

ILSAC CERTIFICATIONマーク

●下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※0W−20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

ウォッシャータンク容量

項　目		メンテナンスデータ
ウォッシャータンク	容　量［L］（参考値）	2.5

燃料の量と種類

項　目	容　量［L］（参考値）	指　定　燃　料
燃料（フューエルタンク）	65	無鉛レギュラーガソリン

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

タイヤ・ホイールの仕様

タイヤサイズ ＼ 項目		ホイールサイズ		
		リムサイズ	P.C.D.	オフセット量
標準タイヤ	215／60R17 96H	17×7J	114.3mm ×5（穴）	50mm
応急用スペアタイヤ	T145/90D16 106M (販売店装着オプション)	16×4T	114.3mm ×5（穴）	20mm

タイヤの種類		タイヤが冷えているときの空気圧 [kPa {kg/cm²}]
標準タイヤ	215／60R17 96H	250 {2.5}
応急用スペアタイヤ	T145/90D16 106M (販売店装着オプション)	420 {4.2}

装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着しないでください。装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着すると、車の性能（車両の安定性など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

車両仕様

名　称	型　式	ガソリンエンジン	モーター	駆動方式	グレード
エスティマハイブリッド	AHR20W	2AZ-FXE (2.4Lガソリン)	2JM (前輪用) 2FM (後輪用)	4WD (4輪駆動)	G
					X

ユーザーカスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能

以下の機能を変更することができます。詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

項目	機能の内容	設定（太字が初期設定）
ワイヤレスドアロック機能（P.200参照）	ドアを施錠・解錠したときの非常点滅灯の点滅、ブザー音	**点滅する、ブザー音あり**／点滅しない、ブザー音なし
	解錠後のドアを開けなかったときの再施錠するまでの時間	**約30秒**／約60秒
イルミネーテッドエントリーシステム（P.446参照）	ドアを開けてから閉めたときの消灯までのタイマー時間	**約15秒**／約7.5秒／約30秒
	“パワー”スイッチをＯＦＦにしたときの点灯、消灯作動	**約15秒間点灯**／点灯しない
	“パワー”スイッチがＯＦＦのとき、いずれかのドアを解錠したときの点灯、消灯作動	**約15秒間点灯**／点灯しない
	フロントドア、スライドドア間接照明の点灯、消灯作動	**点灯する**／点灯しない
コンライト（P.340参照）	コンライトセンサーの感度調整	**レベル3**／レベル1～5
	コンライトシステムが車幅灯・尾灯・番号灯を点灯するまでの時間の調整	**標準**／長め
シフト連動オートロック機能（P.166参照）	READY（走行可能表示灯）点灯中で、すべてのドアが閉まっているときに、シフトレバーをⓅからⓅ以外にすると、すべてのドアを施錠	**施錠しない**／施錠する
	車速が約20㎞/h以上になるとすべてのドアを施錠する。	**施錠する**／施錠しない
シフト連動オートアンロック機能（P.166参照）	“パワー”スイッチがＯＮモードで、シフトレバーをⓅ以外からⓅにすると、すべてのドアを解錠する。	**解錠する**／解錠しない

初期設定項目

初期設定項目

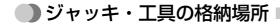
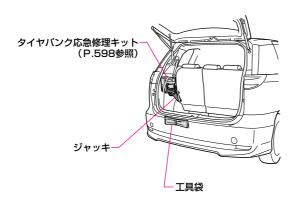
以下の項目は、補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるため初期設定が必要です。参照ページをお読みになり、初期設定を行ってください。

項目	初期設定が必要なとき	参照ページ
パワースライドドア★	補機バッテリーを再接続したとき、補機バッテリーがあがったとき、ヒューズが切れたときなど	P.181
パワーバックドア★	補機バッテリーを再接続したとき、補機バッテリーがあがったとき、ヒューズが切れたときなど	P.192
パワーウィンドゥ	以下の状態のときに補機バッテリーを再接続したとき、補機バッテリーがあがったとき、ヒューズが切れたときなど ●パワーウインドゥ開閉中	P.195
インテリジェントパーキングアシスト★	補機バッテリーを再接続したとき、補機バッテリーがあがったとき、ヒューズが切れたときなど	ナビゲーションシステム取扱書参照
バックガイドモニター★	補機バッテリーを再接続したとき、補機バッテリーがあがったとき、ヒューズが切れたときなど	ナビゲーションシステム取扱書参照
サイドモニター★	補機バッテリーを再接続したとき、補機バッテリーがあがったとき、ヒューズが切れたときなど	ナビゲーションシステム取扱書参照
サイドリフトアップシート★	以下の状態のときに補機バッテリーを再接続したとき、補機バッテリーがあがったとき、ヒューズが切れたときなど ●サイドリフトアップシート操作後10秒以内 ●ブザーが鳴ってから10秒以内 ●スライドドアを開閉してから10秒以内	サイドリフトアップシート取扱書参照

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

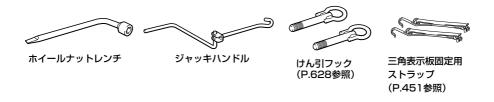
8 万一のとき

ジャッキ・工具・スペアタイヤ★・発炎筒

ジャッキ・工具・スペアタイヤの格納場所

ジャッキ・工具の格納場所

●ジャッキはラゲージルーム助手席側にあるカバーの中に格納されています。

●工具袋はラゲージスペース後側のくぼみにあります。

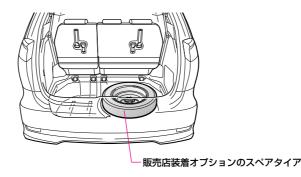
- 工具袋には、次のものが入っています。

●ジャッキ、工具袋以外にタイヤパンク応急修理キットも格納されています。タイヤパンク応急修理キットについては、P.598をお読みください。

●ジャッキ、工具の種類、発炎筒の使い方などは、万一のとき困らないようにあらかじめ確認しておきましょう。

スペアタイヤの格納場所

販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車

販売店装着オプションのスペアタイヤを装着された方は、スペアタイヤがラゲージルームに格納されています。スペアタイヤの取りはずし方については付属の取り扱い説明書をご覧ください。

●応急用タイヤは、標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。できるだけ早く標準タイヤに交換してください。

 応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。

●応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。空気圧が不足している状態で走行すると、タイヤの径の違いがさらに大きくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。応急用タイヤの空気圧については、P.583をご覧ください。

●車に搭載されている応急用タイヤは、お客様の車専用です。ほかのタイヤやディスクホイールと組み合わせたり、ほかの車に使用したり、ほかの車の応急用タイヤをお客様の車に使用しないでください。走行に悪影響が出て、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急用タイヤは、標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。標準タイヤに比べて直径が小さいので、次の事項に注意してください。

●応急用タイヤを装着しているときは、100km/h以上で走行しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。応急用タイヤは、タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。応急用タイヤはできるだけ早く標準タイヤに交換してください。

●応急用タイヤを装着して突起物などを乗りこえるときは、標準タイヤを装着しているときと同じ感覚で運転しないでください。応急用タイヤ装着時は、標準タイヤ装着時に対し車高が変化します。同じ感覚で運転すると、車をぶつけるおそれがあります。

●応急用タイヤにタイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体側に当たったり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。雪道、凍結路で前輪がパンクした場合は、応急用タイヤを前輪に使用せず後輪に使用し、はずした後輪を前輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。

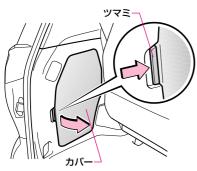
●応急用タイヤを装着しているときは、正確な車両速度が検出できない場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

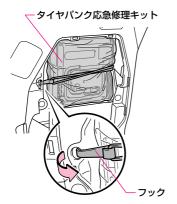
- ＡＢＳ
- ブレーキアシスト
- ＴＲＣ・ＶＳＣ
- ＶＤＩＭ
- レーダークルーズコントロール
- クルーズコントロール
- バックガイドモニター
- インテリジェントパーキングアシスト
- ワイドビューフロント＆サイドモニター
- ＧＰＳボイスナビゲーション
- プリクラッシュセーフティシステム
- インテリジェントＡＦＳ
- レーンキーピングアシスト

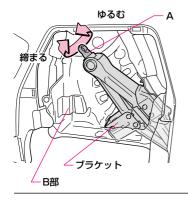
また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- 電気式4WDシステム

工具・ジャッキの取り出し方

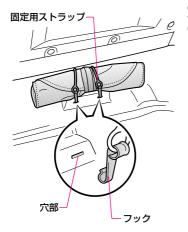
ジャッキの取り出し方

1 カバーをはずします。

ツマミを押しながら、カバーを手前に引いてはずします。

2 タイヤパンク応急修理キットを取り出します。

フックをはずして、タイヤパンク応急修理キットを取り出します。

3 ジャッキを取り出します。

ジャッキのＡの部分をまわしてゆるめ、ジャッキを取り出します。

●格納するときは、ジャッキがブラケットに固定するようにＡの部分を締めます。

工具の取り出し方

取り出すときは、工具袋を固定している固定用ストラップのフックを外します。

●格納するときは、固定用ストラップのフックが確実にボディ側の穴部にかかっていることを確認します。

警告　工具やジャッキを使用したあとは、確実に格納してください。

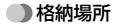
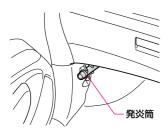
●工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。室内などに放置すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

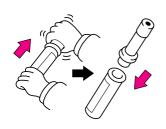
●車に搭載されているジャッキは、お客様の車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車に搭載されているジャッキはタイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外、使用しないでください。

●ジャッキを取り出すときに、B部で指などをけがしないように注意してください。

発炎筒の使い方

格納場所

助手席足元に備えつけてあります。

発炎筒の使い方

1 発炎筒を組み立てます。

本体をひねりながら取り出し、逆にして差し込みます。

2 着火します。

キャップの頭部のすり薬でこすると、着火します。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

発炎筒は正しく取り扱ってください。

●発炎筒をお子さまにはさわらせないでください。いたずらなどにより発火し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●発炎筒を使用中は、顔や身体に向けたり、近づけたりしないでください。やけどなどにより、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。引火して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

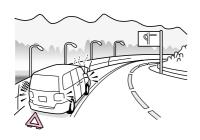
発炎筒をトンネル内などで使用しないでください。煙で視界を悪くするので、トンネル内などでは非常点滅灯を使用してください。

発炎筒について

●発炎時間は約5分間ですので、非常点滅灯を併用してください。
●発炎筒には有効期間があります。本体に表示してある有効期間の切れる前にトヨタ販売店でお求めください。

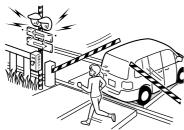
故障したときは

路上で故障したときは

非常点滅灯（Ｐ.351の「非常点滅灯スイッチの使い方」参照）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず、路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。（法的にも義務付けられています。）

緊急を要するときは発炎筒で合図します。
Ｐ.593「発炎筒の使い方」参照。

動けなくなったときは

踏切で動けなくなったときは

シフトレバーをⓃにして、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。
脱輪などで動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。
緊急を要するときは、発炎筒を使用してください。

道路で動けなくなったときは

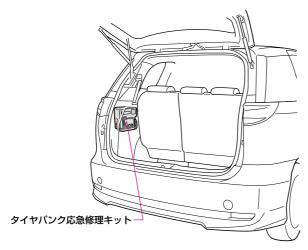
シフトレバーをⓃにして、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。

●困ったときは、トヨタ販売店へご連絡ください。
「メンテナンスノート」のサービス網／お客様相談テレホン網をお読みください。

パンクしたときは

タイヤパンク応急修理キットの使い方

エスティマハイブリッドは、工場出荷時の状態ではスペアタイヤが搭載されていません。
パンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットを使用してください。
●販売店装着オプションのスペアタイヤを装着された方は、P.612の「タイヤの交換」を参照してください。

タイヤパンク応急修理キットの格納場所

タイヤパンク応急修理キットは、ラゲージルーム左側に格納されています。

●取り出すときは、ラゲージルーム左側のカバー（P.591参照）を取りはずし、タイヤパンク応急修理キットを固定しているストラップのフックをはずします。

タイヤパンク応急修理キットについて

タイヤパンク応急修理キットは、パンクしたときに最寄りのトヨタ販売店まで車両を移動するためにパンクを応急修理するものです。

- ●タイヤのトレッド部（接地面）にクギやネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（P.602参照）
- ●タイヤパンク応急修理キットの補修液1本につき、タイヤ1本を1回応急修理することができます。

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

タイヤパンク応急修理キットの補修液を飲用しないでください。

- ●タイヤパンク応急修理キットの補修液を飲用しないでください。飲用すると健康に害があります。もし誤って飲用した場合は、できるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- ●タイヤパンク応急修理キットの補修液が目に入ったり皮膚についた場合は、すぐに多量の水で洗浄してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。
- ●タイヤパンク応急修理キットは、指定の格納場所（前ページ参照）など、お子さまの手に届かない場所に保管してください。
- ●パンクの応急修理をするときは、できるだけ平坦で交通のさまたげにならない安全な場所に駐車してから作業してください。
- ●タイヤパンク応急修理キットの補修液が車体や衣服などに付着したまま放置すると、シミになるなどして取れなくなるおそれがあります。付着した補修液は、すみやかに布などで拭き取ってください。

知 識

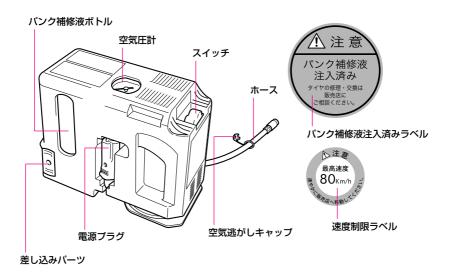
パンク、バーストについて

以下のようなときは、パンクやバーストが考えられます。

- ●ハンドルがとられるとき。
- ●異常な振動があるとき。
- ●車両が異常に傾いたとき。

パンク応急修理後について

ホイールは、付着した補修液を拭き取れば再使用できます。タイヤのバルブと使用した補修液ボトルは新品と交換してください。こぼれた補修液は、布などで拭き取ってください。

タイヤパンク応急修理キットの内容

知識

パンク補修液について

有効期限

●パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。

●有効期限を過ぎていると応急修理ができないため、有効期限内に交換する必要があります。交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

使用環境温度 …………－30℃～＋60℃
（外気温が使用環境温度以外のときは使用できません。）

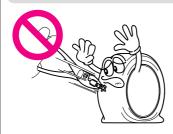
応急修理をする前に

タイヤパンク応急修理キットの補修液を使用する前に、タイヤの損傷状態を確認します。

応急修理が可能な場合

タイヤのトレッド部（接地面）にクギやネジなどが刺さった程度であれば、応急修理できます。

知 識

タイヤに刺さったクギやネジについて

タイヤに刺さったクギやネジなどは取り除かずに応急修理してください。抜いてしまうと、タイヤパンク応急修理キットの補修液では応急修理が不可能になる場合があります。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

応急修理が不可能な場合

以下のときは、タイヤパンク応急修理キットの補修液では応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- ほとんど空気のない状態で走行してタイヤが損傷しているとき

- サイドウォール（タイヤ側面）の亀裂・損傷によるパンク

- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき

- タイヤに4mm以上の切り傷や刺し傷
- 1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺し傷

- ホイールが破損しているとき
- 2本以上のタイヤがパンクしたとき
（補修液1本で応急修理できるのはタイヤ1本につき1回です。）

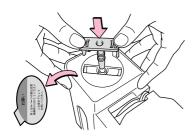
応急修理のしかた

1 **応急修理が可能か、タイヤの状態を確認します。**

確認方法はP.602を参照してください。

2 **タイヤパンク応急修理キットをビニール袋から取り出します。**

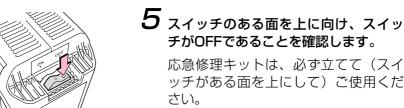
使用後もビニール袋に入れて収納します。

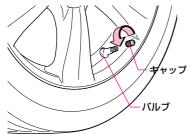
3 **タイヤパンク応急修理キットから差し込みパーツを引き抜きます。**

4 **タイヤパンク応急修理キット底面を上に向けてシールをはがし、差し込みパーツを押し込みます。**

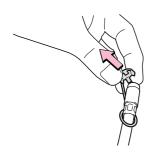
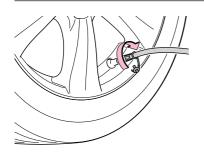
パチッと音がするまでしっかりと奥まで押し込んでください。

- 一度差し込んだら、ただちに使用してください。使用しなかった場合は、放置せずに補修液ボトルを交換してください。

5 **スイッチのある面を上に向け、スイッチがOFFであることを確認します。**

応急修理キットは、必ず立てて（スイッチがある面を上にして）ご使用ください。

6 **タイヤパンク応急修理キットの電源プラグをシガレットライター部に挿し込みます。**

●シガレットライターは、センターコンソールにあります。

7 **バルブからキャップをはずします。**

タイヤのバルブについているキャップをはずします。

8 **ホースから空気逃がしキャップを取りはずします。**

9 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続します。

ホース先端を時計まわりにまわして、しっかりと最後までねじ込みます。

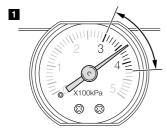
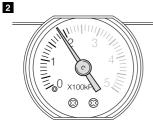
10 指定空気圧を確認します。

指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはP.583で正しい空気圧を確認のうえ調整してください。

11 車両の“パワー”スイッチをアクセサリーモードにします。

(P.139参照)

12 タイヤパンク応急修理キットのスイッチをONにし、パンク補修液と空気を充填します。

●作動中は大きな音がしますが、故障ではありません。

13 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填します。

1スイッチON直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が300～450 kPaまで上昇します。

21分程度で実際の空気圧表示になります。指定空気圧になるまで充填します。

●正確な空気圧は、タイヤパンク応急修理キットのスイッチをOFFにして確認してください。空気の入れ過ぎに注意して、指定空気圧になるまでスイッチのONとOFFをくり返し、充填・確認をしてください。

●空気を入れ過ぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。(P.609参照)

●空気圧計の針が赤いゾーン（450 kPa以上）に達した場合、タイヤまたはタイヤパンク応急修理キットに異常がある可能性があります。ただちに修理を中止して、トヨタ販売店にご連絡ください。

●10分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理ができません。修理を中止してトヨタ販売店にご連絡ください。

14 タイヤパンク応急修理キットのスイッチをOFFにした後、電源プラグをシガレットライター部から抜き取り、バルブから応急修理キットのホースを取りはずします。

●ホースを取りはずすときは、パンク補修液の飛散に注意してください。

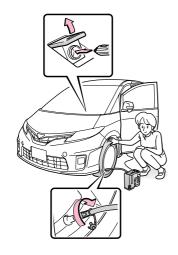
15 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取りつけます。

16 いったんタイヤパンク応急修理キットを収納します。

17 ただちに、約5km、速度80km/h以下で慎重に運転します。

走行することで、補修したタイヤ内のパンク補修液が均等に広がります。

18 走行後、再度タイヤパンク応急修理キットを接続します。

作業開始時と同様に、安全な場所に停車した上で行ってください。（P.604参照）

19 タイヤパンク応急修理キットのスイッチを数秒間ONにし、OFFにしてから正確な空気圧を確認します。

1 空気圧が130 kPa未満の場合：応急修理ができません。修理を中止してトヨタ販売店にご連絡ください。

2 空気圧が130 kPa以上、指定空気圧未満の場合：手順20から行います。

3 空気圧が指定空気圧の場合：手順21から行います。

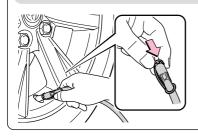
20 **タイヤパンク応急修理キットのスイッチをONにして、指定空気圧まで再度空気を充填し、約5km走行後、あらためて手順18から行います。**

21 **タイヤパンク応急修理キットをビニール袋に収納します。**

22 **付属のラベル2枚を図のように貼りつけ、トヨタ販売店へ移動します。**

速度制限ラベルを運転席から見やすいところに貼りつけ、急ブレーキ、急ハンドルをさけ、80km/h以下で慎重に運転して最寄りのトヨタ販売店まで移動してください。タイヤの修理・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

空気を入れ過ぎたときは

1.タイヤのバルブからホースをはずし、ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押し当て、空気を抜きます。
2.調整後、ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、再びホースをバルブに接続します。
3.応急修理キットのスイッチを数秒間ONにし、OFFにしてから指定空気圧になっているか確認します。空気を抜き過ぎたときは、再び充填します。

パンクしたまま走行しないでください。

●パンクしたまま走行しないでください。短い距離でもパンクしたまま走行し続けると、タイヤおよびホイールが損傷したり、タイヤ側面に円周状の溝ができるなどして、応急修理ができなくなります。この状態で応急修理をすると、タイヤが破裂するおそれがあります。
●タイヤパンク応急修理キットは、指定の場所に収納してください。指定以外の場所に収納すると、急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして損傷したり乗員が怪我をするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

応急修理をするときは以下の項目を必ずお守りください。

●車両を安全で平たんな場所に停止させてください。
●走行直後のホイールやブレーキまわりなどに触れないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっているため、手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
●タイヤを車両に取りつけた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
●タイヤとの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
●パンク補修液の注入中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れて大変危険です。
●空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
●タイヤパンク応急修理キットが作動しているときは、タイヤが破裂する危険があるので、補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合は、ただちにタイヤパンク応急修理キットのスイッチを切り、修理を中止してください。
●タイヤパンク応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。10分以上連続で作動させないでください。
●タイヤパンク応急修理キットが作動すると、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。
●速度制限ラベルは指定の位置以外に貼らないでください。ステアリングホイールのパッド部分などのＳＲＳエアバッグ展開部に速度制限ラベルを貼ると、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、メーターやドアガラスなどの、運転に支障をきたすところに貼らないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告 補修液を均等に広げるための運転について

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時は注意してください。
●車両がまっすぐに走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。
- 補修したタイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
- 補修したタイヤの空気圧を再度測定してください。130 kPa未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意 応急修理をするときは以下の項目を必ずお守りください。

●タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
●砂地などの砂埃の多い場所に直接置いて使用しないでください。
砂埃などを吸い込むと、故障の原因になります。
●タイヤパンク応急修理キットが倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

注意 タイヤパンク応急修理キットについて

●タイヤパンク応急修理キットは、この車に装着されているタイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外や他の用途には使用しないでください。
●タイヤパンク応急修理キットはDC12V専用です。他の電源では使用できません。
●タイヤパンク応急修理キットには防水機能がありません。
降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
●タイヤパンク応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
●タイヤパンク応急修理キットはビニール袋に入れて、砂埃や水を避けて収納してください。
●タイヤパンク応急修理キットは指定の場所に収納し、お子さまが誤って手を触れないようご注意ください。
●分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。
●“パワー”スイッチをアクセサリーモードにして使用すると、補機バッテリーの状態によっては、補機バッテリーがあがることがあります

タイヤの交換

販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車

タイヤの交換については、P.80の「タイヤについての注意」を併せてお読みください。

タイヤ交換するまえに

1 平らな場所に移動します。

交通のじゃまにならず、安全に作業できる地面が平らで固い場所に移動します。

2 パーキングブレーキをしっかりかけます。

3 ハイブリッドシステムを停止します。

シフトレバーをⓅにし、ハイブリッドシステムを停止します。

4 車の存在を知らせます。

必要に応じて非常点滅灯を点滅させ（P.351参照）、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

5 ジャッキ・ジャッキハンドル・ホイールナットレンチを用意します。

P.588参照

6 輪止めを用意します。

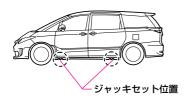
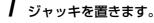
ジャッキアップする場合には輪止めが必要です。
輪止めについては、トヨタ販売店で購入できますのでトヨタ販売店にご相談ください。
なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

7 スペアタイヤを用意します。

P.589参照

●販売店装着オプションのスペアタイヤを装着された方は、付属の取り扱い説明書をご覧ください。

タイヤ交換のしかた

1 ジャッキを置きます。

取りかえるタイヤに近いジャッキセット位置の下に置きます。

地面が平らで固く、ジャッキが安定することを確認します。

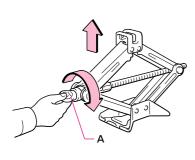
輪止め

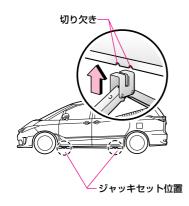
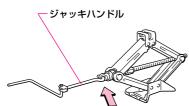
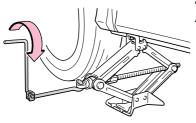
2 輪止めをします。

ジャッキアップする位置と対角にあるタイヤに輪止めをします。

前輪を持ち上げるときは後輪のうしろ側に、後輪を持ち上げるときは前輪の前側に輪止めをします。（図は右側後輪を持ち上げる場合を示しています。）

3 ナットをゆるめます。

ホイールナットレンチを使用して、図の順序でナットを左にまわし、手で少しまわるくらいまでゆるめます。

4 ジャッキを上げます。

ジャッキのAの部分を手で右にまわして車体のジャッキセット位置まで上げます。

5 **ジャッキセット位置（切り欠きの間）にジャッキをかけます。**
取り替えるタイヤに近いジャッキセット位置にジャッキをかけます。
ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認します。

6 **ジャッキハンドルを取りつけます。**
ジャッキハンドルをジャッキの穴部に確実に差し込みます。

7 **ジャッキアップします。**
ジャッキハンドルを右にまわしてタイヤが地面から少し離れるまでジャッキアップします。

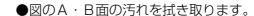
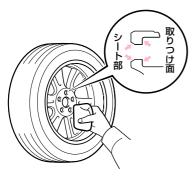
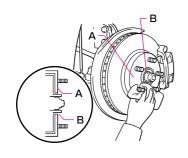
8 **ナットを取りはずします。**
手でナットを左にまわして、取りはずします。

9 タイヤを取りはずします。

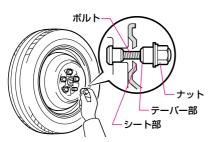
アルミホイールを直接地面に置くときは、傷がつかないように意匠面を上にして置いてください。

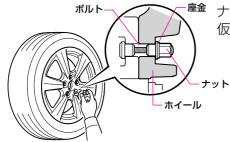
10 交換するタイヤを取りつけます。

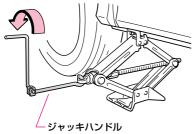
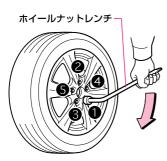
●タイヤを取りつけるときは、ディスクホイールのシート部やホイール裏側の取りつけ面の汚れを拭き取ってから取りつけてください。

●図のＡ・Ｂ面の汚れを拭き取ります。

11 ナットを仮締めします。

タイヤがガタつかない程度まで、手でナットを右にまわして仮締めします。
ディスクホイール取りつけボルト、ナットのねじ部や、ナットのテーパー部や座金裏側の汚れ、異物を取り除いてください。

■アルミホイールから応急用タイヤ（販売店装着オプション）にかえるとき

ナットのテーパー部が、ホイール穴のシート部に軽く当たるまで仮締めします。

■アルミホイールからアルミホイールにかえるとき

ナットの座金がホイールに当たるまで仮締めします。

12 車体をおろします。

ジャッキハンドルを左にまわして車体をおろします。

13 ナットを締めつけます。

ホイールナットレンチを使用して図の順序でナットを右にまわし、2～3度にわたり十分締めつけます。

●締めつけトルク：
約105N・m｛1050kgf・cm｝

14 工具・ジャッキ・タイヤを片づけます。

はずしたタイヤは、汚れ防止シート（販売店装着オプション）にくるんでラゲージルーム内に置いてください。

15 タイヤの空気圧を点検してください。

P.583参照

パンクしたまま走行しないでください。

●パンクしたまま走行しないでください。パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ・ディスクホイール・サスペンション・車体に損傷を与えるおそれがあります。ただちにスペアタイヤに交換してください。

●ジャッキアップした車の下には絶対にもぐらないでください。万一、ジャッキがはずれると、身体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

ジャッキアップしているときは、ハイブリッドシステムを始動しないでください。

●ジャッキアップしているときは、ハイブリッドシステムを始動しないでください。ハイブリッドシステムの振動でジャッキがはずれたり、車が動き出すなど、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●必ず以下のことをお守りください。お守りいただかないと車体を損傷させたり、ジャッキがはずれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。また、パーキングブレーキをしっかりかけてください。なお、輪止めの代わりに石などで代用する場合、タイヤを確実に固定できることを確認してください。
- 人を乗せたままジャッキアップしないでください。
- ジャッキアップするときは、ジャッキの上や下にものを挟まないでください。
- ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認してください。
- 車体はタイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。

●ジャッキアップした車体をおろすときは、作業者自身やまわりの人が手や足などを挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険ですので、周囲を確認し、十分注意しながら作業してください。

●ホイール取りつけナットが確実に締まっていることを確認してください。確実に締まっていないと、ホイール取りつけボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。タイヤ交換後はトヨタ販売店で、できるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。
締めつけトルク：約105N・m ｛1050kgf・cm｝

●タイヤを取りつけるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締めつけられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にタイヤがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●タイヤの取りつけには、ご使用のディスクホイール専用のホイール取りつけナットを使用してください。

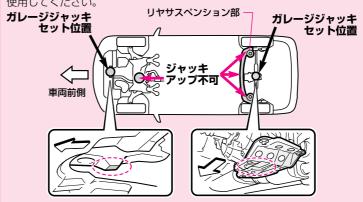
●ディスクホイール取りつけボルト、ナットのネジ部やディスクホイールのボルト穴につぶれやき裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店などで点検を受けてください。
つぶれやき裂などの異常があると、ナットを締めつけても十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●新品と交換するときは、4輪とも指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。

●タイヤ交換などをするときは、パワースライドドアメインスイッチをＯＦＦにしてください。ＯＦＦにしないと、誤ってスライドドアハンドルなどに触れたとき、パワースライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

警告

車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、特別な工具が必要になったり、取り扱いに特別な注意が必要になるため、誤って使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、リヤサスペンション部などでジャッキアップすると、車両を損傷することがあります。

車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用する必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。また、ガレージジャッキを使用するときは、必ずしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。下図のガレージジャッキセット位置に当ててください。ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキに付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用してください。

注意 ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。

●ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。ホイールナットレンチのかけ方が浅いと、締めつけるときにレンチがはずれてけがをするおそれがあります。

●ディスクホイールのシート部やホイール裏側の取りつけ面がほこりなどで汚れていると、走行中にホイール取りつけナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

●ナットはトヨタ純正アルミホイール専用品以外を使用しないでください。走行中にナットがゆるみタイヤがはずれるおそれがあります。

●ホイールナットレンチを足で踏んでまわしたり、パイプなどを使用して必要以上に締めつけないでください。タイヤを取りつけるボルトが折れるおそれがあります。

●傷・変形があるホイール取りつけナット・ディスクホイールなどは使用しないでください。

●タイヤ交換後、走行中にハンドルや車体に振動が出た場合は、トヨタ販売店でタイヤのバランスの点検を受けてください。

補機バッテリーがあがったときは

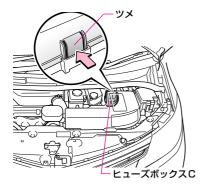
補機バッテリーあがりとは HYBRID

次のような状態が、補機バッテリーあがりです。

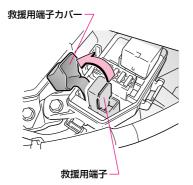
●“パワー”スイッチをＯＮ モードにしてもメーターが表示されない。
●ハイブリッドシステムが始動できない。
●ヘッドランプがいつもより暗い。
●ホーンの音が小さい、または鳴らない。

処置のしかた

押しがけによる始動はできません。
救援車を依頼しブースターケーブルを接続して、ハイブリッドシステムを始動してください。なお、救援車のバッテリーは12Ｖを使用してください。

●補機バッテリーがあがった場合には、エンジンルーム内の救援用端子を使用して応急的に補機バッテリーを充電するので、直接補機バッテリーの端子に接続する必要はありません。

1 **ヒューズボックスＣのカバーを開けます。**
エンジンルーム内のカバーを取りはずし、ツメを押してヒューズボックスＣのカバーを開けます。（Ｐ.542参照）

2 **救援用端子カバーをはずします。**

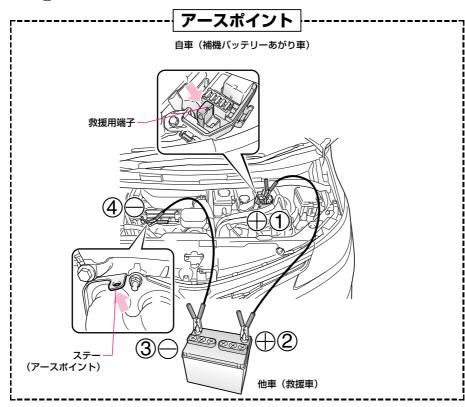
目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

3 ブースターケーブルをつなぎます。

ブースターケーブルを次の順につなぎます。

①自車の救援用端子

②救援車のバッテリーの⊕端子

③救援車のバッテリーの⊖端子

④下図で指示している箇所（アースをとる。）

4 補機バッテリーを充電します。

救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転を保持し、応急的に自車（補機バッテリーあがり車）の補機バッテリーを充電します。

5 **“ パワー ” スイッチがＯＦＦの状態でいずれかのドアを開閉します。**

6 **“ パワー ” スイッチを一度ＯＮ モードにし、その後ハイブリッドシステムを始動します。**

●ブレーキペダルを踏まずに “ パワー ” スイッチを押し、スイッチをＯＮ モードにします。（P.139参照）

●その後、ブレーキペダルを踏みながら “ パワー ” スイッチを押し、ハイブリッドシステムを始動します。（P.142参照）

- READY （走行可能表示灯）が点灯したことを確認してください。点灯しない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

7 **ブースターケーブルをはずします。**

ブースターケーブルをつないだときと逆の順にはずします。

8 **救援用端子カバーを取りつけ、ヒューズボックスＣのカバー、エンジンルーム内のカバーを取りつけます。**

9 **早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。**

補機バッテリーあがりを防ぐために

●ハイブリッドシステムを停止したままランプをつけたり、エアコンなどを使わないようにしてください。

●ハイブリッドシステム始動中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、不必要な電装品の電源を切ってください。

警告　火気を補機バッテリーに近づけないでください。

●必ず以下のことをお守りください。お守りいただかないと補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなどにより、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ブースターケーブルの接続は、自車補機バッテリーの端子につながず、エンジンルーム内の救援用端子を使用してください。
  補機バッテリーに直接つなぐと、火花が発生します。
- ブースターケーブルを接続するとき、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。接触させると火花が発生します。
- 火気を補機バッテリーに近づけないでください。
- 急速充電器は使用しないでください。

●充電中は補機バッテリーに近づかないでください。希硫酸の含まれるバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一、付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。
●ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、ファンやベルトなどに触れたり、近づいたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意　救援車のバッテリーは12Vを使用してください。

●他車（救援車）のバッテリーは12Vでなければなりません。12V用バッテリーであることを確認してから行ってください。
●補機バッテリーがあがりやすい場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
●この車の救援用端子は、他車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して他車のバッテリーあがりを救援することはできません。

知 識

補機バッテリーについて

補機バッテリーは、エスティマハイブリッド専用品です。
交換する場合は、エスティマハイブリッド専用バッテリーを使用してください。
詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

ハイブリッドシステムの始動について

補機バッテリーあがり発生後や、脱着後は次の操作を行なってください。それでも始動しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。
●補機バッテリーあがり発生後は、補機バッテリーが復帰してもハイブリッドシステムが始動しないことがあります。その場合は、シフトレバーを🅟にして、“パワー”スイッチがＯＦＦの状態でいずれかのドアを開閉後に、再度始動操作（P.142参照）を行なってください。
●補機バッテリー脱着後は、まず、運転席ドアを開閉して10秒以上してから始動操作（P.142参照）を行なってください。その際、1度目の操作では始動しませんが異常ではありません、再度始動操作を行なってください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートとは HYBRID

次のような状態が、オーバーヒートです。

- ●水温警告灯が点灯する。（P.318参照）
- ●ボンネットから蒸気が立ちのぼる。
- ●「ハイブリッドシステム過熱」とマルチインフォメーションディスプレイに表示される。（P.335参照）

処置のしかた

1 車を止めます。

車を安全な場所に止め、エアコンを使用している場合は、ＯＦＦにします。

2 ボンネットの確認をします。

ボンネットから蒸気が出ているか確認します。

■ボンネットから蒸気が出ていない場合

ボンネットを開けて、そのまま READY （走行可能表示灯）が点灯した状態にしておきます。

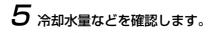
■ボンネットから蒸気が出ている場合

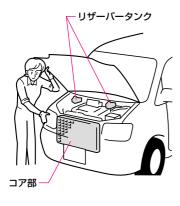
ハイブリッドシステムを停止します。蒸気が出なくなったら、風通しを良くするためにボンネットを開けハイブリッドシステムを始動します。

3 冷却用ファンを確認します。

ラジエーター冷却用ファンが作動していることを確認してください。ファンが作動していないときはハイブリッドシステムを停止して、トヨタ販売店に連絡してください。

4 ハイブリッドシステムを停止します。

水温警告灯が消灯もしくは「ハイブリッドシステム過熱」の警告表示が消えたら、ハイブリッドシステムを停止します。

5 冷却水量などを確認します。

ハイブリッドシステムが十分冷えてからリザーバータンクの冷却水量の確認およびラジエーターコア部（放熱部）が著しく汚れていないか、ごみなどが付着していないかなどを確認します。

6 冷却水を補給します。

冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーバータンクに冷却水を補給します。

●冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

7 トヨタ販売店で点検を受けます。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

●移動途中で再び水温警告灯が点灯したり、マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム過熱」が表示されたときは、空調の温度調整を最大暖房にし、ファンを最大風量にすることで、ヒーター配管内の冷却水により水温の上昇を抑えることができます。

オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量、地面に水もれがないか日頃から点検をしてください。
点検方法は「メンテナンスノート」をお読みください。

警告　やけどなどしないように十分気をつけてください。

- ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどにより、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気が出ていない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分注意してください。
- ラジエーターや補助タンクが熱いときはラジエーターキャップを開けないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなどにより、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。
- READY（走行可能表示灯）が点灯しているときは、ファンやベルトなどに触れたり、近づいたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

冷却水は、ハイブリッドシステムが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。冷却水は、ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

知識

処置後の走行について

オーバーヒートの処置を行い水温警告灯が消灯、もしくは「ハイブリッドシステム過熱」の表示が消えたときは、通常に走行することができます。

けん引について

けん引のしかた HYBRID

この車は、原則としてけん引することができません。けん引はやむを得ない場合に限って行ってください。

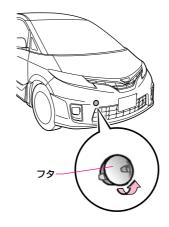
●このけん引フックはけん引されることを目的としており、他車をけん引するものではありません。

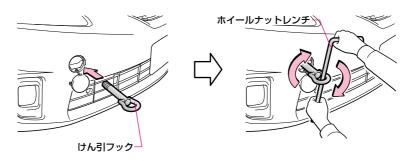
●けん引してもらうときは、できるだけトヨタ販売店、またはＪＡＦなどに依頼してください。
とくに次のような場合は駆動系の故障が考えられますので、けん引される前にまずトヨタ販売店へご連絡ください。
- READY（走行可能表示灯）が点灯しているのに車が動かない。
- 異常な音がする。

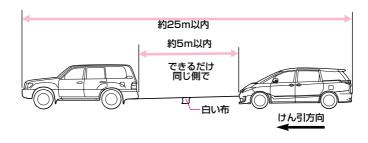
●車両が自走できない場合は、必ず4輪とも持ち上げて運搬してください。いずれかのタイヤが接地した状態では、けん引しないでください。

けん引してもらうときは

1 **けん引フック、ホイールナットレンチを取り出します。**
（P.588参照）

2 **けん引フック取りつけ部のフタを取りはずします。**
フタの上、または下から開いてはずします。

3 けん引フックを取りつけます。

ホイールナットレンチを使用して、けん引フックを確実に取りつけます。

4 ロープをかけます。

ボディに傷をつけないようにして、ロープをけん引フックにかけます。必ずけん引フックにロープをかけて前進方向でけん引してください。けん引ロープには、0.3メートル平方（0.3m×0.3m）以上の白い布をロープ中央に必ずつけてください。

5 ハイブリッドシステムを始動します。

ハイブリッドシステムをできるだけ始動しておいてください。ハイブリッドシステムが始動できないときは、“ パワー ”スイッチをアクセサリーモードまたはＯＮ モードにします。

6 発進します。

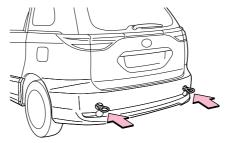
シフトレバーを🅝にして、パーキングブレーキを解除します。

7 前の車に注意します。

けん引ロープをたるませないようにし、前の車の制動灯に注意してください。

けん引が終わったら、けん引フックをはずし、バンパーのフタを確実に取りつけてください。

●はずしたけん引フックは、工具袋に格納します。

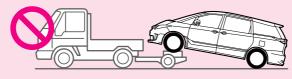
他車（故障車）をロープでけん引するときは

リヤ側のけん引フックの取りつけ穴は、リヤバンパー両端にあります。けん引フックの取りつけ方はP.628の「けん引してもらうときは」をお読みください。

●けん引フックは、一般路上で故障した他車（故障車）をやむを得ずロープによりけん引するためのものです。

●自車より重い車のけん引はできません。自車より重い車をけん引しようとすると、駆動系に悪影響を与えたり、けん引フックや車体が破損するおそれがあります。

警告

車両が自走できない場合は、必ず4輪とも持ち上げて運搬してください。

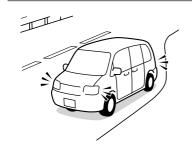
●車両が自走できない場合は、必ず4輪とも持ち上げて運搬してください。いずれかのタイヤが接地した状態でけん引すると、モーターから電気が発電され、破損の状態によっては漏電による火災のおそれがあり危険です。

●けん引される車は慎重に運転してください。READY（走行可能表示灯）が点灯した状態になっていないと、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるため、通常と同じ感覚で運転すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●“パワー”スイッチをＯＦＦにしないでください。ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●けん引する車は急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。けん引フックやロープが破損するおそれがあります。また、万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

 注意

長坂路を下るときは、車両積載車で運搬してください。

●長坂路を下るときは、車両積載車で運搬してください。車両積載車で運搬しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。
●けん引速度は約30km/h以下、けん引距離は車両積載車までの移動などできるだけ短い距離にとどめて、前進方向でけん引してください。この速度をこえたり、距離の長いけん引、または後進方向でのけん引をすると、ハイブリッドシステムに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。
●スタック脱出のために、他車にけん引してもらうときは、サスペンションアームなどにロープをかけないでください。サスペンションアームなどを損傷するおそれがあります。
●ワイヤーロープは使用しないでください。バンパーに傷がつくおそれがあります。
●スタック※したときは、無理にけん引せず、トヨタ販売店やＪＡＦなどに依頼してください。けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。
※ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなった状態。

事故が起きたときは

あわてずに次の処置を行ってください HYBRID

1 続発事故を防止します。
ほかの交通のさまたげにならないような安全な場所に車を移動し、ハイブリッドシステムを停止します。

2 負傷者がいる場合は、応急手当を行います。
医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行います。
この場合、とくに頭部に傷などがあるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故の心配があるときは安全な場所に移動させます。

3 警察への届け出をします。

4 相手方の確認とメモ（氏名・住所・電話番号）を取ります。

5 ご購入された販売店と保険会社へ連絡します。

さくいん

さくいん

五十音さくいん

症状から調べたいときや、万一のときの処置については、色付き文字の項目をご覧ください。

あ

い

う

え

さ

し

す

て

と

な

に

ね

は

ひ

ふ

へ

ほ

ま

み

む

め

ゆ

よ

ら

り

る

れ

ろ

わ

ハイブリッドさくいん HYBRID

ハイブリッドシステムについての注意事項

始動と運転の仕方

ハイブリッドシステムについての解説

環境にやさしい経済的な運転

事故が起きたときは

ハイブリッド特有の説明がある項目 HYBRID

警告灯さくいん

エスティマハイブリッド

ミ-49

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800-700-7700

オープン時間　365日　9:00〜18:00

所在地　〒450 - 0002　名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社

http://toyota.jp

●車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。

●印刷　ⅠB-2009年12月７日　●発行-2009年12月14日　初版

M 28765

01999—28765